

末日聖徒イエス・キリスト教会・2008年5月号

# リアホナ



## 総大会特集号

トーマス・S・モンソン大管長、  
第16代大管長として支持される



©INTELLECTUAL RESERVE, INC.

### 大管長会

第178回年次総大会において教会の第16代大管長として支持されたトーマス・S・モンソン大管長(中央)。大管長会におけるモンソン大管長の顧問、ヘンリー・B・アイリング管長(左)とディーター・F・ワークトルフ管長。

# リアホナ

2 第178回年次総大会の概要

●土曜午前の部会

- 4 教会役員の支持  
大管長会第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 7 救いと昇栄  
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老
- 11 特別な経験  
七十人會会長 ロナルド・A・ラズバンド長老
- 13 義にかなった伝統  
中央初等協會会長 シェリル・C・ラント
- 15 家族の中に信仰を回復する  
七十人 ケネス・ジョンソン長老
- 17 個人に関心を寄せる  
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老
- 20 まことの生ける教会  
大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

●土曜午後の部会

- 24 2007年度教会監査部報告  
教会監査部実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウエル
- 25 2007年度統計報告  
七十人 F・マイケル・ワトソン長老
- 26 <sup>あかし</sup>証  
十二使徒定員会 ダリン・H・オクス長老
- 29 父なる神と御子イエス・キリストと聖靈に  
対する証を得る  
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 32 心を開く  
七十人 ジェラルド・N・ランド長老
- 35 奉仕—神の特質  
七十人 カーロス・H・アマードー長老
- 37 3人の管理大祭司  
七十人 ウィリアム・R・ワーカー長老
- 40 虐待の傷を癒す  
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
- 44 イエス・キリストの福音  
十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老

●神権部会

- 47 預言者たちの言葉を心に留める  
十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老
- 51 では、わたしの隣り人とはだれのことで  
管理ビショップ  
H・デビッド・バートンビショップ
- 53 自分が何者か知っていますか  
中央若い男性會会長第一顧問  
ディーン・R・バージェス
- 55 12歳の執事  
七十人 ジョン・M・マドセン長老

- 57 わずかな誤差  
大管長会第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長

- 61 信仰と神権の誓詞と聖約  
大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

- 65 義の模範  
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午前の部会

- 68 御父の信仰  
大管長会第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 76 再び生まれる  
十二使徒定員会  
D・トッド・クリストファーソン長老
- 79 最高の投資  
七十人 シェルドン・F・チャイルド長老
- 81 わたしは主に関することに喜びを感じる  
前中央若い女性會会長 スーザン・W・タナー

- 83 十二使徒  
十二使徒定員會会長  
ボイド・K・バックカー会長

- 87 過去を振り返り、前進する  
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午後の部会

- 91 「わたしの言葉〔は〕  
……決して絶えることがない」  
十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホランド長老
- 94 信仰をもって願ひ求めなさい  
十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老
- 97 わたしたちは屈しません、  
誘惑には負けないのです  
七十人 W・クレグ・  
ズウィック長老
- 99 光と真理の力  
七十人  
ロバート・R・ストイアー長老
- 101 群衆の中の一人  
七十人 デニス・B・  
ノイエンシュワンダー長老
- 103 今日  
七十人  
ランス・B・ウィックマン長老
- 105 約束を伴う書物  
七十人 クレグ・C・  
クリステンセン長老
- 108 神の娘たち  
十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード長老

- 111 豊かな祝福  
トーマス・S・モンソン大管長

●中央若い女性集會

- 113 証人になる  
中央若い女性會会長 スーザン・W・タナー
- 116 いつでも、どのようなことについても、  
どのような所においても  
中央若い女性會会長第一顧問  
イレイン・S・ダルトン
- 118 ビデオプレゼンテーション
- 120 <sup>あかし</sup>証という <sup>いかり</sup>鐘  
中央若い女性會会長第二顧問  
メアリー・N・クック
- 123 光の中を歩む  
大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

- 72 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 126 大会で話された実話や物語の索引
- 127 わたしたちの時代のための教え
- 127 アロン神権者および若い女性用  
リソースガイド
- 130 中央補助組織會会長
- 130 チャーチ・ニュース
- 143 大会を視聴して



# 第178回年次総大会の概要

## 2008年4月5日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——リン・A・ミケルセン長老。閉会の祈り——ユリシス・ソアレス長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク;オルガニスト——クレア・クリスチャンセン, リチャード・エリオット。“How Wondrous and Great,” *Hymns*, 267番;「取り巻く闇の中を」『賛美歌』52番, ウィルバーク編曲, デゼレトブック刊;「たたえよ, 主の召したまいし」『賛美歌』16番, ウィルバーク編曲, 未刊;「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番;「み旨のまま行かん」『賛美歌』172, ウィルバーク編曲, 未刊;「われに來よ」『賛美歌』66番, マヌーキン編曲, ソノス刊

## 2008年4月5日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ゲアリー・J・コールマン長老。閉会の祈り——スタンレー・G・エリス長老。音楽——ブリガム・ヤング大学合同聖歌隊;指揮——ロナルド・ステリー, ロザリンド・ホール;オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「夜明けだ, 朝明けだ」『賛美歌』1番, ステリー編曲, 未刊;“Lean on My Ample Arm.” *Hymns*, 120番;「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番;「主よ, 荒海を導きたまえ」『賛美歌』61番, マヌーキン編曲, ソノス刊

## 2008年4月5日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——マービン・B・アーノルド長老。閉会の祈り——ラリー・W・ギボンズ長老。音楽——ローガンおよびオグデンインスティテュートの神権者による聖歌隊;指揮——J・ナイルズ・サルモンド, リン・ホブキンズ, ジェラルド・F・サイモン;オルガニスト——アンドリュー・アンズワース。“Rise Up, O Men of God,” *Hymns* (1948年), 332番;「長き沈黙破りて出づ」『賛美歌』10番, アンズワース編曲, 未刊;「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番;“Know This, That Every Soul Is Free,” *Hymns*, 240番, アンズワース編曲, 未刊

## 2008年4月6日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——アンソニー・D・パーキンス長老。閉会の祈り——ベンハミン・デ・オヨス長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク;オ

ルガニスト——リチャード・エリオット, アンドリュー・アンズワース。「喜べ, 主を」『賛美歌』32番;「麗しき朝よ」『賛美歌』18番;「主はみ子をつかわし」『子供の歌集』20, ホフハインズ編曲, 未刊;「主のみ言葉は」『賛美歌』46番;“If You Could Hie to Kolob,” *Hymns* (1948年), 257番, ウィルバーク編曲, 未刊;「山の上に」『賛美歌』2番, ウィルバーク編曲, 未刊

## 2008年4月6日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——C・スコット・グロー長老。閉会の祈り——ブルース・C・ヘーフエン長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ, ボニー・グッドリフ。「地は麗しく」『賛美歌』50番, ウィルバーク編曲, 未刊;「われらは天の王に」『賛美歌』157番, ウィルバーク編曲, 未刊;「導きたまえよ」『賛美歌』41番;「わが予言者に祝福あれ」『賛美歌』14番, ウィルバーク編曲, 未刊

## 2008年3月29日土曜夜、中央若い女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——スーザン・W・タナー。開会の祈り——ミランダ・コーニー。閉会の祈り——ジェニファー・ソラップ。音楽——ユタ北地域キャッシュバレーの若い女性による聖歌隊;指揮——メリリー・ウェップ;オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「造り主の主を」『賛美歌』37番, ウェップ編曲, 未刊;「イエス様のように」『子供の歌集』40, クリストファーソン編曲, 未刊(フルート——ヘレン・マクガー);「主のみ言葉は」『賛美歌』46番, ケーセン編曲, ジャックマン刊;“Press Forward, Saints,” *Hymns*, 81番, ウェップ編曲(ソプラノ声部), 未刊



## 総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したものは、<http://www.lds.org> にアクセスすれば、多くの言語で聞くことができます。CDとDVDは、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に入手できるようになっています。

## インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。<http://www.lds.org> にアクセスし、“Gospel Library”, “General Conference”の順にクリックし、言語を選択してください。(訳注——さらに、日本語版の総大会号を閲覧するには、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」[ライブラリー]「リアホナ」の順にクリックしてください。)

## ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

## 表紙の説明

表紙——写真/ジョン・ルーク  
裏表紙——写真/クレーグ・ダイヤモンド

## 大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。クレーグ・ダイヤモンド, ウェルデン・C・アンダーセン, ジョン・ルーク, クリステイナ・スミス, レス・ニルソン, エミリー・ブース, スコット・デービス, ロッド・ボーム, コーディー・ベル, リンゼー・ブリッグズ, ヒラリー・ホルブルック。アルゼンチン——ハビエル・コロナーティ。オーストラリア——コリン・レガートウッド。ペリイズ——コリン・ハワード・ブレア。ブラジル——イスラエル・アントゥネス, ラウレニ・フォチュット。合衆国アイダホ州——ジョン・スナイダー。韓国——李賢奎。マダガスカル——ショーン・ピーターソン。ウェールズ——エレン・ジョーンズ

リアホナ 2008年5月号

第10巻第5号 (02285 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌 (日本語版)  
 大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, デ  
 イター・F・ワークトドルフ,

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー, L・トム・ペリー, ラッセ  
 ル・M・ネルソン, ダリン・H・オックス, M・ラッセル・バラー  
 ド, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバー  
 ト・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベド  
 ナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファソン

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦, ジェラルド・N・ランド, W・ダ  
 グラス・シャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ビクター・D・ケープ

主任編集者: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長: ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: クリスティー・バンス, リンダ・ステール・クーパー, デビ  
 ッド・A・エドワーズ, ラリーン・ポーター・カーント, キャリー・カステン, ジ  
 エニファー・マティエ, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J  
 オデナク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポルセン, ジョシュ  
 ア・J・パーキー, キンバリー・リード, リチャード・M・ロムニ, ドン・L  
 サール, ジャネット・トーマス, ボール・バンテンバーグ, ジュリー・ワー  
 デル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン/制作スタッフ: カリ・R・アロキ, コレット・ネベカー・オース, ハワ  
 ード・G・ブラウン, ジュリー・バーデッド, トーマス・S・チャイルド, レジナル  
 ド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンセン,  
 デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン, ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター: クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベントン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替  
 (口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-  
 41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵  
 送いたします。●[リアホナ]のお申し込み/配送についてのお問い合わせ  
 ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ  
 リスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ] (モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意) は、  
 以下の言語で出版されています。

アイスランド語 アルバニア語 アルメニア語 イタリア語 インドネシア語 ウク  
 ライナ語 ウルドゥー語 英語 エストニア語 フィンランド語 韓国語 カンボジア  
 語 キリシヤ語 キルギス語 クロアチア語 サマオア語 シンハラ語 スウェー  
 デン語 スペイン語 スロベニア語 セブアノ語 タイ語 タガログ語 タヒチ語  
 タミル語 中国語 チェコ語 テルグ語 テンマーク語 ドイツ語 トンガ語 日本  
 語 ノルウェー語 ハイチ語 ハンガリー語 ビスマラ語 ヒンディー語 フィジー  
 語 フィリピン語 フランス語 ブルガリア語 ベトナム語 ポーランド語 ポル  
 トガル語 マーシャル語 マダガスカル語 モンゴル語 ラトビア語 リトアニア  
 語 ルーマニア語 ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい  
 て臨時に、また非常利目的に使用する場合は複製することができます。  
 視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている  
 場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、  
 Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,  
 Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—  
 cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org (英語) に様々な言語で  
 掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリ  
 ックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2008 no. 5 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is  
 published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East  
 North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per  
 year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt  
 Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include  
 address label from a recent issue; old and new address must be included.  
 Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at  
 address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders  
 (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post  
 Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,  
 Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B, ……20, 61, 123  
 アマードー, カロス・H, ……35  
 ウィックマン, ランス・B, ……103  
 ワークトドルフ, ディーター・F, ……4, 57, 68  
 オックス, ダリン・H, ……26  
 クック, クエンティン・L, ……47  
 クック, メアリー・N, ……120  
 クリステンセン, クレグ・C, 105  
 クリストファソン, D・トッド, ……76  
 ジョンソン, ケネス, ……15  
 ズウィック, W・クレグ, ……97  
 スコット, リチャード・G, ……40  
 スタイアー, ロバート・R, ……99  
 タナー, スーザン・W, ……81, 113  
 ダルトン, イレイン・S, ……116  
 チャイルド, シェルドン・F, ……79  
 ネルソン, ラッセル・M, ……7  
 ノイエンシュワング, デニス・B, ……101  
 バージェス, デイーン・R, ……53  
 パートン, H・デビッド, ……51  
 パッカー, ボイド・K, ……83  
 バラード, M・ラッセル, ……108  
 ヘイルズ, ロバート・D, ……29  
 ベドナー, デビッド・A, ……94  
 ペリー, L・トム, ……44  
 ホランド, ジェフリー・R, ……91  
 マドセン, ジョン・M, ……55  
 モンソン, トーマス・S, ……65, 87, 111  
 ラズバンド, ロナルド・A, ……11  
 ラント, シェリル・C, ……13  
 ランド, ジェラルド・N, ……32  
 ワーカー, ウィリアム・R, ……37  
 ワースリン, ジョセフ・B, ……17

テーマ別索引

あ 愛 ……111  
 証 ……11, 26, 29, 87, 99, 120  
 贖い ……35, 40, 103  
 誤り ……57  
 アロン神権 ……53, 55  
 憐れみ ……103  
 イエス・キリスト ……29, 35, 55, 76, 101, 113, 116  
 一致 ……87  
 祈り ……94, 118  
 癒し ……40  
 受け継ぎ ……68, 87  
 永遠の命 ……44  
 か 改宗・改心 ……13  
 家族 ……7, 13, 15, 47, 61, 81, 108, 111  
 可能性 ……55  
 神の属性 ……53  
 感謝 ……20  
 寛大さ ……51  
 虐待 ……40  
 逆境 ……111  
 キリストの光 ……99, 123  
 悔い改め 17, 44, 57, 76, 103  
 経験 ……11  
 啓示 ……32, 91, 118  
 継承 ……37, 87  
 権能 ……83  
 個人 ……17, 101  
 さ 支持 ……20  
 使徒 ……83  
 指導者・指導力 ……37, 87  
 従順 ……15, 79, 94, 116, 120  
 什分の一 ……79  
 祝福 ……79  
 純潔 ……81  
 純粹さ ……32

昇栄 ……7  
 証人 ……113  
 女性であること ……81, 108  
 神会 ……29  
 神権 ……65, 83  
 信仰 ……11, 15, 20, 68, 94, 101, 116  
 親切 ……17  
 人道支援 ……51  
 真理 ……20, 99  
 救い ……7  
 スミス, ジョセフ ……105  
 聖典・聖文 ……91, 118  
 聖約 ……53, 61  
 聖霊 ……26, 32, 57, 91, 99, 113, 123  
 選択と責任 ……123  
 た 大管長会 ……37  
 堪え忍ぶ ……44  
 知恵の言葉 ……47  
 違い ……17  
 知識 ……26  
 慎み深さ ……118, 120  
 伝統 ……13  
 伝道活動 ……105  
 は 母親であること ……108  
 バプテスマ ……44  
 標準 ……97  
 福音 ……68  
 奉仕 ……35, 51, 61, 65  
 ま 召し ……68  
 模範 ……15, 65  
 モルモン書 ……105  
 や 勇気 ……65, 97, 101, 116  
 誘惑 ……97  
 預言者 ……47, 57, 87  
 喜び ……81  
 5 霊の再生 ……76

# 教会役員の支持

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長



**兄** 弟姉妹の皆さん、わたしはモンソン大管長から、わたしたちが今集っているこの聖会の議事を進めるよう依頼されました。これは全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって、きわめて重要な機会です。

1880年10月10日に、ジョン・テラーがブリガム・ヤングの後を継いで、預言者、聖見者、啓示者、および教会の大管長として支持されて以来、このような機会はいずれも、会衆の意志を表すための教会全体の公式の聖会と呼ばれてきました。

定員会およびグループごとに賛意を表明します。皆さんがどこにいるかにかかわらず、求められたら起立して、提議された人々を支持するかどうかを、挙手をもって表明してください。起立するよう求められたときにだけ賛意を表明します。

テンプルスクウェアのタバナクルおよびアセンブリーホールでは、割り当てを受

けた中央幹部が、賛意の表明を見守ります。ステークセンターでは、ステーク会長が賛意の表明を見守ります。万一反対の表明があった場合は、連絡して下さるようお願いします。では、これから聖会の議事を進めます。

大管長会は、立ってください。

トーマス・スペンサー・モンソンを預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持するよう、大管長会に提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

大管長会第一顧問として、ヘンリー・ベニオン・アイリングを、第二顧問として、ディーター・フリードリック・ワークトドルフを支持するよう、大管長会に提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

ボイド・ケネス・バックナーを十二使徒定員会の会長として支持するよう、大管長会に提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

十二使徒定員会として次の人々を支持するよう、大管長会に提議します。ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン。

賛成であれば、その意を表してください。

大管長会顧問および十二使徒を、預言者、聖見者、啓示者として支持するよう、大管長会に提議します。

その意を表してください。



大管長会は座ってください。

クリストファーソン長老は、十二使徒定員会とともに座ってください。

十二使徒定員会の会員は立ってください。

トーマス・スペンサー・モンソンを預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、先ほど大管長会に提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう、十二使徒定員会に提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

座ってください。

七十人第一および第二定員会の会員、



聖会に出席する中央幹部たち。

ならびに管理ビショップリックは立ってください。

トーマス・スペンサー・モンソンを預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、先ほど大管長会に提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう、七十人定員会の会員ならびに管理ビショップリックに提議します。

賛成であれば、その意を表してください。  
座ってください。

次にお呼びする人々は、世界中のどこでこの会に出席していても立ってくださ

い。すべての地域七十人、聖任を受けている祝福師、大祭司および長老定員会のすべての会員。

トーマス・スペンサー・モンソンを、預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、先ほど提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう提議します。

賛成であれば、その意を表してください。  
反対であれば、その意を表してください。  
座ってください。

すべてのアロン神権者、すなわち、聖任されているすべての祭司、教師、執事は

立ってください。トーマス・スペンサー・モンソンを、預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、先ほど提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう提議します。

賛成であれば、手を挙げてその意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。  
座ってください。

扶助協会の会員、すなわち18歳以上のすべての女性は立ってください。

トーマス・スペンサー・モンソンを、預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエ



ス・キリスト教会の大管長として、先ほど提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう提議します。

賛成であれば、手を挙げてその意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

座ってください。

若い女性、すなわち12歳から18歳までのすべての若い女性は立ってください。

トーマス・スペンサー・モンソンを、預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、先ほど提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう提議します。

賛成であれば、手を挙げてその意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

座ってください。

では、すでに起立した人も含めて、どこに集っているかにかかわらず、すべての会員は立ってください。トーマス・スペンサー・モンソンを、預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、先ほど提示され、賛意が表明された大管長の顧問ならびに十二使徒定員会の会員とともに支持するよう提議します。

賛成であれば、手を挙げてその意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

座ってください。

次は座ったままで、教会の中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会の解任と支持を行います。

D・トッド・クリストファーソン長老を、七十人会長会会員から解任します。

感謝の意を示してくださる人は手を挙げてください。

2008年5月1日をもって次の人々を地域七十人から解任するよう提議します。A・ベナンシオ・カレイラ、マルコ・A・カルデナス、ホセ・A・カストロ、ジェラルド・コセー、ルイス・G・シャベリ、ティモシー・J・ダイクス、ジェイミー・フェレイラ、ホセ・A・ガルシア、フランシスコ・I・ジメネス、カルロス・A・ゴドイ、ジェームズ・J・ハムラ、フレデリック・C・イヘシエネ、グレン・O・ジェンソン、ロバート・コー、<sup>クエエン</sup>権(トニー)凌、<sup>リン</sup>リチャード・D・メイ、ロス・H・メッケチェレン、<sup>にいやます お</sup>新山靖雄、ティモシー・M・オルソン、フェルナンド・D・オルテガ、ルイジ・S・ペローニ、ラファエル・E・ピノ、ゲルソン・ピッツィラニ、アレハンドロ・M・ロブレス、ゲロルド・ロス、M・ゴンサロ・セブルベダ、<sup>スーキオンタン</sup>陳思強、アンソニー・R・テンプル、ラリー・Y・ウィルソン、<sup>ヤン</sup>楊(ジェレド)宗延、ウィリー・F・ズズナガ。

彼らのすばらしい働きに感謝をしてくださる人は手を挙げてください。

スーザン・W・タナー、イレイン・S・ダルトン、メアリー・N・クックの各姉妹を、中央若い女性会長会から解任します。中央若い女性管理会の会員も同様に皆解任します。

彼女たちのすばらしい献身的な働きに感謝をしてくださる人は手を挙げてください。

L・ホイットニー・クレイトンを七十人定員会会長会の会員として支持するよう提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

次の人々を七十人第一定員会の新たな会員として支持するよう提議します。ウィリアム・R・ワーカー、クレーグ・C・クリステンセン、マルコス・A・アイトカイトス、ジェラルド・コセー、ローレンス・E・コーブリッジ、エドアルド・ガバレット、カルロス・A・ゴドイ、ジェームズ・J・ハムラ、アラン・F・パッカー、ケビン・W・ピアソン、ラファエル・E・ピノ、ゲアリー・E・スティーブンソン、ジョセ・A・ティシエラ、F・マイケル・ワトソン、ヨルゲ・F・ゼバロス。また、七十人第二定員会の新たな会員として、タッド・R・カリストター、ケント・D・ワトソン。

賛成であれば、その意を表してください。



反対であれば、同様の方法でお願いします。

次の人々を新たな地域七十人として支持するよう提議します。ペドロ・E・アブラク、青柳弘一、フアン・C・パロス、コリン・H・ブリックネル、ビクター・陳家庚、仲國強、J・デビン・コーニッシュ、ウィン・R・デュースナップ、マシュー・J・アイリング、G・ジュレルモ・ガルシア、ロバート・C・ゲイ、アルフレッド・L・ジェザティ、ジェームズ・B・ギブソン、フリオ・C・ゴンサレス、パウロ・H・イティノゼ、ダグラス・W・ジェソップ、ファウステイノ・ロペス、デ克蘭・O・マドュー、ペア・G・マーム、フェルナンド・マルエンダ、ジェームズ・B・マルティノ、ゼルゲー・N・ミクリン、アベラルド・モラレス、W・T・デビッド・マレー、西原里志、ノーベルト・K・アルー、マイケル・D・ピッカード、アナトリー・K・レシエニコフ、ウィリアム・F・レーノルズ、マイケル・A・ロバーツ、フェルナンド・A・R・ダ・ロシヤ、A・リカルド・サンタナ、ロバート・B・スミス、イスラエル・A・トレンティノ、ルーベン・D・トレス、J・ロメオ・ピアレアル、ルイス・ワイドマン、黄(サム)志康。

賛成であれば、その意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

イレイン・S・ダルトンを中央若い女性の新しい会長として、メアリー・N・クックを第一顧問、アン・M・ディブを第二顧問として支持するよう提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、および中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成であれば、その意を表してください。

反対であれば、その意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては、すべての提議が全会一致をもって支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。

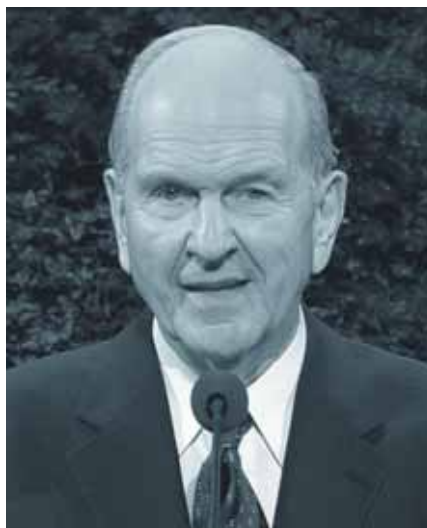
新たに召された七十人の会員と中央若い女性会長会は、前に来て、壇上に座ってください。

# 救いと昇栄

## 十二使徒定員会

### ラッセル・M・ネルソン長老

神の永遠の計画において、救いは個人の問題であり、昇栄は家族の問題です。



感謝を込めて、D・トッド・クリストファーソン長老を十二使徒定員会の会員として歓迎します。心の底から、このすばらしい大管長会と新たに召されたすべての人々を支持します。

兄弟姉妹の皆さん、ゴードン・B・シンクレー大管長が亡くなったとの知らせを受けた瞬間、だれもが皆、深い喪失感を味わいました。しかし、シンクレー大管長の行く末が神の御手にあることを思い、悲しみは感謝へと変わりました。この偉大な神の預言者から学んだ多くの事柄に、わたしたちは心から感謝しています。

今日、この聖会において、わたしたちは主の御心に従っています。主はこう語っておられます。「権能を持つ者によって聖任され、そして権能を持っていることと、教会の長たちによって正式に聖任されたことが教会員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行

くこと、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されません。』<sup>1</sup> この同意<sup>2</sup>の律法が定められ、教会はその定められた道を歩んでいるのです。

世界中の会員がトーマス・S・モンソン大管長とその有能な二人の顧問を支持しています。わたしたちは「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。

またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。』<sup>3</sup>

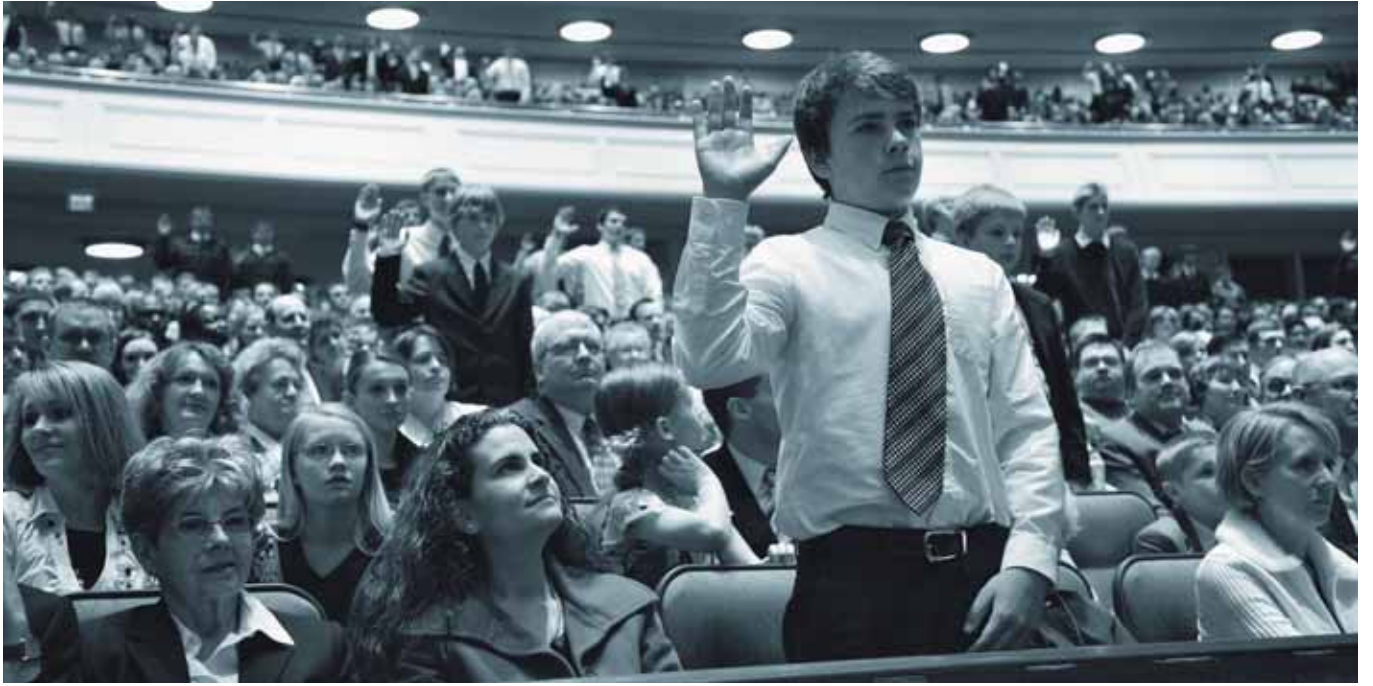
主は「ある人を使徒とし、ある人を預言者とし……た」理由を明らかにされました。それは「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達」<sup>4</sup> するためです。

したがって、使徒、すなわち大管長会と十二使徒定員会の務めは、信仰の一致をもたらし、救い主に関する知識を宣言することです。主の「最もすぐれた道」<sup>5</sup> を学び従うすべての人の生活を祝福すること、それがわたしたちの務めなのです。わたしたちは救いと昇栄が得られるように人々を備えさせる必要があります。

信仰箇条第3条にはこう宣言されています。「キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」

救われる、すなわち救いを得るとは、肉体と霊の死から救われることを意味します。イエス・キリストの復活によって、すべ



ての人が復活し、肉体の死から救われます。また、イエス・キリストを信じ、主の福音の儀式と律法に従って生活し、主に仕えるときに、主の贖いを通して自らの霊の死からも救われ得ます。

高く上げられる、すなわち昇栄を得るとは、日の栄えの王国における最も幸福で栄光に満ちた状態に到達することを意味します。この祝福は、このはかない死すべき世を離れた後にもたらされます。最終的な救いと昇栄に備える時は今なのです。<sup>6</sup>

この備えの一つとして、人はまず福音を聞き理解しなければなりません。そのために、今、イエス・キリストの福音が「あらゆる国民、部族、国語、民族」に届けられているのです。<sup>7</sup>

### 個人の責任

数年前に、わたしはアフリカである部族の王と会いました。主の使徒から教えを受けていると知った彼は深く感銘を受け、自分が命じれば大勢の民がバプテスマを受けるだろうと言いました。わたしは彼の親切に感謝しましたが、主はそのような方法で業を行われないことを説明しました。

主に対する信仰を育てるのは個人の問題です。悔い改めも個人の問題です。人は個人としてでなければ、バプテスマを受け、聖霊の賜物を授かることができません。だれもが独りで生まれます。同様に、

だれもが一人一人「再び生まれる」<sup>8</sup>のです。救いは個人の問題なのです。

### 家族の責任

個人の成長は家族の中で促されます。家族は「神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」です。<sup>9</sup> 家庭は神から与えられた愛と奉仕の実習室です。そこで夫は妻を愛し、妻は夫を愛し、親と子供は互いに愛し合わなければなりません。

世界の至る所で、家族はますます攻撃されています。家族が崩壊すれば、政治、経済、社会の多くの仕組みも崩壊します。また、輝かしい永遠の可能性が実現されないことになります。

天の御父が夫婦に望んでおられるのは、二人が互いに貞潔を守り、自分たちの子供を主から賜った嗣業として尊重し、扱うことです。<sup>10</sup> そのような家庭では一緒に聖文を学び、祈ります。また、神殿に心を向けます。そのような家庭は、神が御自身の忠実な子供たちに用意された最高の祝福を受ける場所となります。

神の偉大な幸福の計画<sup>11</sup>のおかげで、家族は昇栄した者として、永遠にともに住むことができます。天の御父は宣言されました。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」<sup>12</sup> 御父の目的は二つと

も、御父の愛子であるイエス・キリストの贖いによって可能になりました。主の贖いを通して、この地上に生まれるすべての人にとって復活が現実のものとなり、永遠の命を得ることが可能になったのです。

復活、すなわち不死不滅はあらゆる男女に無条件に与えられる賜物です。

永遠の命、すなわち日の栄えの栄光、または昇栄は、条件付きの賜物です。この賜物の条件は主が定めておられます。主はこう言われました。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」<sup>13</sup> この賜物を受けるにふさわしくなるための条件には、主を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受けること、そして神殿の儀式と聖約に忠実であり続けることなどが含まれます。

この教会のいかなる男性も、ふさわしい女性と結び固められないかぎり、日の栄えの最高の位を得ることはできません。<sup>14</sup> この神殿の儀式を受けることによって、夫と妻の両方が最終的な昇栄を得られるようになります。

教会の召しはいつか解任されますが、親の召しには解任がありません。人類の歴史が始まって以来、主は両親に、子供に福音を教えるという戒めを与えてこられました。<sup>15</sup> モーセは次のように記しています。

「……努めて……あなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、〔神の言葉〕について語らなければならない。」<sup>16</sup>

現代において、主は次のように付け加えられました。「あなたがたの子供たちを光と真理の中で育て〔なさい。〕」<sup>17</sup> 子供を教える責任に関して、教会は両親を支えますが、両親に取って代わることはしません。

不道徳と、依存症に発展するポルノグラフィ<sup>まんえん</sup>が蔓延する今日、両親には子供の生活において神がいかに重要であるかを教える神聖な責任があります。<sup>18</sup> 神聖な可能性に対して非常に有害なこれらの悪を、神の子供たちは絶対に避けるべきです。

また、子供に両親を敬うよう教えなければなりません。5番目の戒めにこうあります。「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」<sup>19</sup>

子供を教える最善の方法は何でしょうか。主はわたしたちに具体的な指示を与えておられます。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。」<sup>20</sup>

子供を正す必要があるときは、こう自問してください。「子供により良い道を選択するよう促すために、わたしは何を言い、何をすることができるだろう。」正す必要があるときは、静かに、一対一で、愛をもって行い、人前ではしないことです。しかる必要があるときは、敵意の種が残らないように、しかった後、すぐによりいっそうの愛を示してください。説得するには、心からの愛を示し、神聖な教義や正しい原則に基づいて教えなければなりません。

子供を支配しようとするのではなく、耳を傾け、福音を学べるように助け、靈感を



与え、永遠の命に導くことです。皆さんは神の子供たちの世話をするようにゆだねられた神の代理人です。子供を教え、説得するときに、神の御霊<sup>みたま</sup>の影響力を心に保ってください。

### 先祖

昇栄に備える家族の責任について話し合うときに、母親と父親と子供について話

すだけでは不十分です。祖父母やそのほかの先祖たちについてはどうでしょうか。わたしたちは先祖なしには完全になれず、先祖もわたしたちなしには完全になれないことを、主は明らかにされました。<sup>21</sup> 結び固めの儀式は昇栄するために欠かせません。妻は夫と結び固められる必要があります。子供は両親と結び固められる必要があります。また、すべての人は先祖と



つながる必要があります。<sup>22</sup>

現世で結婚できない人や、両親と結び固められない人はどうでしょうか。主はわたしたちの行いだけでなく、わたしたちの望みに応じて一人一人を裁かれます。<sup>23</sup> また昇栄の祝福はふさわしいすべての人に与えられます。そのことをわたしたちは知っています。<sup>24</sup>

わたしたちは聖約の子として大きな恵みを受けています。わたしたちの心には、父祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えられた約束が植え付けられています。主は言われました。「あなたがたは肉による正当な相続人であり、神のうちにキリストとともに世から隠されてきたからである。……

それゆえ、もしあなたがたがわたしの慈しみの中にとどまるならば、すなわち、引き続き異邦人への光となり、この神権によってわたしの民イスラエルのために救い手となるならば、あなたがたは幸いである。」<sup>25</sup>

現世は救いと昇栄に備える時です。<sup>26</sup> 神の永遠の計画において、救いは個人の問題であり、昇栄は家族の問題です。

聖約の子として、わたしたちは今朝、この聖会に出席しています。預言者と使徒の聖なる称号に注意が向けられる集会です。しかし、救いと昇栄に備える究極の責任は、自らの選択に責任を持ち、母親、父親、娘、息子、祖母、祖父という称号を受けて自らの家庭で自分の分を果たすわたしたち一人一人にかかっているのです。

そのような責任において信仰をもって

前進し、この教会の頭であるイエス・キリストにより、またその代弁者である預言者により導かれますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 教義と聖約42:11, 強調付加
2. 教義と聖約26:2; 28:13参照
3. エペソ2:19-20
4. エペソ4:11-13
5. 1コリント12:31; エテル12:11
6. アルマ34:32-33参照
7. 黙示14:6
8. ヨハネ3:3, 7; モーサヤ27:25; アルマ5:49; 7:14; モーセ6:59
9. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
10. 詩篇127:3参照
11. アルマ42:8参照
12. モーセ1:39
13. 教義と聖約14:7. 3ニーファイ15:9も参照。モルモン書はこの大いなる賜物を授かるための条件とはどのようなものかさらに説明を加えている。「あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31:20, 強調付加)

14. 教義と聖約131:1-3参照

15. モーセ6:57-58参照。ベニヤミン王の教えにも注目する。「またあなたがたは、自分の子供たちが飢えていたり、着る物がなかったりするのをほうっておかないであろう。あなたがたは子供たちが神の律法に背くのも、互いに戦うのも、争い合うのもほうっておかないであろう。また、罪の頭である悪魔……に仕えることも許さないであろう。むしろあなたがたは、彼らに真理の道をまじめに歩むように教えるであろう。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであろう。」(モーサヤ4:14-15)

16. 申命6:7

17. 教義と聖約93:40。主は次のようにも語っておられる。「また、彼らは〔あなたがたの〕子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことも教えなければならない。」(教義と聖約68:28)

18. そのようにパウロはテモテに教えている。「あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。」(2テモテ3:14-15)

19. 出エジプト20:12。親に関する箴言の言葉を思い起こすこと。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22:6)

20. 教義と聖約121:41-43

21. 教義と聖約128:15参照

22. 教義と聖約128:18参照

23. 教義と聖約137:9参照

24. 教義と聖約130:20-21参照。ロジャー・クローソン, Conference Report, 1917年10月, 29も参照; ジョセフ・F・スミス, *Deseret News*, 1878年5月1日付で引用; リチャード・G・スコット「偉大な幸福の計画を実践する」『リアホナ』1997年1月号, 85

25. 教義と聖約86:9, 11

26. アルマ12:24参照

# 特別な経験

七十人会長会

ロナルド・A・ラズバンド長老

人生という旅路において、わたしたちは信仰と証<sup>あかし</sup>というブロックを積み重ねてくれる、多くの特別な経験をします。



この特別な日に、トーマス・S・モンソン大管長が地上における主の預言者であるという、わたしの証も付け加えます。この総大会で話す機会に感謝します。

この歴史的な大会で、秩序正しい、定められた方法により、教会の新しい預言者、大管長会、そしてほかの指導者を支持できる経験に恵まれたことを、皆さんとともに感謝します。

このような経験を通して、この教会が確かに主のまことの生ける教会であると感じることにより、わたしたちの証と信仰は強くなっていきます。

人生という旅路において、わたしたちは信仰と証というブロックを積み重ねてくれる、多くの特別な経験をします。これらの経験は実に様々な形で、予期せぬときにやって来ます。力強い霊的な出来事、あるいは小さくても新しい理解を与えてく

れるような瞬間かもしれません。中には、対処の仕方を試される深刻な問題や大きな試練もあります。どのようなものであっても、一つ一つの経験は、自分自身が成長し、より豊かな知恵を得、そして多くの場合、より深い共感と愛をもって奉仕する機会となるのです。リバティーの監獄で人生最大とも言える試練を受けていた預言者ジョセフ・スミスに、主は励ましの言葉を与えておられます。「これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」(教義と聖約122:7)

人生で積み重ねる経験は、わたしたちにとって強さとなり助けとなります。家を建てる時に積み重ねるブロックが建物全体を支えるのと同様に、人生の経験がブロックとなってわたしたちの証を築き、主イエス・キリストへの信仰をさらに強めてくれるのです。

まさにこの部会でも、豊かな経験に満ちた人生の大切さを知ることができます。指導者の賢明な勧告に従い、教えや御霊<sup>みたま</sup>に感嘆するわたしたちにとって、長年の準備期間を経た先任使徒を主が預言者としてお選びになるのは、何ら不思議なことではありません。

わたしの祝福師の祝福には、自身の証を強めてくれる特別な経験が与えられると記されています。兄弟姉妹、人生で心に確信と喜びを与えてくれた特別な経験について考えてみてください。ジョセフ・スミスが回復の預言者であると初めて知ったときのこと、モロナイの勧告を受け入れ、モルモン書が確かにイエス・キリストについてのもう一つの証であると知った

ときのこと、心からの祈りに答えが与えられ、天の御父が直接あなたを知り、愛しておられると実感したときのことを覚えていますか。これらの特別な経験に思いをはせるとき、感謝の念を抱き、新たな信仰と決意をもって前進しようという気持ちにならないでしょうか。

先日、ラズバンド姉妹とわたしは、忘れ難い経験をしました。ペルーの二つのステーキ大会を管理する割り当てを受けたときのことです。滞在中、アンデス山脈のチチカカ湖のほりにあるプーノという町へ行きました。アンデス高地にある海拔1万2,000フィート(約3,660メートル)のこの町は素朴で美しく、心を奪われました。この地域のステーキ会長に会い、プーノ地域の何百人もの若人とともにすばらしいファイヤサイドを開きました。

ある朝、チチカカ湖にあるアシでできた浮き島に住む数人の会員に招かれました。そこに住む人々はポリビアやペルーのウロスインディアンとして知られています。

2、3の末日聖徒の家族が一緒になって、小さな新しい浮き島を作ったと知らされました。胸を躍らせてボートで島に渡ると、すばらしい会員たちの温かい歓迎を受けました。

非常に美しく色鮮やかな、手作りの毛布にくるまれた赤ん坊を抱かせてもらいました。その日に湖で釣って丁寧に料理した魚をたくさんごちそうになりました。彼らが売っている商品や手工芸品を見せてもらい、贈り物を交換しました。

またわたしたちは、子供たちが毎日セミナーと学校へ通うのに、45分間カヌーをこいでプーノまで往復していることを知りました。また、兄弟姉妹たちが聖文に精通し、理解し、愛していることを知ってうれしく思いました。彼らはポリビア・コチャパンバ神殿でエンダウメントと結び固めを受けていて、有効な神殿推薦状を誇らしげに見せてくれました。

別れる前に、母親の一人から一緒にひざまずいて家族の祈りに参加してほしいと言われました。この忠実な聖徒たちと、アシでできた柔らかい床にひざまずいたとき感覚をよく覚えています。ひざまず



くと、その母親から、わたしが祈り、メルキゼデク神権によってこの新しい浮き島と家を奉献するよう頼まれました。

実に謙虚な気持ちになりました。チチカカ湖に浮かぶ、この小さなアプインティ島を奉献し、忠実な末日聖徒であるルハノ家とハワイ家への祝福を主に祈ってほしいと言われたのです。

主から与えられたこの特別な経験について考えると、わたしの信仰の家に新しいブロックが積み重なったことが分かります。プーノでのことをよく思いますが、この経験はわたしの祝福師の祝福がまた一つ成就したことを思い出させてくれます。

1831年に記された教義と聖約第1章には、末の日に主の業が大きく広がることを予見する記述があります。主は次のことを明らかにされました。

「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため、

信仰もまた地に増すため、

わたしの永遠の聖約が確立されるため、わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで、……<sup>の</sup>宣べられるためである。」(教義と聖約1:20-23)

兄弟姉妹、わたしや皆さんのような教会の弱い者や純朴な者が、ペルーのプーノや世界のかなたまで福音を携えて行くのです。神と聖約を交わす人々の信仰は強められています。それは各個人が信仰を高める貴重な経験をし、宝の蔵に蓄えているからであると信じています。

モンソン大管長は言いました。「〔主は〕戒めを与えられ、賢い者であろうとなかろうと、主に従う者には、この世で経験する<sup>かたつ</sup>労苦や葛藤、苦悩のときに御自身を現して、

ともに歩んでくださいます。こうして、……〔彼らは〕主がどのような御方であるかを自分自身の経験を通して学ぶのです。」(アルバート・シュバイツァー、*The Quest of the Historical Jesus*〔1948年〕、401。「主の道」『リアホナ』2003年1月号、7で引用、強調付加)

世俗的な事柄が生活の中に入り込んで来る今の世の中で、試練や困難にのみ込まれそうになるとき、自分だけの特別で霊的な経験を思い出しましょう。信仰というこれらのブロックがあれば、思いやりと愛に満ちた天の御父がおられ、主イエス・キリストが救い主であられ、回復されたこの教会がまことの生ける教会であるという確信と安心を得られるのです。このことを、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

# 義にかなった伝統

中央初等協会会長  
シェリル・C・ラント

**わたしたちが家庭で築いている伝統は、子供が生ける預言者に従うのを容易にしているでしょうか、それとも難しくしているでしょうか。**



**わ**たしの覚えているかぎり、父はきれいな赤いルビーの指輪を左手にはめていました。指輪はわたしの唯一の弟が受け継ぎました。それは我が家の伝統、つまり世代から世代へと受け継ぐ遺産になるでしょう。指輪にまつわる懐かしい思い出とともに、すばらしい伝統となっていってほしいと望んでいるものではないでしょうか。この世間的な性質を帯びたものではないでしょうか、永遠に続くものではないでしょうか、意識的に義にかなった伝統を築いているのでしょうか、それとも意識せずに物事をただ受け入れているのでしょうか。世の騒々しい声にこたえようとして築いたものではないでしょうか、それとも御霊の静かな細い声に影響されて築いたものではないでしょうか。わたしたちが家庭で築いている伝統は、子供が生ける預言者に従うのを容易にしているでしょうか、それとも難しくしているのでしょうか。

人にはそれぞれ家族の伝統があります。この世間的なものもあれば、深い意味を持つものもあります。最も大切な伝統は生き方に関連するものです。子供たちに影響を与え、人生を形作り、世代を超えて続きます。モルモン書には、先祖の言い伝えの影響を強く受けていたレーマン人のことが記されています。ペニヤミン王は、彼らは福音の原則をまったく知らない民であり、「たとえ教えられても、彼らの先祖の正しくない言い伝えがあるために信じないものである」と言いました(モーサヤ1:5)。

わたしたちにはどのような伝統があるのでしょうか。先祖から受け継いだ伝統で、今はわたしたちが子供に伝えているものもあるでしょう。それは、子供に受け継いでいってほしいと望んでいるものではないでしょうか。義や信仰の行いに基づいているものではないでしょうか。この世間的な性質を帯びたものではないでしょうか、永遠に続くものではないでしょうか、意識的に義にかなった伝統を築いているのでしょうか、それとも意識せずに物事をただ受け入れているのでしょうか。世の騒々しい声にこたえようとして築いたものではないでしょうか、それとも御霊の静かな細い声に影響されて築いたものではないでしょうか。わたしたちが家庭で築いている伝統は、子供が生ける預言者に従うのを容易にしているのでしょうか、それとも難しくしているのでしょうか。

自分たちが引き継いでいくものをどのように決めたらよいのでしょうか。聖文にはすばらしい規範があります。モーサヤ書第5章15節にはこう記されています。「したがって、あなたがたは確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして……ほしい。」

わたしはこの聖句が好きです。伝統は同じ行動を繰り返すことにより、時を経て築かれていくものだからです。確固として変わることなく善い行いを続けるなら、固く義に根ざした伝統が生まれるでしょう。けれども、ここで質問があります。わたしたちはどのようにして良いもの、さらにはもっと大切な十分良いものを判断することができるのでしょうか。第3ニーファイ第6章14節を読めば、そのことはもう少し分か

ります。そこには、「真実の信仰に帰依し……堅く確固として動かず、喜んで力のかぎり主の戒めを守っていたので、真実の信仰から離れようとしなかった」民について記されています。

堅く確固として動かずに戒めを守れるようになるには、まず「真実の信仰」に帰依する必要があります。福音に帰依する、または改心するとは、イエス・キリストを贖い主として固く信じることです。これを証言する言葉が、「イエス・キリストについてのもう一つの証」であるモルモン書に記されています。モルモン書は聖書とともに、天の御父が実在しておられることだけでなく、イエス・キリストの神性と使命を宣言しています。この聖なる書物に記録されている預言者は皆、御父と御子に対するそれぞれの証を述べており、わたしたちが贖いにあずかり、一人一人が平安と幸福を見出すためにどう生きるべきかを教えています。

わたしたち一人一人が改心する方法は一つしかありません。わたしたちは、まさにイエス・キリストを証するこれらの聖文を研究することで、御霊の証によって改心します。祈りと断食を通して改心します。真理を知りたいと心から望んでいればこそ改心できるのです。聖文や預言者の教え、教会そのものの欠点を見つけて、自分の行いを正当化するのではなく、心を開いて真理を求めなければなりません。世の中の考えではなく、御霊が伝えることに耳を傾ける必要があります。進んで心と思いを開き、主の道を受け入れ、必要であれば生活を変えなくてはなりません。主がお望みになる生き方、すなわち、自分の都合に合う戒めだけでなく、すべての戒めを守ることににおいて、確固として揺るぎない生活を始めることにより、わたしたちは改心することができます。昨日よりも少しいい日にしようとする毎日努力するなら、わたしたちは精錬され、伝統は義にかなったものとなっていきます。

わたしたちが引き継いでいる伝統とそれが家族に与えている影響について少し考えてみてください。安息日を守ること、家族の祈り、家族の聖文勉強、奉仕、教会



に活発に集うこと、そして家庭内での尊敬と誠実さの伝統は、子供に、そして子供の将来に大きな影響を及ぼします。子育てが聖文と末日の預言者の教えに基づいていけば、道を間違えることはありません。難しい問題にぶつかる度に、まず、そして常に天の御父に心を向けて導きを求めるなら、安全な場所にいることができます。わたしたちの信念を子供が理解し、わたしたちが常に主の側に立っているのであれば、わたしたちは正しい場所にいるのです。

重要なことは、常にこれらのことを行う努力をするということです。完璧にはできないでしょうし、家族がいつも肯定的に応じてくれるとも限りません。けれども、わたしたちは子供たちが頼ることのできる義にかなった堅固な土台を築いていきます。大変なときには、土台にしがみつくなことができ、一時道を踏み外したとしても、その土台に立ち返ることができるのです。

父は亡くなる時、わたしたち子供に、赤

いルビーの指輪よりはるかに多くのものを残してくれました。父の肉体は老いていましたが、実際には家族にとって強さの源であり、義と真理の模範でした。たとえ父がいなくても、父の人生そのものには、今日のわたしたちを強めている伝統がありました。父は「堅く確固として動かず、喜んで力のかぎり主の戒めを守ってい」ました。

子供たちにも同じことをしてあげられるでしょうか。今日子供たちに遺産として何を与えているでしょうか。明日はどうでしょう。わたしたちから始めることができます。主と末日の預言者を受け入れ、従うことが容易となるような伝統で子供の心と生活を満たすことはできるでしょうか。わたしたちは家族で、「全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押され……天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかる」という約束された祝福にあずかることはできるでしょうか（モーサヤ5:15）。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちにはそれができます。神はわたしたちを愛しておられ、みもとに来るのを助けたいと願っておられます。わたしたちは皆、これらが真実であると知ることができます。わたしはそれを知っています。神は生きておられ、イエス・キリストは神の御子であり、贖い主です。イエス・キリストの福音は真実です。聖文には福音とその証が記されています。そして、わたしたちはまことの生ける預言者、トーマス・S・モンソン大管長を頂いています。大管長は、主の教会を導くために備えられ、この時代に召されました。

主の戒めを守ることに「確固として揺るぎない」者となることで、わたしたち自身と家族のために天の祝福を確かに得ることができます。

このことを心の奥深くで感じ、生活の中で実感できるよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。



# 家族の中に 信仰を回復する

七十人  
ケネス・ジョンソン長老

**安定した家族は社会を一つにする役割を果たし、その恩恵はあらゆる人に及びます。**



**偉**大な幸福の計画<sup>1</sup>を知っているわたしたちには、家族に信仰を回復する手助けをする機会、また責任があります。

わたしたちの責任は様々な点で医学や科学研究の分野で働く人々と比べることができます。彼らは確立された法則を使って、痛みを和らげる方法、生活の質を高める方法を研究しています。

宗教的信条という領域においても、信仰を持つ男女は立証された原則<sup>2</sup>を使い、悩める心に希望と確信を取り戻すことによって、悲しみを癒す手助けをすることができます。

科学者はいわゆる自然の摂理に従うことで成功を得てきました。過去や現在の偉大な科学者は、自然界の事柄にかかわ

る法則を作り出したわけではありません。発見したのです。

コリント人への手紙の中で使徒パウロは、人の知力がどこから来るのかについて、示唆に富んだ問いかけをしています。「いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知って知道吗。」<sup>3</sup>

論理と学習を通して知識は増え、理解は深まります。この過程を経ることで理論と法則は明らかになり、信頼できるものとして受け入れられます。

思いが照らされると、命と生物の調和を保つ法則が存在することが明らかになります。物理の法則を発見し、それに従うことでわたしたちは進歩し、法則を応用する以前よりもさらに高い段階に到達できます。

わたしはこの考え方が倫理や道徳観にも当てはまると信じています。だからこそ、わたしたちには家庭を安全に守る責任があります。家庭は学習の中心であり、倫理や道徳観は、愛にあふれる家庭において、模範の力を通して教えることができるのです。<sup>4</sup>

トーマス・S・モンソン大管長はこのように教えました。「青少年に多くの批評家は要らない。必要なのは、彼らが従うべきもっと多くの手本である。」<sup>5</sup>

自身の人生を振り返ると、健全な人格を形作るうえで欠かせない価値観をどのように身に付けてきたかが分かります。忠誠心、誠実さ、信頼に足る人間になることをわたしはどこで学んだのでしょうか。これらの特質は家庭で、両親の模範を通し

て学びました。無私の奉仕の価値をどのように理解したのでしょうか。家族に対する母親の献身的な姿を見ることと、その恩恵を受けることによってです。神の娘たちに対する敬意と尊敬をどこで学んだのでしょうか。父親の模範から学びました。

わたしが賢明な生活と勤労の尊さという原則を学んだのは家庭でした。今でも、母が毎晩のように家で足踏みミシンを使って、地元の靴工場に納める靴を縫い合わせている姿が目につきます。母が自分で何かを買うためではありません。兄とわたしが大学で学ぶ費用の足しにするためでした。後に母は、こうした努力が満足を与えてくれたと話していました。

父は賢くて勤勉な人でした。わたしは父から、手引きのこぎりや木材を切る方法、家電製品のプラグを換えたり取り付けたりする方法など、たくさんの役に立つ技術を教わりました。

こうして教わったことにはどれも、最善の努力を払わずに得たもので満足してはならないという共通のテーマがありました。

またわたしは、両親と話し合い、彼らの勧告から学ぶことで、重要な決断を下す能力を磨きました。加えて、任された事柄に責任を持つこと、思いやりのある人間になること、教育の機会を求めることなど、学んだことはまだまだたくさんありました。

10代だったわたしにイエス・キリストの回復された福音を初めて教えてくれたのは、後に妻となったパメラでした。妻のおかげで、単純なメロディーだったわたしの人生は明るい交響曲になりました。<sup>6</sup>

これまで、結婚と家族生活のおかげで幸せな67年の人生を送ってきました。両親の家庭で息子として21年、夫として46年を過ごしましたが、父であり祖父であることがいちばんの喜びでした。これ以上望めることがあるでしょうか。分かりやすく言えば、だれもが皆、これと同じ機会を享受できます。

コリント人への手紙の中で、パウロは次のようにも教えています。

「それと同じように神の思いも、神の御霊<sup>たま</sup>〔を持つ者〕以外には、知るものはない。……



大会を視聴するために集会所に訪れた韓国の家族。

生れながらの人は、神の……<sup>たまもの</sup>賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」<sup>7</sup>

科学者は通常、研究と実験、知性を働かせることで知識を得ます。

キリストの弟子は、主の御言葉<sup>みことば</sup>を研究し、主の業をよく知り、福音の原則を実践することで、また靈感の霊<sup>あかし</sup>を受けることで証を得ます。<sup>8</sup>

「人のうちには霊があり、全能者の息が人に悟りを与える。」<sup>9</sup>

自然の摂理と比べると、霊的な真理は簡単に実感できるようには見えないかもしれませんが、謙虚な心を持つ人にとってその力は明白です。自然の摂理が人の好みによって定められたのではないと理解することは大切です。自然の摂理は現実という岩の上に確立され、存在しているのです。

道徳上の真理も存在します。これも人

が考え出したものではありません。<sup>10</sup> 道徳上の真理は神の計画の中心を成すものであり、見いだして応用するときに、この地上の旅路に大なる幸福と希望がもたらされます。<sup>11</sup>

例えば「家族——世界への宣言」<sup>12</sup> に述べられ、神の啓示によって明らかになっているように、結婚と家族は神により定められているとわたしは信じています。聖文は次のように宣言しています。「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」<sup>13</sup>

賢明な人々は、過去から学ぶという遺産を残してくれました。神が定められたとおり、わたしたちは家族における信仰の土台を将来の世代に伝えなければなりません。<sup>14</sup>

永遠の原則を理解し、その原則に従って生活することにより、人生のあらゆる側面で得られる自由と幸福を決して忘れてはなりません。永遠の福音の原則は、実り多い、幸福な人生を築く確かな土台を

与えてくれるのです。<sup>15</sup>

御父の計画に定められた規範に従うことで、わたしは「幸福に暮ら[す]」こと<sup>16</sup>と「喜んで、救いの井戸から水をくむ」<sup>17</sup> ことの意味を、身をもって知ることができました。

救い主は教えられました。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」<sup>18</sup>

物の見方や態度は時に、人生で最も偉大な機会を享受する能力を制限することがあります。

「良い家庭環境になかった人はどうなるのですか」と尋ねる人もいるかもしれませんが。

安定した家族は社会を一つにする役割を果たし、その恩恵はあらゆる人に及びます。あまり理想的ではない環境にいると感じているかもしれない人たちにも及ぶのです。

忠実に生活し<sup>19</sup>、良い交わり<sup>20</sup> を願って忍耐強く祈る人たちのために、心に安ら

ぎを与えてくれるヘレン・スタイナー・ライスの次の言葉を伝えます。

「神が約束をなさるとき、  
その約束は永遠に有効である  
神は必ず、  
すべての約束を守られる  
幻滅し、  
すべての希望がうせたとしても  
神の約束を思い起こしなさい  
そうすれば、信仰の灯が再びともること  
であろう」<sup>21</sup>

家族という神からの贈り物の守り手として、勇気と確信をもってともに立つことができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

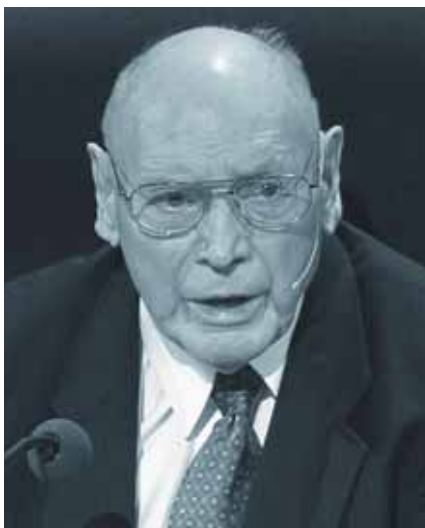
1. アルマ42:8。アルマ24:14参照
2. 『聖句ガイド』『原則』の項、98参照
3. 1コリント2:11
4. 箴言22:6参照
5. 「熱心に携わる」『リアホナ』2004年11月号、57
6. 教義と聖約128:19参照
7. 1コリント2:11、14
8. ヨハネ7:16-17、モルモン書ヤコブ4:8参照
9. ヨブ32:8
10. 教義と聖約130:20-21参照
11. Like a compass, principles provide points of reference on life's journey.
12. 『リアホナ』2004年10月号、49参照
13. 創世2:24
14. 教義と聖約49:15-17参照
15. 教義と聖約68:25-28参照
16. 2ニーファイ5:27
17. 2ニーファイ22:3
18. ヨハネ10:10
19. 教義と聖約82:10参照
20. 教義と聖約130:2参照
21. From *Expressions of Comfort* (Uhrichsville, Ohio: Barbour Publishing, 2007年), 187-188から。許可を得て使用

# 個人に関心を寄せる

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン長老

**イエス・キリストは最もすばらしい模範です。群衆に囲まれ、何千人もの人に話されましたが、常に個人に関心を寄せておられました。**



**皆**さんとこの壮大なカンファレンスセンターに集えることを感謝しています。この膨大な数の聴衆が、この偉大な大会で話される言葉を見たり、聞いたり、読んだりする無数の人々のほんの一部であることを知るとへりくだる思いです。

もちろん、わたしたちは愛するゴードン・B・ヒンクレー大管長がこの場にいなことを寂しく思います。しかし、わたしたちは大管長の影響力により、さらに善い民となりました。大管長の導きのおかげで、教会はさらに強固なものとなりました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長という指導者がいたおかげで、この世はさらにすばらしい場所となったのです。

新しい大管長会について少し話します。モンソン大管長とは古くからの知り合いです。大管長はイスラエルの勇士であり、主の教会を管理するよう予任された人です。

聴衆の心をつかむ話やたとえをすることで知られていますが、彼をよく知るわたしたちからすれば、大管長は自分が話したことを実践する模範的な生き方をしている人です。多くの偉大な人々や権力者からも知られ、尊敬されていることは称賛に値することですが、つましい生活をしている人々から「友」と呼ばれていることの方が、さらに称賛すべきことなのかもしれません。

モンソン大管長は、親切で思いやり深い人です。その言葉や行いからは、大管長が一人一人に関心を寄せていることが分かります。

アイリング管長は思慮深く学識のある霊的な人です。教会の中だけでなく教会外の人たちからも知られ、尊敬されています。アイリング管長の話には、だれもが耳を傾けます。彼は「アイリング」の名をさらにすばらしいものにしました。

ウークトルフ管長とは、わたしがヨーロッパで地域会長を務めていたときに知り合いました。初めて会ったときから、ウークトルフ管長がとてつもなく深い霊性と偉大な能力を秘めた人だということが分かりました。主は彼を心にかけておられました。23年前、ドイツのフランクフルトでステーキ会長を務めるという主の召しをウークトルフ管長に伝える特権にあずかりました。わたしは長い間、ウークトルフ管長の指揮下で行う事柄がごとく成功していくのを見てきました。主がともにおられるのです。ウークトルフ管長のことを思うと、次の2語が心に浮かびます。「*alles wohl* (アレス ヴォル)」, ドイツ語で「すべては善し」という言葉です。

イエス・キリストの眞の弟子は常に個人に関心を示してきました。イエス・キリストは最もすばらしい模範です。群衆に囲まれ、何千人もの人に話されましたが、常に個人に関心を寄せておられました。イエスはこうおっしゃいました。「人の子は、迷い出た者を救うためにきたのである。」<sup>1</sup>「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。」<sup>2</sup>

この教えは、イエスに従うすべての人に当てはまります。わたしたちは、迷い出た者を捜し求めるよう命じられています。わたしたちは兄弟の番人でなければならないのです。救い主から与えられたこの責任を軽んじることはできません。個人に関心を寄せなければなりません。

今日わたしは、迷い出た人について話します。人と異なるために迷い出た人もいれば、疲れ果てた人、道からそれた人もいます。

**人と異なるために迷い出た人。**彼らは、自分には居場所がないかのように感じています。恐らく、ほかの人と違うという理由で段々と群れから離れてしまったのでしょう。外見、行動、考え方、話し方が周囲と異なるということが、時に自分とはなじめないと感じさせてしまうのです。そして自分は必要とされていないという結論を出してしまいます。

この誤解に関連しているのは、すべての教会員は、同じような外見、話し方、振舞いをしなければならないという間違った意見です。主がオーケストラのように様々な個性の人を地球にお送りになったのは、ピッコロの音だけを響かせるためではありませんでした。すべての楽器が貴重な存在で、交響曲の複雑な美しい音色に深みを与えます。天の御父の子供たちには多少の個人差があります。しかし、どの子供も、人類全体に深みと豊かさを与える独自の音色を持っているのです。

このように様々な個性を持つ人間を創造されたこと自体、主がすべての神の子供たちを大切にしておられることの証で



す。主はある人をほかの人より優れているとはお考えになりません。むしろ主は、「御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれぬ。……すべての人が神にとって等しい存在なのである。」<sup>3</sup>

子供のころ、年上の少年の中に肉体的、精神的な障がいを持つ子がいました。言語障がいがあり、歩くのも困難でした。少年たちはよくその子をからかっていた。皆にからかわれ、あざけられ、とうとう泣いてしまうこともありました。

その子の声が今でも聞こえます。「いじわるだなあ。」こう言われても、少年たちは相変わらずその子をあざけり、突き飛ばし、笑い者にしていました。

ある日、わたしはこれ以上我慢ができなくなりました。まだ7歳でしたが、主が勇気を与えてくださったので、友達に立ち向かって行ったのです。

わたしは言いました。「その子に触るな。からかうのをやめろ。優しくしろ。その子も神の子なんだぞ。」

友達は後ずさりして逃げて行きました。そのときは、大胆な行動に出たので友達との関係が悪くなるのではないかと心配しましたが、実際には反対のことが起こりました。その日以来、わたしは友達とさらに親しくなったのです。少年たちはその子にもっと思いやりを示すようになり、もっと善い人間になりました。わたしが

知るかぎり、少年たちはそれ以来、二度とその子をからかうことはありませんでした。

兄弟姉妹、わたしたちが自分と違う人に対してもう少し思いやりの心を持って、今日世の中にある多くの問題や悲しみの重荷は軽くなり、きっと家庭や教会はさらに神聖な天国のようなところとなることでしょう。

**疲れ果てて迷い出た人。**重圧に押しつぶされそうに感じることはよくあります。今の時代のプレッシャーや様々な要求、毎日受けるストレスを考えると、疲れるのも無理はありません。力を発揮できなくて気落ちしている人が多くいます。自分は力がなく役立たずだと思っている人もいます。そして集団で物事を進めていくと、徐々に、ほとんど気づかれないうちに脱落していく人が出るのです。

だれもが1度や2度、くたびれたり、疲れ果てたりしたことがあるでしょう。わたしなどは、若いころよりも今の方がよほど疲れている気がします。ジョセフ・スミスやブリガム・ヤング、イエス・キリストでさえ疲れを御存じです。教会員が背負っている重荷を軽んじるつもりはありませんし、教会員が直面している情緒的、精神的な試練を過小評価しようとも思いません。大変な重荷のはずです。堪え難い重荷となることしばしばでしょう。

しかし、イエス・キリストの福音には更新する力があります。わたしは確かに、そのことに対する証があります。主は「弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる」<sup>4</sup>と、預言者イザヤは言っています。わたしは疲れを感じる時、ジョセフ・スミスの次の言葉を思い出します。「わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。心を喜びませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。……野のすべての木々は、主をほめたたえなさい。……神の子らは皆、喜び呼ばわりなさい。」<sup>5</sup>

自分がまだ不十分だと感じるために、自己を過小評価している教会員の皆さんにお願いします。一步踏み出し、肩の力を

もって車を押してください。自分の力などほとんど足しにならないと感じているとしても、教会はあなたを必要としています。主はあなたを必要としておられるのです。主は御自身の目的を達成するために、しばしば世の弱い者をお選びになることを忘れないでください。<sup>6</sup>

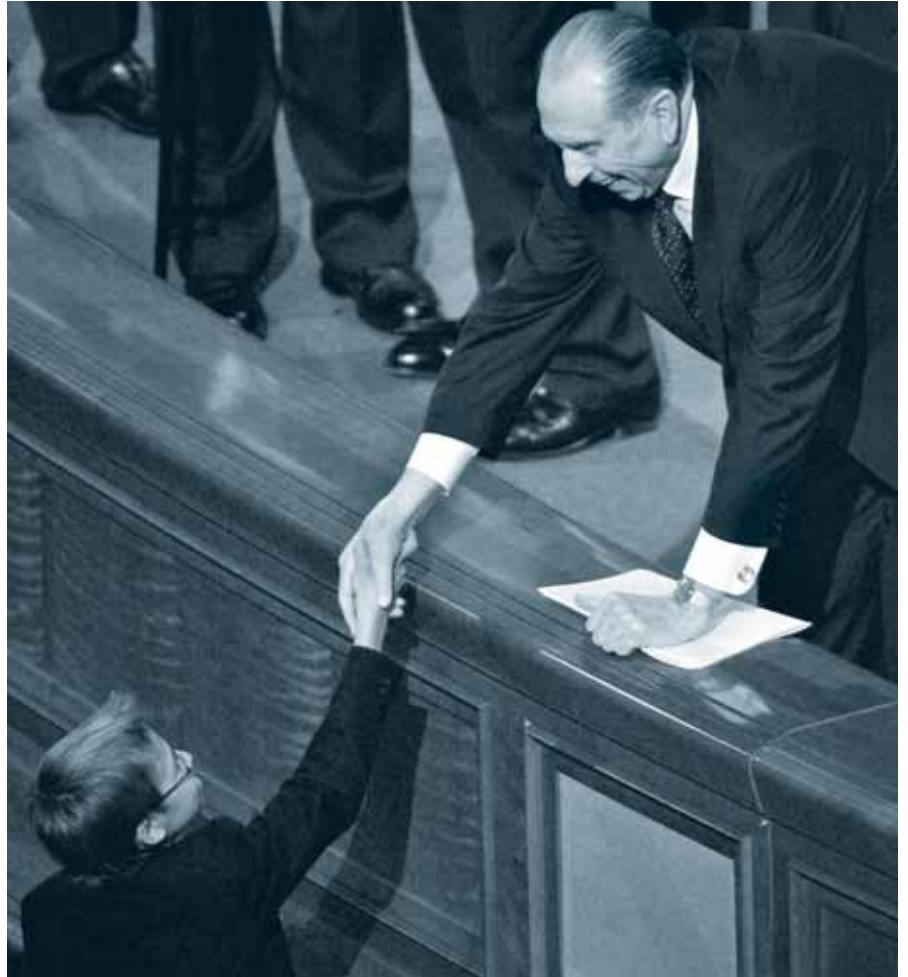
疲れ果てているすべての人に申し上げます。救い主の次の言葉に慰めを得てください。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」<sup>7</sup> この約束に頼りましょう。神の力はわたしたちの霊と体に精力と活力を吹き込むことができますのです。この祝福を主に求めるよう強くお勧めします。

わたしたちが主に近づけば、主はわたしたちに近づいてくださいます。なぜなら、主はこう約束しておられるからです。「主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」<sup>8</sup>

疲れ果てている人に関心を寄せるとき、わたしたちは「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め」<sup>9</sup> ているのです。多くの人に関心を寄せる教会指導者は、個々の会員の限界を承知しているながらも、彼らの力と能力を存分に發揮させてあげたいと強く願っています。指導者たちは、教え、支えますが、持てる力以上に急いだり、働いたりするよう無理強いすることはありません。<sup>10</sup>

忘れないでください。ゆっくりとスタートを切った人が最終的にはいちばん遠くまで行くこともあるのです。

**道からそれたために迷い出た人。** 主以外の人は、皆過ちを犯したことがあります。問題は、つまり倒れてしまうかどうかではなく、どのように対処するかなのです。中には、過ちを犯した後で群れから迷い出てしまう人もいます。これは残念なことです。教会は不完全な人たちが人間的な弱さを抱えたまま集って来て、成長していく場であることを御存じですか。人間の弱さを持ち、過ちを犯しがちな男女、子供が毎週日曜日に世界中の集会所に集まり、兄



弟愛を深め、慈愛を示しています。このようにしてより善い人になり、御霊を通して学び、周りの人に励ましと助けを与えようとしているのです。集会所の扉にこのような看板がかかっているとも言うのでしょうか。「入場制限——完全な人以外お断り。」

わたしたちが不完全だからこそ、主の教会が必要なのです。主の贖いの教義を教え、救いの儀式を施す場所はここなのです。教会は、より善い人、より幸せな人になれるよう励まし、意欲を起こさせてくれます。教会はまた、自己を捨てて人に奉仕できる場所でもあります。

主はわたしたちが過ちを犯すことを御存じです。だからこそ、わたしたちの罪のために苦しみました。主は、わたしたちがもう一度やり直して改善するために努力することを望んでおられます。罪人が一人でも悔い改めるならば、神の天使の前で喜びがあるのです。

傷つけられたために迷い出た方に申し上げます。心の傷と怒りをわきに置くこと

はできませんか。心を愛で満たすことはできないでしょうか。ここにあなたの場所があります。来て群れに入り、あなたの能力と才能と技能をささげてください。そうすればもっと良い気持ちになり、ほかの人たちもあなたの模範を見て祝福を受けることでしょう。

教義の問題があって迷い出た方に申し上げます。わたしたちは真理に対して弁解することはできません。主御自身から与えられた教義を否定することはできないのです。この原則において、わたしたちは妥協できません。

教義に同意できない人が時々いることは承知しています。ばかばかしいとまで言う人もいます。しかし、霊にかかわることは人にとっては時に愚かなものに見えろと言った、使徒パウロの言葉をもう一度伝えたいと思います。それでも、「神の愚かさは人よりも賢い」のです。<sup>11</sup>

実際、御霊にかかわる事柄は御霊によって明らかにされます。「生れながらの人

は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」<sup>12</sup>

わたしたちは、イエス・キリストの福音が今日地上にあることを証します。イエスは御父の教義をお教えになりました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」<sup>13</sup>

皆さんはだれでも愛する人を心にかけられています。彼らを励まし、彼らに仕え、彼らを支えてください。彼らを愛してください。親切にしてください。福音に戻って来る場合もあるでしょう。戻って来ないこともあります。しかし、いずれの場合でも、自分の身に受けている名前、すなわちイエス・キリストの御名にふさわしい行動を取りましょう。

この美しい地球に住むすべての人に、声を大にして厳粛に証します。神は生きておられ、イエスはキリストであられ、わたしたちの救い主であり、王であられます。主は預言者ジョセフ・スミスを通して、御自身の真理と福音を回復されました。主は預言者と使徒に語られます。トーマス・S・モンソン大管長は主によって油を注がれた者であり、今日主の教会を導いています。このことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 欽定訳マタイ18:11から和訳
2. ルカ15:4
3. 2ニーファイ26:33
4. イザヤ40:29
5. 教義と聖約128:22-23
6. 教義と聖約1:19
7. マタイ11:28
8. イザヤ40:31
9. 教義と聖約81:5
10. 教義と聖約10:4参照
11. 1コリント1:25。18節も参照
12. 1コリント2:14
13. ヨハネ7:17

# まことの生ける教会

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

末日聖徒イエス・キリスト教会はまことの教会であり、生き続けています。



わたしたちは、トーマス・スペンサー・モンソンを預言者、聖見者、啓示者、教会の大管長として、また、D・トッド・クリストファーソンを使徒および十二使徒定員会会員として支持したとき、末日聖徒イエス・キリスト教会がまことの生ける教会であることを示す証拠を見、実感しました。主は末日に教会を回復するために働いた人々に向けて語り、彼らについて次のように言われました。「〔彼らは〕この教会の基礎を据える力と、暗黒から、また暗闇から、全地の面に唯一まことの生ける教会をもたす力を持つるようにならる……。教会について言えば、主なるわたしはこれを心から喜んでいる。しかし、それは全体について言うのであって、一人一人を指すのではない。主なるわたしは、ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはないからである。それでも、悔い改めて主の戒めを守る

者は赦されるであろう。

また、悔い改めない者は、すでに受けている光さえ取り去られる。わたしの御霊はいつでも人を励ますわけではないからである、と万軍の主は言う。」<sup>1</sup>

この教会はまことの教会、唯一まことの教会です。この教会には神権の鍵があるからです。この教会においてのみ、主は使徒ペテロの時代になされたように、地上でも天でも結び固める力を授けておられます。それらの鍵はジョセフ・スミスに回復され、ジョセフはさらに、それらを十二使徒定員会の会員に授ける権能も与えられました。

預言者ジョセフが殺害されたとき、教会を敵視する人々は、これで教会も崩壊するだろうと思いました。教会は一人の死すべき人間が作ったものであり、その人とともに滅びるだろうと思ったのです。しかし彼らの望みは打ち砕かれました。この教会はまことの教会であり、たとえ、しばらくの間導くように選ばれた人々が死んでも、生き続ける力を持っていたのです。

今日、わたしたちはこの教会がまことの生ける教会であることが証明されるのを見ました。神権の鍵を持っているのは死すべき人々です。しかし、鍵が地上にあり、神のみこころによって、神の選ばれた僕たちに継承されているという信仰を民が働かせるかぎり、鍵が地上で機能し続けるように、主によって方法が備えられているのです。

神の民は、今日わたしたちがともにあずかった驚くべき経験をできるほどのふさわしさを、いつでも備えていたわけではありません。キリストが天に昇られた後、

使徒たちは主からゆだねられた鍵を引き続き行使しました。しかし、会員が不従順で、信仰を失ったために、使徒たちは鍵を継承者に伝えることなく世を去りました。その悲劇を、わたしたちは「背教」と呼んでいます。もし当時の教会員に、今日の皆さんのように信仰を働かせる機会と意志があったなら、主が神権の鍵を地上から取り去ることはなさらなかったでしょう。ですから今日は、世界の歴史の中で、そして天の御父の子供たちにとって、歴史的に意義のある、永遠の観点から見て重要な日なのです。

さて、わたしたちの義務は、ふさわしく生活し、召されている人々を支持するという約束を果たすのに必要な信仰を持ち続けることです。主は回復の初期の時代に教会のことを心から喜ばれ、<sup>こんにち</sup>今日も喜んでおられます。しかし主は当時の会員に向けて、また現在も同様に、ほんのわずかでも罪を見ごしにすることはないと警告しておられます。今日召された人々を支持するには、自分の生活を吟味し、必要に応じて悔い改め、主の戒めを守ることを約束し、主の僕に従わなければなりません。これらのことを行わないなら、聖霊は退き去り、すでに受けている光を失い、主のまことの教会における主の僕を支持するという、今日交わした約束を守ることではできないと、主は警告しておられます。

わたしたちは各自が自分を評価しなければなりません。まず、イエス・キリストのまことの教会の会員であることにどれくらい深く感謝しているかを測る必要があります。次に、どうすれば戒めをさらによく守ることができるかを、聖霊の力によって知る必要があります。

預言により、まことの生ける教会がもう地上から取り去られないだけでなく、さらに優れたものに発展していくことを、わたしたちは知っています。悔い改めを生じる信仰を働かせて、いつも救い主を覚え、主の戒めを守ろうとさらに努力するとき、わたしたちの生活はより良いものに変わっていきます。聖文には、主は再び御自分の教会のもとに來られるときに、教会が御自分のために靈的に備えられているの



新たに十二使徒定員会会員として支持されたD・トッド・クリストファーソン長老を温かく迎えるトーマス・S・モンソン大管長とディーター・F・ワークドルフ管長。

を御覧になるだろうという約束が記されています。ですからわたしたちは固い決意を持ち、同時に、樂觀的になるべきです。わたしたちは進歩しなければならず、それは可能であり、確かに実現するでしょう。

特に今日は、王国でわたしたちのために働くすべての人々を信仰と祈りをもって支持すると決意するのに格好の日です。召されている人々を支持する教会員の信仰の力を、わたしは自ら知っています。この数週間、わたしは面識もなく、わたしのことを神権の鍵によって務めに召されている人としてしか知らない人々の祈りと信仰を強烈に感じてきました。トーマス・S・モンソン大管長は、彼を支持する皆さんの信仰により祝福を受けるでしょう。同様に、大管長の家族にも、皆さんの信仰と祈りのゆえに祝福が注がれるでしょう。今日皆さんから支持を受けたすべての人は、彼らの信仰と皆さんの信仰のゆえに、神から支えられるでしょう。

すべての会員には、神の御名によって与えられた奉仕を行うことで指導者を支

持する機会が与えられています。この教会は、その会員と地上のすべての人々に祝福をもたらす強力な組織です。例えば、教会は世界中で目覚ましい人道支援活動を行っています、すべてが会員と友人たちの信仰のゆえに可能となっています。その信仰とは、神が生きておられるという信仰と、主は助けの必要なすべての人を助けるよう望んでおられるという信仰です。主は、御自分の忠実な弟子を通じて彼らに手を差し伸べられるのです。

さらに、この教会とそこで行われる儀式によって、結び固めの力の祝福が霊界にまで及んでいます。この教会はまことの生ける教会であり、もう生きていない人々にさえも手を差し伸べているのです。先祖の名前を見いだす信仰を持つとき、そして主の家に行って彼らのために身代わりの儀式を行うとき、皆さんはこの世にやって来る天の御父のすべての子供たちに救いを与えることを目的とする、この大いなる業を支えていることとなります。

まことの生ける教会に感謝すべき理由

について、わたしの考えを幾つか話します。その後、救い主が戻って来られるのに向けて教会がどのように備えられているかを話します。そして最後に、この教会がまことの生ける教会であることをわたしがあかしのようにして知るようになったかについて証します。

何よりも、わたしは神権の力により執り行われる儀式によって与えられる、清めの力を経験してきたことに感謝しています。わたしは権能を持つ者によるバプテスマによって、赦され、清められるのを感じました。また、胸が内から燃えるのを感じてきましたが、これは神の僕から告げられた「聖霊を受けなさい」という言葉によってのみ可能となるものです。

家族に与えられる祝福からも、感謝の気持ちがわいてきます。結び固めの力とそれを知っていることが、この地上における家庭生活と、来るべき世で家族として生活する喜びに対する期待を異なったものとしてくれます。永遠の関係を持つという思いと希望は、死すべき世の一部である別離と孤独という試練を乗り越えさせてくれます。末日聖徒イエス・キリスト教会において忠実な者には、永遠にわたって家族の関係を保ち、さらに発展させることができるという約束が与えられています。その確かな約束は、家族のあらゆる関係を永遠にさらに良いものへと変えてくれます。

例えば、わたしは現在、遠く離れているために孫たちや、やがてはひ孫たちと、あまり親しくなれない状況にあります。わたしと同じように、何とかして家族のそばで過ごしたいと切に願いながらも、結婚して親になる機会がなかった人々もいます。永遠の家族についての知識が回復されたおかげで、わたしたちはあらゆる家族関係において、より希望に満たされ、より優しくなることができます。この世での最大の喜びは家族を中心とするものであり、それは来るべき世においても同じです。わたしは次のような約束が与えられていることをとても感謝しています。すなわち、もし忠実であるなら、この世で享受する交わりと同じものを、来るべき世において、永



遠の栄光のうちに、とこしえに得られるということです。<sup>2</sup>

預言どおりに教会が完全なものになるようにしていることについて、わたしにはその証拠が見えます。例えば、各地を訪問して教会員と知り合うとき、彼らの生活が着実に改善されているのを目にします。会員たちの純粋な信仰と従順さにより、贖罪が彼らを変え、教化しているのです。集会に出席すると往々として、だれの目にも明らかに謙遜な人々が、レッスンを教え、説教を行うようゆだねられています。彼らの言葉には、リーハイやニーファイ、ヒラマンの息子たちに与えられたような力があります。皆さんも次の記録を覚えていることでしょう。

「そしてニーファイとリーハイは、レーマン人にも同じように大きな力と権能をもって教えを説いた。彼らは語る事ができるように力と権能を与えられており、また語るべき事柄も示されたからである。」<sup>3</sup>

わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長が繰り返した願いがかなえられると確信しています。大管長は、もし教会に加わった人々が神の善い言葉で養われるなら、すべての人が完全に活発な状態で定着するだろうと教えました。自分が務めの最後に語る言葉はやはり「定着、定着、定着」だと、ヒンクレー大管長が言っていたことが思い出されます。わたしたちが、神の善い言葉で養うリーハイとニーファイの力

を受ける資格のある者となるとき、ヒンクレー大管長の言葉はモンソン大管長がその職にある間も、わたしたち全員の中で生き続けるでしょう。さらに大いなる力をもってホームティーチングや家庭訪問を行い、教会員でない友人に語る謙遜な末日聖徒たちに、皆さんもわたしも驚き続けることになるでしょう。わたしはそう信じています。

長年にわたり、わたしたちはデビッド・O・マッケイ大管長の「すべての会員は宣教師である」という言葉を記憶にとどめてきました。わたしは次のように確信しています。会員の信仰により、かつてないほど大勢の人々が神の言葉を聞くように、そしてまことの生ける教会に加わるように招かれるのを目にする日が来ようとしています。

また、もう一つの進歩が遂げられることも確信しています。世界中の教会員の家族が、子供たちを強め、周囲の悪から守る方法を探し求めています。その中には、さまよっている家族を連れ戻そうと必死に努力している親もいます。彼らの努力に神がますます報いてくださると、わたしは信じています。決してあきらめない人は、神が決して人々をお見捨てにならず、助けてくださるということを知るでしょう。

そのような助けの多くは、教会で奉仕するように召されている人々によってもたらされるでしょう。手を差し伸べたいという望みが増し、多くの人々がかつての若きトーマス・モンソンビショップのようになるでしょう。つまり彼らは、神が自分たちのために備えておられる祝福に一時的に気づいていない人々を招き、励ますための実際的な方法を、靈感によって知るでしょう。モンソン大管長は今日に至るまで、自分がビショップだったときに助けようと努めた人々のことを覚えています。わたしの望みは次のような確信をわたしたち皆が持つことです。すなわち、神のもとに帰るとき一緒に連れて帰るよう神が願っておられる人々に手を差し伸べ、彼らを連れ戻るときに、神が導いてくださるといふ確信です。

王国に見受けられるもう一つの進歩は、貧しい人々や助けを必要としている人々





中央アメリカの国ベリーズの、ベリーズシティ地方部サン・ペドロ支部の会員と宣教師が大会のために集う。

に手を差し伸べたいという望みと、その能力という面においてです。教会員の間で、世界中の自然災害の被災者に対する同情の念が驚くほど増えています。死亡記事の中で遺族が、見舞金は自分たちではなく永代教育基金や教会の人道支援基金に送付するよう求めているのをよく目にします。

預言者ジョセフ・スミスは、そのようなすばらしい進歩を予見していました。人は心から改心するとき、天の御父の子供たちを心にかけて、全世界を歩き回りたいと望むようになると、ジョセフは述べています。<sup>4</sup> そのことが、より多くの教会員たちの間ですでに起こり始めています。すばらしいのは、助けを必要としている人々に与えるという模範が、自分自身もわずかしか持っていない人々にも見られ、そのときの経済状態が良いか悪いかに左右されないように思われることです。わたしにとって、これは贖罪が会員たちの間でかつてな

かったほどに力を発揮していることを示す証拠です。

この教会がまことの生ける教会であるという証をわたしが持ち始めたのは、子供のころでした。最も幼いころの記憶の一つに、このような大きな会場ではなく、ホテルの部屋を借りて開かれた大会についての記憶があります。一人の見知らぬ男性が話をしていました。今も名前は分かりません。ただその人が、伝道部にあるわたしたちの小さな地方部に、神権を持つ人によって遣わされた人物であることだけは知っていました。彼が何を語ったかは分かりません。しかし、8歳になる前で、まだバプテスマを受けていなかったにもかかわらず、「自分は今、イエス・キリストのまことの教会で神の僕が語るのを聞いているのだ」という、力強い、確かな証を受けたのです。わたしに証を与えたのは、借りた部屋や、小さかった会衆の規模でもなく、自分がその瞬間にまことの教

会の集会に出席する祝福を受けているという確信でした。

10代のころ、家族とともに教会のステークが組織されている場所に引っ越ししました。そして初めて、神権定員会の力と、愛にあふれたビショップの力を感しました。祭司定員会でビショップの横に座り、彼がまことのイスラエルの判士の鍵を持っていることを知りました。そのときに受けた確信は今でも覚えており、また感じる事ができます。

わたしがまだ若かったころに、それと同じ証を受けた日曜日が2度ありました。ニューメキシコ州アルバカーキと、マサチューセッツ州ボストンでのことです。どちらも、地方部からステークが組織された日でした。わたしがよく知っている、一見普通の人物がステーク会長として召されました。わたしはその日、今日皆さんが行ったように手を挙げました。そして、神が御自分の僕を召されたのであり、自分

●土曜午後の部会  
2008年4月5日

# 2007年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウェル提出

## 末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

**愛**する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、<sup>じゅうぶん</sup>什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会および管理ビショップリックで構成されており、教会の各部門と運営組織の予算を承認します。評議会により承認された後、教会の各部門は、承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、基金の収支と教会資産の保全が適切に管理されているかを監査するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。

教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、監査を実施する人々は、公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果、教会監査部では、2007年度において、教会のすべての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部  
実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウェル



大会を視聴するアイダホ州の姉妹宣教師。

は彼らの働きにより、また彼らを支持することにより祝福を受けるだろうとの証を受けました。それ以来、わたしは各地の教会で同様の奇跡を数え切れないほど感じてきました。

支持した後、月日が過ぎるにつれて、わたしはそれらのステーク会長たちが自分の召しを果たすうえで十分な力と能力を受けているのを見ました。そして同じ奇跡を、預言者および大管長として管理し、地上で神権のすべての鍵を行使する召しを受けたモンソン大管長の働きの中にも見てきました。啓示と靈感がわたしの目の前でモンソン大管長に与えられてきました。それはわたしにとって、神がそれらの鍵を尊んでおられることを確信させるものです。わたしはそれをこの目で見た証人です。それらは神権の鍵であり、主の言葉によれば「初めもなく終わりもない」ものです。<sup>5</sup>

わたしは皆さんに厳粛に証します。この教会はイエス・キリストのまことの生ける教会です。そのことを自分で知るために熱心に祈るとき、天の御父はこたえてくださいます。今日自分たちが支持した召し神からのものであるという証を受けることができます。さらに、この教会の中で、ペテロとヤコブとヨハネの時代のように、魂を清め、地上でも天でもつなぐことのできる儀式が執り行われているのを知ることができます。それらの鍵と儀式は、預言者ジョセフ・スミスによって完全に回復されており、彼の継承者たちによって伝えられています。イエスはキリストであり、生きておられます。わたしはそのことを知っています。トーマス・S・モンソンが主の生ける預言者であることを証します。末日聖徒イエス・キリスト教会はまことの教会であり、生き続けています。このことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. 教義と聖約1:30-33
2. 教義と聖約130:2参照
3. ヒラマン5:18
4. *History of the Church*, 第4巻, 227参照
5. アルマ13:8

# 2007年度統計報告

七十人

F・マイケル・ワトソン長老提出

**兄** 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2007年12月31日現在の会員数の増加と活動状態を示す以下のような記録を発表しました。

## 教会ユニット数

ステーク ..... 2,790  
伝道部 ..... 348  
地方部 ..... 618  
ワードと支部の合計 ..... 27,827

## 教会員数

教会員総数 ..... 1,3193,999  
記録上の子供数の増加 ..... 93,698  
バプテスマを受けた改宗者 ..... 279,218

## 宣教師

専任宣教師数 ..... 52,686

## 神殿

再奉献された神殿数 ..... 1  
(トンガ・スクアロファ神殿)  
儀式が執行されている神殿数 ..... 124

## 2007年4月以降に他界した著名な教会員

ゴードン・B・ヒンクレー大管長、第15代大管長、享年97歳、2008年1月27日。  
ジェームズ・E・ファウスト管長、大管長会顧問および十二使徒定員会会員。

イニス・バーニス・イーガン・ハンター姉妹、元大管長のハワード・W・ハンター大管長夫人。

ルース・W・ファウスト姉妹、元大管長会顧問のジェームズ・E・ファウスト管長夫人。  
リアン・C・ノイエンシュワンダー姉妹、七十人のデニス・B・ノイエンシュワンダー長老夫人。

ユニス・N・ケイ姉妹、元七十人会員のF・アーサー・ケイ長老夫人。

ジャンナス・R・キャノン姉妹、元中央扶助協会会長会顧問。

リチャード・L・ワーナー兄弟、元中央日曜学校会長会顧問。

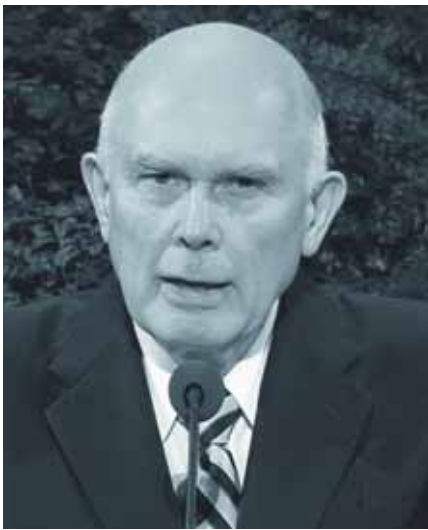


大会の次の部会を待つ間、賛美歌を歌う会員たち。

## 十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老

知識によりさらに従順になり、従順により知識が増します。



**福**音の証とは、永遠の価値を持つ幾つかの特定の事柄が真実であり、自分はそれが真実であることを知っているという、聖霊から心に与えられた個人的な証拠です。その特定の事柄の中には、神会の御三方の特質、この御三方と人との関係、贖いの有効性、回復の真実性などが含まれます。

福音の証は、旅行談でも、健康についての体験談でも、家族への愛の表明でもありません。それは説教でもありません。キンボール大管長は、他人に説教を始めた瞬間、証は終わると教えました。<sup>1</sup>

## I.

人の証を聞くときや、自分が証を述べることについて考えるときに、いろいろな疑問が生じます。

1. 証会で、ある会員が「わたしは御父と御子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を

- 現されたことを知っています」と言うのを聞いた訪問者が「知っているとは、どういうことだろう」と疑問に思います。
2. 伝道に出る備えをしている若い男性は、自分の証は宣教師として奉仕できるほど強いかどうか疑問に思います。
  3. 若い人は親か教師から証を聞いていますが、そのような証は、聞く人にとってどのような助けとなるでしょうか。

## II.

福音が真実であることを知っていますと証するとき、実際何を言わんとしているのでしょうか。「今、外が寒いことを知っています」とか「わたしは自分が妻を愛していることを知っています」という知識と比べてみましょう。この3種類の知識や認識は、それぞれ異なる方法で得られます。外の気温は科学的に証明することができます。伴侶を愛していることは、個人的、主観的に認識されるものです。それは科学的に証明することはできませんが、大切な知識です。すべての重要な知識は科学的証拠を基としているという概念は、断じて間違っています。

福音の真実性に対する「証拠」はあるものの(例——詩篇19:1;ヒラマン8:24参照)、霊的な知識は科学的な方法では得られません。そのことをイエスは、あなたこそキリストであられると言ったシモン・ペテロの証にこたえて教えられました。「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしたちの父である。」(マタイ16:17)使徒パウロはコリ

ト人への手紙でこれを「神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない」と説明しています(1コリント2:11。ヨハネ14:17も参照)。

対照的に、人間にかかわることは人間の方法で理解しますが、「生まれながらの人は、神の御霊[にかかわること]を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない」のです(1コリント2:14)。

霊的な事柄の真実性は聖霊の力によって神から明らかにされると、モルモン書は教えています(モロナイ10:4-5参照)。現代の啓示の中で神は、神御自身が「聖霊によって」人の思いと心にお告げになることにより、人は「知識」を受けると約束しておられます(教義と聖約8:1-2)。

天の御父が子供たちのために備えられたこの計画の最もすばらしい点は、計画の真実性をだれもが自分で知ることができるということです。神が啓示される知識は、本や科学的な証拠から、あるいは頭で考えて得られるものではありません。使徒ペテロのように、その知識は、直接天の御父から、聖霊の証を通して得られるのです。

霊的な真理を霊的な方法で理解したなら、その知識を確信できます。それは、ほかの知識をほかの方法で理解した学者や科学者がその知識を確信しているのと同じことです。

預言者ジョセフ・スミスはそのすばらしい例です。示現について語ったことで迫害を受けると、ジョセフは自らの状況を、アグリッパ王の前で弁明したときにあざけりとののしりを受けた使徒パウロになぞらえました(使徒26章参照)。「しかし、すべてこのことも、彼が示現を受けたという事実を損なうことはなかった。」ジョセフは言いました。「彼は示現を見た。彼はそのことを知っており、天の下のあらゆる迫害も、その事実を変えることはできなかった。……わたしについても同じであった。」ジョセフは続けてこう述べました。「わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が

実際にわたしに語りかけられたのである。……わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇気もなかった。」(ジョセフ・スミス-歴史1:24-25)

### Ⅲ.

それがジョセフ・スミスの証でした。わたしたちの証はどうでしょうか。ジョセフの言葉が真実であると、どうすれば知り、証できるようになるでしょうか。わたしたちが証と呼んでいるものをどうやって得ることができるでしょうか。

何の知識を得る場合でも最初の段階は、知りたいと心から望むことです。次の段階は、霊的な知識の場合、真剣に神に祈り求めることです。現代の啓示にはこうあります。

「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。」(教義と聖約42:61)

アルマは自分のしたことを記しています。「見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であるのを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。」(アルマ5:46)

たとえ心から望んでも、証はただで得られるものではなく、行いが求められることを覚えておかなければなりません。イエスは教えられました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:17)

証を得るもう一つの方法は、ほかの知識を得るのとは比べ、驚くべき方法に思えるでしょう。証を得、強めるために、証を述べるのです。ひざまずいて祈るよりも、立って証をする方が、もっと証が得られる



ことを示唆した人もいました。

自分自身の証は信仰の基盤です。そのため、証を得、強め、保つために行う必要のある事柄は、霊的生活に欠かせないことなのです。すでにお話しした方法に加えて、毎週せいさん聖餐を取る必要があります(教義と聖約59:9参照)。そうすることで、「いつも御子の御霊を受け[る]」という貴い約束にふさわしくなるのです(教義と聖約20:77)。もちろん、御霊こそわたしたちの証の源です。

### Ⅳ.

回復された福音の証を持つ人は、その証を分かち合う義務があります。モルモン書は、わたしたちは「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になる」べきであると教えています(モーサヤ18:9)。

証という賜物たまものとそれを分かち合う義務との関係について非常に印象的な教えが、教義と聖約第46章に書かれています。この啓示は様々な霊的な賜物について説明しながら、こう述べています。

「ある人には、イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖霊によって許される。

ほかの人には、続けて忠実であれば自

分もまた永遠の命が得られるように、彼らの言葉を信じる事が許される。」(13-14節。ヨハネ20:29も参照。)

知る賜物を持っている人は、証を述べるという当然の義務があります。それは彼らの言葉を信じる賜物を持つ人がそれにより永遠の命を得るためです。

わたしたちの信仰を、個人的にも公にも明言することがこれほど必要な時代はありませんでした(教義と聖約60:2参照)。無神論者もいますが、神に関する真理が増えることを喜ぶ人も多くいます。誠実に探求する人々に、永遠の父なる神の存在と、主なる救い主イエス・キリストの神聖な使命と、回復の真実性について断言する必要があります。イエスの証に雄々しくある必要があります。だれにも、友人や隣人、職場の同僚や知人に、自分の霊的な信念を宣べ伝える機会が多くあります。その機会を利用して、救い主への愛、主の神聖な使命に対する証、主に仕えるという決意を伝えるべきです。<sup>2</sup> わたしたちが証を述べるのを、子供たちにも頻繁に聞かせる必要があります。また子供たちをたくましく育てる際に、優秀な成績や、スポーツやその他の学校活動の評価だけでなく、強められていく証によって自分が何者であるかを確認するように教えるべきです。



## V.

今日、わたしたちをモルモンと呼び、わたしたちの信条を曲げて伝え、あざけている人たちがいます。このような虚偽に直面した場合、教会の教義と信条を明確に伝えるために、口を開く義務があります。教会の教義が誤って伝えられるのを許すのではなく、自らの信条を明言する者にならなくてはなりません。それには証が必要です。証は個人的に知り合いに述べることも、大小の会合で公に話すこともで

きます。自分が知っている真理について証をする際、「穏やかに、かつ柔和に」話すという警告に忠実に従うべきです(教義と聖約38:41)。決して威圧的になったり、甲高い声を出したり、ののしったりすべきではありません。使徒パウロが教えたように、わたしたちは愛にあって真理を語らなくてはなりません(エペソ4:15参照)。だれでもわたしたちの個人的な証に不賛成を表明できますが、論破することはできないのです。

## VI.

最後に、従順と知識の関係について述べたいと思います。証を持ち、教会の指導者の指示に従って行動している会員が、時々、盲目的に従う者として非難されることがあります。

もちろんわたしたちには指導者がいます。そして、もちろん教会の運営や神権の儀式の執行において、指導者の決定や指示に従います。しかし福音の真理を学び、知ること、すなわち個人の証を持つことに限って言えば、聖霊の力強い証を通して、わたしたち一人一人には永遠の父なる神とその御子イエス・キリストとの間に直接的な関係があります。そのことを批判者たちは、理解していないのです。指導者に従うという点で一致し、なおかつ自分で知るといえる点では独立しているということが、彼らを混乱させているのです。

恐らくこの混乱を解消するには、神に至る経路には二つあることを説明すればよいでしょう。教会員には預言者やほかの指導者を通して統治を受けるという経路があります。この経路は教義、儀式、戒めと関係があり、従順という結果をもたらします。教会員にはまた個人の証という経路があり、それは神に直接つながっています。これは神の存在、神とわたしたちとの関係、そして主の回復された福音の真実性に関係があり、知識という結果をもたらします。この二つの経路は互いに強め合っています。知識によりさらに従順になり(申命5:27;モーセ5:11参照)、従順により知識が増します(ヨハネ7:17;教義と聖約93:1参照)。

だれでも知識に従って行動します。科学であれ宗教であれ、目的に応じた知識に従って行動すれば、それはもはや盲目的従順ではありません。科学者は特定の実験の内容と条件に関する信頼できる証明書を受け入れ、それに基づいて研究します。宗教に関しては、信者の知識の源は霊的なものですが、原則は同じです。末日聖徒の場合、回復された福音と現代の預言者の召しが真実であるという証を聖霊から心に受けたのであれば、その教えに従うわたしたちの選択は、盲従では

ないのです。

証をする際は常に、<sup>ごうまん</sup>傲慢や高慢を避ける必要があります。モルモン書は、神から豊かに祝福された後に高慢になり、隣人を苦しめた人々を叱責しています。そのことをわたしたちは覚えておくべきです（モルモン書ヤコブ2:20参照）。ヤコブは、これは「すべての人を造られた御方にとって忌まわしいこと」である、なぜなら「神の目には、人は皆等しく貴い存在である」からと言っています（モルモン書ヤコブ2:21）。後にアルマは「あなたがたは、ある人をほかの人よりも優れていると思っはならない。すなわち、人は自分自身をほかの人よりも優れていると考えてはならない」と警告しました（モーサヤ23:7）。

最後にわたしの証を述べます。わたしは天の御父がおられ、御父の計画により人が地上に送られ、永遠の旅の条件と行く末が備えられたことを知っています。救い主、イエス・キリストがおられ、主の教えは御父の計画を明確にし、主の贖いは不死不滅と永遠の命の機会を確実にすることを知っています。御父と御子がこの末日に完全なる福音を回復するために、預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたことを知っています。永遠の命に向かって進歩するために必要な<sup>かぎ</sup>儀式を執行するよう神権者に認可する<sup>かぎ</sup>鍵を持つ、預言者トーマス・S・モンソン大管長により、今日わたしたちが導かれていることを知っています。イエス・キリストの<sup>みな</sup>御名により、アーメン。

注

1. *The Teaching of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編, ソルトレーク・シティ, Bookcraft, 1982年, 138参照
2. 例, ジーン・ニューマン「ラッパの響きとともに」『聖徒の道』1985年8月号, 21-23参照

# 父なる神と 御子イエス・キリストと 聖霊<sup>あかし</sup>に対する証を得る

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

**聖霊によってわたしに告げられてきた事柄は、皆さんの従順さと望みに応じて聖霊によって皆さんにも告げられ得るのです。**



**わ**たしは、皆さんと同様、聖会に参加できて感謝しています。助けとなる教義の一点に触れておきましょう。わたしたちは聖会の中で手を直角に挙げたとき、単に賛成の意を表明しただけでなく、律法と儀式と戒めと、神の預言者トーマス・S・モンソン大管長を支え、支持するという個人的な決意をし、聖約を交わしたのです。わたしは、皆さんとともに、わたしの右手を直角に挙げたことを心から感謝しています。

兄弟姉妹の皆さん、わたしはここ数か月、謙遜にさせられる経験をしました。これは、命という賜物を感謝の気持ちで見詰める機会となりました。この経験をして

いる間、わたしは常に自分の証について思い巡らしていました。永遠の父なる神とその長子であり救い主であり贖い主であるイエス・キリストに対する証について、また、御父と御子に対する証をどのようにして得たかについて考えていたのです。

世界中のあらゆる宗教、信条を持つ人々が答えを探し求め、模索している問いがあります。それは、「神とは何者なのか。」「神はイエス・キリストとどのような関係にあるのか。」「人間は神とイエス・キリストとどのような関係にあるのか」という問いです。

わたしは、天の御父とイエス・キリストが生きておられることを確かに知っています。贖いは現実のもので、父なる神とイエス・キリストは、明らかに異なる別個の御方で、不死不滅の御方です。この御二方はわたしたちを個人として御存じであり、わたしたちの心からの祈りを聞き、答えを与えてくださいます。救い主はアメリカ大陸に住む人々に次のように証されました。「わたしは父のことを証し、父はわたしのことを証され、聖霊は父とわたしのことを証する。」<sup>1</sup> 聖霊は、これらのことが真実であるとわたしに証してくださいました。

わたしは若いころ、預言者が書いた「信仰箇条」という13条の声明文について思い巡らしているときに初めて証を得ました。この声明文はジョセフ・スミスが書いたものです。初等協会において、わたし



ブラジルで、大会の次の部会を待つ初等協会の子供たち。

たちはこれを暗記します。信仰箇条には回復されたイエス・キリストの福音の基本的な信条が説明されています。これは、次の言葉で始まります。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」<sup>2</sup>

ジョセフ・スミスは、神会の御三方の特質を、自らの体験から知りました。ジョセフは14歳の少年のとき、数あるキリスト教の教会の中からどれに入るべきなのか知りたかったです。聖書を読むと、新約聖書のヤコブ書にこのように書いてありました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、……神に、願い求めるがよい。」<sup>3</sup> このとおりにジョセフはひざまずき、祈りました。そして、父なる神とその御子イエス・キリストの訪れを受けたのです。この御二方について、ジョセフはこう記述しています。「筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方が〔ジョセフの〕上の空中に立っておら

れるのを見た。すると、そのうちの御一方〔父なる神〕が〔ジョセフに〕語りかけ、〔ジョセフの〕名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」<sup>4</sup>

わたしは少年時代から、ジョセフ・スミスの経験を指針としていました。これは、すべての人にとって指針となります。この預言者は若いころに天の御父とその御子イエス・キリストに関する真理を知りました。それは、天の御父の御心みこころを知ろうと求めて聖文を読み、次に、聖文にある勧めに信仰をもって従ったからです。

この方法を救い主が示し、完全な形で実行されたことは聖書に記録されているとおりで。イエスが12歳の少年のとき、母親のマリアと地上での父親ヨセフは、イエスが神殿で教えを説いていらっしゃるのを見ました。イエスは父母にこう尋ねました。「わたしが自分の父の業に携わっているはずのことを、御存じなかったのです

か。」<sup>5</sup> しかし、イエスはヨセフの仕事についてお話しになったわけではありません。御自身の文字どおりの天におられる永遠の父の業のことを話されていたのです。

幾つかの場面で父なる神がその御子を紹介しておられますが、その方法は次のように特筆すべきものです。「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。……また天から声があつて言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』」<sup>6</sup> そして、へんぼう変貌の山で再び「雲の中から声がありました。『これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け。』」<sup>7</sup>

アメリカ大陸に御姿を現されたとき、イエスは御父によって同じように紹介されました。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」<sup>8</sup> そして、2,000年近くたってから、同じ言葉が若きジョセフ・スミスに語られたのです。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」<sup>9</sup>

天の御父は、御子を紹介するときには必ずイエスの御言葉みことばを「聞く」すなわち耳を傾けるよう命じておられます。これは注目すべきことです。

このイエスとはどのような御方なのでしょう。イエスは御父とともに世界の創造に携わり、御父の指示の下に、地の面にあるあらゆるものを造る責任を受けておられました。「無数の世界を、わたしは創造した。また、わたし自身に目的があつてこれらを創造した。子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。」<sup>10</sup> イエス・キリストは、肉による御父の独り子であり、御父とわたしたちの仲保者です。イエスは救い主であり、わたしたちのために命を捨て、御父の前でわたしたちのために弁護してくださいます。わたしたちが御子イエス・キリストの御名みなによって天の御父に祈るのは、このためです。御子イエスは、御父と同じ御方ではありませんが、御父に似た御方です。キリストもやはり、力と権能を持つ栄光に満ちた御方です。

イエスが御父にどのように話されたか



を考えると、非常に啓発され、胸を打たれます。イエスが御自身を神の子と認めておられたことは、偉大な執り成しの祈りを見れば疑いもなく明かです。この祈りは聖書のヨハネ書にあります。地上での使命を従順に果たしたことを天の御父に報告されたときのイエスの言葉に耳を傾けてください。

「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。……

なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼ら〔弟子たち〕に与え、……彼らは……あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。……

あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。……

わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。』<sup>11</sup>

救い主が教導の業を進められる過程で、弟子たちは確かに一つとなりましたが、肉体が一つとなったわけではありません。目的と愛において一致したという意味で一つとなったのです。この一致こそが、聖文で述べられている、父なる神とその御子イエス・キリストが一つであられることの真意なのです。御二方も別個の御方ではありますが、目的とわたしたちに対する愛、わたしたちのために行う御業において一致しておられるのです。

救い主は、また祈られました。

「父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、……わたしを輝かせて下さい。……

……あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。

……〔あなたは〕天地が造られる前からわたしを愛して〔下さいました。〕』<sup>12</sup>

イエスは、御自身が知っているのと同じようにわたしたちにも御父のことを知ってほしいと思っておられたのです。次のように祈られました。

「正しい父よ、この世はあなたを知って



いません。しかし、わたしはあなたを知り、また彼ら〔弟子たち〕も、あなたがわたしをおつかわしになったことを知っています。

そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります。』<sup>13</sup>

イエスは御自分に従うことを選ぶ者たちが守られるよう祈り求めたときに、彼らに対する大いなる愛を示されました。「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。』<sup>14</sup> 兄弟姉妹、イエスはわたしたちのために祈っておられたのです。

そして、救い主は再び、彼らが御自分と一緒にになれるよう優しい気持ちで願われました。

「父よ、あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。』<sup>15</sup>

贖いの犠牲への備えとして、イエスはゲツセマネの園で全人類の罪と悲しみと苦しみをその身に受けながら、御父に祈られました。この孤独なときに、イエスは再度、御自分の業を行っているのではないことを明らかにされました。このように祈っておられます。「父よ、もしできることでしたらどうか、この杯さかずきをわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさして下さい。』<sup>16</sup> イエスにとって、そして全人類にとって最も

重要なこの瞬間に、独り言を言ったり、御自身の力に頼ったりされることはありませんでした。全能の神である御父により頼んで、御自分を支え、御父の御心を行えるようにしてくださいと願われたのです。すると、御父が送られた天使が「天からあらわれてイエスを力づけました。』<sup>17</sup> 御父が御子と全人類に対して抱いておられる愛を、わたしは敬い、愛しています。

創世の前から十字架上で最期を遂げる瞬間まで、救い主は御父の業に携わっておられました。主は地上に送られた目的であった業を成し遂げられました。ですから、十字架上で『すべてが終った』と言われ』<sup>18</sup>、「声高く叫んで……『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます』〔と〕言っついに息を引き取られた』<sup>19</sup> とき、だれに向かって語っておられたのかは明らかです。主は天の御父に向かって祈っておられたのです。

救い主が生きておられることを証します。主は御父の独り子であり、この地球を統治するために再び来られます。主はイエス・キリストであり、イスラエルの聖者です。そして、「恵みと憐れみと真理に満ちておられ……世の罪、まことにその御名を確固として信じるすべての人の罪を取り除くために来られるのは、この御方』<sup>20</sup> です。救い主は文字どおり神の御子であり、3日目に死者の中からよみがえって地上に来るすべての人が現実に復活できるようにされました。わたしはまた、永遠の父なる神が生きておられ、子供であるわたしたち

一人一人を愛しておられることを証します。御父の愛はあまりにも大なるものであるため、独り子をこの世に遣わされました。それは、「御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るため」<sup>21</sup> でした。

主イエス・キリストの使徒として、聖文に書かれている事柄と、聖霊によってわたしに告げられてきた事柄、そして聖霊によって皆さんにも告げられ得る事柄が、真実であることを証します。それは、皆さんの従順さと望みに応じて明らかにされるでしょう。救い主は地上での務めを果たしていたとき、わたしたちすべてに当てはまるこの偉大な真理を教えてくださいました。「与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。」<sup>22</sup> これまで話してきたことを証します。わたしが話してきたことが真実であることを、わたしは確かに知っています。わたしと同じ確かな知識を皆さんにも求めてもらえるようイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 3ニーファイ11：32
2. 信仰箇条1：1
3. ヤコブの手紙1：5
4. ジョセフ・スミスー歴史1：17
5. 欽定訳ルカ2：49から和訳
6. マタイ3：16-17
7. ルカ9：35
8. 3ニーファイ11：7
9. ジョセフ・スミスー歴史1：17
10. モーセ1：33
11. ヨハネ17：4, 8, 18, 22
12. ヨハネ17：5, 23-24
13. ヨハネ17：25-26
14. ヨハネ17：15
15. ヨハネ17：24
16. マタイ26：39
17. ルカ22：43
18. ヨハネ19：30
19. ルカ23：46
20. アルマ5：48
21. ヨハネ3：16
22. 3ニーファイ18：20

# 心を開く

七十一人

ジェラルド・N・ランド長老

**御霊に心を開くよう努めることを毎日の習慣にしましょう。**



**今** 日わたしは、聖なる御霊に心を開くことの大切さについて話します。

バプテスマを受けた後、わたしたちは教会員に確認され、聖霊を受けます。これは天からの賜物です。聖霊はわたしたちに慰めや教え、警告や啓発、靈感を与えてくださいます。ニーファイはごく簡潔にこう述べています。「あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」<sup>1</sup> 使徒パウロはわたしたちが今生きているこの時代を「苦難の時代」<sup>2</sup> と呼びましたが、現代を無事に生き抜こうとするならば、聖霊の助けが必要です。

聖霊は霊の御方なので、わたしたちの心の中にとどまり、わたしたちの霊に直接働きかけることができになります。<sup>3</sup> 御霊の声は静かな細い声、そしてささやく声と

言われています。<sup>4</sup> 静かな声とはどのような声なのでしょう。ささやく声と形容されるのはなぜでしょうか。それは、御霊はほとんどいつもわたしたちの耳ではなく、思いや心に語りかけられるからです。<sup>5</sup> ボイド・K・パッカー会長はこのように述べています。「聖霊の声は聞くというより感じるものです。」<sup>6</sup>

わたしたちは物事を心で感じます。聖文の中で預言者たちも個人の啓示は心と密接に関係していると教えています。例えば、次のような教えです。

モルモンはこう教えています。「柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。」<sup>7</sup>

アルマはこう述べています。「心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか受けないが、心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられ」る。<sup>8</sup>

モルモンはニーファイ人についてこう記しています。「彼らは……喜びと慰めで満たされ[た。]……彼らが心を神に従わせたため……である。」<sup>9</sup>

また、詩篇の作者は簡潔にこう記しています。「主は心の砕けた者に近く[おられる。]……」<sup>10</sup>

兄弟姉妹の皆さん、これこそわたしたち皆が求めるものではないでしょうか。聖霊の訪れを受け、主を身近に感じ、生活に喜びと慰めを見いだすことです。もしそうなら、自分の心の状態を見極めることは、この人生で行える最も重要な事柄の一つです。

心は敏感なものです。よくもあしくも、いろいろな影響を受けやすいものです。人



に傷つけられ、罪によって鈍くなり、愛によって柔和になります。若いときは自分の心を守るようになります。心の周りに塀と門を築きます。その門からはだれも許可なく入ることはできません。

ある人は、心の周りに低い柵のような塀だけを作り、門には「歓迎」の看板がかけてあります。しかし、ある人は罪によって深く傷つき、くじけて、鉄条網を張り巡らした8フィート(約2.5メートル)もあろうかという高い塀で心を囲んでいます。門扉には南京錠をかけ、「立入禁止」の大きな看板を掲げています。

心に入る門という考え方を個人の啓示を受けることに当てはめてみましょう。ニーファイはこのように教えています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える……。」<sup>11</sup> デビッド・A・ベドナー長老は、「心に」という言葉の使い方に注目しています。「注目すべきは、御霊の力は教えを心に伝えるのですが、それが常に心に入るとは限らないということです。……結局は[聞く人]の側で心に取り込もうとしなければ、教えの内容も、聖霊による証も彼らの心にしみ込みません。」<sup>12</sup>

なぜ「心に」なのでしょう。個人の選択の自由は非常に神聖なものであるため、天の御父は無限の力を持っておられるにもかかわらず、人の心に強制することは決してなさらないのです。人はそうしようとするがありますが、神はなさいません。言い換えると、神はわたしたちが自分の心の守り手、あるいは門番になることを許しておられるのです。わたしたちは自分自身の自由意思により、御霊に心を開かなくてはなりません。なぜなら、聖霊はわたしたちに強制はなさらないからです。

では、どうすれば心を開くことができるのでしょうか。

山上の垂訓の中で、救い主はこのように言われました。「心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう。」<sup>13</sup> 清いものは、そこに本来属さないものによって汚されることはありません。心が清いことは確かに、神から靈感を受けるための最も重要な資格の一つです。完全な心を持っている人はだれもいませんが、汚れを捨て、本来あるべきではないものを取り除くよう一生懸命に努めれば努めるほど、聖霊に心を開くことができます。預言者ヤコブの次のすばらしい約束に注目し

てください。「心の清いすべての人よ、頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。」<sup>14</sup>

預言者ジョセフ・スミスはリバティーの監獄で、ある人々の心の状態を表す啓示を受けました。「まことに、召される者は多いが、選ばれる者は少ない。では、なぜ彼らは選ばれないのであろうか。それは、彼らがあまりにもこの世のものに執着し、人の誉れを得ることを望んでいるため……である。」<sup>15</sup>

現在、世の多くの人々は豊かで平穏な環境で暮らしています。モルモン書には、繁栄がしばしば人を主から遠ざけることが書かれています。モルモンはこう警告しています。「主が御自分の民を栄えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々……を与え[られる]そのときに、彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ……るといことが、わたしたちに分かるのである。」<sup>16</sup>

この世のものに執着すると、自然に次のような3つの結果が生じることを主は警告しておられます。第1は、罪を悔い改めずに、罪を隠すようになります。次に、神に



オーストラリア、シドニーの姉妹宣教師たちが、大会の放送会場に到着する人々を歓迎する。

かかわる事柄を求めず、自分のプライドやむなしい野心を満たそうとします。最後に、人を不正に支配するようになります。<sup>17</sup>

高慢とは、この世のものに執着すると自然に生じる結果です。高慢になるとすぐに、霊的な導きに対して心が鈍くなります。例えば主はこのように言っておられます。「主なるわたしは、わたしの僕シドニー・リグドンを喜ばない。彼は心の中で高ぶり、勧告を受け入れず、御霊を悲しませた。」<sup>18</sup>これを 次の約束と比較してください。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」<sup>19</sup>

リバティーの監獄で受けた啓示の中で、主はこの世のものに心を向けることの結果を説明しておられます。「まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、……まことに、その人は気がつかないうちに、一人放置され[る]。」<sup>20</sup> 兄弟姉妹の皆さん、この「苦難の時代」にあって、わたしたちは御霊を悲しませ、一人放置されるような余裕はないのです。

繰り返しますが、わたしたちの心の状態

は霊的な事柄への感受性に直接影響を及ぼします。御霊に心を開くよう努めることを毎日の習慣にしましょう。自分の心の守り手であるわたしたちは、そうするよう選ぶことができます。何を受け入れ、何を捨て去るかを選択するのです。ありがたいことに主はわたしたちが賢明な選択をするのを助けたいと切に望んでおられます。

最後に、主のみもとへ行こうとする人々に主が約束された二つのことを、わたしの証を込めてお伝えします。「したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また……わたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。」<sup>21</sup>

また、使徒パウロは靈感あふれる言葉を宣言しています。「わたしを強くして下さいかたによって、何事でもすることができ。」<sup>22</sup>

心を強め、主の愛で満たして下さるよう、キリストに願ひ求めましょう。わたしたち皆がそうできるように、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. 2ニーファイ32：5
2. 2テモテ3：1
3. 教義と聖約8：2参照
4. 教義と聖約85：6参照
5. 教義と聖約8：2参照
6. 「個人の啓示——賜、試し、約束」『聖徒の道』1995年1月号、65
7. モロナイ8：26
8. アルマ12：10
9. ヒラマン3：35
10. 詩篇34：18
11. 2ニーファイ33：1。強調付加
12. 「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007年9月号、17
13. マタイ5：8
14. モルモン書ヤコブ3：2
15. 教義と聖約121：34-35
16. ヒラマン12：2
17. 教義と聖約121：36-37参照
18. 教義と聖約63：55
19. 教義と聖約112：10
20. 教義と聖約121：37-38
21. モロナイ7：48
22. ピリピ4：13

# 奉仕——神の特質

七十人

カーロス・H・アマードー長老

奉仕をする人は、<sup>はらから</sup>同胞を気高い者とし、築き、高めようと努力します。



**キ**リストがわたしたちの救いのためにしてくださったことは、どれも比類ないものです。主は、人々を教え導いたおよそ3年の間に、<sup>あがな</sup>贖いの業を成し遂げることがおできになりました。今日は、地上における救い主の生涯の3つの目的について特に話します。

## 1. 主の贖いの犠牲

第1の、そして最大の目的は、御父から受けた唯一無二の驚くべき責任、すなわち、全人類のための無限にして永遠の犠牲の業を実行することでした。

主は、天の御父の肉における独り子として、御父のすべての神の特質と、地における母マリヤから、人間としての性質を受け継がれました。

わたしたちは主の犠牲を通してのみ、死すべき堕落した状態から救われ得ます(アルマ34:8-14参照)。主は、御自分の

命をささげるといふ明確な目的をもってこの世に来られました。主の命によってのみ、永遠の命が得られるからです。

地球の過去、現在、未来に存在した、あるいは存在する人で、わたしたちの罪の贖いを成し遂げられる人はだれもいません。主は救い主であり、贖い主であります(ヨハネ3:16参照)。

主は偉大な力と栄光をもって、わたしたちの中で統治し、支配するために再び来られます。

## 2. 主の教義

主がわたしたちとともに住まれた第2の目的は、御父から学んだ教義をお教へになることであり、それには救いと昇栄の儀式と聖約が含まれていました(マルコ1:27, ヨハネ7:16参照)。

主の教義は愛と救<sup>あわ</sup>しと憐れみの教義です。それは人々の中で平安と一致をもって暮らすための道であり、神とともに住むためにみもとに戻る道です。

## 3. 神の子供たちへの奉仕

主の3番目の目的は、人々に仕えることにより王国を建設することです。これは異なった形の指導方法でした。奉仕は主に従う者たちの性質です。神の特質です。

「あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。

しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、<sup>たがひ</sup>互に足を洗い合うべきである。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」(ヨハネ13:13-15)

主はその生涯において、王国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気を癒されました(マタイ4:23-24参照)。わたしたちはバプテスマを受けたときに、主の教義を教え、同胞に仕えるという二つの責任を受けました。この二つの責任を果たすことで、わたしたちは主に真に仕える者に変えられるのです。

あるとき、主は教義を教えてから人々に哀れに思い、パンと魚を増やして群衆に食べさせるという奇跡を行われました。このことにより、主は哀れみと奉仕の性質をお持ちであることが分かります。食べ物ももらえたことで、翌日にはさらに群衆の数が増えました。そこで主はきっぱりと、永遠を見据えて教えを説かれました。

「あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。

朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。」(ヨハネ6:26-27)

わたしたち教会員は、飢えている人々が食べられるようにし、病気の人を助け、裸でいる人に着る物を提供し、困窮者に避難所を用意するべきです。また、断食献金を通して教会員の基本的で急を要する必要を満たせるようにし、福祉計画を通して長期にわたる必要を満たせるよう助けます。自然災害時には、人道支援部門を通して教会員ではない兄弟姉妹たちを援助しています。

末日聖徒イエス・キリスト教会は主の戒めにより、物質的な必要をおろそかにすることなく、最も崇高で気高い奉仕の働きを続けています。それはすべての人が祝福を受けて「不死不滅と永遠の命」が得られるように(モーセ1:39)、人々にキリストの教義を教え、救いの儀式を受けるように勧めることです。

## 考えと態度を改める

わたしは、神がわたしたちを愛してお



られることを知っています。神はわたしたちがたとえ間違っても、自らの道徳的な選択の自由を行使させてくださいます。自分で決めることを許して下さるのです。

信頼をしなければ、キリストはわたしたちを助けることはおできになりません。主に仕えなければ、教えを授けることはおできになりません。主は正しいことを強要することはなさませんが、主に仕える決心をしたときにのみ道を示してくださいます。そして主の王国で仕える者には、考えと態度を改めることを必ず求められます。

「仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。」  
(モーサヤ5:13)

### 奉仕の祝福

わたしは同胞への奉仕を通して、主を知るようになることを証<sup>あかし</sup>します。奉仕することで信仰が強められ、主の王国で役立つ者となります。奉仕は人生に目的をもたらし、勇気を与えます。わたしたちを神に近づけ、神から授かった特性を精練します。同胞を愛して理解するように教え、わたしたちが個人的な望みを忘れ、利己心、高慢、感謝しない心を取り去る助けとなります。また、周りの人の必要について考えるよう教え、それにより救い主が持つておられる徳を培うことができます。

奉仕をすると、思いやり、愛、忍耐、理解、一致の心が増し、不寛容、嫉妬、ねたみ、欲、利己心は少なくなるか、消え去ります。自己をささげればささげるほど、仕

え、理解し、愛する能力が高まるのです。

奉仕をする人は、神を喜ばせ、神と調和した生活をするを常に求めるようになります。平安に満たされ、表情も明るく、思いやりの精神を持つようになります。

奉仕をする人は、同胞を気高い者とし、築き、高めようと努力します。そのため、他人の良い点を見つけ、人から傷つけられることもなければ、傷ついている時間ありません。奉仕をする人は、批判する人たちのために祈るという徳を高めます。人から認めてもらふことも、報酬を得ることも期待しません。キリストの愛を備えているのです。

奉仕をする人は、自分が持っているもの、知っていることを、いつでも、どこでも、そしてすべての人に進んで分かち合おう

とします。

逆境の中にあっても奉仕をする人は、より良い未来に対する望みを持ち続けます。キリストに望みを抱いているために、危機に際しても常に確固としていられるのです。

奉仕をする人は、謙遜<sup>けんそん</sup>に責任を引き受けます。自らの限界を認めながらも、二人の人が実行すると行ったことは、二人のうちの御一方が神であられるかぎり、どんなことでも成し遂げられると確信しています。

ベニヤミン王は神の靈感を受けて宣言しました。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」(モーサヤ2:17) 奉仕をする人は、神の特性と属性をさらに深く理解するようになります。

献身的に奉仕する人は、たとえ思ったような結果が出なくとも、すぐ失望したり、疲れたり、挫折したりはしません。心に平安が宿り、聖霊がともにいてくださるという約束は、決してないがしろにされないからです。

### 世界中で、そして地元で奉仕する

教会では、何万人もの会員が、実に多様な言語を使い、170以上の国で無私<sup>むし</sup>の奉仕をしています。彼らは指導者や教師として、また人々に関心を寄せることで利己心を捨てて奉仕しています。賃金や物質的な報酬は受けず、称賛されることも、この世の評価を受けることもありません。彼らは自分の時間と才能と持ち物をささげています。持っているものすべてを犠牲にし、効率的に、驚くほど素晴らしい奉仕を行っています。一定の期間が終わると彼らは解任され、ほかの人たちに奉仕の機会を譲ります。

主の教義と主の奉仕の業により、この回復されたイエス・キリストの教会は会員の生活を祝福し続けています。過去と現在、そして未来にわたって、奉仕することの喜びを感じてきた忠実な聖徒の皆さんを神に感謝しています。神が皆さんをいつも祝福されるようお祈りします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 3人の管理大祭司

七十人

ウィリアム・R・ワーカー長老

**大管長会を自分たちが従うべき理想の指導者、規範とすべき指導者として仰ぎ見るとき、知恵と力をもたらされます。**



トーマス・S・モンソン大管長、ヘンリー・B・アイリング管長、そしてディーター・F・ワークトドルフ管長を主の教会の新しい大管長会として支持することは、何とすばらしい祝福であり、特権でしょうか。

わたしが大管長会の大切さについて初めて知ったのは、西カナダで暮らした子供のころでした。父方の祖母母宅を訪ねる度に玄関先で迎えてくれたのは、額縁に入った大管長会の写真でした。よく覚えています。まるで番人として立ち、その家に足を踏み入れるすべての人を出迎えているかのようなようでした。

それは、ジョージ・アルバート・スミス大管長とその顧問であるJ・ルーベン・クラーク・ジュニア、そしてデビッド・O・マッケイを写したきれいなカラー写真でした。3人が大きな地球儀のそばに立っていました。わたしはその写真が大好きでした。この

上なくりりしく、威厳に満ちた人たちでした。わたしは、彼らが神の預言者とその顧問であることを知っていました。

祖母母宅の表玄関に掲げてあったその写真から、強い影響を受けました。わたしはレイモンドの小さな田舎町に住んでいて、祖母母もそこに住んでいました。祖母母の家は我が家から歩いて行ける所にあつたので、何度となく訪れました。よく独り静かに玄関先に立ったまま、大管長会の写真を敬虔な思いで見詰めていたことを覚えています。大管長会を尊ぶこと、家の目立つ場所に写真を飾ることを祖母母がなぜそれほど大切に思っているのか、写真を眺めながら考えたことがあります。家に入る人は皆、その写真を目にするのです。恐らく一番の理由は、祖父と祖母の心と人生にとって何がいちばん大切なのかを、子供や孫に絶えず思い起こさせることだったのでないでしょうか。

何年もたつて、わたしは大管長会の写真を飾ることは、ヨシヤが美しい言葉で語ったことに似ていると思うようになりました。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシヤ24:15)

家に入る人は皆、ジェームズ・ワーカーとフェイン・ワーカーの心に次の言葉が記されていることを知りました。「わたしたちとわたしたちの家とはともに主に仕えます。」孫としてわたしはそのことを知り、これまでただの一度も忘れたことがありません。

子供のころ、大管長が一人だけいるの



ではなく、大管長会として3人がいることの重要性について、わたしはそれほど理解していませんでした。もちろん、イエスがペテロだけでなく、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを選ばれたことは知っていました。父がビショップリックの3人のうちの一人であり、J・O・ヒッケンビショップの顧問として働いていることも知っていました。また、祖父はステーク会長であり、二人の顧問（ジョン・アレン会長とレスリー・パーマー会長）がいて彼を支えていることも知っていました。

どのような場合でも、一人だけの指導者しかない会長会ではなく、3人から成る会長会が教会の組織を導いていました。初等協会では信仰箇条を学び、それらが大好きになりました。信仰箇条は、青少年が教会の基本的な教義を学ぶにつれて、彼らに慰めと自信を与えます。やがてわたしは、「福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による<sup>あんしゅ</sup>按手によって、神から召されなければならない」ことを知りました（信仰箇条1:5）。

1835年、主は預言者ジョセフ・スミスに教会の大管長会に関する正しい秩序を啓示されました。

「会長、すなわち管理役員が必要〔で〕ある。……」

メルキゼデク神権を持つ者の中から、この団体によって選ばれ、その職に指名され、聖任され、また教会員の信頼と信仰と祈りによって支持された三人の管理大祭司が、教会の大管長会の定員会を構成する。」（教義と聖約107:21-22）

「三人の長から成る定員会」（教義と聖約107:29）、すなわち、一人の長と二人の代理人ではなく3人の管理大祭司、3人の長から成る定員会、それが主の教会の大管長会なのです。

世の中の組織とは違いますが、主はこのような形で御自身の教会を組織されたのです。

次の聖文が心に浮かびます。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。

天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」（イザヤ55:8-9）

7歳の誕生日のころ、わたしは大管長会の継承について少し学ぶことができました。ジョージ・アルバート・スミス大管長が亡くなったときのことで、しばらくして、祖父母宅の玄関にあった写真は、デビッド・O・マッケイ大管長とその二人の顧問、ステイブ・L・リチャーズとJ・ルーベ

ン・クラーク・ジュニアの写真に替わったのです。

子供だったわたしは大管長会の継承が持つ深い意味とその過程についてももちろん理解していませんでした。しかし、大管長が亡くなり、新しい神の預言者と二人の顧問に導かれることになったことは分かりました。

13歳のとき、マレー・ホルトビショップからビショップ室に呼ばれ、執事定員会会長として働く召しを受けました。ビショップから、家に帰ってだれが顧問になるべきか祈る必要があると言われました。答えを出すのを主が助けてくださると言われました。確かに主は助けてくださいました。そのときにわたしは顧問について学びました。そして、主はなぜ教会を導くのに会長だけではなく、会長会を用いられるのか分かり始めました。わたしは執事定員会の顧問の兄弟たちが大好きでした。3人で定員会の仲間を助けようと熱心に祈り、働きました。ホルトビショップはわたしに会長会の規範を教えてくださいました。また、主の教会にあって会長会がどのように働き、機能すべきかを教えてくださいました。

後にほかの定員会の会長として働くときには、顧問が大切であること、顧問を選ぶときに主が助けてくださることをすでによく知っていました。ホルトビショップから教わっていたからです。

執事定員会会長として、また後にビショップヤステーク会長として働いたときに分かったことがあります。必要な決断は顧問とともに下してこそ、自分のどのような知恵も理解力も、あるいは能力もはるかに増すということです。会長会としてともに働くときに個々の力が最大限に発揮されるということを学んだのです。

そして、なぜ主は、御自身の教会が3人の管理大祭司によって導かれるようにされたのか、また、なぜそのような指導形態をほとんど教会全体に一貫して定められたのか理解できるようになりました。

主はこう語っておられます。「さらにまた、あなたがたが欺かれないために、わたしはすべてのことに関して規範を与えよう。」（教義と聖約52:14）主は指導の規



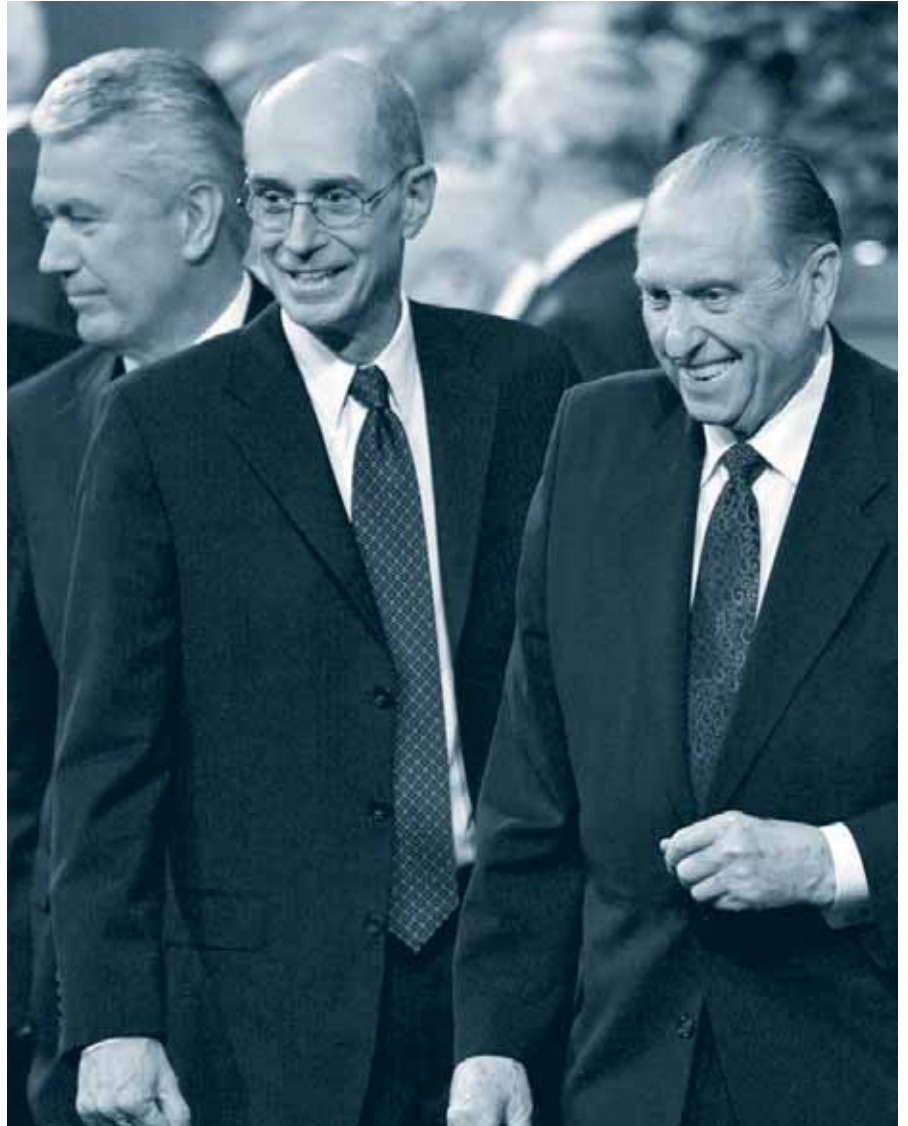
範を与えてくださっています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう教えています。「七十人〔と十二使徒〕を除けば、教会のすべての組織は、3人から成る会長会によって導かれます(*Teachings of Gordon B. Hinckley* [1997年], 94)。さらに補助組織もすべてのレベルで一人の会長と二人の顧問によって導かれます。会長会として働くことによりもたらされるすべての祝福と恵みは、神権定員会と同様に補助組織にも当てはまります。

教会のどの会長会であれ、そこで奉仕する人は皆、管理の職を遂行するに当たって、大管長会を規範、模範とする必要があります。大管長会のようになり、大管長会と同じように愛と調和の中ですべてに働くよう努力する必要があります。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、顧問の大切さについて幾度となく話しました。こう述べています。「主はある目的のために彼ら〔顧問〕を召されます。』(*Teachings of Gordon B. Hinckley*, 94)

さらにヒンクレー大管長は次のように教えています。「大管長会は月曜日を除く毎朝、不在でさえなければ、集会を開きます。ファウスト管長に彼の扱っている問題を提示してもらい、話し合い、決定を下します。次にモンソン管長に彼の扱っている問題を提示してもらい、話し合い、決定を下します。それからわたしの方で提示したい項目を提示し、話し合い、決定を下します。わたしたちはともに働きます。……会長会は個人運営の事業などではありません。顧問がいるということはほんとうにすばらしいことです。間違いを犯すことがないように、また、正しいことが行えるように助けてくれるからです。』(*Teachings of Gordon B. Hinckley*, 95。「助言者が多ければ安全である」『聖徒の道』1991年1月号, 54-57も参照)

ジョセフ・F・スミス大管長の顧問が、大管長会はどのように審議するかについてこのように説明したことがあります。「判断を求めて、〔大管長〕の前に問題が提示されると、大管長と二人の顧問は、その問題についてよく話し合い、全員が同じ結論に達するまで慎重に審議します。』(アン



ソン・H・ランド, *Conference Report*, 1919年6月, 19. 強調付加)

これこそ、会長会の従うべき規範です。わたしたちは啓示の中で、定員会や会長会で何かを決議する際には、「完全な義により、聖さとへりくだった心、柔和と寛容により、また信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、および慈愛により」決めるように、と教えられています(教義と聖約 107:30)。

主はわたしたちに規範を与えてくださっています。

わたしたちは今日、新しい大管長会を支持しました。大管長会は従うべき規範を教え、示してくれます。大管長会を自分たちが従うべき理想の指導者、規範とすべき指導者として仰ぎ見るとき、知恵と力もたらされます。

子供や孫に教会の指導者を愛し、支持するように教えるとき、家族は大きな祝福を受けます。祖父母の家である写真の前に立った幼い子供のころに、わたしはこの教会が神の人たちによって導かれ、ほ3かならぬ主がその人たちを導き手として召されたことを知りました。

そして今でもわたしはそのことを知っています。この業は主イエス・キリストの業であり、主の使徒と預言者によって導かれていますと証します。前任使徒であるトーマス・S・モンソン大管長が神から召され、気高い特質を備えた二人の顧問とともに、主の御心に従って導いてくれることを証します。この教会はまさしく主の教会なのです。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

# 虐待の傷を癒す

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット長老

癒しの力は、イエス・キリストの贖いと結びついています。



わたしは、新しい預言者、聖見者、啓示者であるトーマス・S・モンソン大管長を心から愛しています。モンソン大管長に全幅の信頼を寄せ、大管長から依頼されることであればどのようなことでも喜んで行いたいと思っています。このことを、わたしは厳粛に証します。

人が抱える問題の中には、非常に繊細であり、きわめて個人的であって、また人々を戸惑わせることがあるため、人前ではあまり話されないものがあります。しかし、真理の光のもとで愛と思いやりを込めて話し合うのであれば、それは理解を深め、苦痛を和らげ、癒しをもたらす、さらに悲劇の再発を防ぐことにつながります。

精神的虐待、言葉による虐待、肉体的虐待、そして特に性的虐待によって苦しんでいる方々に、慰めを見いだす方法を明確に示すことができたなら、と心から願っています。虐待を加えてしまった人に向け

ても話します。性的虐待に焦点を絞りますが、ほかの虐待行為で苦しんでいる人にも役立つはずですが、わたしは自分が鏡のようになって、神の癒しの光を照らし、他人の不義な行為によって受けている苦しみという暗雲をかき消せればと願っています。傷ついた生活をいっそうかき乱すのではなく、力となれるように分かりやすく話すつもりです。虐待にかかわりのない人にとっても、理解や認識を深め、気配りを促し、虐待の悲劇を解決するために、あるいはさらに犠牲者を出さないようにするために役立つはずですが。

この不埒で忌まわしい罪悪の高波は皆さんの生活まで押し寄せていないかもしれませんが、しかしこの罪悪は世界中に蔓延しており、皆さんの愛する人を巻き込んでいるかもしれません。克服できるとはいえ、しばしば大きな苦しみを与えます。どうしたら癒しを得られるかについて話したいと思うのです。わたしの目指しているのは痛ましい記憶を呼び覚ましてさらに苦しめるのではなく、助けることで、敬虔の念をもって話します。

## 選択の自由

道徳的な選択の自由は、天の御父の幸福の計画において不可欠の要素です。霊の子供たちの中にはその自由を不正に用いて、他人に重大な問題を引き起こす者が出ることを天の御父は御存じでした。父親や家族が罪のない子供を虐待するなどという、神の信頼を裏切る者さえ現れることも分かっておられました。天の御父は完全な正義の御方であるため、選択の自

由を悪用することで被害者と本人双方が被る痛ましい結果を克服する方法が用意されているはずですが、御父の愛される御子イエス・キリストの贖いの力によって不義が正されると、確かな癒しがもたらされるのです。イエス・キリストと主の贖いの力を信じる信仰は、虐待された人に、他人の不正な行為による忌まわしい結果から立ち直る方法を与えてくれます。さらに、間違ったことをした本人が完全に悔い改めるならば、贖いは主が定めておられる厳しい罰から逃れる道を開いてくれます。

## 虐待の犠牲となった人へ

ひどい虐待を受けたにもかかわらず、つらい旅路を歩み通して、贖いの力により完全に癒された人々をわたしは知っています。かつて父親から激しい虐待を受けていた一人の若い女性は、贖いの持つ癒しの力を信じる信仰によって、自身の問題を解決しました。その後彼女は、年配の夫婦を伴って、もう一度面接してほしいと言ってきました。彼女が二人を心から愛していることが分かりました。幸福に満ちた様子でした。そして、こう話し始めました。「スコット長老、こちらはわたしの父です。父を愛しています。わたしが幼かったころに起きたことについて、父は心を痛めているのです。わたしにとってはもう終わったことなのですが、父を助けてくださいませんか。」救い主の癒しの力に対して、何と絶大な確信を抱いていることでしょうか。主の贖いを正しく理解し、十分な信仰を持ち、主の律法に従順だったため、彼女は虐待の傷を引きずっていませんでした。皆さんも贖いについてよく研究し、イエス・キリストが自分を癒す力をお持ちであることについて信仰を働かせるときに、同様のすばらしい慰めを得ることができます。主は皆さんの重荷をともに負ってください。回復への道を歩む間、癒されるための十分な時間を取り、力をつけるまで、そのような主の招きを受け入れてください。

虐待の結果から立ち直り、慰めを見いだすには、慰めの源を理解することが有益です。虐待のあらゆる悲惨な結末を造り



出しているのはサタンです。難問を解決する糸口の見つからない袋小路へと人々を追い込む力にことのほかたけています。哀れみに満ちた天の御父と愛にあふれる贖い主が差し出してくださる癒しから、苦しむ人々を遠ざけようと画策しています。

もしあなたが虐待を受けているとしたら、サタンは逃れる道はないとあきらめさせようとするでしょう。しかし、サタンは逃れる道があることを確かに知っています。子らに対する御父の揺るぎない愛から癒しを受けられることを知っています。癒しの力がイエス・キリストの贖いと結びついていることも理解しています。だからこそ、あなたをどうにかして御父と御子から引き離そうとするのです。助かる方法がないと信じ込ませるサタンの策略に乗せられてはなりません。

サタンは虐待を利用してあなたの自尊心を傷つけ、権威を失わせ、恐れと絶望感を抱かせます。虐待は、健全な人間関係を築くあなたの能力を損ないます。こう

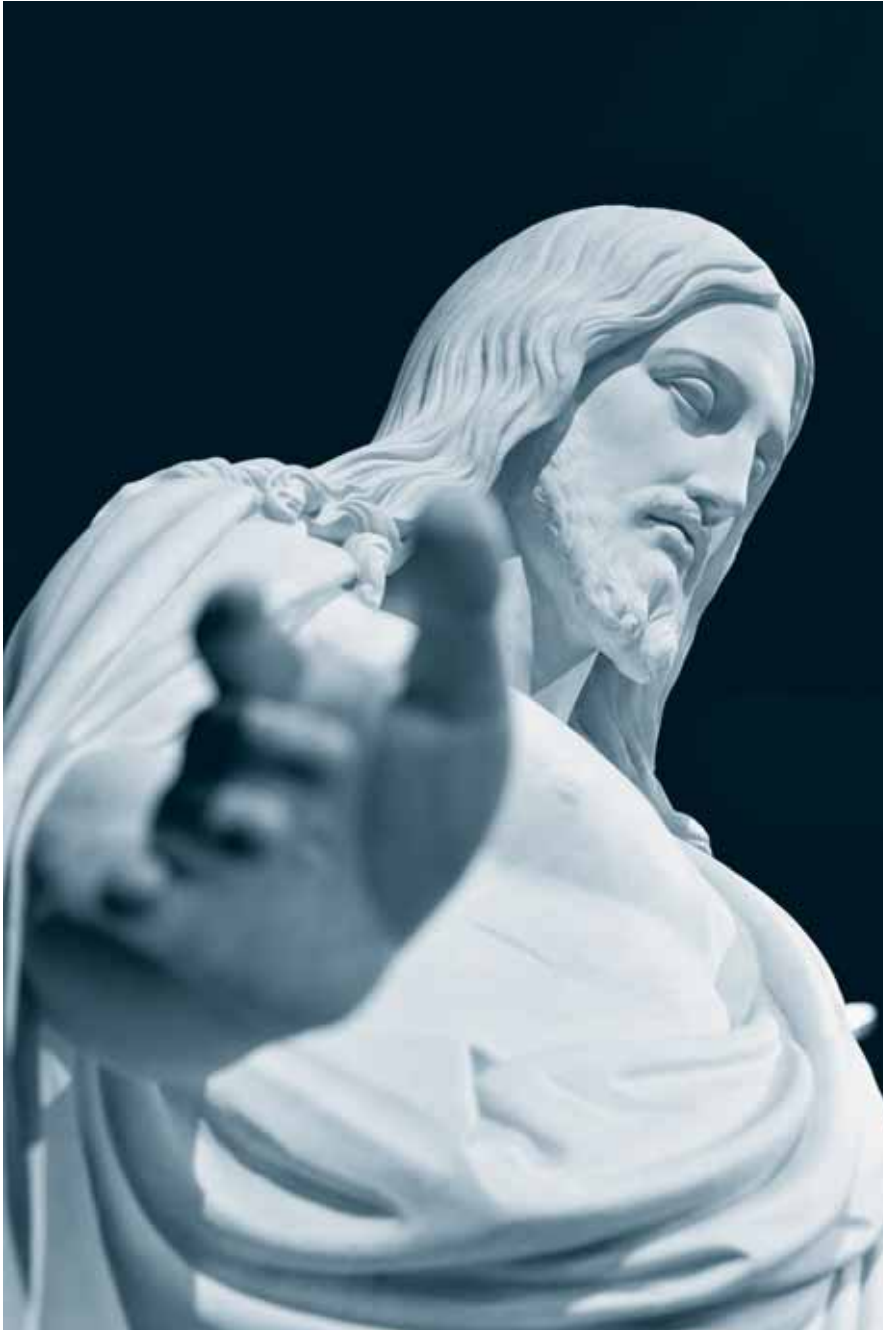
した悪い結果がすべて解決できるという信仰を持たなければなりません。さもないと、なかなか完全には立ち直れないでしょう。虐待の結果はあなたの生活に大きな影響を及ぼしますが、だからといってそれがあなたのすべてではないのです。

もし天の御父があなたを愛しておられるならば、悲劇から守ってくださったはずだとささやいて、サタンはあなたを御父から引き離しにかかるでしょう。邪悪の王子であるサタンの悪巧みや邪悪な偽りに負けて、まことの癒しを与えてくださる御方から離れてはなりません。天の御父から愛されていないと感じたら、それはサタンに欺かれているのです。祈ることが非常に難しく感じられるときでも、御父に頼り、御父の愛を感じられるようひざまずいて祈り求めてください。御子とその憐れみ深い贖いを通して癒してくださることが分かるようお願いしてください。

御父の子供たちを強制的に従わせ、道徳的な選択の自由を奪うこと、つまり個人

の進歩を否定する方法を、サタンは提案しました。これに対して主は、善悪を判断する自由を人に認め、その自由を間違っ使用することさえも制限しておられません。けれども、完全に悔い改めなければ、そうした行為は罰せられます。虐待する者に主は聖霊を通して警告をお与えになりますが、彼らは卑しい欲望が非常に強いいため霊的な導きを拒んでしまうことがままあります。そのために御父は、腕力、権威の悪用、威嚇などによる虐待で選択の自由が一時的に奪われた人々をその結果から癒す手段を用意されたのです。

癒しを受けるにはまず、天の御父はあなたを愛し、癒し的手段を与えておられるという不変の事実に対して幼子おきなごのような信仰を持つことが必要です。御父の愛子あいしイエス・キリストはその癒しをもたらすために命をささげられました。しかし、魔法のような解決法や即効薬があるわけではなく、完治する近道があるわけでもありません。治療するにはイエス・キリストと、人を癒す



その無限の力に対する強い信仰が求められます。そのような信仰は教義を理解し、教えに従う固い決意に根ざしています。

思慮深いビショップ、ステーク会長あるいは専門のコウンセラーとともに癒しの最初の段階を歩むべき場合もあります。もし足を骨折したとしたら、自分で治そうとはしないでしょ。深刻な虐待も専門家の助けを借りることができます。癒しのきっかけは様々ですが、完全な治癒は、救い主、贖い主である主イエス・キリストを通してもたらされることを忘れてはなりません。あな

た自身の努力とともに、主の完全で、永遠の、そして無限の贖いが虐待の傷を癒してくれることに信仰を寄せてください。

不可能だと今は思うかもしれませんが、やがて救い主の癒しによって、あなたを虐待した相手を心から救<sup>ゆる</sup>せるだけでなく、その人に対して悲しみを覚えるようになるでしょう。虐待行為を赦せるようになると、痛みと苦悩から解放され、その結果、深い平安が得られます。痛みと苦悩は、虐待した者を憎むよう促すことによって、サタンがあなたの生活に持ち込んだもの

なのです。癒しの過程で大切な要素ではありますが、もし赦そうとすることがますますあなたを苦しめるのであれば、救い主の癒しの力をもっと味わうまで、この段階を先送りにするとよいでしょう。<sup>1</sup>

もしあなたが現在虐待されているか、かつて虐待されたことがあったとしたら、助けを求める勇気を出してください。虐待の事実を明かさないとひどく脅されているか、恐怖を植え付けられているかもしれません。それでも、勇気を出して今、立ち上がりましょう。信頼できる人に助けを求めてください。ビショップやステーク会長は有益な助言を与え、行政当局への通報を助けてくれます。どのような虐待をだれから受けたかを説明してください。保護を求めてください。あなたの行動によってほかの人が犠牲になるのを防げるかもしれません。今すぐ助けを求めてください。恐れてはなりません。恐れはサタンがあなたを苦しめ続ける手段だからです。主が助けてくださいます。けれどもあなたがその助けを求めなければなりません。

だれに虐待されたかを打ち明けたときに、もしビショップがためらいを見せたとしても落胆してはなりません。虐待者は自分の卑しい行いを隠すために敬虔な態度を取り繕うことにたけています。導きのままに助けを求められるよう祈ってください。助けは必ず与えられます。すべて詳細まで御存じであり、完全な判士であるイエス・キリストはすべての虐待者にその不義な行いについて必ず責任を問われます。完全に悔い改めないかぎり、主は正義の要求をことごとく突きつけられることでしょう。しかし、正義が行われる必要がある、と執拗<sup>しつよう</sup>に思い詰めていると、あなたの癒しが遅れ、虐待を続けさせることになります。ですから、虐待行為に対する罰は行政当局と教会役員にゆだねてください。

### 虐待行為を行った人へ

さて、虐待によって他人の生活を台無しにしてしまっている人に話します。自分の常習行為に助けが必要であることを自覚してください。さもないと、あなたは破

滅します。自分で克服することはできません。恐らく、専門家の助けが必要でしょう。今、助けを求めてください。行政当局や教会役員に自分の罪をうまく隠しおおせていることに偽りのはかない安心感を覚えて、自分を欺いているかもしれません。けれども、主イエス・キリストはあなたの罪をことごとく御存じであることを知ってください。主はこう警告しておられます。「……わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」<sup>2</sup> 虐待の犠牲となった人が行動に移さなかったとしても、いつか、あなたの虐待行為は人に知られることになります。サタンがそれを明るみに出すからです。その後でサタンはあなたを見捨てるでしょう。

そのような罪から自分を清め、受けるべき罰をはっきりさせるための一歩を今踏み出し、込み入った生活をシンプルなものにしてください。人に与えた苦痛を和らげたいと思う気持ちを表してください。ビショップカステーク会長に話してください。あなたの行為が重大であれば行政処分や教会からの宗紀処置を受けることになるかもしれません。けれども、完全に悔い改めれば、赦しという慰め、良心の安らぎを得て、生活が一新します。あなたが虐待を加えた相手とその家族を安心させることにもなります。人を悲しませ苦痛を与えたことへの後悔と良心の<sup>かしゃく</sup>呵責から逃れることができます。悔い改めるのは来世よりも現世の方がはるかに易しいことを知ってください。ですから今、悔い改めましょう。悔い改めとその他の助けによって悪癖を絶つと決意したら、そのときに助けを受けるでしょう。昔、虐待の罪を犯す者は悔い改める機会もなしに石を投げつけられて殺されました。あなたはそのような時代に生きていないことに感謝してください。<sup>3</sup>

### 両親の皆さんへ

両親の皆さん、適切な方法でまた慎重に、虐待行為にかかわる可能性とそれを避ける方法を子供に教えてください。子



供の行動が突然変化した、などの注意番号に気をつけてください。問題があることを知らせているのかもしれませんが。落ち着かない様子を見落とさず、理由を突き止めてください。

### イスラエルの判士へ

イスラエルの判士<sup>かき</sup>を持つ皆さん、虐待で苦しんでいるすべての人が適切な支援を受けていることをしっかりと見届けてください。宗務上の処置と行政当局との調整については教会指導手引きとそこに記されているヘルプラインを活用してください。<sup>4</sup> 過去に違法行為を犯した人が関与している場合には十分に監督してください。犯罪者は恐らく自分の邪悪な行為を告白しないでしょう。何かおかしいと感じたら、御霊の<sup>みたま</sup>導きを求めてください。潜んでいる危険を回避するためにワードとステークの指導者の支援を求めてください。

虐待の被害者であろうと虐待を加えた人であろうと、あなたが今すぐにイエス・キリストの癒しの力にすがると願っています。あなたの信仰と従順が主の助けをもたらすことを証します。イエス・キリストの<sup>みな</sup>御名により、アーメン。

注

1. 以下の資料は、虐待の悲劇から立ち直るために役立つでしょう。ゴードン・B・ヒ

ンクレー「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号、60-63;ジェームズ・E・ファウスト「贖い——最も大いなる希望」『リアホナ』2002年1月号、19-22;ダリン・H・オクス「主は重荷を負っている人を癒される」『リアホナ』2006年11月号、6-8;リチャード・G・スコット「忌まわしい虐待の傷を癒す」『聖徒の道』1992年7月号、35-37;リチャード・G・スコット「主を信頼する」『聖徒の道』1996年1月号、17-19;リチャード・G・スコット「良心の安らぎと心の安らぎ」『リアホナ』2004年11月号、15-18;リチャード・G・スコット「贖いは平安と幸福を確固としたものとする」『リアホナ』2006年11月号、40-42;ジェフリー・R・ホランド「壊れたものを元どおりに」『リアホナ』2006年5月号、69-71; "A Conversation on Spouse Abuse," Ensign, 1999年10月号、22-27;「虐待という悪の道」『歴代大管長の教エー・ジョセフ・F・スミス』(メルキゼデク神権定員会および扶助協会用学習資料、1998年)第28章;教義と聖約121:34-46参照

2. マタイ18:4-6

3. 申命22:25-27参照

4. 『教会指導手引き 第1部』107-108, 110, 120, 122, 147, 186参照

# イエス・キリストの福音

十二使徒定員会

L・トム・ベリー長老

**福音は、わたしたちが天の御父のみもとに帰り、御父とともに住むために必要なすべての知識を与えてくれます。**



**使**徒パウロはこう雄々しく宣言しました。「わたしは福音を恥としない。それは、……すべて信じる者に、救を得させる神の力である。」(ローマ1:16) 世界中で奉仕している専任宣教師たちも、パウロのようにこの雄々しいメッセージを宣言しています。

本質的に、イエス・キリストの福音は、5つの材料を用いた、永遠の命という料理のレシピです。まず、このレシピに従うことでわたしたちがどのような者になれるかについて、それから個々の材料について考えてみましょう。

わたしたちは永遠の命についてどのようなことを知っているでしょうか。主の業と栄光について、モーセ書第1章39節には、人の不死不滅と永遠の命をもたらすことであると書いてあります。この聖句から、不死不滅と永遠の命が異なった、別個のものであることが分かります。特定

の条件が満たされたときにのみ約束されている永遠の命という賜物<sup>たまもの</sup>は、不死不滅の賜物よりもはるかに大なるものです。

ブルース・R・マッコンキー長老はこう述べています。「……永遠の命は将来の命がいつまでも存続することだけを示す名称ではありません。不死不滅とは復活した状態で永遠に生き続けることであり、すべての人は神の恵みによって終わりなく存在します。しかし、永遠の命を受け継ぐのは完全な福音の律法に従う人々のみです。これは『神のあらゆる賜物の中で最も大なるもの』です。なぜなら、神御自身がお持ちの命もこれと同じ種類、状態、類型、性質であるからです。だからこそ、永遠の命を得る者は昇栄を受けるのです。彼らは神の子、キリストと共同の相続人、長子の教会の会員です。彼らはすべてのものに打ち勝ち、あらゆる力を持ち、御父の完全を受けます。……」(ブルース・R・マッコンキー、*Mormon Doctrine*, 第2版[1966年], 237)

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の1ページには、宣教師の義務についてこう書いてあります。「[あなたの目的は、]人々にキリストのもとへ来るように勧めることです。そのためにあなたは、イエス・キリストとキリストの贖い<sup>あがな</sup>を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受け、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです。」

多くの料理の本には、そのレシピで作った料理の完成写真が載っています。作ってよかったと思えるような完璧な料理

が写っています。写真を載せることは大切です。レシピの手順にきちんと従うとどんな料理ができるかを想像できるからです。結果を思い描きながら料理を始めることは大切ですが、写真にあるような結果は、すべてが正しく行われたときにしか得られません。作り方に従わなかったり、材料を入れ忘れてたり、分量を間違えたりすると、ほとんどの場合、味も見栄えも期待外れになってしまいます。それでも完璧な料理の写真があれば、おいしくて見栄えも良い料理作りにもう一度挑戦してみようという気持ちになるでしょう。

永遠の命について考えてみましょう。どのような光景が思い浮かびますか。永遠の命の光景をはっきりと、ありのままに思い描くことができれば、わたしたちは自分の言動を改善するようになるでしょう。ホームティーチングや家庭訪問、集会への出席、神殿参入、道徳的な生活、祈り、聖文を読むことなど、最後まで堪え忍ぶために必要な多くのことを自分から率先して行うでしょう。これらの事柄を実行することで、行きたいと切望する場所に行く備えができると実感しているの、これだけでは満足せず、さらに多くのことをしたいと思うようになるでしょう。

宣教師の目的で、人々がイエス・キリストとキリストの贖いを信じる信仰を得られるよう助けることが第一に挙げられているのはなぜでしょうか。イエス・キリストの福音を喜んで受け入れるためには、まずその福音の源である御方を喜んで受け入れなければなりません。救い主と救い主の教えに頼らなければならないのです。贖いにより、救い主はわたしたちに対する約束を守る力をお持ちになったということ信じなければなりません。イエス・キリストを信じる人は、主の贖いと教えを受け入れて実践します。

第三ニーファイ第27章で、救い主は弟子たちに、御自身の福音、地上での教えと導き、そして贖罪は互いに支え合うものであることを教えられました。

「見よ、わたしはあなたがたに、わたしの福音について告げた。わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりであ



マダガスカルのアンタナナリボ伝道部、アンツィラベ支部の会員と宣教師が大会の開始に先立って集まる。

る。すなわち、父がわたしを遣わされたので、わたしは父の御心みこころを行うために世に来た。……

さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前みまへで罪のない者としよう。」(13, 16節)

イエス・キリストとキリストの贖いを信じる信仰は、わたしたちを主の方に向かえます。世の中では「見なければ信じない」と言いますが、主への信仰を持つとわたしたちは信じるようになり、その結果、主と御父の計画が見えるようになります。

信仰は行いにもつながります。真の悔い改めをする決意と変化を生じさせるのです。アルマ書第34章でアミュレクはこう教えています。

「したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。

それゆえ、神がわたしの同胞であるあなたがたに、あなたがたが悔い改めを生

じる信仰を働かせて、神の聖なる御名を呼び始め、神の憐れみあわれみを得られるようにしてくださいますように。

まことに、神に憐れみを叫び求めなさい。なぜなら、神は人を救う力を備えておられるからである。」(16-18節)

**バプテスマと聖霊を受ける前に悔い改めなければならないのはなぜでしょうか。**キリストは二ファイ人に犠牲の律法の終わりを告げた後、このように言われました。「あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしは……火と聖霊によってバプテスマを授けよう。」(3二ファイ9:20)

これと同じ条件が教義と聖約第20章に述べられています。バプテスマの必要条件を挙げるときによく使われる聖句です。37節にこうあります。「神の前にへりくだって、バプテスマを受けたいと願い、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたこと……を教会員の前に証明……する人は皆、バプテスマによってキリストの教会に

受け入れられる。」

これらの聖句はバプテスマと聖霊を受ける備えである悔い改めの本質について、大切なことを教えています。まず、悔い改めにはへりくだる態度が必要です。バプテスマを受け、キリストの名を受ける備えをするには主の前にへりくだらなくてはなりません。つまり、打ち砕かれた心と悔いる霊を犠牲としてささげ、主の御心を受け入れるのです。第2に、人は教会員の前で、または教会を代表する人の前で自分の罪を悔い改めたことを証明しなければならぬということが分かります。最後に、清めの過程である悔い改めはバプテスマに先立つということが理解できます。バプテスマは人に聖霊を受ける備えをさせるための清めの儀式です。聖霊は神会の第三の御方です。聖霊の賜物は世の罪を悔い改めて清められた人々にしか与えられません。

**聖霊を受けるために、なぜバプテスマが必要なのでしょう。**オーソン・F・ホイットニーは次のように教えました。「バプテスマは二つの部分から成っていて、果たされるべき二つの使命があります。バ



お気に入りの1枚を見せるアルゼンチン、ベルビジェ地方部の子供たち

バプテスマは人を清めるだけでなく、人を照らし、それにより過去、現在、将来における神にかかわることが現され、真理についての確かな証が与えられるようになります。聖霊は『清くない宮には住まわれ〔ません〕』が、罪から清められた人は、聖霊の影響のうちにとどまることができるようになります。水によるバプテスマによって清めと光に照らされるという過程が始まります。御霊によるバプテスマによってそれが完成するのです。』(Baptism—The Birth of Water and of Spirit〔日付なし〕, 10)

ニーファイは、水と火によるバプテスマの儀式を門にたとえました(2ニーファイ31:17参照)。なぜバプテスマは門なのでしょう。それはバプテスマが神と人の間で交わされる神聖な、拘束力を伴う聖約に入ることを象徴する儀式だからです。人は世を捨て、同胞を愛して彼らに仕え、困っている孤児ややもめを見舞い、平和を宣言し、福音を宣べ伝え、主に仕え、主の戒めを守ると約束します。主は「〔わたしたちに〕ますます豊かに御霊を注〔ぎ〕」(モーサヤ18:10)、この世的にも霊的にも聖徒を贖い、彼らを第一の復活にあずかる人々とともに数え、永遠の命を与えると約束しておられます。バプテスマと聖霊

を受けることは、永遠の命に至る「細くて狭い道」に入るために定められた道なのです。

使徒パウロは、バプテスマはまた、水の墓に入ることも象徴しており、わたしたちはそこからキリストにおける「新しいのち」(ローマ6:4)によみがえると述べています。バプテスマの儀式はキリストの死と復活を象徴しています。わたしたちは主とともに生きられるよう、主とともに死ぬのです。この点でバプテスマは救いのための最初の儀式です。そして聖霊を受けることによって、わたしたち一人一人が力強く進み、最後まで堪え忍ぶための助けを受けるのです。

最後まで堪え忍ぶにはどうしたらよいのでしょうか。最後まで堪え忍ぶには終わりまで忠実であることが必要です。パウロはテモテにこう語りました。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」(2テモテ4:7)最後まで堪え忍ぶのが容易でないことは明らかです。わたしたちは御父のみもとに帰るとともに住み、永遠の祝福を受ける備えをしています。最後まで堪え忍ぶのは大変ですが、これはやりがいのある挑戦であり、最終的に人を精錬するという目的があります。

終わりまで堪え忍ぶことは独りでは決してできません。まず、救い主の贖いの力が必要です。清くならなければ天の御父のみもとに戻れないので、わたしたちは悔い改め続けなければなりません。あらゆる瞬間で悔い改めることが理想的ですが、聖餐を受け、バプテスマの聖約を新たにするために毎週聖餐会にも出席します。第2に、終わりまで堪え忍ぶには聖霊が必要です。聖霊はわたしたちを導くとともに聖めてくださいます。第3に、わたしたちは聖徒たちの中で欠かせない存在となり、福音における兄弟姉妹と仕え合わなければなりません。バプテスマによってわたしたちはキリストの体の一部になります(1コリント12:11-13参照)。一人一人に役割があり、皆大切な存在ですが、成功するためには救い主にあつて一つとならなければなりません。第4に、福音を人々に伝えなければなりません。たった一人でも主のみもとに導くときに受ける約束は深遠で永遠です(教義と聖約18:15参照)。加えて、頻繁に福音を伝える人は、福音が心の中でさらに深く根づくようになります。5番目に、最後まで堪え忍ぶにはキリストへの信仰と希望を絶えず持ち続けなければなりません。堪え忍ぶための方法は数多くありますが、祈り、断食、聖文を読むこともその中に含まれています。これらによって狡猾な策略や敵対する者の火の矢に対して防備を固めることができます。

わたしはイエス・キリストの福音を愛しています。福音は、福音の実を食べて、その実でしか味わえない「非常に大きな喜び」(1ニーファイ8:12)を経験し、この世のあらゆる困難にあつて最後まで堪え忍ぶ方法を定めているからです。福音はわたしたちが復活し栄光を受けた者として、天の御父のみもとに帰って住むために必要なすべての知識を与えてくれます。わたしたちが皆、永遠の命の光景を引き続き心に思い浮かべることができるようになります。イエス・キリストの福音という永遠の命のレシピにある手順を熱心に守ることができるようになります。最後まで堪え忍べますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。



# 預言者たちの言葉を心に留める

十二使徒定員会

クエンティン・L・クック長老

**この教会の神権者として、わたしたちは預言者に従うという厳粛な責任を負っています。**



**神**権を持つ、愛する兄弟の皆さん、わたしはこの歴史的な日に、皆さんとともに総大会のこの部会に出席していることに感謝します。

危険にさらされている人々を命がけで救出する人には敬意を抱きます。1 昨年秋、サンタ・アナ・ウィンドと呼ばれる強風が大火災を引き起こした時期にカリフォルニア州南部を訪れました。そこをたつ際、二つのことを感じました。第1に、困っている人のもとに教会員が助けに来たこと、第2に、住民が消防隊員に深く感謝していたことです。ある家の所有者が消防隊員の活躍ぶりを語りました。サンタ・アナ・ウィンドは暑い砂漠から海に向かって吹く風で、一度火災が発生すると、この高温の砂漠の風は最大時速約100キロのスピードで

炎を運びます。ものすごいスピードで襲って来る高さ3メートルもの火の壁に、ホースを手に立ち向かっている消防隊員を見たときの感謝と尊敬の気持ちを彼は話しました。この勇敢な男女は自らが常に危険にさらされながら人と家を救ったのです。

時々わたしたちは、個人または教会として危険にさらされることがあります。火災のように突然起こる出来事もあれば、眼前に現れるまで捕らえ難く、ほとんど気づかないうちに進行することもあります。英雄的な行動が求められる出来事もありますが、たいいてい問題はそれほど目立たないのです。危険にどのように対処するかは、非常に重要です。今晚わたしは、預言者の言葉を心に留めることの大切さを神権者の皆さんに再度強調します。これは、肉体的、霊的なあらゆる危険に対する非常に確実な対処法です。例を挙げて説明しましょう。

皆さんの中には、ウィリー手車隊とマーティン手車隊の劇的な救出劇を体験し、その価値を知る旅に参加した人もたくさんいると思います。この救出劇をわたしが初めて知ったのは10代のときでした。後に使徒になったオーソン・F・ホイットニー長老が書いた本を母がくれたのです。2 ホイットニー長老の著書を読んで、ブリガム・ヤングに派遣されて手車隊の救援に向かった人たちが勇敢に働いたことを知りました。手車隊はワイオミングの高原で吹雪に襲われました。何人かは命を落とし、

多くの人が死に瀕してしまっていました。ブリガム・ヤングはこの窮状を知り、1856年10月の総大会で、すべての活動を休止して、高原で立ち往生している人々を救出に行くよう聖徒たちに指示しました。3

それに対する反応は劇的なものでした。ホイットニー長老はこう書いています。「勇敢な人々は、自分の命を賭してまで吹雪の草原へ出て行くその英雄的な行為によって不朽の名を残しました。その時宜を得た救出活動のおかげで救われた数百人もの人々は、彼らに尽きることのない感謝の念を抱いたのです。」4

母がわたしにこの本をくれた理由の一つは、17歳でこの救援隊に参加したわたしの曾祖父デビッド・バツェン・キンボールについて、ホイットニー長老がこの本で特に触れていたからでした。救援隊の人たちは皆、手車隊の救出に当たっている間は常に、深い雪と凍りつくような寒さと戦いました。デビッドと仲間は、それぞれ非常に犠牲を払いながら大勢の開拓者を背負って、氷が浮かぶスウィートウォーター川を渡ったのです。5 この実話にわたしは深い感銘を受けました。主に対する献身を何か劇的な方法で示したいと思ったものです。しかし、祖父との話を通して、ブリガム・ヤング大管長が祖父の父デビッドとその他の若者を救援隊として送ったとき、たとえ命の危険があろうとも、できる限りのことをして手車隊を救出するよう命じたということが分かりました。6 救援隊の勇敢な行動は、すなわち「預言者ブリガム・ヤングに従う」ことであり、そうすることによって彼らは主イエス・キリストに対する信仰を表したのです。常に預言者の勧めに忠実に従うことこそが、曾祖父の救出劇からわたしが学ぶべき真の教訓なのだと祖父は言いました。デビッドと仲間が開拓者を救ったのはもちろん英雄的な行為ですが、現代においても、預言者の勧告に従うのは同じように勇氣ある行動だと言えるのです。

よく語られる旧約聖書の話がこの原則を説明しています。重い皮膚病を患っていたスリヤの名将ナアマンは、イスラエルの預言者エリシャが彼の病気を治せるか

もしれないと聞きました。エリシャは使者を遣わして、ヨルダン川で7度身を洗うと清くなると伝えました。この言葉を聞いて、最初ナアマンは怒りました。しかし、「預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったでしょうか」と僕たちに言われ、ナアマンは預言者の勧めに従い、清くなったのです。<sup>7</sup>

若い神権者の皆さんは、ナアマンのように「何か大きなこと」をしたいとか、手車隊の救出のような劇的なことに参加したいと思っているかもしれません。しかし、皆さんの目標は、預言者の勧告に従うことであるべきです。大管長会は、宣教師に推薦する若者のふさわしさの基準を上げる決断をしたことを再び断言しました。世の罪から遠ざかり、宣教師の奉仕に必要な高い標準に従うことを目標とするべきです。福音を宣べ伝える召しを預言者から受け、天の御父の子供たちを霊的に救出できるよう備えることは大切なことであり、英雄的な行為でもあります。皆さんにはこの要求にこたえる力があります。

歴史を通じて、愛の深い天の御父と、教会の頭である御子イエス・キリストは、将来の危険について勧告と警告を与える預言者をわたしたちに遣わしてこられました。<sup>8</sup> 教義と聖約第21章で、特に預言者を指して主はこのように語っておられます。

「……彼がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、……彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」<sup>9</sup>

今朝、わたしたちは聖会でトーマス・S・モンソン大管長を預言者、聖見者、啓示者、そしてこの神権時代の第16代大管長として支持するという大いなる特権にあずかりました。後にこの大会の神権部会で、大管長として初めての大会説教を聞く祝福にあずかります。モンソン大管長の教えとわたしたちが感じることをよく心に留め、大管長を支持していることを心と行動で表しましょう。



先の預言者ゴードン・B・シンクレイ大管長に対する愛と感謝はわたしの心に深く植え付けられ、永遠に変わることがないでしょう。しかし、家庭に生まれてくる一人一人の子供に対して愛情がわき上がるように、わたしたちは主が御自身の教会を導くよう召される一人一人の預言者に対して、愛し、献身したいと思うようになるものです。

預言者は靈感を受けて何を優先すべきかを教え、わたしたちを危険から守ってくれます。例えば、1918年から1945年までの預言者ヒーバー・J・グラント大管長は、靈感を受けて知恵の言葉を固く守るよう強く勧めました。<sup>10</sup> この戒めは、主が預言者ジョセフに啓示された約束を伴う原則です。<sup>11</sup> グラント大管長は、たばこを吸わないこととアルコール飲料を飲まないことの大切さを強調し、神殿推薦状の面接ではこの原則を確認するようビショップに命じました。

当時、喫煙は好ましいものとして社会に受け入れられていました。魅力的な行為であるとすら考えられていました。喫煙とある種の癌との関連について科学的な研究が進められたのはかなり後になってからのことですから、当時の医療専門家たちは何の心配もなく喫煙を容認していました。グラント大管長が非常に精力的に

知恵の言葉について勧告したため、教会員は禁酒禁煙の民として知られるようになりました。

1960年代後半から違法薬物の使用が全世界に蔓延しました。反抗した会員が幾らかはいたものの、大半の末日聖徒の若者は薬物使用の害から逃れることができました。

会員、特に若者が薬物の使用に陥らずに済み、健康上の問題や道徳面での危険から救われたのは、知恵の言葉を守っていたためでした。残念ながら、今日再び薬物使用の波が押し寄せて来ています。今、知恵の言葉に従って生活している皆さんは、人生で直面する非常に大きな危険から守られることでしょう。

時に預言者は、何を優先するべきかを教えることによって、現在と将来のわたしたちを守ります。一つの例は、1951年から1970年までの預言者デビッド・O・マッケイ大管長です。マッケイ大管長が特に強調したのは家族でした。マッケイ大管長は、いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできないと教えました。<sup>12</sup> 教会の教えをさらによく守ることによって家族を強めるよう会員に勧めたのです。この教えによって、大管長の死後見られるようになった結婚制度の崩壊からわたしたちは守られました。<sup>13</sup> マッケイ大管長の教えのおかげで、末日聖徒は家族を守り結婚生活を永遠に続くものにする決意を固めることができました。

この教会の神権者として、わたしたちは預言者に従うという厳粛な責任を負っています。わたしたちはモンソン大管長と顧問のアイリング管長、ワークドルフ管長を支持しています。

トーマス・S・モンソン大管長は預言者になるよう若いときから主によって備えられていたことを若い皆さんに知ってもらいたいです。<sup>14</sup> モンソン大管長は、第二次世界大戦が終結する少し前に海軍に召集され、兵役を終えた後、22歳でビショップに聖任され、その後ステーキ会長会で奉仕しました。32歳のときに、愛する伴侶のフランシス・モンソン姉妹とともにカナダで伝道部会長を務めました。マッケイ大管長

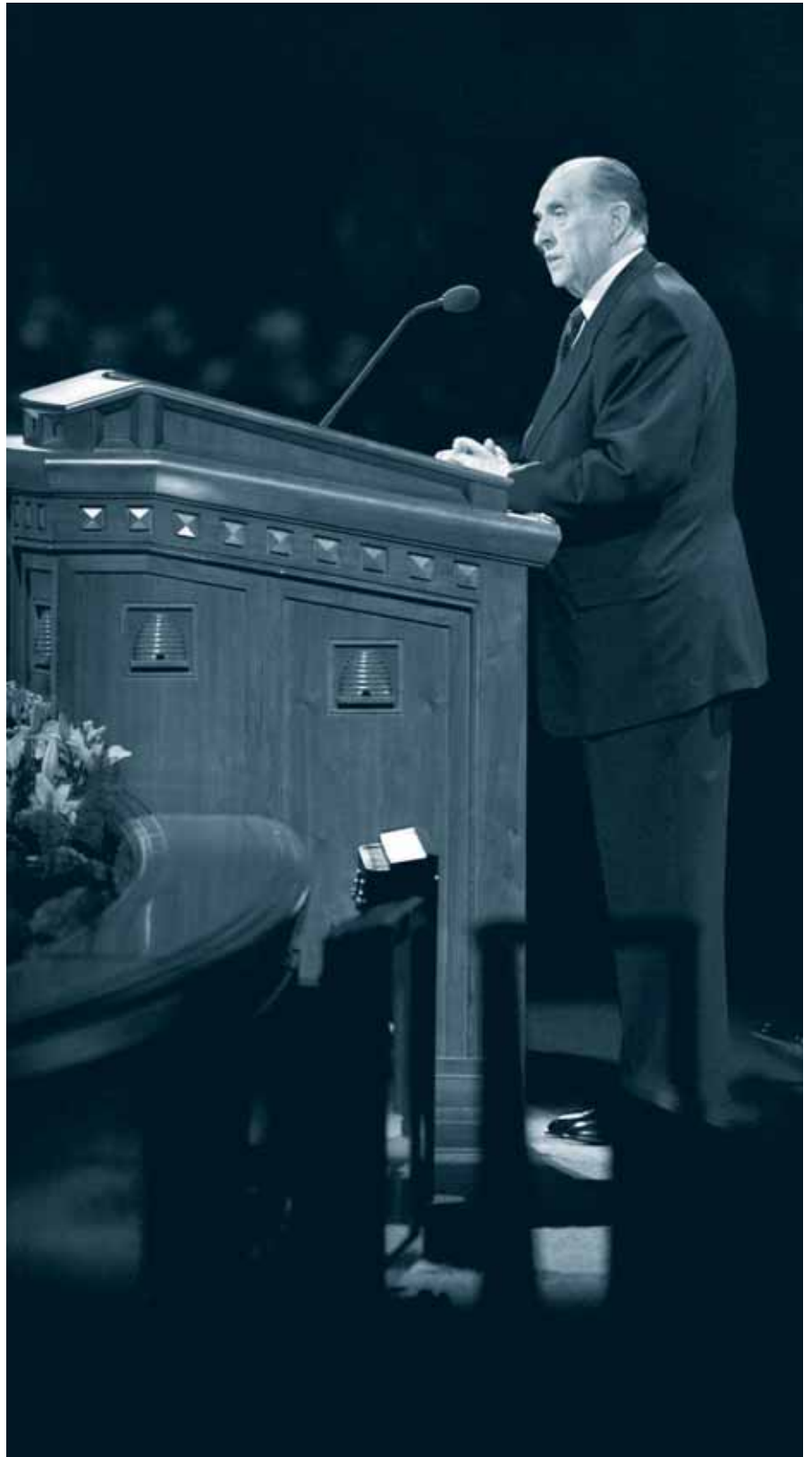
から使徒に召されたときはわずか36歳でした。過去98年間で最も若くして使徒に召され、その後44年にわたって使徒の職を務めています。後半の22年はエズラ・タフト・ベンソン大管長、ハワード・W・ハンター大管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の顧問として奉仕しました。<sup>15</sup>

教義と聖約の第81章は大管長会の顧問への教えであり、重要な神権の原則が記されています。第1の教えは「忠実に助言」することです。モンソン大管長は、自分が仕えた3人の預言者に忠実に助言しました。重大な決定を下すときにいつでも大管長会が一致していることは、わたしたち神権者が教会を管理するうえでの模範となっています。

第2の教えは、「福音を宣言する」ことです。モンソン大管長は生涯にわたる偉大な宣教師です。個人としても伝道していますし、宣教師管理部の指導や伝道部会長の召しと訓練も精力的に行っています。また、新しい宣教師用ガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の作成には多大な貢献をしました。内容について重要な貢献をしたばかりでなく、さらに興味深くするために実話を盛り込むよう提案したのです。印刷については専門家の立場からデザインとレイアウトを改良しました。モンソン大管長は実に偉大な宣教師です。

第3の教えについては、こう書かれています。「それゆえ、忠実でありなさい。わたしがあなたを任命した職において務めなさい。弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい。」<sup>16</sup> 兄弟姉妹の多くは人生で深刻な問題に直面します。わたしたちはこうした人たちにキリストのように手を差し伸べ、神権指導者、親、友人、ホームティーチャーとして、手車隊を救出した人々のような役割を果たすことができるのです。

この点において、モンソン大管長の救援活動は特に模範的なものです。大管長はビショップの時代に、ワードの会員に仕えることを学びました。今も彼らの子供や孫たちと連絡を保ち、奉仕しています。ビショップの時代にワード内に住んでいた84人の寡婦が亡くなったときには、非常に



多忙なスケジュールの合間を縫って、全員の葬儀で話者を務めました。

モンソン大管長は、困っている人を驚くべき方法で個人的に助けてきました。大

管長が長い年月監督してきた人道支援活動は、教会員であるなしを問わず、世界中の人々を祝福してきました。個人としてはキリストのような奉仕を通して、数え切れ



ないほどの人に安らぎと平安を与えています。わたしの友人は悲惨な事故で孫を失い、その悲しみは想像を超えるものでしたが、モンソン大管長に慰められたおかげで、悲しみは計り知れない平安に変わったそうです。病める者、苦しむ者に個人的に仕えるためにモンソン大管長が払ってきた努力はたぐいまれなものです。

モンソン大管長は、「……弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め」<sup>17</sup> するためにできる限りのことをしてきました。大管長会の顧問の召しを驚くべき方法で尊び大いなるものとしてきました。また、イエス・キリストの御名を証するというすべての使徒の第一の責任を、全世界で雄々しく果たしてきました。

今年の2月、ソルトレーク神殿の上の階の部屋で行われた大管長会の再組織に、十二使徒定員会の新しい会員として初めて出席したわたしは、十二使徒一人一人が全員一致してモンソン大管長を主の預言者、教会の大管長として支持したときに、御霊がそれを確認しているのが分かりました。

わたしたちを愛してくださる天の御父とその御子イエス・キリストに感謝しています。御子はわたしたちの救い主であり、贖いを通して肉体的、霊的な危険から命を救ってくださる究極の救助者です。御子は御父に対するわたしたちの弁護者です。このことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. ヨハネ15:13参照
2. オーソン・F・ホイットニー, *Life of Heber C. Kimball*, 第2版(1945年), 413-414参照
3. ゴードン・B・ヒンクレー「山を動かす信仰」『リアホナ』2006年11月号, 82-85参照
4. *Life of Heber C. Kimball*, 413
5. チャド・M・オートン, "The Martin Handcart Company at the Sweetwater: Another Look," *BYU Studies*, 第45巻, 第3番(2006年), 5-37参照

6. マーバ・ジェニー・キンボール・ペダーセン, *Crozier Kimball, His Life and Work*, 6-7参照
7. 列王下5:1-14参照
8. アモス3:7参照
9. 教義と聖約21:4-5
10. ヒーバー・J・グラント「『知恵の言葉』を守る」『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』189-197参照
11. 教義と聖約89章参照
12. J・E・マックロッチ, *Home: The Savior of Civilization*(1924年)から引用; Conference Report, 1935年4月, 116
13. ブラッド・シラー, *Wall Street Journal*, 2008年3月10日付, A15
14. 次の例を参照——モルモン1:2;サムエル上2:26;ジョセフ・スミス—歴史1:7
15. *Deseret Morning News 2008 Church Almanac*, 35参照
16. 教義と聖約81:3-5

# では、わたしの隣り人とはだれのことですか

管理ビショップ

H・デビッド・バートンビショップ

今日の良いサマリア人となった多くの人々に感謝いたします。



こばんは。今夜は昨年中に教会が行った人道支援活動のおもだったものについて紹介します。そうする中で、次の二つの聖句が特別な意味を帯びてくることでしょう。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである。」(マタイ25:40)「貧しい者と乏しい者……を、すべてのことにおいて思い起こさない。」(教義と聖約52:40)

最近、人道支援活動に関して教会中央福祉委員会に報告がなされました。当時委員長であったゴードン・B・ヒンクレー大管長はその功績を可能にした会員たち、ならびに会員でない人たちの惜しみない

貢献に深い感謝を述べました。わたしたちは中央福祉委員会に代わり、今日の良いサマリア人となった個人や家族、定員会や扶助協会、若い女性の各組織の皆さんに感謝いたします。

2007年、教会は以下のような災害に対応しました。5か国における大震災。6か国における大火災。18か国における飢餓と飢饉。34か国における深刻な洪水や自然災害。通算すると、教会とその会員は170の大災害に対応してきました。通年で2日に一つの割合で支援活動をしたことになります。多数の奉仕の機会があった多忙な1年でした。

自然災害への対応に加えて、去年は公共衛生関連の複数のプロジェクトが行われました。昨年、教会が主催した浄水プロジェクトの受益者は25か国において100万人以上います。60か国の6万500人以上が車いすを手に入れました。今年初め、バートン姉妹とわたしは、南アメリカ北地域会長会とコロンビア大統領夫人とともに、車いすの寄贈式に参加しました。利用者と介護に携わる人々が感謝を表すのを見て、わたしたちは涙を流しました。11か国で5万4,000人以上の視力が改善されました。新生児蘇生術の訓練を受けた医療専門家は23か国の1万6,500人以上で、今後はほかの多数の人に技術を伝えてくれるでしょう。はしか撲滅運動の一環として、

10か国で280万人の子供と青少年が予防接種を受けました。これらの支援活動の成果を通算すると、教会は85か国に住む400万人近くの人々に直接手を差し伸べたこととなります。

8月にペルー南部で起きたマグニチュード8.0の大地震によって520人が死亡し、5万8,000棟以上の家屋が倒壊しました。ペルー、リマの29のステークでは、会員たちがすばらしい愛と思いやりの精神を表しながら、被災地の管轄区域で火急の支援を行いました。

宣教師たちのすばらしい協力を得て、教会は、人々が家屋や生活を復興し、学校を再建するのを支援する計画を進行中です。有志と友人、家族が大部分の作業を行って、最終的に400棟以上が建設される予定です。アラン・レイトン長老夫妻の指示の下に監督、調整、訓練が行われています。

2007年の秋に、乾燥と強風によってカリフォルニア州南部で山火事が次々と起こり、100万人以上が自宅から避難しました。一連の山火事で少なくとも1,500棟が焼失しました。このことを受けて、教会は清掃キットや毛布、衛生用品キット、食糧を提供しました。5,000人以上の教会員のボランティア「モルモン・ヘルピングハンズ」と宣教師が、片づけ、料理、慰問、被災者の世話をしました。

ある被災者はこのように感謝を述べています。「近所で懸命に働いてくれた末日聖徒全員に心からの感謝をお伝えください。モルモンの人たちはわたしたちに食事を運び、肩に手を回し、祈り、復旧作業やがれき処理をするために、入れ替わり立ち替わり来てくれました。サンディエゴの人々を元気づけ、心を癒し、家を直してくれたのです。」<sup>1</sup>

この経験についてあるステーク会長はこのように述べています。「地元のバプテスト教会の周辺を片付けるというプロジェクトがあり、……25人の青少年を割り当てました。バプテスト教会から、ドーナツとコーヒーをたくさん準備しておくと言われました。そこでこう答えました。コーヒーは飲まないのだからなくなってしまいますが、ドーナツならうちの青少年は幾つでも



食べられますよ、と。」<sup>2</sup>

アメリカ中西部のオレゴン州とワシントン州に豪雨が降り、洪水が起きました。ビショップの倉からの物資を携えて、ボランティアが現場に駆けつけ、被災者を支援しました。

オハイオ州フィンドレーで教会の代表者が地元の赤十字支部に寄付を持参した際のことです。通りがかった女性が「モルモン・ヘルピングハンズ」と書いてある黄色のTシャツを着た彼らを見かけました。その人は建物の中に入って来て携帯電話の画面で4人の「ヘルピングハンズ」の写真を見せ、こう言いました。「さっきこの人たちに家を救ってもらったのよ!」<sup>3</sup> そしてその場にいた会員一人一人を抱き締めました。

ある地域の食糧バンクに食糧が送られました。到着したとき、責任者が驚いた表情でこう言いました。「どうして分かったのですか。ついさっき最後のパンを出荷したところで、もう鍵を閉めてしまうつもりでした。どうして分かったのですか。」

世界中で毎年およそ100万人の子供たちがはしかで亡くなっています。教会は、世界保健機関との共同事業を行い、5万

4,000人以上の教会員がこの活動を支えるために奉仕しました。ナイジェリアのある教会員はこう書いています。「わたしたちの働きを『子供の救助隊』と呼ぶことにしました。わたしたちは家から家へ、村役場から村役場へと訪ねて回りました。ある女性ははしかで3人の子供を亡くしたと言っていました。彼女が節度を保ちながらも深い悲しみを込めて自身の経験を語るのを聞いて、わたしを含めて家にいた全員が涙を流しました。」教会のボランティアはさらにこう述べています。「自分のためにしたことは自分がいなくなればおしまいです。でも、人のためにしたことは受け継がれていきます。」<sup>4</sup>

教会は、インドネシアと南アジアでの津波被災者も引き続き支援し、902の住居、3つのコミュニティセンター、24の村営水道、15の学校、3つの医療センターの建設資金を提供しました。ある地域で指導的立場にある人はこう述べています。「住民はコミュニティセンターができたことを喜び、ありがたく思っています。……ここはわたしたちが祈ったり、……子供たちを教えたりできる場所です。〔教会〕がわたし

たちのためにこのセンターを建ててくださったことに感謝しています。……神がこれからも〔教会〕に祝福と成功をお与えになるよう祈っています。ありがとうございました。」<sup>5</sup>

エチオピアでは、地域の人々が清潔な飲料水を得るのを支援しました。井戸の掘削と貯水タンクの建設を教会が担当しました。地域の人々は給水委員会を組織し、貯水タンクから各村に水をパイプで運ぶ溝を掘りました。場所によっては3マイル(約5キロ)以上の長さになりました。

溝掘り作業に苦戦する地域もありました。土壌が硬く乾燥していたうえに粘土質で、掘るのが非常に困難だったのです。ある地域では、1,500人の生徒が通う学校で授業をしばらく休止して、残りの溝掘り作業に全員が協力しました。彼らが働いていると、ほかの住民も加わるようになりました。あるときには溝を掘る人の列が1マイル(約1.6キロ)以上に及んだこともありました。

皆さんの哀れみ、慈しみ、惜しみない心に感謝します。隣人の重荷を軽くし、苦しむ人を励まし支え、貧しい人を助けるために献金し、助けの手を差し伸べながら前進していくことができますように。主イエス・キリストの神性と主の福音について証します。わたしたちが静かに手を差し伸べながら、真の弟子に与えられる祝福を享受し続けられるよう祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

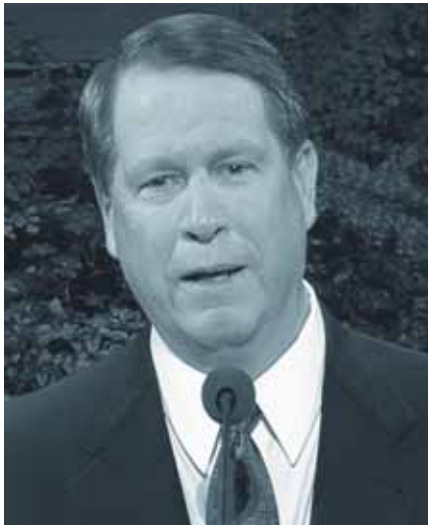
#### 注

1. ローラ・リッジ・コスビー、カリフォルニア州サンディエゴ、教会福祉部に寄せられたカード
2. グレリー・サビン会長、カリフォルニア州ポーウェイステーク、ゲリー・フレークあての電子メール
3. ビンセント・ジョーンズビショップの報告、オハイオ州トレドステーク、フィンドレーワード
4. カル・イチェ・カル、ナイジェリア・アバステークのはしか撲滅キャンペーンコーディネーター
5. モハメッド・ヨハン、インドネシア・カラング

# 自分が何者か 知っていますか

中央若い男性会長会第一顧問  
ディーン・R・バージェス

**自分が何者なのか知ることによって、強く、確固として、揺らぐことのない霊性を身に付けることができます。**



**ア**ロン神権者として、執事に聖任されたばかりのときに感じた胸の高まりを今でもよく覚えています。わたしは神権の務めが果たせる日を心待ちにしていました。初等協会に集っていた幼いころから、自分が12歳になって神権を授かり聖餐のパスができる日を思い描きながら、ワードの執事たちを注意深く観察していました。その日がついにやって来たのです。当時ワードのビショップだった父から聖任を受けると、緊張しながらも、新任の執事として務めを始める準備が整ったと感じました。

そのときからアロン神権定員会に所属することになりました。この定員会の会員はまさに最良の友となりました。神権の務めとともに学び、果たす中で、定員会の

兄弟たちとの友情ときずなは強くなっていました。わたしたちは皆、親友となり、定員会の活動で一緒に楽しく愉快的な時間を過ごしました。

ある日曜日、いつものように温かく長い聖餐会の後で、ビショップリックの第一顧問がわたしをわきに呼んで話しかけました。簡潔ながらも意義深い会話の中で尋ねられた質問について深く考えると、この予定外の神権面接がわたしの人生に祝福をもたらしたことが分かります。ベイトマン兄弟はわたしの目を見詰めてこう言いました。「ディーン、君は自分が何者なのか知っているかい。」しばしの沈黙の後、彼は短くとも力強い言葉を口にしました。「君はリード・バージェスの息子なんだよ。」

その質問の意味と大切さは心にずっと刻まれています。10代を通じて幾度となくこの質問について考えました。「君は自分が何者なのか知っているかい」というこのすばらしい兄弟の質問のおかげで、これまでの生涯を通じて靈感あふれる導きを受けてきましたし、家族や神権を尊び敬うという決意をすることができました。

今宵、アロン神権を持つ若い男性の皆さん一人一人に向けて、わたしが若い男性のときに尋ねられたのと同じ質問をしたいと思います。「皆さんは自分が何者なのか知っていますか。」

自分が何者なのか知ることによって、強く、確固として、揺らぐことのない霊性を身に付け、神権の務めを果たすことがで

きます。信仰と決意に裏打ちされた確信をもって正しい決断を下すことができるようになります。正しいと自分が知っていることを勇気をもって擁護できるようになります。神の神権を持ち、神の御名によって行動する権能があることは特権なのだということを悟ります。

モルモン書に登場する偉大な宣教師アンモンは、ラモーナイ王の忠実で勇敢な僕でした。奇跡的な方法でラモーナイ王の羊の群れを守り、全力を尽くして王に仕えました。アンモンの力強い行動について耳にしたラモーナイは、アンモンとは一体何者なのだろうと思いました。アンモンはこう断言しました。

『まことに、わたしはただの人間であつて、王様の僕です。ですから、わたしは王様がお望みになることで正しいことは何でもいたします。』

王はその言葉を聞くと、アンモンが自分の思いを見抜くことができたのを知って、またもや驚いた。しかし、それでもラモーナイ王は口を開き、『おまえはだれなのだ。すべての物事を知っているあの<sup>みたま</sup>大霊か』と尋ねた。

アンモンは王に答えて、『そうではありません』と言った。

それからアンモンは自分が何者なのか次のような言葉で説明しました。「わたしはただの人間です。……神の形に造られました。わたしはこの民にこれらのことを教え……るために、神の聖なる御霊によって召されています。」(アルマ18:17-19, 34) アンモンは自分が何者なのか、また自分のほんとうの使命は何なのかを知っていたのです。

自分が何者なのかを見いだすことは、人生における最大の探求の一つです。両親として、指導者として、わたしたちは愛する人々が「わたしは何者なのか」という単純で奥深い質問に対する答えを理解し、確信することができるように誠意を尽くして助けます。

アロン神権を有する若い男性の皆さんに尋ねます。「自分が何者なのかということについての知識と証はどのようにして得られるでしょうか。」



自分が何者であるかを真に理解するうえで不可欠な次の3つの質問と、その質問に関連する原則について、よく考えてみてください。

第1に、皆さんは自分が神の息子であることを知っているでしょうか。

皆さんは文字どおり神の息子であり、「前世で霊として生まれました。神の子供である皆さんは、自分が神から受け継いでいる永遠に続く可能性を秘めていること、その可能性を最大限にまで伸ばそうと努力するときに〔皆さんの天の御父〕が助けてくださることを確信できるのです。」(『真理を守る』『わたしたちの霊の父』の項、146)

天の御父がわたしたちを愛しておられ、わたしたちが神の子供であるという知識は、この現世で生きていくための力と慰め、そして希望を与えてくれます。ヨハネの第一の手紙にはこう記されています。

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたした

ちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。」(1ヨハネ3:1-2)

皆さんは愛に満ちた天の御父にとって大切な存在です。若い男性の皆さん、絶えず祈ってください。朝も夜も祈るならば、自分が神の息子であることを確信するようになるでしょう。

第2に、皆さんは自分が神の計画の中でどのような存在であるか知っているでしょうか。

アルマはこの計画を「偉大な幸福の計画」(アルマ42:8)、すなわち神が皆さんを含めわたしたち一人一人のために準備された計画と呼んでいます。この計画に従うことによって、一人一人が現世で幸福を味わい、死んだ後には神のみもとに帰ることができます。天の御父は「死の縄目を解くために」(アルマ7:12)、またわたしたちの罪と世の罪を贖<sup>あがな</sup>うために、愛する御子イエス・キリストを送ってくださいました。救い

主にわたしたちの罪を贖<sup>あがな</sup>わせられたのは、わたしたち一人一人に対する天の御父の愛の最も大いなる表れです。「神はそのひとり子を賜<sup>たま</sup>わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16) 救い主の使命を知り、信じ、理解することは、自分が何者であるかを知るうえで助けになります。

皆さんは、天の御父の計画の一部として、地上の家族、家庭へと送られました。神の計画の中で、個人として、また家族の一員として聖約を交わすときに、皆さんは自分の家族、そして神の家族といつまでも永遠に結び固められるのです。皆さんが身に受けているこれらの家族の名前を尊び、敬ってください。神の標準と戒めに従った生活を送ってください。小冊子『若人の強さのために』にもあるように、標準に従って生活する皆さんの姿を見て、皆さんが何者なのかを周囲の人々が分かるようにしてください。天与の標準を学び、熟考し、それに従って生活してください。これらは皆さん



んのために与えられたのです。

3番目に、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、皆さんは自分が何者なのかを知っているでしょうか。

皆さんはバプテスマを受け、聖霊を授かっています。回復されたイエス・キリストの教会の会員です。この教会はイエス・キリストの教会であり、イエス・キリストはわたしたちに預言者を与えてくださっています。預言者はわたしたちを教え、導き、地上における主の業を管理しています。わたしはトーマス・S・モンソン大管長がこの「苦難の時代」を導く預言者であることを証します(2テモテ3:1)。大管長の声に耳を傾けてください。モンソン大管長と現代に与えられたほかの預言者は、皆さんが何者であり、救い主のようになるにはどうすればよいかを教えてください。

皆さんは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であり、聖任されて神の神権を授かっています。モンソン大管長は次のように語っています。「わたしたちは信任を受けて神権を授かり、神の御名によって行動することができます。神の信頼を受け、大きな期待を寄せられているのです。」(「王国の神権者」『リアホナ』2007年11月号、59)

皆さんは若い男性から成る神権定員会に所属し、そこではかの神権者との兄弟愛や友情を感じることができます。定員会はこの世の影響から守ってくれます。皆さんは互いに仕え合い、神権の儀式に携わることができます。定員会では、イエス・キリストの福音の原則を学び、自分が何者なのかを理解するのに役立てることができます。若い男性の皆さん、神の神権を尊んでください。

自分が何者なのかを知り、主との約束と聖約を守ることによって、皆さんの生活に幸福がもたらされることを証します。

わたしたち皆が、自分が一体何者なのかを知り、理解することができますように。今晚ここで感じた御霊が、「わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかししてくださいますように(ローマ8:16)。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 12歳の執事

七十人

ジョン・M・マドセン長老

**神の息子であるわたしたち一人一人には、その使命を果たし、定めを全うする力があります。**



**愛**する神権者の皆さん、まず初めに、中央神権部会に出席している12歳の執事一人一人にお話しします。皆さんがどの会場にしようと、出席してくれたことを感謝しつつ、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が皆さんと同じ12歳の執事だったときの経験を紹介したいと思います。

ヒンクレー大管長の伝記にはこうあります。「執事に召されて間もなく、父親とともにステーク神権会に初めて出席しました。自分がここにいるのは少し場違いだ、と感じながらも、第10ワードの後列に空席を見つけました。当時、……[父親は](ステーク会長会で働いており)壇上に座っていました。開会に当たり、その場に集っていた300人から400人の神権者が立ち上がって、ウィリアム・W・フェルプスが作詞した、勝利をたたえる歌を歌いました。……『たたえよ、主の召したまいし 主と語り

し予言者を 末の時を始めたる 業を世、皆崇めよ。』」

その経験を振り返りながら、ヒンクレー大管長はこう語っています。「信仰深い兄弟たちの歌声を聞いたとき、わたしの中で何かが起きました。心を揺り動かされ、表現し難い気持ちになりました。心も霊もともに深い感動を覚えました。それ以前に教会でそのような経験をしたことは一度もありませんでした。今彼らが歌に歌っているその人はほんとうに神の預言者であるという確信が心にわいてきたのです。そのときにわたしは聖霊の力によって、ジョセフ・スミスがまさしく神の預言者であることを知りました。」<sup>1</sup>

12歳の執事のときに経験したことは、ヒンクレー大管長にとって「残りの生涯忘れられないものとなりました。」<sup>2</sup> 同様に、皆さんが今この場で経験していることが残りの生涯忘れられないものとなるように祈っています。

さて、「執事のベンチ」という題の付いたこのすばらしいブロンズの彫刻を皆さんに見てほしいと思います。見えない人たちのために説明すると、「執事のベンチ」というのは、教会のベンチに座っている5人の執事のさりげないひとときを描写した彫刻です。

この5人の「執事」を見て、何を感じますか。では今から二人の大管長の言葉を読みます。その後で、今度は質問の仕方を少し変えて、こう尋ねます。何が見えてくのでしょうか。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう宣言しています。「教会の若人は……神聖な行く末を有する天の高潔な霊、特



別に選ばれた世代です。その霊は、福音が地上にある時代、主が末日の偉大な業を推し進めるために雄々しい僕を必要とされる時代に生を受けるよう、取っておかれた霊です。……」<sup>3</sup>

スペンサー・W・キンボール大管長はこう宣言しています。「わたしたちは今、高貴な世代を育てています。……彼らには果たさなければならぬ特別な務めがあります。」<sup>4</sup>

預言者のこのような宣言を踏まえたうえで、ベンチに座っている5人の執事から視野を広げ、アロン神権を持つすべての若い男性のことを思い描くと、何が見えてくるでしょうか。

わたしたち全員に、彼らの「神聖な」可能性が見えることでしょうか。彼らが聖なる神権を持つ者として、「永遠の福音」<sup>5</sup>を……「御霊によって」<sup>6</sup>「……地のもろもろの国民に」<sup>7</sup> 宣べ伝える宣教師として、出て行く姿が見えるでしょうか。この末日にあって、忠実な夫や父親、そして教会や神の王国

の「雄々しい僕」、 「指導者」となる姿が見えるでしょう。わたしはそう確信し、また祈ります。

この「選ばれた」「高貴な世代」を待ち受ける「神聖な行く末」をもっと明確に思い描けるようになるには、12歳のイエスについて深く考えさえすればいいのです。少年イエスは「<sup>すぎこし</sup>過越の祭」を祝うために両親とエルサレムを訪れられました。<sup>8</sup>

この12歳の少年はどういう御方だったのでしょうか。その使命と定めはどのようなものだったのでしょうか。また、どのようにその使命を果たし、定めを全うすることがおできになったのでしょうか。

この少年はイエス・キリスト、生ける神の御子でした。<sup>9</sup> わたしたちはそう宣言します。このことは聖典からも明らかです。この御方は「世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため世に来」<sup>きよ</sup>られました。<sup>10</sup> 「人の子らはその御名を信じる信仰を持ちさえすれば、救いが与えられるよ

うにされ」<sup>11</sup> 少年時代には「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され」<sup>12</sup> 「弟たちとともに成長し、体もたくましくなり、御自分の務めの時が来るのを待っておられ」<sup>13</sup> ました。<sup>13</sup> 「すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ」<sup>しれん</sup> ました。<sup>14</sup> 実際、「あらゆる……試練を受けられ」<sup>しれん</sup> たのです。<sup>15</sup> しかし、「それらを少しも心に留められ」<sup>しれん</sup> ませんでした。<sup>16</sup> そして「あらゆる偽りの父」であり、<sup>17</sup> 「あらゆる罪の根源である」<sup>18</sup> ルシフェルの誘惑に遭われたときには、聖文に関する御自身の知識だけでなく、御父の御言葉と御心に対する完全な従順によって守られました。<sup>19</sup> そしてこうお命じになったのです。「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」<sup>20</sup>

では、イエスはどのようにしてその使命と行く末を果たすことがおできになったのでしょうか。次の主の御言葉について考えてください。

「……あなたがたが人の子を上げてしまった後はじめて、わたしがそういう者であること、また、わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを話していたことが、わかってくるであろう。

わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになされることはない。」<sup>21</sup>

神の息子<sup>22</sup>としてここに集っているわたしたち一人一人に、その使命を果たし、定めを全うする力があることは、預言者ジョセフ・スミスに対する主の次の御言葉からも明らかです。「まことに、主はこのように言う。自分の罪を捨て、わたしのもとに来て、わたしの名を呼び、わたしの声に従い、わたしの戒めを守る者は皆、……わたしの名により父のもとに来て、定められたときに父の完全を受けられる……。」<sup>23</sup>

これらのことに加え、トーマス・S・モンソン大管長がまさしく神の預言者であること、そしてモンソン大管長と二人の顧問、十二使徒定員会の兄弟たちが、預言者、聖見者、啓示者であることを、イエス・キリ

ストの尊い御名によって証<sup>あかし</sup>します、アーメン。

注

1. シェリー・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 35-36
2. 「ゴードン・B・ヒンクレイ大管長」追悼——ゴードン・B・ヒンクレイ, 1910-2008年「リアホナ」2008年4月号付録, 3
3. *Conference Report*, 1970年4月, 6
4. スペンサー・W・キンボール「少年たちは身近に英雄を必要としている」『聖徒の道』1976年8月号, 359
5. 黙示14:6; 教義と聖約68:1; 教義と聖約133:7-8も参照
6. マタイ10:19-20; ルカ24:32; 教義と聖約42:14; 43:15; 50:13-22; 84:85
7. 教義と聖約134:12; 黙示14:6; 教義と聖約68:8; 133:7-8も参照
8. ルカ2:41-42参照
9. マタイ16:16; 2ニーファイ25:19-20; モーサヤ3:8; 4:2; アルマ5:48; ヒラマン5:9; 3ニーファイ5:13; 11:10-11; 20:31; 教義と聖約14:9; 68:6参照
10. 教義と聖約76:41
11. モーサヤ3:9. モーサヤ3:12; 教義と聖約18:17-25も参照
12. ルカ2:52
13. ジョセフ・スミス訳マタイ3:24
14. ヘブル4:15
15. アルマ7:11
16. 教義と聖約20:22
17. 2ニーファイ2:18; エテル8:25; モーセ4:4
18. ヒラマン6:30; モーサヤ4:14も参照
19. マタイ4:1-10参照
20. マタイ4:10-11
21. ヨハネ8:28-29
22. 詩篇82:6; ホセア1:10; ローマ8:16-17; ヘブル12:9; 教義と聖約11:30; 35:2; モーセ6:68
23. 教義と聖約93:1, 19. ヨハネ14:16; 教義と聖約76:92-95; 2ニーファイ31:7-16; 3ニーファイ12:48; 27:27; モロナイ10:32-33も参照

# わずかな誤差

## 大管長会第二顧問

### ディーター・F・ワークトドルフ管長

**ほんの小さな誤りが、……しばしば幸福と悲劇のどちらをもたらすかを定める分かれ道になります。**



**愛**する兄弟の皆さん、神の神権者として集うときに皆さんの力と徳を感じます。皆さんを愛し、称賛します。皆さんの信仰と祈り、進んで主に仕える姿勢に感謝しています。

トマス・S・モンソン大管長から大管長会の第二顧問として奉仕する召しを受けてから2か月がたちました。きっとたくさんの方が驚いたことでしょう。わたし自身仰天しました。世界中で最も驚いたのはわたしの妻で、2番目がわたしだと思います。

十二使徒定員会が神殿に集まり、モンソン大管長を支持し、末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者、聖見者、啓示者、そして大管長に聖任し任命した日、わたしは大きな喜びを感じました。手を挙げて、愛する友人であり指導者であるモンソン大管長を支える意志を示すことができたからです。

モンソン大管長は支持を受けた後、二

人の顧問を発表しました。

アイリング管長の名前が呼ばれましたが、何の驚きも感じませんでした。有能な人格者で、第一顧問としてまさに適任です。わたしは心から敬愛しています。

次にモンソン大管長は第二顧問を発表しました。不思議なことに、それは聞き慣れた名前でした。わたしの名前だったのです。

部屋を見渡しました。聞き間違えたのかと思いました。しかし、使徒の兄弟たちのほほえみとモンソン大管長の哀れみに満ちた表情から、今再び、わたしの人生が変わろうとしていることを確信しました。

わたしたちは皆、ヒンクレイ大管長が亡くなって寂しく思っていますが、大管長はこれからもわたしたちの人生を祝福し続けてくれます。

モンソン大管長は今日の神の預言者です。大管長を尊敬し、心と、勢力と、思いと、力を尽くしてこの偉大な業を行うと誓います。

1979年、257人を乗せた大型旅客ジェット機が南極観光のためニュージーランドから飛び立ちました。しかし、だれかが飛行座標に変更を加えていました。ほんの2度の変更でしたが、パイロットには知らされていませんでした。この誤差の結果、飛行機はパイロットが想定していた地点から45キロ東を飛行していました。南極に近づいたパイロットは、乗客が景色をもっと楽しめるように高度を下げました。二人ともベテランのパイロットでしたが、このルートで飛ぶのは初めてでした。不正確な座標によって飛行機がまっすぐエレバス山に向かって飛んでいるとは思いません



せんでした。標高3,700メートルを超えるこの活火山は、氷で覆われた地にそびえ立っています。

パイロットは飛行を続けましたが、火山を覆っている氷と雪が上空の白い雲と交じり合っ、飛行機からはまるで平らな地面の上を飛んでいるかのように見えました。その地面が飛行機に向かって急速にせり上がってくることを知らせる警報が鳴りだしたときには、もう手遅れでした。飛行機はエレバス山の斜面に衝突し、全員が死亡したのです。

小さな誤りが引き金となった恐ろしい悲劇でした。ほんの数度の違いだったのです。<sup>1</sup>

何年にもわたって主に仕え、数多くの面接をしてわたしが学んだのは、ほんの小さな誤りが、しばしば個人、結婚、家族に幸福と悲劇のどちらをもたらすかを決める分かれ道になるということです。

### イスラエルの王サウル

イスラエルの王サウルの物語はその良い例です。サウルの人生は偉大な約束とともに始まりましたが、結末は不幸で悲劇的でした。聖典には初め、サウルは「若くて美しく、イスラエルの人々のうちに彼よりも美しい人はな[かった]」と記されています。<sup>2</sup> サウルは神から直接選ばれて王となりました。<sup>3</sup> 多くの長所を兼ね備えていました。体つきも見事で、<sup>4</sup> 名のある家柄

の出身でした。<sup>5</sup>

もちろんサウルにも弱点はありましたが、主はサウルを祝福し、支え、栄えさせると約束されました。聖典には、神は常にサウルと一緒におられ、<sup>6</sup> サウルに別の心を与え、<sup>7</sup> サウルを新しい人に変えると約束されたと書かれています。<sup>8</sup>

主の助けがある間、サウルは卓越した王でした。イスラエルを統一し、イスラエルを侵略していたアンモン人<sup>びと</sup>を打ち負かしました。<sup>9</sup> その後すぐ、サウルはさらに大きな敵に直面します。ペリシテ人です。ペリシテ人には戦車と騎兵から成る恐ろしい軍隊がありました。さらに「民は浜べの砂のように」多くいました。<sup>10</sup> イスラエル人はペリシテ人<sup>びと</sup>を非常に恐れ、「ほら穴に、縦穴に、岩に……身を隠し」ました。<sup>11</sup>

若い王には助けが必要でした。預言者サムエルは、自分がサウルのもとに行って燔祭をささげ、主に助言を求めると待つようサウルに伝言しました。サウルは7日間待ちましたが、サムエルは到着しません。しびれを切らしたサウルは民を集め、神権の権能を授かっていないにもかかわらず、自分で燔祭をささげてしまいました。

サムエルは到着すると、心底落胆してこう言いました。「あなたは愚かなことをした。」新しい王サウルがもう少し忍耐し、主の道を離れず、啓示された神権の秩序に従ってさえいたら、主はサウルの王国を永遠に確立されたことでしょう。サムエル

はこう言いました。「しかし今は、あなたの王国は続かないであろう。」<sup>12</sup>

その日、預言者サムエルはサウルの性格に重大な弱点があることをはっきりと知ったのです。外部の影響から圧力を受けたサウルには、道にとどまり、神と神の預言者を信頼し、神が確立された規範に従うだけの自制心がなかったのです。

### 小さな誤りが生活に大きな影響を及ぼすこともある

南極飛行の2、3度の違い、またはもう少し長く預言者の助言を信頼していられなかったサウルの失敗は小さなことに見えるかもしれませんが、しかしほんの小さな誤りが、やがては大きな違いを人生にもたらすことがあるのです。

これと同じ原則を若いパイロットに教えたときのことを話しましょう。

地球を一周する予定で赤道上的ある空港から離陸したとします。しかし、たったの1度ですが針路をそれてしまいました。一周して戻って来るまでに、どれくらい針路から外れると思いますか。数マイルでしょうか。100マイルでしょうか。驚くかもしれませんが、たった1度の誤りで、ほぼ500マイル、つまり800キロも離れてしまうのです。これはジェット機で1時間の距離に相当します。

人生の結末に悲劇を望む人はいません。しかし、観光飛行のパイロットや乗客のように、胸躍る旅行を望んで出発したつもりが、座標がほんの数度誤っているために霊的な大災害に向かって飛んでいるということがあまりにも頻繁に起こっています。気づいたときはもう手遅れなのです。

### これらの実例から人生に役立つ教訓を学べるか

小さな誤りを犯し、イエス・キリストの福音からわずかにそれることで、人生が悲しい結果を迎えることがあります。だからこそ、誤りはいつか自然に修正されるだろうと待ったり期待したりせず、正しい軌道に戻るために欠かせない針路修正を早いうちに行えるよう訓練することがきわめて大切です。

修正が遅れるほどより大きな変更が必要になり、正しい針路に戻るのに、より時間がかかります。気をつけていないと、大惨事は目の前というところにまで来てしまうかもしれません。

神権者の男性には偉大な責任が任されています。考えてみてください。天の御父は若い執事、教師、祭司の皆さんに「天使の働きと備えの福音の鍵」を託しておられるのです。<sup>13</sup> メルキゼデク神権を持つ男性は、誓詞と聖約を受け入れ、神権を尊んで大いなるものとするならば、御父の持っておられるすべてを授かると約束されています。<sup>14</sup>

主は「多く与えられる者からは多く求められ[る]」と言われました。<sup>15</sup> 神の神権を持つ者は、世の人に対して徳の模範となるという大きな責任を与えられています。主の道から離れるよう誘惑する危険や影響にいち早く気づくとき、また聖霊の導きに勇気をもって従い、正しい針路に戻るために欠かせない修正を行うときに、わたしたちは主の期待にこたえることができます。

この大会は92の言語に翻訳され、現代技術の奇跡によって96の国々に放送されています。兄弟たちの多くはインターネットを通じて総大会に出席しています。このような新しい技術によって福音のメッセージを全世界に広めることができます。この技術を、靈感、援助、学習の優れた情報源として利用している良い例が教会のウェブサイトです。神権者の皆さんや皆さんの家族、そして教会にとって祝福となることでしょう。

しかし気をつけてください。これと同じ技術を使って、悪の影響力が皆さんの家庭に侵入する可能性もあるのです。この危険なわなは、マウスをたった1回クリックするだけで迫って来ます。ポルノグラフィ、暴力、不寛容、不信心は家庭、結婚生活、そして個人の人生を破壊します。こうした危険は、インターネットはもとより、雑誌、書籍、テレビ、映画、音楽など多くの媒体を通して広められています。主はそれらの悪を認識し、避けられるように助けてくださいます。危険を早い時期に察知し、明確な針路修正を行うことで、福音



の光の中にとどまることができます。小さな決断が大きな結果を生むのです。

インターネットで、だれが運営しているかも分からない危険なチャットルームに入ること、激しい嵐のただ中に身を投じてしまうことがあります。家族から見えない個室にコンピューターを置くことが、不正直で危険な人生の始まりになることもあります。

しかし、主は外側の行いだけでなく、内側の思いや気持ちを律法の精神に近づけるよう求めておられます。<sup>16</sup> 神は「心と進ん

で行う精神とを求め」られるのです。<sup>17</sup>

神の神権者には責任と自己決定の力が伴います。主はこう言われました。「わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。……人は熱心に善いことに携わり、多くのことをその自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならない。人は自らの内に力があり、それによって自ら選択し行動する者だからである。」<sup>18</sup>

天の御父は、わたしたちが否定的な力によって針路からそれるよう誘惑されるこ

とを、わたしたちがこの地上に生まれる前から御存じでした。「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」います。<sup>19</sup> だからこそ神はわたしたちが修正を行えるように道を備えてくださいました。真の悔い改めとイエス・キリストの贖いという憐れみに満ちた過程を経ることで、わたしたちは罪を赦され、「滅びないで、永遠の命を得る」ことができるのです。<sup>20</sup>

進んで悔い改めることで、神の賜物と救い主の愛と犠牲に感謝することができます。戒めと神権の聖約は、わたしたちに神とイエス・キリストに対する信仰、従順、愛があるかを見る試しとなりますが、さらに重要なのは、戒めと神権の聖約が、神からの愛を知り、現世と来世の両方であふれる喜びを得る機会を与えてくれるということです。

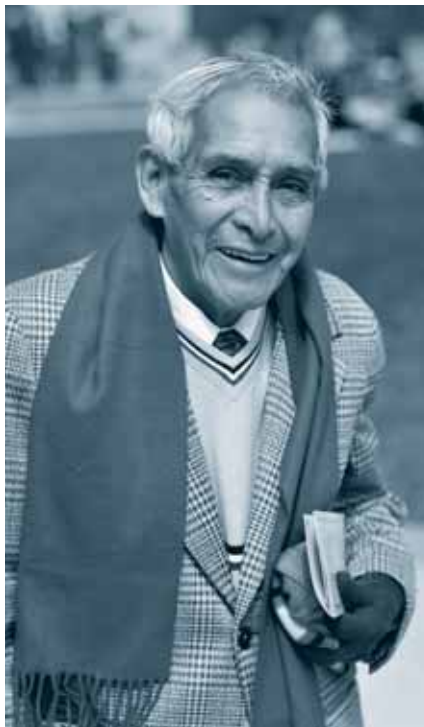
神の戒めと聖約は、天からの飛行指示のようなものであり、わたしたちを永遠の目的地まで安全に導いてくれます。わたしたちが行こうとしているのは理解を超えるほど美しく栄光に満ちた所で、努力して目指す価値のある場所です。正しい針路を進むために欠かせない修正を今行うだけの価値のある場所なのです。

天は、一度も過ちを犯したことの無い人々ではなく、針路を外れていることに気づき、福音の真理という光の中に戻るために修正を行った人々であふれていることを忘れないでください。

預言者の言葉を心に蓄えて実践すればするほど、針路をそれていることをより認識できるようになり、ほんの2、3度の誤差にも気づけるようになります。

### 針路からはるかにそれてしまったら

兄弟の皆さん、適切な針路修正を怠った結果主の道からあまりに遠く離れ、今さら元には戻れないと思っている人がいます。そのような人に、わたしたちは贖いと救いの福音という良い知らせを伝えます。どれほど大きく道からそれてしまっても、どれほど遠くまで迷い出ても、必ず戻ることができます。そして、その方法は明確です。来て、御父から学ん



でください。打ち砕かれた心と悔いる霊を犠牲としてささげてください。信仰を持ち、イエス・キリストの無限の贖いが持つ清めの力を信じてください。罪を告白し、悔い改めるならば、公平な神は御言葉どおりにわたしたちを赦し、あらゆる不義から清めてくださいます。<sup>21</sup> 「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」<sup>22</sup>

平坦な道ではないかもしれません。自制心と強い決意が求められます。しかし、行く先には言葉で表現できないほどの栄光が待っています。皆さんは悲劇的な結末を運命づけられているわけではありません。家族、ビショップ、ステーク会長、定員会指導者、ホームティーチャーなど、皆さんを心から助けたいと願っている人が大勢います。もちろん、皆さんのいちばんの友人は、全能の宇宙の創造主です。皆さんは主の神権を持っているのです。主は皆さんの悲しみと苦しみを御存じです。主と天の御父は皆さんを祝福し、慰め、力づけてくださいます。皆さんの隣を歩き、皆さんが正しい針路を進もうと努力するときに、皆さんを背負ってください。

愛する兄弟の皆さん、皆さんは確かに御父のえり抜きの尊い息子たちです。御父は皆さんに神聖な神権の力を託されました。どうか、ほんの2、3度でも針路から

それないでください。皆さんの神である主の御言葉に耳を傾けてください。そうすれば、主は皆さんにサウルと同じ祝福を与えてくださいます。新しい心を受け、新しい人に変え、いつも一緒にいてくださるでしょう。

天の御父はわたしたちを知り、愛しておられると証します。イエス・キリストは救い主であり、この教会の長であられると証します。トーマス・S・モンソン大管長は神から召された今日の預言者です。愛する友人である神権者の兄弟たちに愛と感謝を伝えます。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

### 注

1. アーサー・マーセル,  
"Mount Erebus Plane Crash,"  
<http://www.abc.net.au/rn/ockham-srazor/stories/2007/1814952.htm> 参照
2. サムエル上9:2
3. サムエル上9:17参照
4. サムエル上10:23参照
5. サムエル上9:1参照
6. サムエル上10:7参照
7. サムエル上10:9参照
8. サムエル上10:6参照
9. サムエル上11:11参照
10. サムエル上13:5
11. サムエル上13:6
12. サムエル上13:13-14
13. 教義と聖約84:26
14. 教義と聖約84:38-39参照
15. 教義と聖約82:3
16. アルマ12:12-14, 教義と聖約88:109参照
17. 教義と聖約64:34参照
18. 教義と聖約58:26-28
19. ローマ3:23
20. ヨハネ3:16
21. 1ヨハネ1:9参照
22. イザヤ1:18

# 信仰と神権の 誓詞と聖約

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

**神との聖約を守りながら、信仰をもって前進し、神が誓詞をもって交わされた約束の祝福を受けてください。**



**皆**さんが神権の誓詞と聖約の祝福にふさわしく生活していく自信を強めるよう手助けすることが、今晚のわたしの目的です。この誓詞と聖約から大いなる祝福を受けるには、自信を絶えず増し加えていかなければならないのです。

主はその祝福を明らかにしておられます。わたしたちが誓詞と聖約に伴う可能性へのふさわしさを十分に身に付けると、神のあらゆる賜物たまものの中で最も大いなる賜物、永遠の命を受けます。これがメルキゼデク神権の目的です。神権を受けるときに交わす聖約を守り、神殿の儀式において聖約を更新することにより、わたしたちはエロヒム、すなわち天の御父からその栄光のすべてを受け、御父が生きてお

られるごとくに生きようになると、誓詞によって約束されています。そして、永遠に増し加えられる約束とともに家族が永遠に結ばれるという祝福を受けます。

この祝福を受けられないと、悲惨な結果を招くこととなります。主はそのことも明らかにしておられます。若い男性がメルキゼデク神権を受ける時期に近づくと、指導者が読んで聞かせる言葉があります。皆さんも最初に聞いたときの気持ちを覚えていることでしょう。預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた救い主イエス・キリストの言葉です。

「主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。

これは神権に伴う誓詞と聖約によってである。

それゆえ、神権を受ける者は皆、わたしの父のこの誓詞と聖約を受け入れるのである。わたしの父がこれを破られることはあり得ず、またこれが取り消されることもあり得ない。

しかし、だれでもこの聖約を受け入れた後にこれを破り、これから完全に離れ

てしまう者は、この世でも来るべき世でも、罪の赦しゆるを受けることはない。

また、この神権に來ない者は皆、災いである。あなたがたはこの神権をすでに受けており、わたしは今日ここにあなたに、天からわたし自身の声によって今これを確認する。また、まことに、わたしは天の衆群とわたしの天使たちに、あなたがたに対する務めを与えた。

わたしは、今あなたがたに一つの戒めを与える。自分自身について気をつけ、永遠の命の言葉を熱心に心に留めるようにしなさい。」<sup>1</sup>

わたしが若いころに最初に聞いたときと皆さんも同じだとすれば、メルキゼデク神権を受けることは身のすくむようなチャレンジに思えます。しかし、誓詞と聖約を守らなかったり、この神権を受けようとしなかったりした場合に下される罰にひるむのではなく、自信を持つべき理由が少なくとも二つあります。誓詞と聖約を受け入れてから非常に難しいことに気づくにしる、努力しないにしる、下される罰は同じです。このため、聖なる神権を受け、心を尽くしてその聖約を守るよう努めることが間違いなく最善の方法なのです。努力しなければ、永遠の命を受ける機会を失うこととなります。努力して、さらに神の助けを受けて成し遂げれば、永遠の命を受けるのです。

誓詞と聖約にふさわしくなるために全力を尽くす、と今決意しなければならない理由、また、成し遂げられるという自信を持たなければならない理由がもう一つあります。皆さんが信仰を働かせるなら、成功できるように助け、力を与える、と神が約束しておられることです。

信仰をもって努力するときには受ける祝福を幾つか挙げてみましょう。

第1に、皆さんに誓詞と聖約が提示されたという事実は、神が皆さんの力と能力を知ったうえで皆さんを選んでくださったことの証拠です。神は霊界で皆さんとともにいたときから皆さんを御存じです。皆さんの長所を予知しておられる神は、イエス・キリストのまことの教会を見いだし神権を授かることを皆さんにお許しになり



ました。神の信頼を受けているという証拠があるのですから、皆さんは自信を持つことができます。

第2に、聖約を守ろうと努力する皆さんに、救い主は自ら助けると約束しておられます。皆さんが神権を尊んで歩むことを条件に、主はこう言われました。「わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、

わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」<sup>2</sup>

わたしも実行していることですが、自分にこの聖なる神権の務めを果たす力があることを時々再確認する必要があります。この再確認の必要性を予見しておられた主はこう言われました。「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御霊により聖められてその体が更新される。」<sup>3</sup>

自分自身の生活や人の生活の中でその約束が果たされるのを、わたしはこれまで見てきました。ある友人は伝道部会長を務めていました。任期中毎晩、次の日に働く力があるだろうかと心配しながら、2階の寝室までやっとの思いで階段を上がっていました。ところが翌日の朝を迎えると、力と気力を回復していました。年若い預言者が主イエス・キリストと回復された福音を証する度に新たに力を得ている様子を皆さんも見てきたと思います。これは信仰をもって神権の務めを果たす人々に与えられている約束なのです。

また皆さんは、証を述べる力が与えられ、証をする過程で清められ、約束された永遠の命にふさわしい者になるとも告げられています。

「わたしはあなたがたの罪を赦して、この戒めを与える……。すなわち、あなたがたは、あなたがたに知らされたこれらのことを世のすべての人に証するために、厳粛に、また祈りの精神をもって、あなたがたの思いを確固としていなさい。

あなたがたは全世界に出て行きなさい。また、あなたがたはどこでも自分の行けない所に証を送り、それがあなたがたから全世界のすべての造られたものに伝わるようにしなさい。」<sup>4</sup>

この約束とともに、主はこのように言って皆さんをたたえておられます。「……あなたがたは、父がわたしに与えてくださった者である。あなたがたはわたしの友である。」<sup>5</sup>

もう一つのすばらしい祝福は神権の聖約を守る励みとなるものです。神権者としての奉仕は、永遠の家族で生活する準備となります。奉仕していくうちに、夫や父親であること、息子であり兄弟であることの意味についての考えが変わってきます。皆さんの信仰が増し、メルキゼデク神権を通じて与えられている永遠の命の約束が自分にとって現実味を帯びてくるにつれて、そのような変化が心に生じます。

パーリー・P・プラットは預言者ジョセフ・スミスから永遠の家族の教義を初めて聞いたときに、そのような変化を経験しました。パーリー・P・プラットは、次のよう



に記しています。「わたしは〔ジョセフ〕から永遠の家族組織の概念の最初の部分を聞き、言葉にできないほどの愛に満たされた中で男女が永遠に結ばれるという教えを受けました。そのような関係をどう尊重すべきか理解できるのは、高い知性を備え、洗練された、心の清い人だけです。その関係は、幸福と呼ぶにふさわしいすべてのものの基盤となるのです。……最愛の妻とこの世においても永遠の世においても固く結ばれると教えてくれた人、互いを結びつける純粋な思いやりや愛情が神聖な永遠の愛の泉から生まれると教えてくれた人、それはジョセフでした。この愛情はさらに強めることができ、その愛情の中で永遠に進歩成長できると教えてくれたのも、二人が永遠に結ばれるので、子孫が天の星のように、海辺の砂のように数限りなく増えると教えてくれたのも、ジョセフでした。……昔から心の中には愛情がありました、その理由は知りませんでした。今や……高められた……清い心で愛することができるようになりました。神が確かにわたしの御父であられ、イエスがわたしの兄であられると感じています。また、愛する妻が永遠に変わらぬ伴侶であり、わたしを慰めてくれる思いやり深い天の使いであり、永遠の栄えある冠であると感じるようになりました。」<sup>6</sup>

信仰をもって神権の奉仕を行うことが心と思いに変化をもたらすことをわたしは目の当たりにしてきました。今日わたしの話を聞いている若い男性は、自分の神権を尊ぶことにより、この世界に蔓延している性的な罪の誘惑から守られることを確信することができます。今晚わたしの話を聞いているアロン神権者は、永遠の神権を通して受ける永遠の命という確かな報いへの信仰を強めていくに従って、神の娘たちの中に真の価値を見だし、子孫についての約束の中に清さを保たなければならない理由を見いだせるようになるでしょう。

同じように、誓詞と聖約への信仰は、永遠の家族になくはならない慈愛をはぐくんでくれます。わたしたちは、神権を受けるとき、人に心に向けることを約束します。



わたしは神権者の心に慈愛が満たされていく奇跡を見てきました。皆さんも見てきたと思いますし、教会員でない人たちも目にしてきたことでしょう。わたしがゴードン・B・シンクレア大管長の執務室にいたとき、大管長に電話がかかってきたことがありました。大管長は手短かに応答して電話を切ると、話を再開しました。そしてその電話の内容を話してくれました。電話の主は合衆国大統領でした。ワシントンに向かう途中、ユタの上空を飛ぶ大統領専用機の機内からでした。大統領はハリケーンの被災地での神権者の働きに感謝の言葉を述べ、短い間にこれだけ多くの人を集め、一致協力して働けるというのは奇跡のようだと言ったそうです。さらに大統領は、「あなたたち教会の人々は何をなすべきかを御存じです」と言って、称賛の言葉をかけてくれたそうです。

大統領は組織として大がかりに対応したことに感銘を受けたのかもしれませんが。それも奇跡ですが、何百人、何千人の神権者が神権の誓詞と聖約を信じて行動する信仰を持っていたことの方が大きな奇跡でした。よく組織化されていたことがすばらしい結果をもたらしたのではありません。彼らは神権の誓詞と聖約に対する信仰があったからこそ、大いに助けを必要

とした人々の世話をするために主イエス・キリストの代理として長い道のりを出かけて行き、長時間にわたってとどまり、苦難を乗り越えられたのです。

彼らは、神権の務めを果たすことによって、この世から永遠にわたる家族のすばらしい夫、父親、息子、兄弟となるために必要とされる、慈愛の精神と力を養っていました。地球規模の家族の兄弟姉妹として手を差し伸べる、このような神権者の奉仕の業は次から次へと行われています。

神との聖約を守りながら、信仰をもって前進し、神が誓詞をもって交わされた約束の祝福を受けることを今夜決意し、毎日その決意を新たにしよう願っています。簡単なことから始められます。定員会で兄弟たちに会ったら、神の家族の兄弟として接するのです。定員会や神権グループの中に助けを必要としている人がいることでしょう。当人はそれを気づかれないようにしているかもしれません。皆さんが見ただけでは、分からないかもしれません。けれども神は御存じであり、その人を助ける神の僕となるよう皆さんに求めておられます。

神権の奉仕活動で出会う度に「おばあさんの具合はいかがですか」と声をかけてくれる一人の神権者がいます。皆さんもこの神権者のようになることができます。わたしの知っているかぎり、彼はわたしの義理の母に会ったことがないはずですが、しかし、彼はどこからか、義理の母が病気で、高齢であることを聞いていました。神権者を通して神の御手が差し伸べられていることを知り、妻とともにどれほど慰めと安らぎを得ているか言葉に表せません。いつも聖約を心に留めて、垂れている手を上げ、重荷を背負う人々に手を差し伸べるなら、神権者として集まる度に、彼のように人々に良い影響を及ぼすことができるでしょう。そのようにして、永遠の家族の一員となるために必要とされる資質をはぐくむのです。

ほかにもできることがあります。神の御言葉を自分のためだけに学ぶのではなく、主イエス・キリストの使者として全世界に出て行くために学ぶのです。福音を教える



力が増し加わると、御父の子らを集める僕となることができます。これによってもう一つの祝福がもたらされます。この世か来るべき世で万一自分の家族の中で失われた羊を連れ戻す必要が生じたとき、今思っているよりもっと大きな力を得られる、ということです。

主はアルマ書第13章6節の中でそのすばらしい祝福について述べておられます。「このように、祭司たちは人の子らに神の戒めを教えて、彼らも神の安息に入ることができるようにするため、この聖なる召しによって召され、神の聖なる位の大神権に聖任されたのである。」

皆さんは、次の約束に基づいて、神権の務めを立派に成し遂げられるという確信を持つことができます。

「そして彼らは、聖霊によって聖められ、衣を白くされ、神の御前に清く、染みのない状態になったので、罪を見て忌み嫌う

のを禁じることができなかった。このように清められて、主なる神の安息に入った人々は大勢おり、非常に多くの数に上った。

さて、わたしの同胞よ、あなたがたもその安息に入れるように、神の御前にへりくだり、悔い改めにふさわしい実を結んでほしい。」<sup>7</sup>

父なる神が生きておられることを証します。皆さんは神と聖約を交わしています。神は一つの誓詞すなわち永遠の命の約束を与え、決して破棄されることはありません。神権は神が御子イエス・キリストを通して世界を創造された力であることを証します。神は皆さんが成功を収め、御自身とともに家族として永遠に住むためにみもとに戻って来るよう望んでおられます。この教会がイエス・キリストのまことの教会であることを証します。この教会には神権の鍵があります。神はその神権を授けることによって皆さんを尊んでおられま

す。神は皆さんの力を御存じであり、その力は大きい信仰と結びついて、皆さんと家族に永遠の命への希望をもたらすに十分なものです。わたしはこのことを皆さんに約束します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

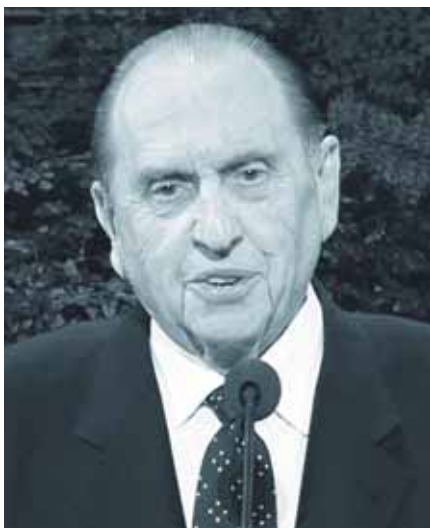
注

1. 教義と聖約84:35-43
2. 教義と聖約84:88
3. 教義と聖約84:33
4. 教義と聖約84:61-62
5. 教義と聖約84:63
6. *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1938年), 259-260.
7. アルマ13:12-13

# 義の模範

トーマス・S・モンソン大管長

わたしたちには、義の模範となるような生き方を**する義務**があります。



**今** 晩このカンファレンスセンターとほかの何千もの会場に集う兄弟の皆さんは、これまでで最も大きな神権者の集まりであると言えます。わたしたちは全世界で最も素晴らしい兄弟のきずなの中にいます。神の神権者であるということは、何と幸福で恵まれたことでしょうか。

わたしたちは靈感あふれるメッセージを聞くことにより、教えを受け、鼓舞されました。お話の準備をしていて最近感じたことや思ったことを、皆さんの信仰と祈りを受けながら、よく伝えられるよう祈っています。

神権者として、わたしたちは困難な時代に地上に生を受けました。わたしたちは衝突や対立の多い複雑な世の中に住んでいます。政治的陰謀は国家の安定を脅かし、独裁者は権力をつかむことに躍起になっています。また、一部の人々はいつ

でも虐げられ、有益な機会もないまま敗北感を味わっているように見えます。

しかし、神の神権に聖任されたわたしたちは、周りに良い影響を及ぼすことができます。主の助けを受けるにふさわしくあるなら、少年たちの人格を培い、人を癒し、主の神聖な奉仕の業において驚くべきことを成し遂げられるのです。わたしたちには限りないチャンスがあります。

わたしたちは模範となるよう求められています。今日の世で最も偉大な力は神の力であり、神の力は人を通して現れるという真理は、わたしたちを強めてくれます。兄弟たち、わたしたちは主の用向きを受けているなら、主の助けを受ける権利があります。その真理を決して忘れないでください。この神の助けは、言うまでもなく個人のふさわしさに基づいて与えられます。わたしたちは皆、こう尋ねる必要があります。「わたしの手は清いだろうか。わたしの心は純真だろうか。わたしはふさわしい主の僕しもべだろうか。」

わたしたちの周りは、徳高いものや善いものから目をそらさせるものであふれています。わたしたちを誘惑し、神権を行使するふさわしさを失わせようとするのです。わたしはアロン神権を持つ若い男性にだけ話しているわけではありません。すべての年齢層の神権者に言っているのです。誘惑は生涯を通して様々な形で訪れます。

兄弟の皆さん、わたしたちは神権に伴う神聖な務めを果たす資格を常に保っているでしょうか。若い男性の祭司の皆さん、日曜日に聖餐の台を前に聖餐という象徴を祝福するとき、皆さんの体と霊は清

いでしょうか。若い男性の教師の皆さん、聖餐の準備をするふさわしさを保っているでしょうか。執事の皆さん、教会の会員に聖餐を配るときに、自分は霊的にふさわしいと認識したうえで行っているでしょうか。皆さんは自分が果たしているすべての神聖な務めの大切さを、十分に理解しているでしょうか。

若い友である皆さん、強くあってください。わたしたちは人の哲学に取り囲まれています。今日、罪はしばしば、まるで容認されているかのような装いを見せられます。欺かれないでください。その装いの裏には、心痛、不幸、苦痛が隠されています。皆さんは何が正しく、何が間違っているかを知っています。罪がどのように偽装しようと、どんなに魅力的であろうと、悪を善に変えることはできません。本質的に背罪は背罪なのです。皆さんのいわゆる友達が明らかに間違ったことを強要しようとするなら、たとえ独り取り残されたとしても、正しいことを擁護する人になってください。周りの人が倣える模範、つまり光となるように、道徳的に正しくある勇氣を持ってください。自身の潔白な心と道徳的な清さよりも価値のある友情などありません。自分は清くふさわしいという確信をもって、与えられた務めを果たせるとするのは、何とすばらしいことでしょうか。

メルキゼデク神権者の皆さん、皆さんはふさわしくあれるように毎日、熱心に努めているでしょうか。奥さんや子供に親切を尽くし、愛を示しているでしょうか。いついかなるときも周りの人と正直に接しているでしょうか。

皆さんの中に道を踏み外してしまった人がいるなら、再び清くふさわしくなれるよう助けてくれる人がいます。ビショップや支部会長は、皆さんの身を案じ、助けたいと望んでいます。悔い改めの過程において、理解と思いやりをもって全力を尽くして助けてくれます。皆さんが再び主の御前に義をもって立てるようになるためです。

4人の大管長の顧問として仕えたN・エルドン・タナー管長のことを覚えている人も多いでしょう。タナー管長は産業界で働いていたときも、カナダ政府の要職に



あったときも、義の確固とした模範を示しました。それは私生活においても変わりませんでした。タナー管長は、次のような霊感あふれる勧告を与えました。

「福音の教えに従って生活する以上に、大きな喜びと成功をもたらすものはありません。模範になってください。良い影響を及ぼしてください。……

わたしたちは皆、[神の]選ばれた僕として、御業のために予任されてきました。神はわたしたちを、主の御名によって行動する神権と権能を授けるにふさわしい者と見なしてくださいました。皆さんに指導を仰ごうとして、人々が常に注目していることを忘れないでください。皆さんは良くも悪くも人々の生活に影響を及ぼしており、その影響は来るべき世代にも及ぶのです。」<sup>1</sup>

兄弟の皆さん、繰り返します。神の神権を持つ者として、わたしたちには、人が做すべき義の模範となるような生き方をする義務があります。そのような模範をどうすれば最もよく示せるだろうか、と考えていると、何年か前にステーキ大会に出席したときの経験を思い出しました。一般部会で、わたしはステーキセンターの最前列に家族と座っている一人の幼い少年に目が行きました。わたしは壇上に座っていました。集会が進むにつれ、わたしが足を組む度に、その少年も同じようにする

ことに気づきました。足を組み替えると、少年もまったく同じようにするのです。両手をひざの上に置くと、少年もまねをしました。あごを手の上に載せてもそうです。することをすべてまねしました。わたしが会衆に話をする番が近づくまでそれは続きました。そこでわたしは少年を試してみることになりました。少年をじっと見ると、少年はもちろんこちらを見ました。そこでわたしは、耳をぴくぴくと動かして見せたのです。少年もまねをしようと試みましたが、思ったとおりでした。うまく耳を動かせなかったのです。少年は隣に座っていた父親の方を見ると何やら耳もとでささやきました。そして自分の耳を指してから、わたしの方を指差したのです。父親がこちらに目をやりました。きっとわたしの耳が動くのを見るためでしょう。わたしは厳粛な態度で、手を組んだまま、微動だにしませんでした。父親は疑いの目で息子に視線を戻しました。少年は半ば負けを認めた様子でした。そしてわたしの方を見てにこっと笑うと、肩をすくめました。

その経験について長い間思い巡らしてきて思ったことは、わたしたちは、とりわけ幼いときには、両親や指導者、友人のまねをする傾向があるということです。預言者ブリガム・ヤングは言いました。「何事であれ、子供たちにしてほしくないと思っ

ていることを、自分がしてしまうようなことがあってはなりません。做ってほしいと思うことについては模範を示さなければなりません。」<sup>2</sup>

息子を持つ父親や、少年の指導者の皆さんは、少年が必要としている模範となるよう努めてください。父親はもちろん第一の模範となる必要があります。ふさわしい父親を持つ少年は、何と恵まれていることでしょうか。勤勉で忠実な父親と母親がいる模範的な家族であっても、心から関心を示してくれる善良な人の助けを幾らでも借りることができます。父親がいない少年もいるでしょう。また、父親が息子の必要とする模範を今は示していない場合もあるでしょう。そのような少年に主は、ビショップやアドバイザー、教師、スカウトの指導者、ホームティーチャーなど、助け手となる人々のネットワークを教会に用意してくださいました。

靈感を受けたビショップやアドバイザー、教師の影響力は、人の権力や世の富とは何の関係もありません。通常、最も影響力のある指導者とは、真理に献身することで人の心を燃やし、務めに従順であることが真の勇らしさであることを示し、いつものありきたりな出来事をすばらしい機会に一変させることで、わたしたちがそうありたいと願う人物像を示してくれるのです。

忘れてはならないのが、わたしたちの第一の模範である、救い主イエス・キリストです。その降誕は預言者たちによって預言され、天使は主の地上での務めを声高らかに宣言しました。イエスは「ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあ[りました]。』<sup>3</sup>

ヨルダンの名で知られる川でヨハネからバプテスマを受けられた主は、人々に対する務めを正式に始められました。サタンの誘惑には背を向け、御父が定められた務めには顔を向け、心を傾け、命をささげられました。何という罪のない、無私の、気高い、神聖な生涯だったことでしょうか。イエスは、働き、愛し、仕え、そして証されました。わたしたちが做すべき模範として、これ以上すばらしいものがあ

るでしょうか。今から、まさに今晚から、その模範に倣いましょう。過去の自分は、敗北感と落胆、疑い、不信心とともに永遠に捨て去りましょう。そうすれば新しい命とともに、信仰、希望、勇気、喜びが得られるのです。大きすぎる務めも、重すぎる責任もなくなります。どんな義務も重荷ではなくなります。何であろうと、できないことはなくなるのです。

何年も前に、わたしは救い主の模範に従った一人の青年について話しました。彼は人生の嵐の中にあっても、確固として忠実であり、強さとふさわしさを保ちました。勇気をもって神権の召しを尊んで大いなるものとしたのです。わたしたち一人一人に模範を示してくれました。名前はトーマス・マイケル・ウィルソン、アラバマ州ラファイエットのウィリー・ウィルソン、ジュリア・ウィルソン夫妻の息子です。

彼は、まだ10代で、彼も家族も教会員ではなかったときに、癌に侵されました。しかし、つらい放射線治療を受けて快方に向かいました。この病気以来、家族は命の尊さを知っただけでなく、命が短いこともあり得ると知りました。この試練を乗り越えようと彼らは宗教を求め始めました。やがてこの教会を知り、最終的には父親を除いて皆がバプテスマを受けました。福音を受け入れてから、若いウィルソン兄弟は、多くの若い男性が伝道を始める年齢を超えていたにもかかわらず、伝道に出たいと望むようになりました。そして23歳のとき、ユタ州ソルトレーク・シティー伝道部で宣教師として働く召しを受けたのです。

ウィルソン長老の当時の同僚は、彼が疑いを知らず、揺るがず、曲がることのない信仰を持っていたと言います。ウィルソン長老はすべての人の模範でした。しかし、伝道に出て11か月後、病気が再発しました。骨肉腫の癌に侵された彼は、片腕を肩から切断しました。それでもなお伝道を続けました。

ウィルソン長老の勇気と伝道にかける熱意は、まだ教会員ではなかった父親の心を動かしました。その結果、父親も教会の教えを学び、教会員になったのです。



わたしは、ウィルソン長老から教えを受けた求道者がバプテスマを受けたということを知りました。彼女はその後で、心から尊敬するウィルソン長老に教会員として確認されることを望んだそうです。何人かと一緒にウィルソン長老が入院している病院へ行きました。ウィルソン長老は残った片方の手を彼女の頭に置き、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として確認したのです。

ウィルソン長老は、それから何か月にも

わたって、苦痛にさいなまれながらも、宣教師としての貴い働きを続けました。病人への癒しの祝福が施され、多くの人々が彼のために祈りました。彼の献身的な模範により、仲間の宣教師たちもいっそう神に近い生活を送っていました。

ウィルソン長老の体は衰弱していきました。伝道期間が終わりに近づき、帰還の日を目前に控えたとき、「もう1か月伝道したい」とウィルソン長老は願い出、その申請は許可されました。ウィルソン長老は神

# 御父の信仰

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

**真の宗教は人を喜ばせる事柄や先祖の伝統からではなく、永遠の父なる神を喜ばせる事柄から生じるのです。**

を信頼しました。トーマス・マイケル・ウィルソンが静かに信頼を置いたこの神は、天の窓を開いてあふれる祝福を注いでくださいました。両親のウィリー・ウィルソン兄弟とジュリア・ウィルソン姉妹、それに弟のトニーが、アラバマ州に帰るのを助けるためにソルトレーク・シティーまでやって来ました。しかし、この家族が祈り願った祝福がもう一つありました。わたしは家族の招きを受けて、一緒にユタ州ジョーダンリバー神殿へ行きました。そこでこの世から来世にわたって家族を結び固める神聖な儀式が執り行われたのです。

わたしはウィルソン家族に別れを告げました。長老はわたしが儀式に加わったことに感謝して、こう言いました。「イエス・キリストの福音があって、それに従っているかぎり、この世でどのようなことが起きても問題ではありません。福音を教えることさえできれば、幕のこちら側であろうと向こう側であろうと問題ではないのです。」何という勇気、何という自信、何という愛でしょう。こうしてウィルソン家族はラファイエットへの長い帰路に就き、トーマス・マイケル・ウィルソン長老は故郷から永遠の世に旅立ちました。彼は宣教師の名札を付けたまま、葬られました。

兄弟の皆さん、この神権部会から家路に就くとき、チャンスに満ちたこの時代に備える決心をしましょう。奉仕を行い、人々の生活を祝福し、魂の救いの一端を担うという特権にあずかることで、神権を尊ぶ決意をしましょう。皆さんは「選ばれた世代、王国の神権者、聖なる国民」<sup>4</sup>であり、周りに良い影響を及ぼすことができるのです。これらの真理を、救い主イエス・キリストの御名を通して証します、アーメン。

注

1. 「彼らは神のほまれよりも人のほまれを好んだからである」『聖徒の道』1976年2月号、106参照
2. *Deseret News*, 1871年6月21日付、235
3. ルカ2:40
4. 欽定訳1ペテロ2:9から和訳



タ バナクル合唱団の美しい音楽によって、わたしたちはどれほど祝福されているでしょう。

愛する兄弟姉妹、友人の皆さん、本日皆さんとともに立ち、自分を末日聖徒イエス・キリスト教会の一會員と呼べる大いなる特権を頂き、皆さんの中の一人に数えられることをうれしく思います。

この教会の大管長会の新しい一員として奉仕する、この神聖な召しを主から頂いたときの最初の気持ちを覚えています。喜びに感じながらも圧倒される思いでした。以来わたしは、謙遜、感謝、信仰という言葉の新しい側面を学んでいます。

わたしの子供や孫たちほど、わたしの召しに驚いた人はほかにいなかったでしょう。

末日聖徒イエス・キリスト教会では、霊感された神権指導者を通して神から与えられる召しを、自分から求めたり、拒んだ

りすることはありません。わたしは、神の御心と目的に従ってこの神聖な召しを尊んで大いなるものとできるよう、神が力と理解する心をわたしに与えてくださるよう祈っています。

わたしたちは皆、ゴードン・B・シンクレ一大管長がここにいないのを寂しく思っています。大管長がこの偉大な業に与えた影響力は、わたしたちをこれからも祝福してくれるでしょう。

モンソン大管長のそばで働くことを大きな特権に感じています。何年も前から彼を知っています。驚くべき賜物と才能を備えた人で、神の預言者です。彼の信仰と愛に満ちた心は、すべての国民、国語の民、民族に及んでいます。

また、神の王国の偉大な指導者、教師として愛し尊敬するアイリング管長とともに奉仕できることに感謝しています。

十二使徒定員会がソルトレーク神殿の上の部屋に集まり、モンソン大管長を第16代大管長として支持したとき、一緒にいた人々のたぐいまれな能力と知恵、靈性に驚嘆しました。そして自分自身の至らなさがいっそうはっきりと分かりました。わたしは、偉大な信仰を持つこのすばらしい人々を愛しています。手を挙げて、彼らを支持し、支えることを聖約する機会に感謝しています。また、十二使徒定員会に新たに加わったクリストファーソン長老を心から愛し、支持します。

主がフレデリック・G・ウィリアムズを預言者ジョセフ・スミスの顧問に召されたとき、主は彼にこう命じられました。「忠実でありなさい。わたしがあなたを任命し

た職において務めなさい。弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強めなさい。」<sup>1</sup> この勧告は神の王国で奉仕する召しを受けるすべての人に、また人生のこの時期にあるわたしには特に当てはまります。

### 神の預言者、わたしたちの大管長

トーマス・S・モンソン大管長について少し述べたいと思います。数年前、モンソン大管長がドイツ・ハンブルクで開かれた地域大会へ出席した折、わたしは大管長に同行する特権を得ました。大管長は優れた記憶力の持ち主で、二人でドイツのたくさんの方の聖徒たちについて話しました。大管長が多くの人のことをよく覚えているのには驚かされました。

モンソン大管長は、ステーキ会長と祝福師を歴任した、ドイツの教会のたくましい開拓者の一人ミヒャエル・パニツェ兄弟について尋ねました。わたしは大管長に、パニツェ兄弟は重病で寝たきりなので、集会に出席することはできないことを伝えました。

モンソン大管長は彼を見舞うことができるかと尋ねました。

モンソン大管長はハンブルクに来る少し前に足の手術を受けていました。歩くと痛むことを知っていたわたしは、パニツェ兄弟はエレベーターのないビルの5階に住んでいると説明しました。彼に会うには階段を上ることになります。

しかし、大管長がぜひにと言うので、わたしたちは出かけました。

モンソン大管長にとって、あの階段を上るのは非常に大変なことでした。2、3段上るごとに休まなければなりませんでしたが、一言も不平を言わず、引き返そうともしませんでした。そのビルは天井が高く、階段は果てしなく続いているかのように思えました。しかし、大管長は心楽しく辛抱して、5階のパニツェ兄弟の部屋にたどり着きました。

そのあと、すばらしい会話をすることができました。モンソン大管長はパニツェ兄弟の献身的な奉仕の生涯に感謝を述べ、ほほえみで彼を励ました。帰る



前に、大管長はすばらしい神権の祝福を授けました。

その勇気と深い思いやりの行為を目にしたのは、パニツェ兄弟と彼の家族とわたしだけでした。

モンソン大管長はたくさんの長い集会の合間に、休むこともできました。ハンブルクの美しい景色を眺めたいと言うことも

できました。しかし街のすべての風景の中で、彼が訪ねたいと思ったのは、忠実に謙遜に主に仕え、今では弱々しい病人となった一人の教会員でした。それは何と驚くべきことであっただろうと、わたしは度々思ってきました。

モンソン大管長がハンブルクを訪れたのは一国の民を教え、祝福するためでし

た。大管長はそのとおり行いました。しかし同時に、一人一人にも心を向けました。大管長は世界に広がる教会の複雑さを理解するための大きなビジョンと、個人に焦点を当てる憐れみ深さを兼ね備えているのです。

使徒ペテロは友人であり教師であるイエスについて、次のような平易な言葉で表しました。「〔主は〕よい働きをしながら……巡回されました。」<sup>2</sup>

神の預言者として今日わたしたちが支持した人についても、同じことが言えるのです。

### いにしえの聖徒の信仰

わたしは教会員には様々な背景があることに驚きを覚えます。皆さんはあらゆる生活、文化、言語、政治状況、宗教的伝統を受け継いでいます。

そのような多様性を見るとき、わたしは「いにしえの聖徒の」という賛美歌のメッセージについて考えます。折り返しでは、次の言葉が繰り返されます。「その聖き信仰われらも従わん」<sup>3</sup>

「いにしえの聖徒の信仰」という言葉が大好きです。

多くの教会員はこの歌詞を聞くと、心地よい家を捨て、グレートソルトレーク盆地まで幌馬車や徒歩で旅をした勇敢な開拓者たちを思い浮かべます。そのような教会初期の開拓者たちの信仰と勇気をわたしは愛し尊敬しています。わたしの先祖は当時海の向こうに住んでいました。わたしの先祖はだれ一人、ノーブーやウィンタークォーターズに住むことも、平原を横断することもありませんでした。しかし、教会員としてわたしは、開拓者の遺産を自分のものとして感謝し、誇りに思っています。

同じように、教会の現代の開拓者の遺産も自分のものとして喜んでいきます。どの国の開拓者にも、忍耐と信仰と犠牲の物語があり、それらは、この神の王国の末日の賛美歌に、栄光に満ちた新しい節を付け加えています。

わたしの家族が「いにしえの聖徒の信仰」という言葉について考えるときに度々思い浮かぶのはルター派の信仰です。何



世代にもわたって、わたしたちの先祖はその宗派に属してきました。実は、息子が最近、我が家の家系をたどるとマルチン・ルターに至ることを発見しました。

わたしたちはあらゆる宗教の誠実な人々、時代や場所を問わず、たとえ完全な福音がなくとも、神を愛してきた人々に敬意と尊敬の念を抱いています。彼らの無私の精神と勇気に対して、声を上げて感謝します。彼らは天の御父の子供たちであり、わたしたちの兄弟姉妹なのです。

わたしたちは、「自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する」ことは基本的な人権であると信じ、「すべての人に同じ特権を認め……彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げ」<sup>4</sup> ません。

### いにしえの聖徒の信仰と伝統は数多くありますか？

回復されたイエス・キリスト教会が地球全体に広がり、会員数が1,300万人を超えるにつれて、「いにしえの聖徒の信仰」の意味も広がっています。人によって、それは何百もあるキリスト教派の一つに属し

た家族の受け継ぎを指すかもしれませんし、中東やアジア、アフリカの信仰や伝統を指すかもしれません。

わたしは生涯の大半を、末日聖徒がとても少ない地域で過ごしてきました。その間に分かったのは、回復された福音を知ると人々はしばしば感動し、教会に入りたいとさえ思う人がたくさんいることです。しかし、彼らは先祖を失望させたくないと考え、いにしえの先祖の信仰に忠誠を尽くすべきだと感じるのです。

わたしがまだ若かったころ、ある日曜日に、集会所に見慣れない家族がいるのに気づきました。若い母親と二人の娘です。程なくして、3人はバプテスマを受け、教会員になりました。

わたしは彼らの改宗談をよく知っています。上の娘の名前はハリエットといて、後にわたしの妻になったからです。

ハリエットの母親のカーメンは夫を亡くしたばかりでした。そして、自分について思い巡らしていたときに、末日聖徒イエス・キリスト教会に関心を持ったのです。教義を学んだ後、カーメンと娘たちは教会が真実であると分かり、バプテスマの計画を立てました。

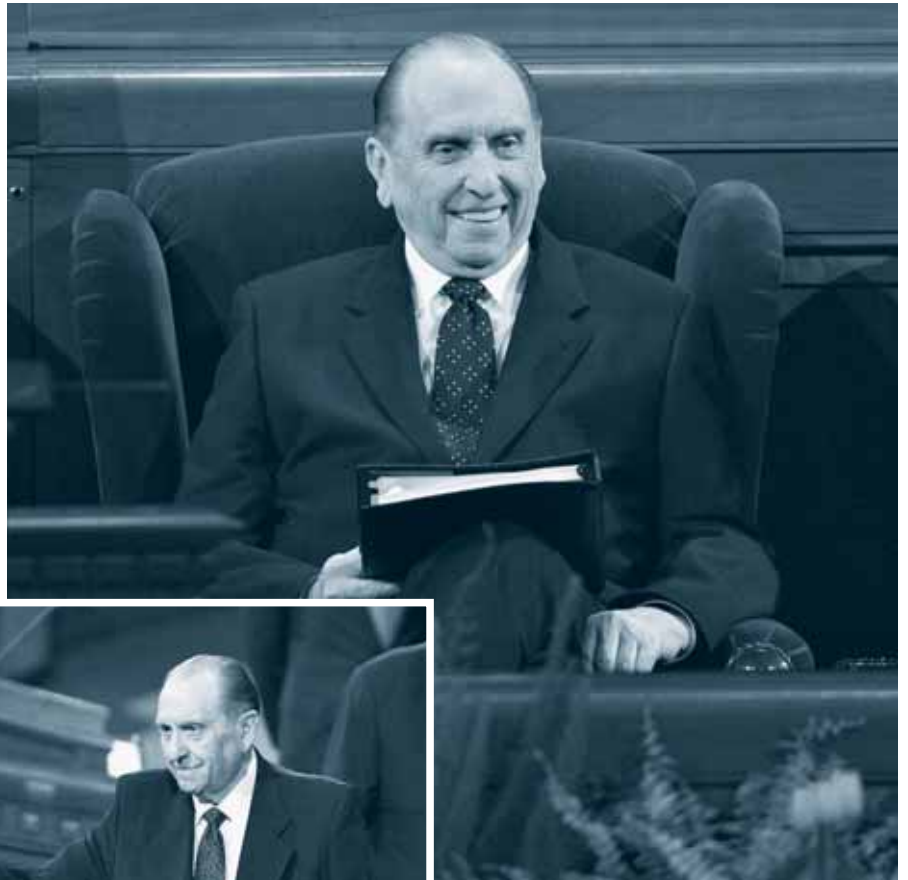
しかし、カーメンがこの決意を母親に話すと、母親は驚いてこう言いました。「どうしてそんな、先祖の信仰を裏切るようなことをするの。」

反対したのはカーメンの母親だけではありません。意志の強い彼女の姉リサもその話を聞くと同じように心配しました。心配という言葉は柔らかすぎるでしょう。姉のリサはひどく怒ったのです。

リサは若い宣教師たちを見つけて、彼らの間違いを指摘してやると言いました。教会に乗り込み、宣教師を見つけ、そしてご想像のとおり、彼女もバプテスマを受けました。

何年も過ぎた後、カーメンの母親もイエス・キリストの福音が地上に回復されたという証を得ました。ある日、彼女は娘や孫たちに「わたしもみんなと同じ天国へ行きたい」と言いました。70代半ばだった彼女も、バプテスマの水に入り、教会員になりました。





最上段——土曜午前の部会で教会の第16代大管長として支持されたトーマス・S・モンソン大管長。

上——その後の部会の閉会后、手を振って別れのあいさつをする大管長。

右——十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老にほほえみかけるモンソン大管長。

# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 大管長会

2008年4月現在



第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング



大管長  
トーマス・S・モンソン



第二顧問  
ティーター・F・ウークトドルフ



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストフアーソン

## 七十人会長会



アール・C・ギブナー



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラスバンド



クラーク・G・ケイン



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・コンガレス



L・ホイットニー・グリーン

七十人第一定員会



マルコス・A・アイトカイチス



カーロス・H・アームド



デビッド・S・バウスター



シェーン・M・ボーン



ジェイコブ・M・コルコー



シエルド・F・チャイルド



クレイグ・C・クリステンセン



ゲージョー・J・コールマン



スペンサー・J・コンディー



ローレンス・E・コーブリッジ



ベンハミン・T・ゴス



ブライアン・B・ディクワン



チャールズ・E・ディアーツ



デビッド・F・エハルツ



エリック・B・ファラヘ



エドワード・B・ガブレイス



カルロス・A・ゴットシュ



クレイグ・A・ゴートルズ



C・スコット・クローン



ブルース・C・ペフェン



ドナルド・L・ボールストロム



ジェームズ・J・ハラ



キース・K・ヒルビツク



リチャード・G・ヒンクレ



ジェームズ・E・ジェンセン



マーティン・K・ジェンセン



ダニエル・L・ジョンソン



ケネス・ジョンソン



ポール・V・ジョンソン



菊地良彦



ポール・E・コーリカー



エリック・W・コビシヨカ



ジョン・M・マドソン



リチャード・J・メインズ



リン・A・ミケルソン



マーカス・B・ナツシュ



デニス・B・マヘンコフ



グレン・L・ペイス



アラン・F・パッカー



ケビン・W・ピアントニ



高 元龍



ジェラルド・N・ランド



ロバート・W・マスコ



ロバート・C・オークス



マービン・B・アーノルド



ダグラス・L・カリスター



タッド・R・カリスター



クレイグ・A・カードン



ジェームズ・D・クリステンセン



ドン・R・クラーク



ジェームズ・M・ダン



ロバート・E・エドワーズ



スタンレー・G・エリス



タレル・H・ガン



タレル・W・キッペン



スベンサー・V・ジョンソン



ロバート・W・オークス



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ウィリアム・W・ハートマン



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ロバート・M・スローン



ロバート・R・ストート



ロバート・K・ジブラク



ロバート・D・ウントン



ロバート・S・ウッド

管理ビショップリック

第一顧問  
リチャード・C・エッシャー

管理ビショップ  
H・デビッド・ハートン

第二顧問  
ジェームズ・B・マクスミル

七十人第二定員会



クレイグ・A・カードン



タッド・R・カリスター



ダグラス・L・カリスター



マービン・B・アーノルド



ジェームズ・D・クリステンセン



ブルース・C・ペフェン



C・スコット・クローン



ゲージョー・J・コールマン



クレイグ・A・ゴートルズ



ローレンス・E・コーブリッジ



スペンサー・J・コンディー



ポール・V・ジョンソン



菊地良彦



スタンレー・G・エリス



タレル・H・ガン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



スタンレー・G・エリス



タレル・H・ガン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



タレル・W・キッペン



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・W・マスコ



ロバート・M・スローン



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・W・ハートマン



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



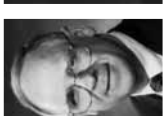
ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ウィリアム・H・ボル



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン



ロバート・D・ウントン







## 御父の信仰

では、先祖の信仰とは何でしょうか。それは両親や祖父母、曾祖父母が信じた宗教のことでしょうか。

では、はるか昔の先祖の信仰についてはどうでしょうか。アブラハム、イサク、ヤコブについてはどうでしょうか。彼らはわたしたちの先祖ではないでしょうか。わたしたちはイスラエルの家に属するのではないのでしょうか。ノアやエノク、最初の両親アダムとエバについてはどうでしょうか。

救い主と主に従った弟子たちについてはどうでしょうか。

天の御父の信仰は時の初めから、まさに創世の前から不変です。黙示者ヨハネは天で起きた大きな戦いについて述べています。<sup>5</sup> 争点となったのは、今日と同様、選択の自由でした。この地上に生を受けた人は皆、サタンと戦い、御父と御子を支持した人々です。ですから、わたしたちは、わたしたちの天の父なる神に忠誠を尽くす義務があるのではないのでしょうか。

イエス・キリスト教会の会員として、「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じ」<sup>6</sup> ています。また、「キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じ」<sup>7</sup> ています。わたしたちは偉大な幸福の計画、贖いの計画、救いの計画を信じています。この計画により神の子

供たちは死すべき状態を経験し、御父のみもとに帰るのです。これは創世の前から用意されている、憐れみ深い計画です。

これこそ御父の計画であり信仰なのです。

わたしはイエス・キリストの回復された福音の教義こそが、天の御父の信仰であると証します。それは、父祖アダム時代から現代に至るまで、主の僕である預言者たちに啓示された主の真理です。御父と御子は、決して再び取り去られることのない御父の信仰をこの地上に回復するために、ジョセフ・スミスに御姿を現されました。神は、生い立ち、文化、伝統の違いにかかわらず、すべての子供たちがそれを受けよう望んでおられます。真の宗教は人を喜ばせる事柄や先祖の伝統からではなく、永遠の父なる神を喜ばせる事柄から生じるべきものなのです。

絶えざる啓示は、この宗教の根本的な特色です。ジョセフ・スミスの最初の祈りはこの原則を力強く証しています。啓示とは、天の御父の御心と信仰に常に忠実であるよう導くために絶えず働く羅針盤です。

天の御父はその子供たちを愛しておられます。すべての国民、国語の民、民族の謙遜な心からの祈りを聞いておられます。御父を求め、敬い、戒めを進んで守る人々に光を与えてくださいます。御父の信

仰が今日も地上にあることをわたしたちは喜びをもって宣言します。

この美しい地球に住むすべての人にお勧めします。御父の教義を味わい、それが甘いもの、良いもの、貴重なものでないか確かめてください。誠実な心を持つ人々に教義を学び、それが真実でないか天の御父に尋ねていただきたいのです。そうすることにより、すべての人は御父の真実の信仰を見だし、受け入れ、従うことができ、その信仰により彼らは癒されるでしょう。<sup>8</sup>

それが世界の人々へのわたしたちのメッセージです。

父なる神と御子イエス・キリスト、聖霊が実在すること、また、ジョセフ・スミスから今日のトーマス・S・モンソンに至るまで、鍵を持つ生ける預言者が途切れることなく続いていることを厳粛に証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

## 注

1. 教義と聖約81：5
2. 使徒10：38
3. 『賛美歌』42番
4. 信仰簡条1：11
5. 黙示12：7-9参照
6. 信仰簡条1：1
7. 信仰簡条1：3
8. マタイ9：22参照

# 再び生まれる

十二使徒定員会

D・トッド・クリストファーソン長老

**霊的に再び生まれることは、イエス・キリストを信じる信仰を持つことから始まり、わたしたちはキリストの恵みによって変わります。**



15年前、支持されたばかりの新しい七十人として、初めてタバナクルの壇上に立ちました。当時48歳で、髪もまだ濃くげ茶色でした。わたしは自分の力不足を痛感しているつもりでした。5分間の話の後、シャツは汗でびしょりでした。すべてが大変な経験でした。しかし、今と比べれば、まだ気楽なものだったと思います。

ディーター・F・ワークトルフ管長とデビッド・A・ベドナー長老が十二使徒定員会の会員として初めて支持されたとき、それが神からの召しであるという<sup>あかし</sup>証を部会の中で得ました。またそのとき、この召しの並外れた神聖さと主イエス・キリストの使徒として奉仕<sup>みたま</sup>する<sup>みたま</sup>ことの意味を理解しました。それは御霊から霊に、言葉によらずに伝えられたため、そのときの理解を言葉で表すことはできません。そのことを思うと、かつてないほど低くへりくだった

気持ちにさせられます。これまでと同様に御父の支えを受け、自分の能力をはるかに超えるこの責任にふさわしくなるよう、また周りの人に目を向け、皆さんに仕えることに専心できるよう天の御父に嘆願します。わたしは御父を信頼しています。御父の恵みは十分です。ですから、わたしはためらうことなく、持てるすべてと自分自身を神と愛する御子にささげる決意です。また、大管長会と十二使徒定員会の兄弟たちに、わたし自身、わたしの忠誠心と奉仕と愛をささげます。

13歳のときに愛する祖父から受けた祝福師の祝福にはこうあります。「あなたは、善良で義にかなった両親が交わした新しくかつ永遠の聖約の下に生まれるために、最後の栄えある神権時代に〔天の御父によって〕送られたのです。」これが人生のあらゆる祝福の土台となっていることに心の底から感謝します。両親に敬意を表し、これまでたくさんの恩を受けてきたことを、両親と祖父母、先祖に愛をもって伝えます。七十人に召されてすぐ、わたしが生まれるずっと前に亡くなった先祖の墓の前に立つ機会がありました。回復されたイエス・キリストの福音を受け入れたために、この先祖や家族が払った犠牲について深く考えると、あふれるばかりの感謝の念に満たされ、彼らの犠牲や、彼らの後で同じように神と福音の聖約に忠実だった先祖の犠牲を忘れまいと固く決意しました。

また、今日<sup>きょう</sup>この場に集っているわたしの兄弟とその伴侶も、わたしにとって祝福です。妻とわたしは4人の息子と1人の娘

がいますが、皆すばらしい伴侶と結ばれ、末の息子も間もなくすばらしい女性と結婚する予定です。わたしたちは子供や孫たちを愛し、救い主と主の福音に忠実であることを感謝しています。彼らの忠実さは、わたしたちの人生を大いに祝福しています。最も大いなる祝福である妻のキャシーは、すばらしい主婦であり、わたしの人生の光です。堅実で賢い伴侶であり、霊的洞察に優れ、すばらしいユーモアを持ち、善意と慈愛に満ちています。言葉では表せないほど愛しています。また、これからの歳月の中で、これまで以上にしっかりと愛を示すことができればと思います。

若いころ、卓越した二人の伝道部長、ロナルド・V・ストーン会長とリチャード・G・スコット会長、またそれぞれの伴侶であるバトリシア姉妹とジーニー姉妹のもとで専任宣教師としてアルゼンチンで奉仕できたことは祝福でした。伝道後も続いた彼らの影響力を神に感謝しています。法科大学院を卒業後、わたしとキャシー、そして子供たちは、メリーランド州、テネシー州、バージニア州、ノースカロライナ州、そして現在はユタ州へと移り住みました。メキシコで特別な3年間を過ごしたこともあります。そのすべての場所において、わたしたちは教会の内外を問わず、すばらしい友人たちに恵まれてきました。彼らは、わたしたち夫婦と子供たちに愛を示し、教え、親交を深めてくれ、その友情は今も続いています。彼らすべてに、この場を借りて感謝を伝えます。

七十人の兄弟たちと管理ビショップリックへの愛と感謝は計り知れませんが、引き続き奉仕することで、彼らと近くあれることをうれしく思います。ともに働く機会は度々あることでしょう。主の末日の業における歴史の中で、教会に七十人を置くと定めた現代の啓示は、最も深遠で、最も見過ごしにされがちな奇跡の一つです。七十人は、現在と将来における業の成功の<sup>かぎ</sup>鍵であり、この定員会の一員として奉仕できたことを心から誇りに思います。皆さんのうえに神の祝福がありますように。

わたしは、神の御子であるイエス・キリストと、その無限の<sup>あかひ</sup>贖いの犠牲による力に

ついて証したいと願っています。証をするに当たり、テネシーに住んでいたころの経験を紹介します。ある晩、一人の男性から自宅に電話がかかってきました。面識のないこの男性は、自分はある宗派の牧師を最近退任したばかりだと言いました。そして、次の日曜日にわたしと会いたいと言うのです。面会すると、「あなたの魂の救いに関心があればこそ、こうして出かけて来ました」と率直に告げられました。彼は書類かばんから新約聖書の聖句を集めた長いリストを取り出しました。そして、「一緒にこの聖句を勉強して、あなたの救いのお手伝いができればと考えています」と言うのです。わたしはその率直さに多少驚きましたが、彼の誠実さがよく伝わり、心から関心を寄せてくれていることに感動しました。

わたしたちは1時間以上話し合いました。彼も心を開いて、わたしが自分の信仰について説明するのを聞き、また彼にとってはなじみのないモルモン書に書かれている教えを幾つか一緒に読みました。そして、互いの信仰には共通点が多々あること、また相違点も若干あることが分かりました。わたしたちは友情を感じ、彼が我が家を去る前には、一緒に祈りをささげました。今も心に残っているのは、「再び生まれる」ということについて話し合ったことです。わたしがこれから証するのは、イエス・キリストにより霊的に再び生まれるということです。

神の王国に入るためには新しく生まれなければならない、すなわち、水と霊とから生まれなければならない、と言われたのは主御自身でした(ヨハネ3:3-5参照)。肉体的にも霊的にもバプテスマを受けなければならないと言われた主の教えから、この再び生まれるという変化、つまり生まれながらの人から聖徒に変わるためには、わたしたち自身の行いと、神聖な力が間に入ることの両方が必要であると知ることができます(モーサヤ3:19参照)。パウロは新しく生まれることを次のような簡潔な聖句で表現しています。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。」(2コリント5:17。ローマ6:



3-6も参照)

モルモン書の中から二つの例を考えてみましょう。キリスト降誕の約1世紀前に、ベニヤミン王は救い主の降臨と贖罪しよくざいについて民に教えました。主の御霊が民に大きな変化を生じさせたために、民は「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように」になりました(モーサヤ5:2)。民は、キリストを信じる信仰により次のように言いました。「わたしたちは、残りの全生涯、神の御心みこころを行い、……神の戒めに従うという聖約を交わします。」(モーサヤ5:5、強調付加)それに対して王はこうこたえます。「あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日こんにちキリストが霊的にあなたがたを子としてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名みなを信じて心が改まったと言う。」(モーサヤ5:7。教義と聖約76:24も参照)

アルマの話からも多くを学ぶことができます。アルマは仲間とキリストの教会を滅ぼそうと画策していたとき、一人の天使から叱責しっせきされます。その後の3日3晩にわ

たる状態をアルマは次のように描写しています。「永遠の苦痛に責めさいなまれた。…まことに、わたしは自分のあらゆる罪と不義を思い出し、そのために地獄の苦しみを味わった。」(アルマ36:12-13)こうして、アルマが言うように「死ぬほどの悔い改めをした」ところ(モーサヤ27:28)、イエス・キリストとその贖罪に関する麗しい教えを思い出し、アルマはこう嘆願します。「おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れあわんでください。」(アルマ36:18)

赦しゆるがもたらされ、アルマは立ち上がり、人前でこう告白します。「わたしは自分の罪を悔い改め、主に贖われました。

まことに、わたしは御霊によって生まれました。主はわたしに言われました。『全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。』

このようにして、彼らは新たな者となる。』(モーサヤ27:24-26)

この二つの事例やほかの聖句について考えると、霊的に再び生まれることは、イエス・キリストを信じる信仰を持つことから始まり、わたしたちはキリストの恵みによって変わることがはっきりと分かります。さらに明確に言うなら、それは贖いの主であるキリスト、すなわち罪を清め、聖なる者とする力をお持ちの贖い主を信じる信仰なのです(モーサヤ4:2-3参照)。

この真の信仰が心に根付き始めるとき、人は必然的に悔い改めへと導かれます。アミュレクは、救い主の犠牲は「その御名を信じるすべての人に救いをもたらす」。この最後の犠牲の目的は、憐れみの心を



成し遂げることであり、この憐れみは正義に打ち勝ち、また人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設ける」と教えました(アルマ34:15、強調付加)。

しかしながら、悔い改めを完全なものとするためには、従順になることを聖約する必要があります。ベニヤミンの民が言う「神の御心を行い、……神の戒めに従う」という聖約です(モーサヤ5:5)。その聖約を交わす証拠として、水によるバプテスマを受けます(モーサヤ18:10参照)。これは時に、聖文の中で「悔い改めのバプテスマ」あるいは「悔い改めに至るバプテスマ」と呼ばれているもので、わたしたちの悔い改めの最終段階、および最高点に当たるものです(例として、使徒19:4;アルマ7:14;9:27;教義と聖約107:20参照)。

その後、主は約束のように「火と聖霊による」バプテスマをわたしたちに施してください(3ニーファイ9:20)。ニーファイはそれを次のように表現しています。「あなたがたが入らなければならない門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しが与えられる。」(2ニーファイ31:17)<sup>1</sup> このように、「人を救う力を備えておられる

この御方の功德に」頼るなら(2ニーファイ31:19)、わたしたちは「内なる人において生かされた者」となり(モーセ6:65)、まだ十分に再び生まれていないのであれば、霊的再生の道に確実に戻るのです。

主は注意するようわたしたちに警告しておられます。「人が恵みから落ち[る]こともあり得る」からです(教義と聖約20:32)。聖められた人であっても同じです(32-34節参照)。ニーファイが勧告したように、「あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31:20)

皆さんは、こう尋ねるかもしれません。「なぜその大きな変化はもっと早くわたしに起きないのでしょうか。」ベニヤミン王の民やアルマ、聖文に登場するほかの人々の目覚ましい例もありますが、それは驚くべきことであり、すべてがそうではありません。<sup>2</sup> 多くの人にとって、その変化は少しずつ時間をかけて起こります。再び生まれるとは、肉体的な誕生とは異なり、

一つの出来事ではなく一連の過程です。その過程を踏むことが、現世における最も大切な目的なのです。

また同時に、いいかげんな努力を正当化しないようにしましょう。悪を行おうという性癖をいささかでも持つことのないようにしましょう。毎週、聖餐を頂くにふさわしい者となり、心の中に汚れた部分が少しでもあるなら根絶できるよう引き続き聖霊に頼りましょう。霊的に再び生まれるという道を歩み続けるときに、イエス・キリストの贖いの恵みが皆さんの罪と罪の汚れを取り去り、誘惑はその力を失うことを証します。そしてキリストにより、皆さんはキリストや御父が聖なる御方であられるように、聖くなることができると証します。

わたしはイエス・キリストが生きておられ、復活された神の御子であることを知っています。

「また、[わたしは]知っている。すなわち、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みによる義認は、正しく、かつ真実である。

[わたしは]また知っている。すなわち、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みによる聖めは、神を愛し、勢力と思いと力を尽くして神に仕えるすべての人にとって、正しく、かつ真実である。」(教義と聖約20:30-31。モロナイ10:32-33も参照)

わたしは人生を通じて、これからもキリストとキリストの良い知らせを全世界に宣言できることをうれしく思います。神が実在し、わたしたちを愛しておられることを証します。イエスは天の御父にすべての栄光を帰されました。ジョセフ・スミスを愛しています。またジョセフ・スミスが預言者であったことを証します。ジョセフは主と親しく交わり、モルモン書を翻訳、出版し、殉教の血によって自身の証を結び固めました。ジョセフ・スミスは、聖なる贖い主であるイエスの真の特質を伝える卓越した啓示者となりました。ジョセフ・スミスほどイエスに対する偉大な証人、友としてイエスに献身した人はいません。トーマス・S・モンソン大管長がこの時代の預言者であり、イエス・キリストの教会の大管長



であることを証します。大管長会に託された神聖な務めにおいて、大管長と二人の顧問に忠誠を誓います。神の祝福がわたしたちすべての者のうえにありますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 神は時の初めからアダムにこのことを教えられた。神はアダムにこう言われた。「あなたがたは水と血と、わたしが造った霊とによってこの世に生まれ、ちりから生けるものとなったので、まことにあなたがたは、水と御霊によって再び天の王国に生まれ、血によって、すなわちわたしの独り子の血によって清くされなければならない。それは、あなたがたがすべての罪から聖められ(る)ためである。それは、あなたがたが水によって戒めを守り、御霊によって義とされ、血によって聖められるからである。」(モーセ6:59-60)言い換えれば、水による悔い改めのバプテスマは、御霊によるバプテスマにつながるのである。御霊はキリストの血によって象徴されるキリストの贖いの恵みをもたらし、わたしたちの罪を義とし(または、赦し)、わたしたちを罪の影響から聖め(つまり清め)、神の御前に汚れない、聖い者とするのである。

聖文には次のように記録されている。「アダムは主に叫び求めました。すると、彼は主の御霊に連れ去られ、水の中に運ばれ、水に沈められ、そして水から連れ出されました。このようにして、彼はバプテスマを受け、神の御霊が彼に降りました。このようにして、彼は御霊によって生まれ、内なる人において生かされた者となったのです。そして、彼は天からの声が告げられるのを聞きました。「あなたは火と聖霊によってバプテスマを受けた。……見よ、あなたはわたしにあって一つであり、神の子である。このようにして、すべての者はわたしの子となることができるのである。」(モーセ6:64-66, 68)

2. エズラ・タフト・ベンソン「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月号, 7参照

# 最高の投資

七十人

シェルドン・F・チャイルド長老

いつも正直に<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を払うなら、主は祝福して下さいます。それは人にできる最高の投資です。



子供のころ、近所に乳牛を飼っている人がいました。そのうちの1頭が生まれたばかりの子牛を残して死んだとき、わたしはその子牛をもらいました。わたしは子牛の世話をし、えさをやって育てました。父がその牛を売りに家畜取引所に連れて行った日は複雑な気持ちでした。その牛に愛着を感じようになっていたと同時に、自分が働いた報酬を得ることも楽しみだったのです。牛の代金は銀貨で欲しいと伝えました。その晩、帰宅した父がわたしの手に20枚の銀貨を渡してくれたことを思い出します。お金を得ることは難しく、そのときのわたしは世界中のお金を手にしたような気分でした。硬貨を数えては見とれ、1枚1枚を丁寧に磨きました。日曜日になり、わたしは什分の一を納めるために、ピカピカの硬貨を2枚ししぶポケットに入れました。大切な銀貨をビショップに渡す

のはつらかったのですが、それと同じくらい、主に従って什分の一を納めた心地よさは今でも忘れません。

教会からの帰り道、母はわたしをととても誇らしく思うと言ってくれました。そしてこう言いました。「おじいちゃんね、母さんたち子供にいつも言っていたの。『什分の一を正直に、そして忠実に納めるなら、主は祝福して下さって、什分の一は自分にできる最高の投資になるよ』って。」

祖父は「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている。すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによる」<sup>1</sup>ことを理解していました。什分の一は神の戒めです。この律法に従うとき、神はわたしたちを祝福するという義務を負われます。7歳の子供だったわたしにも理解できることでした。トーマス・S・モンソン大管長は神の律法についてこう語りました。「律法を守らなければ、永久に続く結果に苦しみ、律法に従えば、永遠の喜びを刈り取ります。」<sup>2</sup>

イスラエルが神のものを盗んだと叱責されたとき、「人は神の物を盗むことをするだろうか」と尋ねたことを皆さんは覚えているでしょう。その答えはこうでした。「十分の一と、ささげ物をもってである。」そこでイスラエルの民は、什分の一の律法に従うなら、神の祝福が受けられるようになるという約束を受けました。主はおっしゃいました。「十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを



見なさいと、万軍の主は言われる。』<sup>3</sup>

主はイスラエルに、主を試み、試し、主を信じる信仰を持つことをお求めになりました。イスラエルへの約束を果たせるようになさるためです。その同じ戒め、同じ約束は今日も有効です。わたしたちが什分の一の律法こんにちを守るとき、主は必ず約束を果たされます。すなわち、主の知恵と時間に応じて、物質的な祝福と霊的な祝福の両方が、わたしたちにもたらされるのです。

妻のジョアンとわたしはこれまで、世界の様々な場所において、最低限の生活物資を日々主に頼っている人たちと暮らす特権にあずかってきました。信じて疑わずに什分の一を納める人は、天の窓あかしが開かれていることを証しています。一人の忠実なフィリピン人の父親を思い出します。

彼はわずかな什分の一をビショップに納めたある日曜日のことを話してくれました。子供たちを教会から連れて帰りながら、食べ物は何もないことは十分すぎるほど分かっていました。すると歩いている途中で、パンノキから大きな実が目の前に落ちて来たのです。彼はとっさに目を上げると、天の窓を開き子供たちに食べさせるパンノキの実を与えてくださった神に感謝しました。

わたしたちは経済的に難しい時代に生きています。しかし、過去数年間を振り返ると、その変動は繰り返されていることが分かります。比較的豊かな時代や財政の不安定な時代は過去にあり、これからも続いて起こります。しかしどのような状況にあっても、もしわたしたちが最初に主に對する債務を果たし、知恵を使い、正しく

判断するなら、主は、わたしたちが主から頂いた資源を管理するのを助けてくださいます。

ヒーバー・J・グラント大管長は言いました。「皆さんに伝えたいのは、もしも皆さんが主に対して正直であり、什分の一を納め、戒めを守るなら、主は聖なる御霊の光と靈感を注いでくださるだけでなく、財政面においても祝福してくださるということです。皆さんは負債を支払うことができ、この世に関する祝福をも豊かに受けるでしょう。」<sup>4</sup>

1936年、合衆国では大恐慌のただ中で、人々は十分な収入を得ることができませんでした。そのような中、ジョン・A・ウィットソー長老は聖徒に向け、霊的な祝福を得るために什分の一を納めるよう勧告を与えています。ウィットソー長老はこう言い

ました。「什分の一の律法に従うならば、……ほかの方法では得ることのできない……深い喜びがもたらされる。……真理の原則はいつそう明らかになり、……祈りはたやすくなる。霊的な感覚が研ぎ澄まされ、……人は天の御父に似た者となるのである。」<sup>5</sup>

西アフリカに住む一人の母親が什分の一に対する証を語ってくれました。彼女は市場で商売をしていました。毎日帰宅すると什分の一を数え、特別な場所に保管します。そして日曜日になると、必ずビショップに持って行きます。商売は繁盛し、家族は健康と力と十分な食べ物に祝福されていることを彼女は話してくれました。そして目に涙をためながらこう言いました。「でも、一番の祝福は、子供たちが主を愛していることと、わたしたちが永遠の家族だということです。」

この謙虚な母親は、完全に什分の一を納める者への最大の祝福の一つが、主の宮に参入して神聖な儀式を受ける特権であり、それにより家族が永遠に一緒に暮らせることを理解していたのです。わたしたちが忠実に什分の一を納めるとき、主は確かに「天の窓を開いて、あふるる恵みを、わたしたちに注」いでくださいます。皆さんの一人一人、特にわたしの子供や孫たちに知ってほしいのは、わたしが祖父と同じように、いつも正直に什分の一を払うなら、主が祝福してくださることを知っているということです。これは人にできる最高の投資となります。イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 教義と聖約130：20
2. *Pathways to Perfection: Discourses of Thomas S. Monson* (1973年), 126
3. マラキ3：8, 10
4. Conference Report, 1898年4月, 16
5. "Tithing Testimonies of Our Leaders," *Deseret News*, 1936年5月16日付, Church Section, 5

# わたしは主に関することに喜びを感じる

前中央若い女性会長  
スーザン・W・タナー

**主に関することを喜ぶなら、心が「高められ」、「喜ぶ」べき理由が与えられます。**



モルモン書の中で、ニーファイは喜びについて頻繁に述べています。ニーファイは「主に関すること」、聖文、そしてわたしたちの天の御父の「偉大な永遠の計画」に喜びを感じています(2ニーファイ4：15-16, 11：2-8参照)。とりわけ、苦難の中で自らの喜ぶべき理由をよく思い起こすことにより、霊を鼓舞し、永遠の祝福に思いを向けています。

わたしたちも主に関することを喜ぶべきです。そうすれば、心が「高められ」、「喜ぶ」べき理由が与えられるからです(2ニーファイ11：8)。ではわたしが喜んでいることの中から少しだけお話ししましょう。

わたしは救い主イエス・キリストに喜びを感じます。ニーファイのように、「わたしはイエスを誇りと」しています(2ニーファイ

33：6)。主の地上における働きと、救い主としての役割を誇りとしています。光と希望を備え、進むべき道の途中でわたしたちをさらに導き、慰めるために、主は聖霊を与えてくださいました。わたしたちは主を通してでなければ、御父のみもとに帰ることはできません。「キリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、……人の子らに救いをもたらすことはできない」のです(モーサヤ3：17)。

わたしは使徒や預言者という基礎の上に築かれたイエス・キリストの回復された福音に喜びを感じています。わたしは恵まれて、彼らとともに仕える機会を得てきました。トーマス・S・モンソン大管長が今日地上における主の預言者であると証します。大管長が一人一人に優しい愛の手を差し伸べる、真にキリストのように仕える者であることに、わたしは喜びを感じています。

わたしは神権の鍵と世界中にある神殿に喜びを感じています。神殿のおかげで、永遠の儀式と聖約が一人一人にもたらされています。父が聖なる儀式を通して子供たちの神殿結婚を執り行ってくれた日が、最近のわたしにとって最高のときとなっています。

大勢の青少年が死者のためのバプテスマを受けに神殿に来るのを見るときに、わたしは青少年の強さに喜びを感じます。彼らが神殿に行くための標準によく従い、忠実な宣教師や義になつた父母になる



備えをしていることがうれしくてたまりません。

わたしは、自分が天の御父の娘として御父から愛されていることに喜びを感じています。幼いころ、わたしは母の傍らで自分が神の娘であることを教わりました。先日、3歳の孫娘エライザが、母親から自分が何者であるかを教わっていました。その日、ベッドに入ったエライザは、あることで落ち着きがありませんでした。でも母親がエライザの大好きな特別な夜の出来事、エライザが特別な霊で、貴い使命を持っていると天の御父が母親にはっきりとささやいてくださった特別な夜の出来事をもう一度話してあげるとようやく安心しました。

わたしは養い育てる者としての役割に大いに喜びを感じています。それは、女性としての自分を最も深く表現する機会です。女性、若い女性、そして少女でさえ、養い育てることに本能的な興味と能力を持っている様子を見ては、いつも感心しています。それは単に母親の主要な責任というだけでなく、女性の「前世、現世および永遠の状態と目的」の一部を形成しているのです（『家族——世界への宣言』『リ

アホナ』2004年10月号、49）。養い育てるとは、教え、発達と成長を促し、食物や栄養を与えることです。このような祝福された役割を与えられて、喜びの声を上げない人がいるでしょうか。

聖文では、「薫陶」という語は2回しか使われていません。そしてどちらの場合も、「主の薫陶と訓戒」という、子供を育てる両親の責任について述べられています（エペソ6:4; エノス1:1。訳注——「養い育てる」に相当する英語 “nurture” は、「薫陶」とも訳される）。

ヒンクレイ大管長は男性も女性も養い育てる者となるよう勧告しました。「すべての父親が子供を最も貴い財産とし、……またすべての母親が子供たちを……永遠なる天の御父から送られた贈り物のように扱い、愛をもって、主の訓戒と知恵のうちに育てるならば、わたしたちの住む……社会は……どれほど麗しいものとなることでしょう。」（ゴードン・B・ヒンクレイ「わたしたちの幼い子供たち」『リアホナ』2007年12月号、7）

わたしは家族に喜びを感じています。うれしいことに最近孫が生まれました。愛と義をもって子供たちを育てるという厳

粛な責任を理解している家族のもとに彼女は生まれました。兄や姉は小さな妹がこの世に来たことについて自然に興味を持ちました。この聖なる事柄について幼い兄や姉が学ぶべき最初のレッスンは、愛情深い両親により、家族という聖なる環境で、この死すべき世への新たな命の誕生からもたらされる神聖な雰囲気の中で、天の御父の偉大な永遠の計画を背景に教えられたのです。対照的に、次の日孫娘は幼稚園から戻って来るなり、その日幼稚園で「性的虐待という難しい言葉」を習ったと言いました。前の晩にとても美しく語られた事柄の消極的な側面を、安全のために、まだこんなに幼い子供たちに伝えなければならないことをわたしは心配しました。イエス・キリストの教えを土台とした家族の養いに、これまで以上に喜びを感じました。

主は「婦人たちの貞節」を喜ばれると、ヤコブは教えています（モルモン書ヤコブ2:28）。わたしは、すべての女性と男性の貞節と純潔に喜びを感じます。主は、この邪悪な世のあらゆる所で徳が踏みこまれ、慎み深さがあざけられるのを見て、きっと悲しまれていることでしょう。わたしの孫たちが学んでいたとおり、主は御自分の子供たちに、親密で愛ある関係に基づく大きな喜びを与えてくださいました。わたしは家族に関する世界への宣言が明確であることに喜びを感じます。そこにはこのように警告されています。「貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。」

わたしは、聖文の中で、信仰によってこの世の旅路を歩んだ人々の模範に喜びを感じます。モリヤの山に向かうアブラハムとイサクの話を読む度に、旅の終わりには天使がいて、やぶの中には雄羊がいることを知らないアブラハムを思っ、涙があふれます。わたしたちは皆この世の旅の途中にいます。そして自分たちの物語の結末を知りません。しかしアブラハムがそうだったように、わたしたちは奇跡によって祝福されています。

わたしは主の「<sup>あわ</sup>憐れみと奇跡」に喜びを感じています(“Bless Our Fast, We Pray” Hymns, 138番参照)。主の深い憐れみと小さな、また大きな奇跡が現実のものであることを知っています。それらは主の方法と時刻表に従って与えられます。わたしたちが限界に達したときにしか与えられないこともあります。イエスの弟子たちはガリラヤの海で逆風の中、イエスが助けに来られるまで、一晩中船をこがなければなりません。イエスは夜明け近くの4時まで来られませんでした。それでも、主は確かにいらっしゃいました(マルコ6:45-51参照)。時には夜明けの4時まで待つ必要があるとしても、奇跡は必ず起きると、わたしは証します。

わたしは今、身体的に病み、情緒的に疲れ、霊的に道に迷った、愛する人々のために、信仰を込めて祈り、小さな奇跡を待っています。わたしは主が御自身の子供たち一人一人に抱いておられる愛に、そして地上において一人一人独自の経験をさせてくださる主の知恵に喜びを感じています。

最後になりますが、夫の永遠の愛と変わらない助けに、そして中央若い女性会長としての任期を通じて、子供たちと両親が祈り、支えてくれたことに、言葉で言えないほどの喜びを感じています。

「わたしの心は主に関することに喜びを感じ[ます。]」(2ニーファイ4:16)主の律法、主の生涯、主の愛に喜びを感じています。主に喜びを感じることは、生活の中に主の御手があることに気づくことです。人生における福音の務めは、義を行い、義を愛し喜びとすることです。喜んで主に仕えるなら、天の御父は喜んで祝福してください。「主なるわたしは、……最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。」(教義と聖約76:5)わたしは常に主に喜んでいただけるようふさわしくありたいと思います。「わたしは主を愛し、わたしの心は主に喜びを感じます。」(“I Love the Lord,” Jackman Music Corporation)イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 十二使徒

十二使徒定員会会長  
ボイド・K・パッカー会長

教会が主の教会となるためには、<sup>かぎ</sup>神権の鍵を持つ十二使徒定員会がなければなりません。



**ゴ**ードン・B・ヒンクレイ大管長が亡くなって間もなく、王国の鍵を授けられている14人の使徒が、教会の大管長会を再組織するために神殿の階上の部屋に集まりました。何が行われるかははっきりしており、ためらいはありませんでした。わたしたちは前任使徒が教会の大管長となることを知っていました。その神聖な集会において、トーマス・スペンサー・モンソンが十二使徒定員会により教会の大管長として支持されました。モンソン大管長は顧問を指名しました。二人の顧問も同様に支持され、それぞれが聖任を受け、権能を与えられました。モンソン大管長には特に、神権のすべての権威の鍵を行使する権能が与えられました。聖文に記されているとおり、この地上で現在、すべての鍵を行使する権利を持つのはモンソン大管長ただ一人です。しかし、使徒であるわたしたちも全

員が鍵を持っています。わたしたちの間の一人が召され、聖任され、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長となります。モンソン大管長は、ずっと昔からすでに預言者、聖見者、啓示者として支持されていたのです。

ウークトルフ管長が大管長会に召されたことで、十二使徒会に空席が生まれました。そのため、わたしたちは昨日、十二使徒定員会の新たな会員としてD・トッド・クリストファーソン長老を支持しました。今クリストファーソン長老がこの聖なる輪の中の神聖な兄弟のきずなに加わったことで、この聖なる輪の空席は埋まりました。使徒という召しは、主イエス・キリストにまでさかのぼります。

わたしたちはまた多くの七十人を支持し、彼らもその任に就いています。聖文によると、十二使徒定員会の責任は教会の諸事を指導することであり、助けを必要とするときは、「ほかの人々ではなく、七十人に要請しなければ」なりません。<sup>1</sup>現在、8つの七十人定員会が存在し、世界中には300人を超える七十人がいます。彼らは皆、どんなことであれ十二使徒が指示することを行うために必要な権能を持っています。

この管理の規範は、主御自身が定められました。

「イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。

夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。」<sup>2</sup>

アンデレはヨハネから聞いて、兄弟シ



支持を受けた後、ほかの十二使徒定員会会員とともに席に着くD・トッド・クリストファーソン長老。

モンのところに走って行って言いました。「わたしたちはメシヤ……にいま出会った。……」

……そしてシモンをイエスのもとにつれてきた。イエスは彼に目をとめて言われた、『あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ(訳せば、石)と呼ぶことにする。』<sup>3</sup>

シモンとその兄弟アンデレは海に網を打っていました。ゼバダイの息子ヤコブとヨハネは網を繕っていました。このほかに、ピリポとバルトロマイ、収税吏または取税人マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、カナ人シモン、ヤコブの兄弟ユダ、そしてイスカリオテのユダがいました。この12人で十二使徒定員会が構成されました。<sup>4</sup>

イエスは全員に言われました。「わたしについてきなさい。」<sup>5</sup>

ペテロにはこう告げられました。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」<sup>6</sup>

そして十二使徒にこう言われました。「わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」<sup>7</sup>

イエスは使徒たちに「すべての悪霊を制し、病気をいやす力と権威」をお与えになりました。「また[使徒たちを]……いたる所で……神の国を宣べ伝え、かつ病氣

をなおすためにつかわ[され]ました。」<sup>8</sup>

また、こう言われました。「この十二使徒は、地の四隅にわたしの王国の権能を開き、その後、すべての造られたものにわたしの言葉を送り出す鍵を持つ。」<sup>9</sup>

あるときイエスは弟子たちにお尋ねになりました。「『人々は人の子をだれと言っているか。』……」

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』<sup>10</sup>

イエスが会堂で教えられたときに、多くの弟子たちはこう言いました。「『これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか。』……」

それ以来、多くの弟子たちは去っていった。もはやイエスと行動を共にしなかった。

そこでイエスは十二弟子に言われた、『あなたがたも去ろうとするのか。』

シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言<sup>ことば</sup>をもっているのはあなたです。』<sup>11</sup>

十字架の刑の後、使徒たちはイエスからエルサレムにとどまっているように言われたのを思い出しました。<sup>12</sup>そして五旬節の日、彼らは聖霊を受けるといふ偉大な出来事を経験します。<sup>13</sup>彼らは「いっそう確実な」「預言の言葉」を授かり、<sup>14</sup>「聖霊に感じ[て]、……語」りました。<sup>15</sup>必要なものをすべて受けたのです。

彼らの旅については、数人がどこで、ど

のように命を落としたかということ以外はほとんど何も分かっていません。ヤコブはエルサレムでヘロデによって殺され、ペテロとパウロはローマで死にました。ピリポは東方に渡ったと言われています。これ以外のことは分かっていません。

彼らは散り散りになりました。教え、<sup>あかし</sup>証し、教会を確立しました。そして信仰のために死にました。その後、背教という暗黒の時代が訪れます。

背教によって失われた最も貴重なものは十二使徒が持っていた権能、すなわち神権の鍵でした。教会が主の教会となるためには、神権の鍵を持ち、その鍵をほかの人に授ける十二使徒定員会がなければなりません。

やがて最初の示現が起こり、ペテロ、ヤコブ、ヨハネによってメルキゼデク神権が回復されました。<sup>16</sup>

後に、大管長会と十二使徒定員会は次の言葉を受けました。

「まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが受けた神権時代の鍵は、先祖から継承され、最後に天からあなたがたに下されたものである。

……見よ、あなたがたの召しは何と偉大なことか。この時代の人々の血があなたがたの手に求められることのないように、心と衣を清くしなさい。」<sup>17</sup>

最初の大管長会が組織され、平凡な普通の人々から成る十二使徒定員会、そして七十人定員会が組織されたとき、回復された末日聖徒イエス・キリスト教会はまだ歴史の浅い教会でした。最初の十二使徒定員会の平均年齢は28歳でした。

それ以来、神権は連綿として受け継がれています。使徒に与えられた神権の鍵は、常に大管長会と十二使徒定員会の会員によって保たれてきました。

昨日、D・トッド・クリストファーソン長老がこの神権時代で96番目の使徒となり、十二使徒定員会で奉仕することになりました。彼は使徒として聖任され、主イエス・キリストの使徒であるほかの14人の預言者、聖見者、啓示者たちに授けられているあらゆる神権の鍵を受けました。

1976年にデンマークのコペンハーゲン

で地域総大会が開かれました。最後の部会の後、スペンサー・W・キンボール大管長はトルバルセン作のキリスト像と十二使徒像が立っている聖母教会を訪問したいと言いました。大管長は以前にそこを訪れていて、わたしたち全員にも見せたいと望んだのです。

礼拝堂の前方、祭壇の後ろに、見慣れたキリスト像が立っています。両腕を前方に差し伸べ、手には釘の跡があり、わき腹の傷も非常にはっきりと見えます。その両わきに立ち並んでいるのが使徒の像で、右側の先頭にペテロ、そしてそのほかの使徒が順番に並んでいます。

一行のほとんどは、管理人とともに礼拝堂の後ろの方にいました。わたしはキンボール大管長とともにペテロ像の前に立っていました。レックス・D・ピネガー長老、コペンハーゲンステーキのヨハン・ヘルゲ・ベンシン会長も一緒でした。

大理石でできたペテロの手の中に、一束の重量感のある鍵がありました。キンボール大管長は鍵を指差し、それが何の象徴であるか説明してくれました。それから大管長のしたことをわたしは決して忘れません。キンボール大管長はベンシン会長の方を向き、いつになく強い調子で会長を指差し、こう言ったのです。「デンマークの皆さんにこのことを伝えてください。わたしは鍵を持っています！わたしたちはまことの鍵を持ち、その鍵を毎日使っているのです。」

わたしは預言者のあの宣言と証を決して忘れないでしょう。その影響は霊的に力強く、印象は体を貫くほどでした。

わたしたちは皆が立っている礼拝堂の後ろの方へと歩いて行きました。像を指差し、キンボール大管長は親切な管理人に言いました。「この使徒たちは世を去りました。」それから大管長はわたしを指差しながら言いました。「ここに生ける使徒がいます。パッカー長老は使徒です。トーマス・S・モンソン長老とL・トム・ペリー長老は使徒です。わたしも使徒です。わたしたちは生ける使徒なのです。」

「新約聖書には七十人について書いてありますが、ここにいるレックス・D・ピネガ



ー長老とロバート・D・ヘイルズ長老は、生ける七十人なのです。」

それまで何の感情も表さなかった管理人が突然涙を流しました。

わたしは生涯に二度と起こらないような経験をしたと感じました。

「わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる。」<sup>18</sup>

七十人が聖任される時、彼らは使徒として聖任されるわけではなく、鍵を持つわけでもありませんが、権能を持っています。十二使徒は「福音を宣べ伝え、福音を施すために、様々な召しを果たすに当たって助けを必要とするときには、ほかの人々ではなく、七十人に要請しなければならない」のです。<sup>19</sup>

現在、8つの定員会に308名の七十人がいます。国籍は44におよび、言語は30を数えます。

ほかのキリスト教会で神権の鍵が行使されているという話を聞くことはありません。不思議なことに、イエス・キリストが確立された権能と組織を持つ唯一の教会であるわたしたちを、クリスチャンではないと言う人がいます。

現在の十二使徒はまったく平凡な人たちです。キリストの時代の十二使徒と同様、一人一人は人目を引きませんが、全体が集まると大きな力を発揮します。

皆以前は様々な職業に就いていました。科学者や弁護士、教師もいます。

ネルソン長老は心臓外科の分野での開拓者の存在で、数え切れないほどの手術



最も新しい二人の十二使徒定員会会員、D・トッド・クリストファーソン長老(左)とクエンティン・L・クック長老があいさつを交わす。

をしました。手術を受けた患者には、生きている限りは動きますよと保証したそうです。

定員会には、船員、海兵隊員、パイロットとして軍隊にいた使徒も何人かいます。

皆、教会で様々な責任を果たしてきました。ホームティーチャー、教師、宣教師、定員会会長、ビショップ、ステーキ会長、伝道部会長、そして最も大切な、夫と父親として奉仕してきたのです。

全員が、イエス・キリストの福音の生徒であり、教師です。そして救い主を愛する気持ち、御父の子供たちを愛する気持ち、また主がこの教会の頭であられるという証によって一つとなっています。

十二使徒のほとんどは、地上でのキリストと同様、つましい家庭の出です。生ける十二使徒はイエス・キリストの福音を教え、導くことにおいて一つとなっています。召しが与えられたとき、各自が自分の網を捨てて主に従いました。

キンボール大管長のこの言葉は有名です。「わたしの人生は奉仕を通して擦り切れていく靴のようなものです。」<sup>20</sup> 十二使徒の全員も同じです。主に仕える中で擦り切れていきます。喜んでそうしています。

自分にとって、または家族にとっても大変な人生です。

世界中の神権指導者の奥さんたちがどれほど貢献し、奉仕し、犠牲を払っているのかを言葉で表現するのは不可能です。

少し前のこと、わたしの妻とバラード姉妹は極度の痛みを伴う背中での手術を受けました。二人とも順調に回復しています。どちらも不平を言いません。不平に最も近い妻の発言は「これってつまらないわ」でした。

大管長会の指示の下、「十二使徒はまた、啓示に従って教会の他のすべての役員を聖任し、整えなければならない」と書かれています。<sup>21</sup>

今日では、インターネットなどにより全世界の指導者や会員に教え、証するための手段が整っています。しかし、連続と継承されてきた権能の鍵を「あんじゆ按手によって」<sup>22</sup> 神権指導者に授けるためには、世界のどこであっても、毎回使徒の一人が出向かなければなりません。

主はこう言われました。「さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたによって正式に推薦されて権能を与えられた者で、兄弟たちすなわち十二使徒会

の声により、わたしの名によって遣わされる者は、あなたがたから遣わされるどの国に対してでも、わたしの王国の門を開く力を持つ。」<sup>23</sup>

聖文では十二使徒を「巡回評議員」と表現しています。<sup>24</sup>

記録によると、わたしはメキシコと中南米を75回以上、ヨーロッパを50回以上、カナダを25回、太平洋諸島を10回、アジアを10回、アフリカを4回、また中国を2回訪れています。またイスラエル、サウジアラビア、バーレーン、ドミニカ共和国、インド、パキスタン、エジプト、インドネシアなど世界の多くの国々に足を運びました。47年間ともに仕えてきた十二使徒、七十人、管理ビショップリックの兄弟たちも同じように世界中を回っています。わたし以上に旅をしている人もいます。

使徒は神権のあらゆる鍵を持っていますが、すべての指導者と会員も同様に、個人的な啓示を受けることができます。実に、彼らは祈りを通して個人的な啓示を求め、信仰によって行動するのです。

「というのは、彼によって、わたしたち……が一つの御霊の中であって、父のみもとに近づくことができるからである。

そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、使徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。

またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」<sup>25</sup>

かつてのわたしのように、クリストファーソン長老はなぜ自分のような者がこの聖なる使徒職に聖任されたのか、と不思議に思うかもしれません。

わたしには足りない資質が多くあります。不足を補うためには、かなりの努力が必要です。しかし、たった一つだけ、先ほどの疑問の答えとなる資質があります。ペテロやこれまでに聖任されたすべての使徒と同様、わたしにはイエス・キリストの神性についての証があるのです。

神がわたしたちの御父であられることを知っています。御父は御子イエス・キリストをジョセフ・スミスに紹介されました。



皆さんに断言します。わたしはイエスがキリストであられることを知っています。主が生きておられることを知っています。主は時の中間にお生まれになりました。御自身の福音を教え、試しを経験されました。苦しみを受け、十字架にかかり、3日目に復活されました。イエス・キリストは御父と同様、骨肉の体をお持ちです。イエス・キリストは御自身の贖いの業を果たされました。わたしはイエス・キリストを証します。わたしはイエス・キリストの証人です。このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

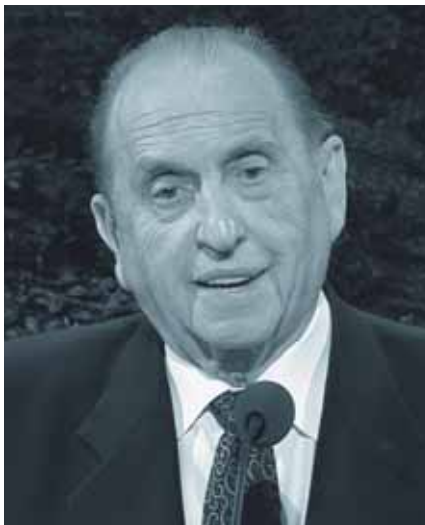
注

1. 教義と聖約107:38
2. ルカ6:12-13
3. 欽定訳ヨハネ1:41-42から和訳
4. ルカ6:12-16参照
5. マタイ4:19, 16:24。マルコ6:1。ルカ9:23参照。ヨハネ21:19, 教義と聖約112:14も参照
6. マタイ16:19
7. ヨハネ14:12
8. ルカ9:1-2, 6
9. 教義と聖約124:128
10. マタイ16:13, 16
11. ヨハネ6:60, 66-68
12. 使徒1:4参照
13. 使徒2:1-4参照
14. 2ペテロ1:19
15. 2ペテロ1:21
16. 教義と聖約27:12, ジョセフ・スミスー歴史1:72参照
17. 教義と聖約112:32-33
18. 信仰箇条1:6
19. 教義と聖約107:38
20. ゴードン・B・ヒンクレー, "He Is at Peace," *Ensign*, 1985年12月号, 41で引用
21. 教義と聖約107:58。教義と聖約107:33も参照
22. 信仰箇条1:5
23. 教義と聖約112:21
24. 教義と聖約107:23
25. エペソ2:18-20

# 過去を振り返り、前進する

トーマス・S・モンソン大管長

ともに主の業を推し進めようではありませんか。



すばらしい部会だったと感じています。どのメッセージにも心を鼓舞されました。音楽は美しく、証は心からのものでした。この部会に参加したけれども、それを決して忘れないでしょう。皆が御霊を感じたからです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、今から44年余り前の1963年10月に、わたしはタバナクルの壇上に立ち、十二使徒定員会の会員として支持を受けました。そのとき、かつて別の説教壇で見かけた短い標語について話しました。次のようなものです。「この説教壇に立つ者は謙虚でありなさい。」十二使徒に召されたそのときのわたしは確かに謙虚でした。けれども、今日この説教壇を前にして、わたしはこの上なく謙虚になっています。主にすぎる気持

ちをととも強く感じています。わたしの思いを伝えるに当たって、御霊の導きを謙虚に願い求めています。

ちょうど2か月前に、わたしたちは愛する友であり指導者である末日聖徒イエス・キリスト教会の第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーに別れを告げました。全世界に真理を伝える傑出した使者であり、あらゆる人から愛された人でした。心は寂しさでいっぱいです。5万3,000人以上の老若男女がこの建物の中にある美しい「預言者の殿堂」に入って、いまや歴史に名を刻んだ主の巨人に別れのあいさつをしました。

ヒンクレー大管長の死去により、大管長会は解散しました。ヒンクレー大管長の顧問を務めていたアイリング管長とわたしは十二使徒定員会のそれぞれの位置に戻り、十二使徒定員会が権能をもって教会を管理することになりました。

2008年2月2日土曜日、ヒンクレー大管長の先見とビジョンの記念碑としてそびえ立つこの壮大なカンファレンスセンターで、大管長の葬儀が行われました。葬儀では麗しく愛のこもった賛辞がこの神の人にさげられました。

翌日、地上に残っている14人の使徒全員は断食と祈りの精神をもってソルトレーク神殿の階上の部屋に集まりました。その厳粛かつ神聖な集会において、確立された慣例に従い、主御自身が定められた規範にのっとり、大管長会が再組織され

ました。

昨日、全世界の教会員が聖会に集い、先ほど述べた神殿の集会で議決したことを承認する挙手をして、賛意を表してくださいました。皆さんの手が天に向かって挙げられたとき、わたしは感動を覚えました。皆さんの愛と支持、主に対する献身の心を感じました。

兄弟姉妹、わたしは神が生きておられることをはっきりと知っています。この業は神の業であることを証します。また、救い主イエス・キリストはその御名を冠したこの教会の頭であられることを証します。主の業を推し進めるわたしたちを導くための促しを受けることは、生涯を通じて最もすばらしい経験となってきました。若くしてビショップを務め、霊的または物質的な必要を抱えた家庭に導かれたとき、そのような促しを感じました。カナダのトロントで伝道部会長に召され、すばらしい宣教師たちとともに、この業が神の業であり、わたしたちは預言者によって導かれていることを生ける証人として世に証していたときにも促しを受けました。十二使徒定員会と大管長会の一員として働き、そして今、大管長として務めを果たすようになりましたが、いつも促しを受けてきました。ふさわしく生活し、力を尽くして主に仕えるときにわたしたちは皆、主の靈感を受けられることを証します。

大管長として先を歩んだ15人をよく知っています。そのうちの多くとは個人的に面識があります。3人の大管長に関しては、その顧問を務める祝福と特権にあずかりました。15人の大管長それぞれが不滅の受け継ぎを残してくれたことに感謝します。神はその預言者を導いておられることを彼らと同様、わたしも確かに知っています。主の御手に使われる者として、引き続きふさわしくあって、この大いなる業を推し進め、大管長の職に伴う大きな責任を果たせるよう、わたしは今、熱心に祈っています。

すばらしい顧問を与えられたことを主に感謝します。ヘンリー・B・アイリング管長とディーター・F・ワークトドルフ管長は、すばらしい能力と卓越した理解力を備え



ています。文字どおりの助言者です。彼らの判断を大切に受け止めています。二人は現在の職のために、主によって備えられてきたことでしょう。わたしは十二使徒定員会の兄弟たちを愛し、彼らとの交わりを大切にしています。彼らも主の業に献身し、生涯をささげています。この定員会に召され、皆さんの支持を受けたクリストファーソン長老とともに働けることを楽しみにしています。彼もこの職のために備えられてきました。七十人定員会と管理ビショップリックのメンバーとともに働くことも喜びです。新しい七十人が召され、昨日支持を受けました。主の業にあって、ともに働けることを楽しみにしています。

中央幹部の間には、すばらしい一致の精神がみなぎっています。主は言われました。「もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」<sup>1</sup>わたしたちは一つの目的すなわち主の業を推し進めることにおいて、これからも一致していきます。

これまで数え切れないほどの祝福を下さった天の御父への感謝でいっぱいです。いにしへのニーファイのようにわたしは善い両親から生まれました。祖父母と曾祖父母は熱心な宣教師によってスウェーデン、スコットランド、イングランドから集められました。宣教師が述べる素朴な証を

聞いたとき、わたしの先祖は心と霊を動かされました。教会に加わったこの高貴な男女と子供たちはグレートソルトレークの盆地に向かって旅立ちました。道中、数多くの試練と悲しみを経験しました。

1848年の春、故国スコットランドで教会に加わった高祖母のチャールズ・ステュアート・ミラーとメアリー・マクゴワン・ミラーはスコットランドのラザグレンの家を後にして、聖徒たちとともにミズーリ州セントルイスを目指し、1849年に同地に到着しました。11人の子供の一人マーガレットがわたしの曾祖母となります。

ミラー家がソルトレーク盆地までの旅費を蓄えるためにセントルイスで働いていたとき、地域一帯にコレラが大流行して、死と悲しみをもたらしました。ミラー家も大きな打撃を受けました。2週間で家族の4人が亡くなったのです。最初に亡くなったのは1849年6月22日、18歳のウィリアムでした。5日後に、わたしの高祖母で家族の母親であるメアリー・マクゴワン・ミラーが亡くなりました。2日後に15歳のアーチボルト、その5日後にわたしの高祖父で家族の父親であるチャールズ・ステュアート・ミラーが亡くなりました。当時13歳だった曾祖母のマーガレットを含む子供たちは孤児となりました。

余りに多くの死者が出たため、亡くなった家族を葬るためのひつぎが、いくらお金を出しても手に入りませんでした。生き残った年長の男の子たちは、飼っていた牛を囲う板を外してひつぎを作りました。

ミラー家の残された9人の子供は両親や兄弟が果たせなかった旅を続けるために働き、お金をためましたが、彼らの味わった苦労については記録がほとんど残っていません。1850年の春に4頭の牛と荷車とともにセントルイスを出発し、同年、ソルトレーク盆地に到着したということは分かっています。

ほかの先祖も同様の困難に直面しました。しかし、彼らの証は堅く確固として、揺るぎませんでした。わたしは先祖全員からイエス・キリストの福音に完全に献身するという受け継ぎを得ました。この忠実な人たちのおかげで、わたしは今日皆さま

んの前に立っています。

すばらしい伴侶<sup>ほんりよ</sup>フランシスを与えられたことを、天の御父に感謝しています。今年の10月に結婚60周年を迎えます。若いころから教会の奉仕の務めに携わってきましたが、集会に出席したり責任を果たしたりするために家を空けるわたしに、妻が不平をもらしたことは一度もありません。長年にわたって、十二使徒として務めを果たすためにソルトレーク・シティを離れることがしばしばありました。時には5週間続けていないこともありましたが、妻は独りで幼い子供たちの世話をし、家庭を守ってくれました。22歳でビショップに召されて以来、教会の集会で二人一緒に座るといふぜいたくをほとんどしていません。彼女以上に忠実で、愛にあふれ、理解のある伴侶はいないでしょう。

3人の子供とその伴侶、そして8人の孫と4人のひ孫を与えられていることを天の御父に感謝しています。

兄弟姉妹、皆さんの生き方、善い行い、証に対するわたしの心からの感謝は、言葉では言い尽くせません。皆さんは進んで互いに仕え合い、イエス・キリストの福音に献身しています。

中央幹部として働いてきた44年の間、世界中を旅する機会がありました。あらゆる地に住む会員の皆さんに会って、その気高い精神と愛に触れることに勝る喜びはありません。そのような機会が今後ともさらに訪れることを望んでいます。

しかしながら、人生の旅路を歩む間に、主の羊の群れからいなくなってしまう人々がいます。永遠の命への道しるべから離れて、結局どこにも行けない袋小路に迷い込む人たちがいます。無関心、不注意、利己心、罪はすべて、人生の旅路において値段の高くつく通行料となります。

だれでもより良い自分に変わることができます。わたしたちは長年にわたって、教会に活発に集っていない人、傷ついたと感じている人、批判的な人、背罪を犯した人に戻って来るよう、こう呼びかけてきました。「戻って来てください。そして主が備えられた食卓に着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び



味わってください。』<sup>2</sup>

人は良心という自分だけの聖域すなわち悪からの避け所を持っており、それは古い自分を捨てて、自分の持っている可能性を追求するよう駆り立ててくれます。この考えに基づいて、わたしたちは再び心から申します。戻って来てください。わたしたちはキリストの純粋な愛をもって手を差し伸べています。そして、皆さんの力になり、この交わりに歓迎したいと願っています。心が傷ついている人、悩み恐れられている人に申します。わたしたちに、あな

たを立ち上がらせ、元気づけ、恐れを鎮めさせてください。主の招きを文字どおりに受け入れてください。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。』<sup>3</sup>

救い主は「神が共におられるので、よい



働きを」されたと記されています。<sup>4</sup> この完全な模範に従いましょう。死すべき世の不安定な旅を続ける間、安全に、また道を踏み外さずに歩むために、使徒パウロの次の助言に従いましょう。「すべて真実なこと、すべて導ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。」<sup>5</sup>

すべての人に思いやりと敬意を示すよう、あらゆる地の教会員に勧めます。わたしたちの住む世界は多様性に満ちています。わたしたちと信条を異にする人々に敬意を示す必要があります。

自分の家族にも思いやりと愛を示しましょう。家庭はこの世からの避け所以上のものであって、神の御霊が宿り、嵐を戸口で食い止め、愛が治め、平安が宿る場所であればなりません。

時々、わたしたちの住んでいるこの世界は恐ろしい場所となることがあります。社会道徳は猛烈な勢いで低下しています。危害を及ぼし破滅をもたらす力を免れる人は、老若を問わず存在しません。とりわけ若人、わたしたちの大切な若人は、わたしたちの想像を絶する誘惑を受けています。悪魔とその軍勢は片時も手を休めずにわたしたちを墮落させようとしているようです。

兄弟姉妹、わたしたちは罪悪に戦いを

挑んでいます。あきらめないでください。勝つことのできる、また勝つはずの戦いです。天の御父はそのために必要な武器を与えてくださいました。御父が支配しておられるので、恐れることはありません。御父は光の神であり、希望の神であられます。わたしは神がわたしたち一人一人を愛しておられることを証します。

この世は試しの時期であり、天の御父の御前に戻るにふさわしいことを証明する期間です。試されるには、時々問題や困難に直面しなければなりません。トンネルの先に光が見えないときも、夜明けが来ないかのように思えるときもあります。絶望している人の痛み、夢に破れた人の失意、希望が打ち砕かれた人の落胆に取り囲まれています。わたしたちは声をそろえて「ギレアデに乳香があるではないか」<sup>6</sup> という、聖文に記された嘆願を口にします。わたしたちは悲観主義というゆがんだレンズを通して自分の不幸を見る傾向があります。そして、見捨てられた、もう希望がない、孤独だと感じるのです。もし自分がそのような状況にいることが分かったら、信仰をもって天の御父を仰ぎ見てください。御父はあなたを力づけ、導いてくださるでしょう。苦しみを取り去ってはくださらないかもしれませんが、どのような嵐であってもあなたを慰め、愛を込めて導いてくださいます。

わたしは特別の証人として、神は確か

に生きておられることを、全身全霊で証し、宣言します。イエスは御子であり、肉における御父の独り子です。御子は贖い主であり、御父との間の仲保者です。主はわたしたちが完全に理解できないほどの愛をもってわたしたちを愛しておられます。主はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちのために命をささげられました。わたしは言葉に表せないほどの感謝を主に感じています。

愛する兄弟姉妹、皆さんが家庭において、職場において、互いに仕え合い、また主に仕えるときに、主の祝福があるよう祈っています。ともに主の業を推し進めようではありませんか。

わたしは自分の命と力、差し出すことのできるすべてをもって、主に仕え、主の御心と靈感に従って教会の諸事を導くことを約束します。主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約38：27
2. 大管長会による声明、*Ensign*, 1986年3月号, 88
3. マタイ11：28-30
4. 使徒10：38
5. ピリピ4：8
6. エレミヤ8：22

# 「わたしの言葉〔は〕 ……決して 絶えることがない」

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

神が聖書の時代から語り、そして今も語っておられるという驚嘆すべき事実について調べる  
ようすべての人に勧めます。



モ ンソン大管長、個人の特権として少し時間を頂いてもよろしいでしょうか。

今朝の大管長の特別なメッセージに続く最初の話者として、全中央幹部と全教会員を代表して伝えます。

昨日の聖会も含め、この歴史的な大会でわたしたちが得た多くの特権の中でも、聖なる預言者の外套がいでんが、あたかも天使の手によるかのように、大管長の肩に置かれるのを見ることは特に大きな特権でした。昨晚の中央神権部会に出席した人および今朝、全世界で衛星放送を視聴して出席したすべての人は、この出来事の証人となりました。すべての出席者に代わっ

て、このような瞬間に立ち会えたことへの感謝を表します。

昨年10月の総大会で、末日聖徒イエス・キリスト教会がクリスチャンではないという誤った非難を受ける理由がおもに二つあると言いました。そのとき、わたしはその二つの教義上の事柄のうちの一つ、つまり聖文に基づいた、わたしたちの神会についての考え方をテーマに話しました。今日はもう一つの重要な教義きょうぎについて話します。わたしたちの信仰を特徴づけるこの教義について、中には快く思わない人もいます。それは、神が今もなお語り、真理を啓示され、その啓示は正典〔訳注——各教会により信仰の基準として公認された文書〕に加えることができるという教義です。わたしたちはこの教義おくを臆することなく宣言します。

クリスチャンの中には、ほとんどの場合は聖書に対する純粋な愛から、聖書以外に認められた聖典は存在し得ないと主張する人々がいます。ほかの宗派に属する友人たちは、啓示を集めた正典は完結したとして、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がモルモン書、教義と聖約、高価な真珠を大切にしていること、また神の油注がれた預言者と使徒が今も導きあかしを受けているというわたしたちの聖なる証に心を閉ざしています。そのような立場を取る人々に反感を抱いているわけではありま

せんが、わたしたちは敬意をもって、しかし毅然きぜんと、真のキリスト教の姿を聖文と一致しない形で位置づけることを拒否します。

正典はすでに完結していると主張する人がしばしば論拠として引用する聖句が新約聖書のヨハネの黙示録第22章18節です。「この書の……言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。」しかし現在、ほぼすべての聖書学者が、この聖句は聖書全体ではなく、黙示録のみを指しているという見解で一致しています。彼らは、新約聖書のかなりの数の「書」が、ヨハネがパトモス島で啓示を受けた後で書かれたことはほぼ間違いないと認めています。そうした書には、少なくとも、ユダの手紙、ヨハネの第一、第二、第三の手紙、そして恐らくは、ヨハネの福音書のすべてが含まれており<sup>1</sup>、そのような書は、きっとほかにもあることでしょう。

しかし、現在の新約聖書の最後の書にあるこの聖句がなぜ聖書全体を指さないのかという点については、もっと明確な答えがあります。複数の書を1冊の書物としてまとめた、わたしたちが現在知っている形の聖書は、あの聖句が書かれた当時は存在していなかったのです。ヨハネが記録を終えた後の数世紀にわたって、新約聖書の各書は、単独か、あるいは幾つかをまとめた形で広まっていて、全書のそろったものとして読まれることはほぼ皆無だったのです。現在知られているギリシャ語の新約聖書の写本の数は5,366に上りますが、そのうち今の形の新約聖書のすべてを網羅しているものはわずか35しかありません。しかもそのすべてが紀元1,000年以降に編集されたものなのです。<sup>2</sup>

実際、旧約および新約聖書のほぼすべての預言者は、前任者が受け継いできた聖文に、自身の聖文を書き加えてきました。旧約聖書のモーセの言葉だけで十分だと考えていた人もかつていましたが、<sup>3</sup> 仮にモーセの言葉で十分だとしたら、なぜ例えばイザヤの預言、またはイザヤに続くエレミヤの預言がその後必要だったのでしょうか。エゼキエル、ダニエル、ヨエル、ア



モスやそのほかすべての預言者については言うまでもありません。ある時代に生きた一人の預言者の一つの啓示がすべての時代に通用するとしたら、ほかの数多くの預言者はなぜ存在したのでしょうか。その理由について、エホバ御自身がモーセへの御言葉の中で明らかにしておられます。「わたしの業は終わりが無い……。わたしの言葉も……。決して絶えることがない……。」<sup>4</sup>

プロテスタントのある学者は、正典は完結したという誤った教義について、次のように大胆な疑問を呈しています。「一体、聖書あるいは歴史の何を根拠として、神の靈感が下るのは、教会が聖書と呼んでいるすでに書かれた文書に限られると言えるのだろうか。……もし1世紀に書かれた文書だけが御霊による靈感を受けているとすれば、同じ御霊は現在の教会で重要とされる問題について語るのをおやめになったということなのだろうか。」<sup>5</sup> わたしたちもへりくだり、同じ疑問を投げかけます。

絶えざる啓示は、これまでの啓示をおとしめるものでも、その信用をなくすものでもありません。新約聖書がもたらされたからといって、わたしたちの目から見て旧約聖書が価値を失うわけではありません。

むしろ「イエス・キリストについてのもう一つの証」であるモルモン書を読むことで、新約聖書の価値は増すのです。もう一つの聖典を受け入れている末日聖徒として、次の質問をします。「長年の間、(新約聖書の四福音書の中で最初に書かれたと考えられている)初期のマルコによる福音書しか読めなかった初期のクリスチャンは、後にマタイやルカによるさらに詳しい記述を手にして気分を害したのでしょうか。さらに、後にヨハネがもたらした、それまでに類を見ない記述や力強い啓示を読んで不快に思ったのでしょうか。」もちろん、キリストの神性をさらに確信させる証拠を続けて手にすることができて喜んだに違いないのです。わたしたちも同じように喜んでいるのです。

誤解しないでください。わたしたちは聖書を愛し、敬っています。ちょうど1年前に、この壇上からM・ラッセル・バラード長老が明確に教えたとおりです。<sup>6</sup> 聖書は神の御言葉です。わたしたちの「標準聖典」において常に筆頭に挙げられています。実際、ジョセフ・スミスがヤコブの手紙第1章5節を読んだのは神聖な定めでした。この聖句がきっかけとなってジョセフは示現の中で御父と御子にまみえ、現代にイエ

ス・キリストの福音が回復されることになったのです。しかしそれでも、聖書だけでは、自分や自分のような人々が抱いていた宗教的な疑問のすべてに答えることはできないということをジョセフは知っていました。ジョセフ自身が記した言葉によれば、当時の地域の聖職者は、時には怒りながら、教義を巡って論争していました。「言葉の争いと見解についての論争」の中で「牧師が牧師と、改宗者が改宗者と言い争[っていた]」と記されています。言い争っていた宗派の間で唯一共通していたのは、皮肉なことに聖書を信じていたという点でした。しかしジョセフはこう書いています。「様々な教派の教師たちは同じ聖句を異なって解釈し、その結果、聖書に訴えて[どの教会が真実かという]疑問を解決することへの信頼をすべて打ち砕いてしまっていた……。」<sup>7</sup> 当時しばしば「共通の土台」と言われていた聖書が、実は少しも共通しておらず、残念なことに論争の舞台になっていたのは明らかでした。

ですから、生ける預言者を通じて絶えざる啓示が与えられることの偉大な理由の一つは、聖書が真実であることを新たな証によって世に宣言することにあるのです。古代のある預言者は、モルモン書についてこう述べています。「この記録を書き記しているのは、ユダヤ人から伝わる記録をあなたがたに信じさせるためである。」つまり聖書のことです。<sup>8</sup> ジョセフ・スミスが初期に受けた啓示の一つで、主はこう言われました。「見よ、わたしが[モルモン書の出現]を知らせるのは、……[聖書]を損なうためではなく、それを築き上げるためである。」<sup>9</sup>

もう一点、伝えたいことがあります。それは、聖書またはイエスについての記述をまとめたものが存在するはるか以前から、クリスチャンと呼ばれる人々がいたことは明らかな事実であるため、聖書を信じているかどうかでクリスチャンかどうかが決まるとは主張できないということです。新約聖書の著名な学者であるN・T・ライトはこう書いています。「復活されたイエスはマタイの福音書の最後で『天においても地においても、いっさいの権威が、

これからあなたがたがすべて書き記そうとしている書に授けられた」とは言われなかった。『わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた』<sup>10</sup>と言われたのである。」つまり、「聖文自体が、……聖文そのものに最も権威があるのではなく、最終的な真の権威は神に帰するという事実を伝えている」<sup>11</sup>ということなのです。ですから、聖典は末日聖徒にとって知識の最終的な源ではありません。聖典は、最終的な知識の源が現されている書物なのです。末日聖徒にとって、知識と権威の最終的な源は生ける神です。これらの賜物は、生きていて、力ある、神聖な啓示として、神との交わりを通じてもたらされるのです。<sup>12</sup>

この教義は、末日聖徒イエス・キリスト教会、および教会が世に宣言するメッセージの中核を成すものであり、昨日開かれた聖会の重要性を表しています。聖会において、わたしたちはトーマス・S・モンソンを預言者、聖見者、啓示者として支持しました。わたしたちは、人生に直接かわってくださる神を信じています。沈黙の神でも不在の神でもなく、また、エリヤが「旅に出たのか、または眠っていて起されなければならないのか」と言ったバアルの祭司たちの神のような存在ではありません。<sup>13</sup> この教会では、初等協会の幼い子供でさえ、こう暗唱します。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」<sup>14</sup>

新たな聖文と絶えざる啓示について宣言するに当たり、決して尊大にならず、聞く人の感情に配慮できるよう祈っています。しかし、今や聖なる森となったあの森で聖なる示現が開かれ、「神は存在するのか」という疑問に「そのとおりである」という答えが与えられた今、ジョセフ・スミスと末日聖徒イエス・キリスト教会は、その答えに続いて当然起る疑問にも答えることを求められています。それは「神は語りたもうか」という疑問です。わたしたちは、神は語り、今も語り続けておられるという



喜ばしい知らせを伝えています。クリスチャンの持つ愛と親愛の念を込めて、神が聖書の時代から語り、そして今も語っておられるという驚嘆すべき事実について調べるようすべての人に勧めます。

ある意味で、ジョセフ・スミスと後に続く教会の預言者は、170年前の夏、ハーバード神学校でラルフ・ワルド・エマソンが神学生に求めたチャレンジにこたえています。プロテスタントで最も善良かつ優秀なこの学生の一団に対し、マサチューセッツ州コンコードのこの賢人は、「神はかつて存在した、ではなく神は存在する、また、神はかつて語られた、ではなく神は語られる」<sup>15</sup>と教えるよう訴えたのでした。

天が開いていることを証します。また、ジョセフ・スミスが過去も現在も預言者であることを、また、モルモン書が確かに「イエス・キリストについてのもう一つの証」で

あることを、そして、トーマス・S・モンソンが神の預言者であって、王国の鍵を持つ現代の使徒であり、その権能を受けていることを証します。

また、権能を受けたキリストの教えと導きがこの地上にある時代において、そのような権威ある預言者が存在し、啓示が絶えず聖文に加えられているということはクリスチャンのメッセージの中心であることを証します。そのような教えと導きが再びこの地上に、そして末日聖徒イエス・キリスト教会の中に存在していることを証します。

まさしく神の御子であり、世の救い主であられるナザレのイエスを真心から礼拝する気持ちを込めて、すべての人に対し、わたしたちが御子から何を頂いているかを吟味するよう勧めます。そして、「永遠の命に至る水のわき出る井戸」<sup>16</sup>のもとで心ゆくまで飲むことにより、わたしたちととも

に、神が生きてわたしたちを愛し、今もなお語っておられるという祝福にあずかるよう勧めます。主の業が決して終わることなく、その「言葉も……決して絶えることがない」ことに対し、わたし自身の心からの感謝をささげます。そのような神の愛が注がれていることを、そして記録されていることを、聖なるイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

注

1. スティーブン・E・ロビンソン, *Are Mormons Christians?* (1991年), 46. 正典については45-46ページで論じられている。
2. ブルース・M・メッツガー, *Manuscripts of the Greek Bible: An Introduction to Greek Paleography* (1981年), 54-55を参照。 *Are Mormons Christians?*, 46も参照。
3. 例として申命4:2参照
4. モーセ 1:4
5. リー・M・マクドナルド, *The Formation of the Christian Biblical Canon*, 改訂版 (1995年), 255-256
6. 「聖書という奇跡」『リアホナ』2007年5月号, 80-82参照
7. ジョセフ・スミス-歴史 1:6, 12
8. モルモン7:9, 強調付加
9. 教義と聖約 10:52. 教義と聖約 20:11も参照
10. N・T・ライト, *The Last Word: Beyond the Bible Wars to a New Understanding of the Authority of Scripture* (2005年), xi
11. ライト, *The Last Word*, 24
12. このテーマに対する全文については、ダリン・H・オークス, "Scripture Reading and Revelation," *Ensign*, 1995年1月号, 6-9を参照
13. 列王上 18:27
14. 信仰簡条 1:9
15. "An Address," *The Complete Writings of Ralph Waldo Emerson* (1929年), 45
16. ヨハネ 4:14

# 信仰をもって 願い求めなさい

十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老

**意義深い祈りをするためには、神と心を通わせるとともに、献身的な努力をする必要があります。**



これから、わたしたちの祈りをさらに意義深いものにしてくれる原則、すなわち「信仰をもって願い求める」という福音の原則について考えるに当たり、聖霊の助けがあるよう願っています。

意義深い祈りの中で信仰をもって願い求める例を3つ挙げ、それぞれから学べる教訓について話します。祈りについて話すとき、わたしは「意義深い」という言葉を強調します。単に祈りの言葉を述べることは、意義深い祈りをするとは、かなり異なります。霊的に成長し守られるために、祈りは不可欠であることを、わたしたちは皆すでに知っていることでしょう。しかし、知っているからと言って、必ずしもそれが行動に反映されているとは限り

ません。祈りの大切さを認識してはいますが、だれもが、個人と家族の祈りをもっと一貫性があり、効果のあるものにしていくことができるはずで

## 信仰をもって願い求め、行動する

信仰をもって願い求める模範としてよく知られているのは、ジョセフ・スミスと最初の示現です。宗教について真理を知りたいと求めていた若きジョセフは、ヤコブの手紙第1章の次の節を読みました。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」(ヤコブの手紙1:5-6)

信仰をもって願い求める必要があることに注意してください。これは言葉で言い表すだけでなく、行動する必要があるという意味だとわたしは理解しています。嘆願と実行の両方が必要であり、神に意思を伝えると同時に行動する必要があるのです。

聖書の中のこの言葉について深く考えていたジョセフは、人目を避けて、家の近くの森へ入り、霊的な知識を祈り求めました。ジョセフの思いと真摯な祈りを導いた問いの内容に注目してください。

「この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であって、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならぬのだから



うか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』

わたしが主にお伺いしようとした目的は、自分が加わるべき教派を知るために、すべての教派のうちのどれが正しいかを知ることであった。」(ジョセフ・スミス—歴史1:10, 18)

ジョセフの問いの焦点は、「何を知る必要があるか」だけでなく、「何を行う必要があるか」でした。彼の祈りは単に、「どの教会が正しいか」ではなく、「どの教会に加わるべきか」でした。ジョセフは信仰をもって願い求めるために森へ入りました。行動する決心をしていたのです。

ほんとうの信仰は主イエス・キリストを中心とし、常に義にかなった行動へ導きます。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えました。「信仰は、啓示された宗教の第一の原則であり、すべての義の基である。」「[信仰は]あらゆる知性ある存在にとって、行動の原動力である。」(*Lectures On Faith* [1985年], 1)。単に行動することだけが救い主を信じる信仰なのではなく、正しい原則に従って行動することこそが信仰の中心的要素です。ですから、「行いを伴わない信仰[は]むなし」のです(ヤコブの手紙2:20)。

預言者ジョセフはさらにこのように説明しました。「信仰は行動の原動力であるだけでなく、天地のすべての知性ある存在にとって、力の源である。」(*Lectures On Faith*, 3) それゆえ、キリストを信じる信仰は義にかなった行動へと導き、義にかなった行動はわたしたちの霊的な力を増し加えるのです。信仰は行動と力の源であることを理解すると、わたしたちは福音の真理に従って道徳的な選択の自由を行使するようになります。また、救い主の贖いの持つ、人を強める力がわたしたちの生活に満たされ、わたしたちの内なる力が強まり、自ら選択し行動する者となるのです(教義と聖約58:28参照)。

意義深い祈りをするためには、神と心を通わせるとともに、献身的な努力をする必



要があるという真理を、わたしは長年心に抱いてきました。祝福を得るには、わたしたち自身が努力をする必要があるのです。祈りもこうした努力の一つであり、あらゆる祝福の中で最高の祝福を得るために定められた手段です(Bible Dictionary, "Prayer"の項, 753参照)。わたしたちは力強く進み、「アーメン」と言った後も、天の御父にお伝えした事柄を実行することによって、祈りが持つ献身的な努力という要素をたゆまずに満たし続けなければなりません。

信仰をもって願い求めるには、正直、努力、献身、忍耐が必要です。これからその意味を説明し、皆さんに、あることを勧めたいと思います。

世界中で働く専任宣教師の安全と成功

のために祈ることは正しいことです。多くの方は、宣教師が回復のメッセージを受け入れる準備のできた人や家族へ導かれるように祈ります。しかし、宣教師が教える人々を見つけるのは、わたしたちの責任です。宣教師は専任で教える人であり、わたしたちは専任で見つける人です。ですから、生涯を通じての宣教師であるわたしたちは、専任宣教師がわたしたちのなすべき仕事をするように祈るべきではありません。

もしわたしたちがジョセフ・スミスのように、心から祈り、信仰をもって願い求めるなら、ただ願いを表すだけでなく、行動する意志をもって祈るなら、福音を宣べ伝える業は格段に前進することでしょう。その

ような信仰の祈りには、次のような要素が含まれることでしよう。

- わたしたちの生活に希望と幸福をもたらす、イエス・キリストの回復された福音の教義と儀式について、天の御父に感謝する。
- 口を開き、家族や友人と福音を分かち合う勇気を願い求める。
- わたしたちの家庭で宣教師から教えを受ける招きに応じてくれる個人や家族を見いだせるように、天の御父に熱心に願い求める。
- 今日1日、また今週1週間、伝道に関する自分たちの務めを果たすことを主に約束し、不安や恐れ、ためらいを克服できるように助けを願い求める。
- 伝道の機会が訪れたときにそれを逃さない目と耳を持てるように、識別の賜物を願い求める。
- すべきだと知っていることを実行する強さを熱心に願い求める。

このような祈りの中で、感謝の気持ちが表され、ほかの祝福が求められることもあるでしょう。そして、救い主の御名により祈りを終えた後は、その祈りに伴う献身的な努力を続けていく必要があるのです。

このような神聖な交わりと献身的な努力という方式は、貧しい人や助けを必要としている人、病人や苦しんでいる人、問題を抱えている家族や友人、教会の集会に出席していない人々のためにささげられる祈りにも当てはまります。

信仰をもって願い求め、行動するときに、祈りは意義深いものになることを証します。福音を宣べ伝えるという、神から与えられた戒めについて、信仰をもって祈るよう皆さんにお勧めします。そうするときに、門が開かれ、与えられる機会に気づいて行動する祝福にあずかれることを約束します。

### 信仰が試された後に

2番目に述べる例は、信仰の試しにあきらめずに立ち向かうことの大切さを強調するものです。数年前、ある家族が合衆国からヨーロッパへ旅をしました。目的地に着くと間もなく、13歳の息子が重い病氣にかかりました。最初、両親は、息子の胃



の具合が悪いのは長旅の疲れのせいだと思い、そのまま旅を続けました。

時間が過ぎるにつれ、息子の容態は悪化し、脱水症状がひどくなりました。父親は神権の祝福を授けましたが、すぐに容態が改善されることはありませんでした。

数時間後、母親は息子のそばにひざまずき、息子の回復を天の御父に祈り求めました。故郷から遠く離れた慣れない国で、医者への助けを得る方法も分かりませんでした。

母親は息子と一緒に祈りたいか、尋ねました。彼女は、期待する祝福を待つだけでは十分ではないと思ったのです。彼らは、行動し続ける必要がありました。息子が受けた祝福はまだ効力があることを説明しながらも、祈りの中で嘆願することを再び提案しました。古代の使徒たちが、「わたしたちの信仰を増してください」と祈ったようにです(ルカ17:5)。その祈りには、神権の力に対する信頼と、神の御心にかんじた祝福を受けるために必要なことは何でもあきらめずに行うという強い決意が込められていました。このひたむきな祈りをささげるとすぐに、息子の容態は快方へと向かいました。

この母親と息子の信仰深い行為は、約束された神権の力を招き、以下の聖文にある要件を満たしたのです。「[わたしたち]が見ていないからというので疑ってはならない。[わたしたちの]信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。」(エテル12:6) アルマとアムレクの閉じ込められていた牢が地に倒れたのは、「彼らが信じてから」であり、アン

モンと彼の同僚たちが伝道の業で大きな奇跡を目にしたのは、「彼らが信じてから」であったように(エテル12:12-15参照)、この13歳の少年が癒されたのは、「彼らが信じてから」であり、「彼らが祈りで示した信仰に応じて」かなえられたのです(教義と聖約10:47)。

### わたしの思いではなく、御心が成るようにしてください

3番目の例は、わたしたちの生活の中で神の御心を認め、受け入れることの大切さを強調するものです。数年前、ある若い父親がいました。少年のときには教会に活発に集っていましたが、10代になると異なる道を選びました。軍隊に入った後、愛らしい女性と結婚し、間もなく子供が生まれました。

ある日、何の前触れもなく、4歳の幼い娘が重病になり、入院しました。絶望の中で、長年祈ることのなかった父親はひざまずいて祈り、娘の命が助かるように懇願しました。しかし、容態は悪化するばかりでした。この父親は次第に幼い娘の命が助からないことが分かり、彼の祈りはだんだんと変わっていきました。もはや癒しではなく、御心を理解できるよう求めるようになりました。「御心が成るようにしてください」という嘆願が変わっていったのです。

間もなく、彼の娘は昏睡状態になり、父親は娘が息を引き取る時が迫っていることを知りました。自分を超えた存在への理解と信頼と力に支えられた若い両親は再び祈りました。娘が目覚まし、もう一度だけ娘を抱き締めることができるようにという祈りでした。すると娘の目が開き、弱々しい腕を両親の方へ差し出し、最後の抱擁を求めたのです。その後、娘は永遠の眠りに就きました。この父親は自分たちの祈りがこたえられたことを知りました。優しく哀れみ深い天の御父は彼らの心を慰めてくださったのです。神の御心がなされました。そして、彼らは神の御心を悟ったのです(H・バーク・ピーターソン、"Adversity and Prayer" *Ensign*, 1974年1月号, 18を基に編集)。

わたしたちの生活の中で神の御心を見

極め、受け入れることは、意義深い祈りの中で信仰をもって願ひ求めるうえで、不可欠な事柄です。しかし、単に「御心が成るようにしてください」という言葉を述べるだけでは不十分です。一人一人が自分の意志を神にゆだねるために神の助けを必要としています。

「祈りとは、天の御父の御心と人の意志が互いに一致する行為である。」(Bible Dictionary, "Prayer" 752-753) 謙遜に熱心に絶えず祈ることを通して、天の御父の御心を知り、それに自分を調和させることができるようになります。この点において、救い主はゲツセマネの園で祈られたとき、完全な模範を示されました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。」(ルカ22:42, 44)

わたしたちの祈りの目的は、頼み事を並べ立てることではありません。神の御心と時節にかなって、神がお授けになりたいと思われる祝福を、自分やほかの人のために願ひ求めることです。誠実な祈りは天の御父により必ず聞き届けられ、こたえられます。しかし、受ける答えは、わたしたちの期待どおりのものが、期待どおりの時や方法で与えられるとは限りません。この真理は先に述べた3つの例でも明らかです。

祈りは特権であり、「魂の見えぬ望み」です。信仰をもって願ひ求め、行動し、信仰の試しに忍耐強く立ち向かい、「わたしの思いではなく、御心が成るように」と謙遜に御心を認め、受け入れるとき、決まりきった月並みな言葉を繰り返すのではなく、意義深い祈りをささげることができます。

永遠の御父、神の独り子、主イエス・キリスト、聖霊が生きておられることを証します。御父はわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださることを証します。わたしたち一人一人が信仰をもって願ひ求め、祈りをほんとうに意義深いものにするよう、さらに固い決意をもって努力することができますように、主イエス・キリストの聖なる御名によりお祈りいたします。アーメン。

# わたしたちは屈しません、 誘惑には負けないのです

七十人  
W・クレグ・ズウィック長老

標準を守り、信じていることを擁護してください。



神の御心を皆さん一人一人とともに感謝の気持ちで支持します。モンソン大管長の純真な心に感謝します。

森の中での神聖な経験について真実を話したとき、年若いジョセフ・スミスは迫害され、虐待されました。サタンはあざけりという攻撃の手段を使いました。「わたしは……名もない少年で……あったにもかかわらず、地位のある人々はわたしに目を留めて、一般の人々の心をわたしに敵対するようにあおり、激しい迫害を引き起こそうとしたのである。」<sup>1</sup>

行く先々で敵に出遭ったにもかかわらず、ジョセフは忍耐と自制と信仰において成長していきました。ジョセフの言葉を借りれば、「邪悪で腹黒い人々が罪のない

人々を滅ぼすために連合してきましたが、……それでも完全な福音は広がり続け」<sup>2</sup> 「いかなる汚れた者の手も、御業の発展を止めることはできません」<sup>3</sup> でした。

今日でも、教義を誤解し、わたしたちが従うように勧められている不変の価値観に攻撃を仕掛けてくる人たちがいます。

わたしの若い友人のイーサンは、母親にとっても大切な質問をしました。多くの10代の子供がそうであるように、イーサンも独立・自立し、良い友達に囲まれないと考えています。イーサンは自分の責任で正しい選択をしようと努力しています。非常に勇敢で、学業に熱心に取り組み、毎日聖文を研究しています。若い人たちが皆そうであるように、イーサンも学校の廊下で、またインターネットや映画、音楽などから多くの誘惑に直面しています。汚い言葉、挑発的な衣服も誘惑となります。悪いものはしばしば正しく見えることがあります。10代の子供は不安を持ち、拒絶されることへの恐れを抱えています。仲間の圧力はしばしば抵抗し難いものになります。イーサンは反対の価値観の砲撃を受けていると感じていました。

イーサンは母親にこう尋ねました。「母さん、友達をなくさないために、標準を下げた方がいいのかな。」

これはわたしたち一人一人が人生のあらゆる場面で考える重大な疑問です。わたしたちは隣人に受け入れてもらうために標準を下げようとするのでしょうか。職



場の状況に合わせるため、学校で疎んじられないために価値観を変えようとするのでしょうか。

愛情深いイーサンの母親はきっぱりと「いいえ」と答えました。

わたしもはっきりと答えます。「イーサン、そんなことをしてはだめです。あなたは神の子であることを決して忘れてはなりません。神はあなたを愛しておられます。標準を守り、信じていることを擁護してください。難しい局面に立たされ、一時的に孤立するかもしれません。高潔で人格の優れた友達を探し、彼らのところに行って、すばらしい模範に感謝しましょう。あなたと同じように孤独感を覚えている人に出会うかもしれません。主からの導きと守りを祈り求めましょう。主はあなたを支え、信頼できる友となってください。またあなたの模範が多くの友人に影響を与え、彼らはあなたの強さと人格から勇気を得るでしょう。」

ニーファイは父親の見た命の木の夢を

詳しく説明したときに、素朴ながらも力強い原則を教えました。

ニーファイは1本の木に続く細くて狭い道と、大きく広々とした建物について話しました。建物は非常に華やかな衣服を身に着けた人でいっぱいでした。彼らは、木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、あざけり笑いました。彼らは人々を道からそれさせ、その建物に入らせようとしていたのです。見たところ、建物の中にいる人々は楽しそうでした。誘惑と軽蔑が何と印象的に描かれていることでしょう。マックスウェル長老の言葉によれば「その笑いは、空元気のむなしい叫びでしかありません。」<sup>4</sup>

「あの奇妙な建物の中に入った人々の数は非常に多かった。彼らはその建物に入ると、わたしやほかにその実を食べていた人々を指さしてあざけり笑った。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。」<sup>5</sup>

この聖句の最後は、ニーファイの力強い

原則があります。仲間からの嫌な圧力にどう対応すればよいかについての一つの答えです。「しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。」

ボイド・K・パッカー会長は、少し前にこの導きとなる原則を強調して言っています。「世の中の標準からどれほど懸け離れても、嘲笑されても、多くの人が誘惑に負けても、わたしたちは屈しません。誘惑には負けないのです。」<sup>6</sup>

わたしたちは巧妙にカモフラージュされた誘惑を見破っているのでしょうか。

はやらない戦いを進んで戦っているのでしょうか。

パウロははっきりと警告しています。「人にへつら[う者となるのではなく]、キリストの僕と[なり]、心から神の御旨を行いなさい。」<sup>7</sup>

断固とした立場を取らなければならない時が来ています。霊的な基礎をしっかりと固め、神の預言者に耳を傾け、その勧告に従いましょう。

パウロはテモテにこう言いました。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥づかしく思ってはならない。」<sup>8</sup>

周囲の人々と異なる、正しい選択をするには勇気が要ります。ささいなことについて毎日義にかなった選択をしていると、もっと困難なときにも正しいことを選べるよう主が力づけ、助けてくださいます。

わたしたちが最も大切にしている教えや価値観は俗世で受け入れられません。自分や子供たちが確固としているためには、回復された福音のメッセージをしっかりと心に根付かせ、家庭で教えなければなりません。

モーサヤ書の力強い数ページの中に記されているニーファイ人の預言者アビナダイは、21世紀の問題に完璧に当てはまる不朽の教訓を残しています。

アビナダイは揺らぐことのない勇気を持ち主で、人から嫌われる行為であっても、真理を擁護しました。勇気を奮って悔い改めを叫んだとき、アビナダイは自分の命

を危険にさらしていることを知っていました。死を宣告された直後に見せた彼の雄々しい姿を心に浮かべることができます。自分の信仰と証を否定して死を免れることもできましたが、彼は恐れることなくこう宣言しました。「わたしは王に申し上げます。わたしがこの民についてあなたに申し上げた言葉は真実ですから、わたしは取り消しません。」<sup>9</sup>

わたしたちは真理を守るために命を落とすことはないでしょうが、アビナダイと同じように、背筋を伸ばし、頭を上げ、全身全霊を尽くして、イエス・キリストが救い主であられることを雄々しく宣言することができます。主は過去も現在も全能者の御子であります。主は生きて、わたしたちを愛しておられます。

わたしたちは主に従うときに、犠牲をささげ、神聖な聖約を守ることができます。主は言われました。「それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。……あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」<sup>10</sup>

自分自身を強めなければなりません。その確かな霊のとりでは、イエス・キリストという二つの言葉の中に見いだすことができます。わたしはへりくだって、主を証します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:22
2. *History of the Church*, 第2巻, 22
3. *History of the Church*, 第4巻, 540
4. "Cleanse Us from All Unrighteousness," *Ensign*, 1986年2月号, 19
5. 1ニーファイ8:33
6. 「真理の標準は確立された」『リアホナ』2003年11月号, 25
7. エペソ6:6
8. 2テモテ1:7-8
9. モーサヤ17:9
10. 教義と聖約6:34, 36

# 光と真理の力

七十人

ロバート・R・ストイアー長老

**このような時代に幸福に暮らすためには、わたしたちの中で霊的な光が燃えなければなりません。**



子供のころ、小さな懐中電灯の驚くべき力を発見しました。夜に点灯すると、懐中電灯を向けた所はどこでも、広く光が当たっているのが見えました。ほこりっぽい納屋で点灯したときはさらに胸が躍りました。空気を通して光が円すい状に見えるのです。しかし最も興味深かったのは、懐中電灯を自分の手のひらに強く押し当てたときの発見です。暗闇の中で手の全体が光っていました。光が確かにわたしの中にあるのです！光の物理的な特性を観察するのは興味深いことですが、霊的な光の特性と真理を発見するのはさらに驚嘆すべきことであり、また極めて重要です。

わたしたちはすばらしい時代に生きていますが、今は地から平和が取り去られている時代でもあります。<sup>1</sup> このような時代に幸福に暮らすためには、わたしたちの中で霊的な光が燃えなければなりません。

ん。この霊的な光を得て、さらにイエス・キリストの福音の真理が確実にわたしたちの魂を満たすようにするにはどうしたらよいでしょうか。3つの方法を提案します。(1) 真実の教義を学ぶ。(2) 純粋な証を得る。(3) 勇気をもって福音を実践する。

まず、真実の教義を学んでください。アルマは次のことを発見しました。「御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、……剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」<sup>2</sup> ヘンリー・B・アイリング管長はこう述べています。「神の御言葉とは、イエス・キリストと預言者によって教えられた教義です。アルマは神の御言葉には偉大な力があることを知っていました。神の御言葉は民の心を開き、霊的なこと、目に見えないものを見せてくれます。また、神と真理への愛を抱けるよう心を開いてくれます。」<sup>3</sup>

1832年、主は預言者ジョセフ・スミスに、霊的な光について真実で力強い教義を明らかにされました。

「この光は、広大な空間を満たすために神の前から発している。

これは万物の中にあり、万物に命を与える光であり、万物が治められる律法、すなわち御座に着[いて]おられる神の力である。」<sup>4</sup>

ボイド・K・バッカー会長もこの真理について力強く語っています。「[キリストの光は]聖文には次のようにも表現されています。『イエス・キリストの御霊……キリスト



の御霊には啓発する力があり、発明家、科学者、画家、彫刻家、作曲家、演技者、建築家などが、偉大で靈感に満ちたもの、全人類に祝福と善をもたらすものを造り出せるようにするのです。』<sup>5</sup>

光の基本的な特質に関する近年の科学的考察は驚くべきものです。今日の科学者は、光を「運ぶもの」<sup>6</sup>、「使者」<sup>7</sup>、または「仲保者」<sup>8</sup>であるとさえ表現しています。主の教義は何と深遠なのでしょうか。

第2に、純粋な証を得てください。この証は、神がわたしたちの御父であられ、イエスがキリストであられることについての聖霊による確認です。<sup>9</sup> 万物の中にある光と真理を見ることで、わたしたちは研究と信仰によって知識を得たいと強く望むようになります。聖霊による確認はその後で来るのです。<sup>10</sup> 肉体の感覚によっても神の御手の業や慈しみの多くを学ぶことができます。しかし霊的に「誠心誠意」<sup>11</sup> 真理を求めるときに、さらに深い証が明らか

にされるのです。スペンサー・W・キンボール大管長はこう述べています。「この世の知識、霊的な知識という宝はともに隠されている。正しい方法で探し、見いだそうと努力しない人の目から隠されているのである。……単に欲しいというだけの人に霊的な知識は与えられない。祈りだけでも十分ではない。生涯を通じた忍耐と献身が必要なのだ。……」<sup>12</sup>

神が人のために創造された偉大な万物を敬虔な思いで観察するとき証が強められます。主はエノクにこう宣言されました。「すべてのものは、……わたしのことを証するために創造され、造られている。」<sup>13</sup> 反キリストのコリホルに対し、アルマも同じような証を述べました。「万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と運行しているすべての惑星も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。」<sup>14</sup>

エノスが主の御前で味わった苦闘について読むと、彼の父親の証に力があつたことが分かります。エノスは言いました。「かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの喜びについて語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉が、そのときになってわたしの心に深くしみ込んできた。」<sup>15</sup> M・ラッセル・バラード長老もこう述べています。「明確に真理を宣言することで、生活に変化が表れます。それが心を変えるのです。」<sup>16</sup>

妻とともにブラジルのレシフェの近くで聖餐会に出席したときのことです。大変暑い日でしたが、下ろしたての青いスーツに身を包んだ9歳か10歳くらいの少年が説教台に立ちました。そして落ち着いた様子で会衆を眺めると、「うちでは道徳的な選択の自由について勉強しています」と言って聖句を読みました。「そのため、人は肉においては自由であり、……そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。……」<sup>17</sup> さらに続けてこう言いました。「年上の友達の中にはたばこを吸ったり、薬物を使ったりすることを選ぶ人がいます。でもぼくたちは皆、自分の行動の結果を受け入れなければなりません。」そして、次のような証で締めくくりました。「ぼくはこのことが真実だと分かります。」まだ小さなこの男の子の力強い証にわたしたちは深く感動しました。

3番目に、わたしたちは勇気をもって、受けた光と証にふさわしく生活しなければなりません。わたしたちは次の約束を受けています。「光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」<sup>18</sup> 勇気をもって福音を實踐するには真の努力と犠牲が必要です。これまで、ブラジルのマナウス近辺に住む聖徒が神殿で礼拝するには、人でいっばいの船に乗ってアマゾン川を2日間下った後、さらに2日間、熱帯地域をバスに揺られてレシフェ神殿まで行かなければなりませんでした。疲れ果てて到着するとシャワーを浴び、服装を整え、すぐに神殿

の礼拝を始めます。そして数日にわたって主に仕えた後、家までの長く厳しい道のりを帰って行くのです。犠牲をいとわない彼らの姿勢には、「ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」<sup>19</sup> という言葉が美しく表れています。

このすばらしくも困難な時代にあって平安でいるためには、真実の教義を学び、純粋な証を得て、勇気をもって福音の真理を実践しなければなりません。イエス・キリストと預言者たちから教えられた光と真理にふさわしい生活を送るとき、わたしたちは永遠の行く末をさらにはっきりと見ることができるようになります。このことを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

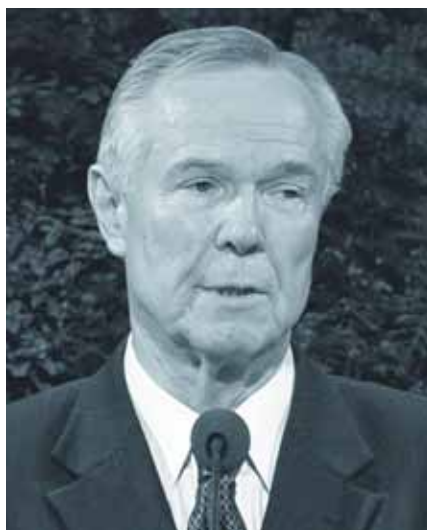
1. 教義と聖約1:35参照
2. アルマ31:5
3. ヘンリー・B・アイリング「教義を教える力」『リアホナ』1999年7月号, 86
4. 教義と聖約88:12-13
5. ボイド・K・パッカー「キリストの光」『リアホナ』2005年4月号, 8, 10
6. 2ニーファイ31:5参照。ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, プルース・R・マッコニキー編, 全3巻(1954-1956年), 第1巻, 54も参照
7. 教義と聖約45:9参照
8. 2ニーファイ2:27-28参照
9. M・ラッセル・バラード「純粋な証」『リアホナ』2004年11月号, 40参照
10. 教義と聖約9:7-8参照
11. モロナイ10:4
12. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 389-390で引用
13. モーセ6:63
14. アルマ30:44
15. エノス1:3
16. 『リアホナ』2004年11月号, 41
17. 2ニーファイ2:27
18. 教義と聖約50:24
19. ヨシュア24:15

# 群衆の中の一人

七十人

デニス・B・ノイエンシュワナー長老

**救い主がわたしたちを心にかけておられ、わたしたちを癒し、救うことができになるという信仰を持ちながら、静かに、また確固として、主の方へ進んで行こうではありませんか。**



ルカによる福音書の中に、12年もの長い間、長血を患っていた女性について記された箇所があります。この女性は治療法を見つけるために財産を使い果たしましたが、何の方法も見つけられませんでした。彼女は、群衆の中をかき分け、後ろから救い主に近寄り、その衣のふさに触りました。イエスは御自分に触ったのがだれなのか知りたいたと思われました。力が御自分から出て行ったとお感じになったからです。使徒たちは主のお尋ねになったことの意味を理解できず、次のように尋ねました。「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです。それなのに『わたしにさわったのは、だれか』とおっしゃるのですか。」<sup>1</sup>するとこの女性は恐れおののきながら、救い主に触ったのは自分であり、触るとたちまち病気が癒された、と

告白しました。救い主は、「あなたの信仰があなたを救った」とおっしゃり、彼女を平安のうちに帰されました。

短いながらも興味深い話ですが、この話から多くのことについて学び、深く考えることができます。

わたしは、群衆そのものについて想像してみました。人々がイエスの周りでひしめき合っていたからには、かなり大勢の群衆だったことでしょう。また、人々が少しでも良い場所からイエスを見ようと押し合っていたのですから、きっと騒々しい群衆だったことでしょう。では、彼らは一体なぜそこにいたのでしょうか。ほとんどの人たちは、好奇心から集まっていたと思います。イエスがどこへ行かれるにも、その到着や奇跡に関する情報が、事前に流れていました。恐らく、何か普通では考えられないこと、見逃してはならない出来事が起こるのではないかと期待していたのでしょう。記されてはいませんが、パリサイ人も群衆の中にいたのではないかと思います。いつもイエスの近くにいる、イエスをわなにかけ、困らせる機会や非難する口実を得ようとねらっていたようだからです。その群衆の中にイエスを嘲笑ちやうしやうするために来た人たちさえいたかもしれません。

そのような群衆の中に一人の女性がいました。謙虚な女性です。内気な女性かもしれません。後ろから救い主に近寄ります。そして当惑しながらも、イエスの衣のふさに触ったのは自分だと打ち明けます。様々な苦難のために疲れ果て、貧困にあえぐ女性でした。どうしても助けが必



要でした。見た目は、ほかの群衆とほとんど見分けがつかせませんでした。ですから、イエスに近寄るのを遮ろうとする人もいませんでした。使徒も皆、確かに、その存在に気づきませんでしたし、押しとどめようともしませんでした。しかし、彼女は、その日の群衆のだれと比較してもどこか違っていました。おびたしい数の群衆の中に埋もれてはいても、たった一つの目的を心に抱きつつ、確固として、静かに進んで行きました。救い主には、自分を癒してくださる力があり、自分のことを気遣ってくださり、自分の必要にこたえてくださるという信仰をもって救い主に近づこうとしたのです。この一点に関して、彼女はほかの群衆とはまったく違っていました。群衆が来たのは見るためでしたが、彼女が来たのは癒されるためだったのです。

聖文の中には、このほかにも、群衆の中にいた一人の信仰篤い人物について興味深い話が記されています。アルマはノア王に仕える邪悪な祭司たちの中にいました。ノア王の祭司は、高慢で、心が高ぶっており、怠惰で、偶像を礼拝し、むなしい偽りの言葉を民に述べる人たちだっ

たと記されています。<sup>2</sup> 彼らは主の道を曲げてしまっていました。心を注いで主の道を理解しようとしなかったのです。<sup>3</sup> アビナダイが悔い改めのメッセージを宣べ伝えたとき、ノア王の祭司たちはアビナダイをあざけり、最終的には、処刑してしまいました。彼らはまさに邪悪な群衆でした。しかし、聖文に記されているように、アビナダイの言葉を信じた者が「祭司たちの中に」<sup>4</sup> 一人いたのです。それがアルマでした。彼だけがアビナダイの教えたことを受け入れ、信じました。勇気を奮って群衆を離れ、主に従ったのです。群衆の中にいたこの一人の男性がニーファイ人の歴史に及ぼした影響は計り知れません。

モルモン書の中で最もよく知られている群衆として、リーハイの命の木の示現に登場する大きく広々とした建物を埋め尽くしていた群衆が挙げられます。この建物は老若男女を問わず、人でいっぱいでした。そして、その人たちは木の実を食べ続けている人々を指さしてあざけり笑っていました。<sup>5</sup> 残念なことに、その実を味わった人々の中には、この群衆の言葉に耳を傾け、「禁じられた道に踏み込んで姿が見え

なくなってしまった」人もいました。<sup>6</sup> しかし、その実を味わって、群衆のことを気に留めなかった人もいました。<sup>7</sup> これらの人々は命の木からもたらされる満ちみちる祝福にあずかりました。

実は、これらの話は群衆についての話ではなく、群衆の中の個人についての話なのです。さらに言えば、皆さんやわたしについての話なのです。わたしたちは皆、この世の群衆の中にいます。わたしたちのほとんどはあの女性にたとえられます。群衆の中にあっても、救い主のみもとにやって来た女性とよく似ているのです。わたしたちは皆、救い主に触りさえすれば、苦痛にあえぐ魂に癒しがもたらされ、心の奥底からの要求が満たされるという信仰を持っています。<sup>8</sup> 多くの国々で教会に集う新会員のほとんどは、アルマのような人たちです。彼らは命の言葉に耳を傾けません。家族の中で、あるいは友人の中で、自分以外に命の言葉を聞く人はいません。しかし、それでも彼らは勇気を奮い、福音を受け入れ、自らの選んだ道に従って群衆の中を進んで行きます。あざけり笑う人々の姿が見え、その声が聞こえる中で、命の木の実を十分に味わうことが何を意味するのか、勇気の限りを尽くしてそのような人々に気に留めないことが何を意味するのか、皆さんも分かると思います。

この世の群衆の中をかき分けながら進んで行くのが、孤独でつらいこともあるでしょう。より良いものに向かって進みたいと願っている個人に対する群衆の影響力がとても強く、抗し難いこともあるでしょう。

救い主ほど効果的に、群衆の中の一人に手を差し伸べ、その人を支え、最終的には救い出せる人がいるのでしょうか。救い主は、不遜な群衆の中であって屈せずに、なお忠実であり続けることがどういうことなのかを理解しておられます。俗世の群衆は、イエスを救い主だと認めず、こう言います。「彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。」<sup>9</sup> ベニヤミン王は、この世は「この御方をただの人と思(う)」と語っています。<sup>10</sup> さらに、イザヤはこの世界の群衆の中でキリストがどのような評価を



お受けになるかについてこう語っています。

「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。……彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。」<sup>11</sup>

ニーファイは次のように記しています。「世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。」<sup>12</sup>

この神の長子は、幾度となく不当な評価を受け、誤解されますが、最終的には、「油注がれた者」、すなわち世の救い主、贖い主として群衆の中に御姿を現されます。そのことについて、救い主は一部の大祭司や長老に向けて語られた御自身の言葉の中で控えめながらも預言しておられます。「家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった。」<sup>13</sup>

愛する兄弟姉妹、わたしたち一人一人が、この世の群衆の中を進んで行けますように。人生でどのような状況に置かれても、救い主がわたしたちを心にかけておられ、わたしたちを癒し、救うことがおできになるという信仰を持ちながら、静かに、また確固として、主の方へ進んで行くではありませんか。人生について語られた救い主の言葉に耳を傾け、それらの言葉からもたらされる実を絶えず十分に、また勇気をもって味わいましょう。イエスキリストの御名によって、アーメン。

注

1. 欽定訳ルカ8:45から和訳
2. モーサヤ11:5-11参照
3. モーサヤ12:25-27参照
4. モーサヤ17:2
5. 1ニーファイ8:27参照
6. 1ニーファイ8:28
7. 1ニーファイ8:33参照
8. ルカ4:18参照
9. イザヤ53:2
10. モーサヤ3:9
11. イザヤ53:3-4
12. 1ニーファイ19:9
13. マタイ21:42

# きょう 今日

## 七十人 ランス・B・ウィックマン長老

しょうざい  
贖罪の清めの恵みを受ける資格が与えられるように「今日」を生きるならば、神と永遠に生きることができます。



3週間前、わたしは「過去」に足を踏み入れ、その瞬間に、「今日」を再発見しました。わたしはこれから、「今日」について話します。

教会の責任を受けたわたしは、広大な太平洋を越えてベトナムの地に到着しました。わたしにとってこの旅は単なる大海の横断飛行にとどまりませんでした。時をさかのぼる旅だったのです。40年以上も昔、わたしは歩兵部隊の将校としてこの国の戦場で戦いました。時間を越えて、当時のあの場所の、あの人々の、そして一緒に戦った仲間たちの記憶が鮮やかによみがえります。かつてヤコブはこう書きました。「一生はあたかも夢のように過ぎてしまった。」(モルモン書ヤコブ7:26) わたしも同じ思いでした。およそ半世紀の時を隔てて、遠い記憶から見覚えのある場所へと戻っていたのです。教会の責任を終えると、過酷だったあの戦場をもう一

度訪ねてみようかと決心しました。愛する妻を伴い、記憶をたどる旅がこうして始まったのです。

これだけの年月がたっていると、自分にも、何を見つけたかったのか、はっきりとはしません。しかし実際に見つけたものは、予想とはまったく似ても似つかないものでした。わたしが見つけたものは、戦争ですさんだ人々ではなく、若々しく活動的な人たちだったのです。田園地帯で見たものは、砲撃の跡ではなく、平和で緑豊かな畑地でした。ジャングルさえ新たな成長を遂げていました。わたしは「昨日」すなわち過去を見つけることを半ば期待していたのかもしれませんが、しかし、わたしの見つけたものは、「今日」そして、輝かしい「明日」つまり未来の約束だったのです。「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る」という聖句が心に浮かんできました(詩篇30:5)。

わたしは再びかつての戦場に足を踏み入れ、改めてジャングルの中の道を歩いてみました。するとあの機関銃の銃声や爆弾の耳をつんざく音、小型銃器がぶつかる音が、心の耳に再び聞こえてきます。そして、「国のために最後まで完全に身をささげた」(エブラハム・リンカーン、ゲティスバーグ演説)友人たち、日焼けしたあの若者たちの顔が再び思い浮かびました。特にわたしは一人の友人のことを考えました。1966年4月3日のあの特別な日は、シュロの聖日と呼ばれる復活祭の時期の安息日でした。今からほぼ42年前のことです。

わたしたちの歩兵部隊がベトナムに派



遣されてから数か月が経過していました。わたしは中尉としてライフル小隊の指揮を執っていました。ほとんど毎日が戦闘状態で、その日も夜明けと同時に、わたしたちの隊は敵地深く潜入しました。早朝に10人構成の偵察隊を送り込みました。そのうちの一人がアーサー・モリス軍曹でした。偵察隊の何人かは銃撃戦で負傷しました。モリス軍曹も軽傷を負いました。最終的には、偵察隊は足を引きずりながら、わたしたちの待つ戦線に戻って来ました。

無線で医療班の救助ヘリコプターを呼びました。負傷兵をヘリに乗せると、わたしはモリス軍曹にも乗るよう言いました。ところが彼はためらった様子で乗ろうとしません。わたしはもう一度促しましたが、同じでした。再度命じました。彼はそれでも拒みます。とうとうわたしはこう叫びました。「モリス軍曹、ヘリに乗るんだ。」

すると彼は訴えるような目でわたしを見

て、「お願いします、中尉」と言いました。そしてわたしの耳から永遠に離れることのない言葉でこう言ったのです。「敵は、わたしのようなしびと人間を、殺せやしませんから。」

あの光景全体が、戦いを描いた絵のようにわたしの心に刻み込まれています。切り開かれたジャングル、ヘリコプターのいらだたいほどの爆音、せかすようにわたしを見る操縦士、そして、自分の部下と一緒にとどまらせてほしいと求めるこの友人。わたしは妥協しました。「明日」への命綱とも言うべきヘリに向かって、出発するようにと手を振ったのです。その日、日没を迎える前に、わたしの愛する友人アーサー・サイラス・モリス軍曹は、敵軍の砲火を浴びて、屍しかばねとなって地面に横たわったのでした。そしてわたしの心の中には、「敵はわたしを殺せない、敵はわたしを殺せない、敵はわたしを殺せない」と

叫ぶ彼の声が、今でも繰り返し響き渡っているのです。

確かにある意味では、彼はひどい間違いを犯しました。この世の命は、はかないものです。1回の鼓動、1回の呼吸が、この世界と次の世界を分けているにすぎないのです。少し前まで精力的に動き回っていた友人が、次の瞬間には不滅の霊が死すべき幕屋を離れ、命のない肉体を残すだけとなったのです。死とは、だれでも通過しなければならない幕のようなもので、アーサー・モリス軍曹のように、だれもいつそこを通るのか分かりません。わたしたちの経験するあらゆるチャレンジのうちで、恐らく最も厄介なものは、この世は永遠に続く<sup>と</sup>と考える誤った思い込みと、そこから生まれる次のような考え方でしょう。「救しを求めたり与えたりすることは、明日まで遅らせることができる。」しかし、イエス・キリストの福音が教えているように、救しはこの世を生きる目的の核となるものの一つなのです。

モルモン書の中で、アミュレクは次のような深遠な真理を説いています。

「見よ、現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。

さて、……あなたがたには……最後まで悔い改めの日を引き延ばすことのないように切に勧める。

……なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。」(アルマ 34:32-34、強調付加)

アミュレクの用いた「現世の生涯」という言葉は実に深遠な表現です。使徒ヤコブは次のように表現しています。「あなたがたは、あすのこともわからぬ身なのだ。あなたがたのいのちは、どんなものであるか。あなたがたは、しばしの間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎない。」(ヤコブの手紙4:14)そしてわたしたちは、この世を去るときのままの状態、次の世に入ります。ありがたいことにわたしたちには今日という日があります。

モリス軍曹はひどい間違いを犯した一

方で、この上なく正しくもあったのです。キリストの贖罪が肉体的にも霊的にも死を征服したという意味において、わたしたちは、ほんとうは不死不滅です。そして、贖罪の清めの恵みを受ける資格が与えられるように「今日」を生きるならば、神と永遠に生きることができるのです。この世の生涯は、獲得したりためておいたりする時期というよりも、むしろ、与えたり成長したりする時期です。この世の生涯は、正義と憐れみの両方が存在する戦場です。しかし、この二つは相反する敵としてぶつかり合う必要はないのです。なぜなら「今日」という時間を思慮深く生きるすべての人のために、イエス・キリストが贖罪を通して二つを和解させてくださったからです。

赦しを求めることも赦しを与えることも、ひとえにわたしたち次第です。それは悔い改めることであり、慈愛の手を差し伸べることでもあります。それにより、わたしたちは、救い主が開けてくださっている扉を通して、この世の生涯から昇栄へと敷居を越えて行くことができるようになります。「今日」は、主がわたしたちの過ちを赦してくださるということを確かに知ったうえで、人の過ちを赦す時期です。ルカの意味深い記録に「あなたがたも慈悲深い者となれ」とあります(ルカ6:36、強調付加)。完全な者となるまでにはこの世では程遠いかもしれません。しかし、慈悲深い者、憐れみ深い者となることはできます。結局、悔い改めることと赦すことこそ、神がわたしたちに最も求めておられることのひとつなのです。

わたしの回顧の旅は終わりを告げました。わたしは「今日」の平和な田畑を見直し、その豊かさの中に「明日」の約束を見ました。友人アーサー・サイラス・モリス軍曹のことを思い、あの生死を分けた日、シュロの聖日を思いました。そして、わたしはイースターの朝を迎えられた贖い主に心から感謝しました。主はわたしたちに命を授け、万物の下に身を落として、わたしたちが「今日」をとらえて正しく生きるかぎり、「明日」わたしたちを万物の上へ上げてくださる御方なのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 約束を伴う書物

七十人

クレグ・C・クリステンセン長老

**家族や友人に福音のメッセージを伝えるために、わたしたちがイエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書を引き続き活用できるよう祈ります。**



**愛**する兄弟姉妹、皆さんとともに大管長会のトーマス・S・モンソン大管長と大管長会の顧問、そして十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持できるのは聖なる特権です。

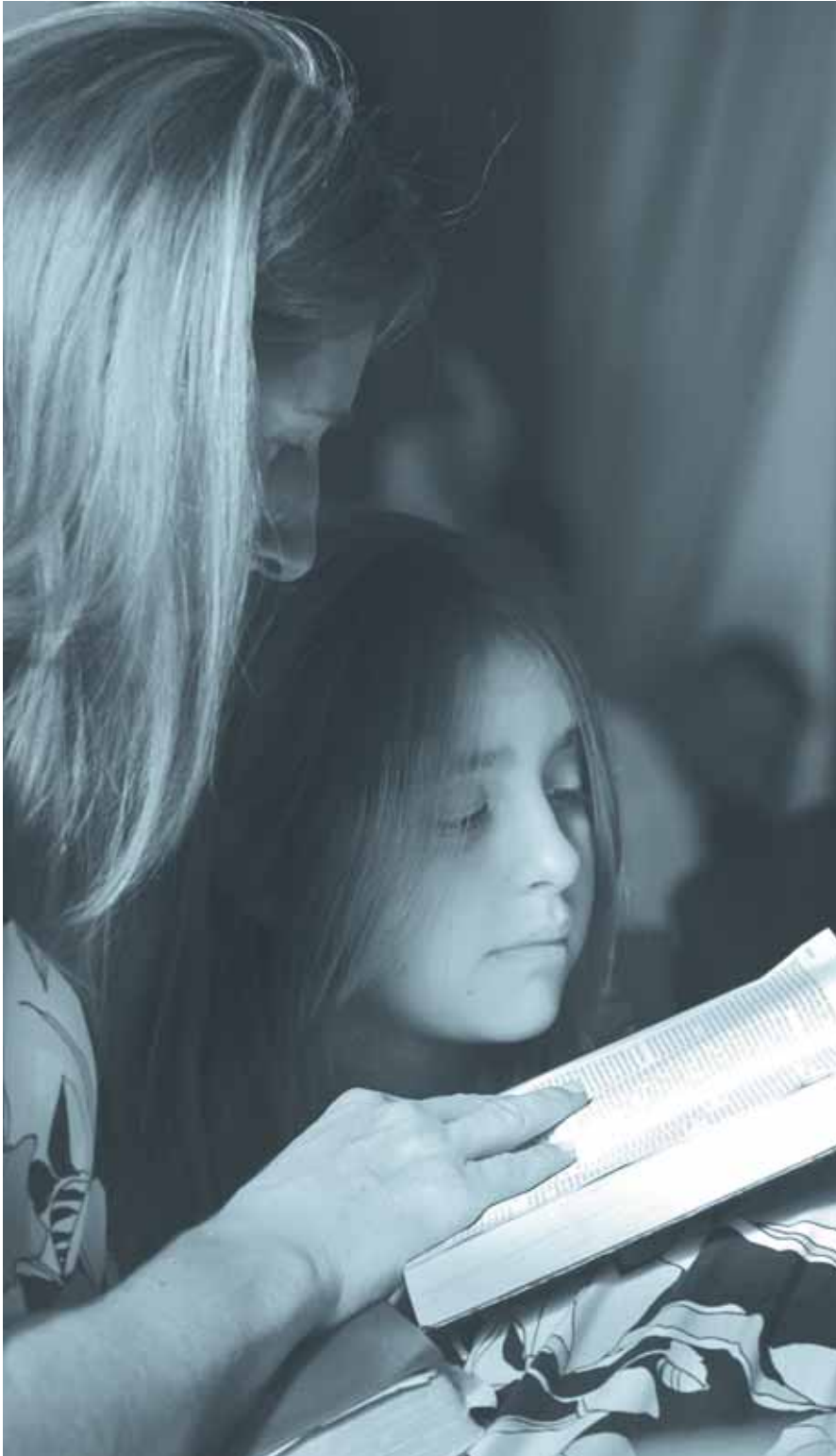
預言者が「聖霊に感じるままに語ること、……そして、何であろうと聖霊に感じて語ることは、聖文となり、主の心となり、……救いを得させる神の力となる」ことを証します(教義と聖約68:3-4)。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、預言者として支持された人々の口から力強く語られる生きた聖文に加え、聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠という書き記された聖文を手にする恩恵と祝福にあずかっています。預言者ニーマファイはこう記しました。「わたしは聖文に喜びを感じる……。わたしは聖文について心に深く考え、わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す。」

(2ニーマファイ4:15) 書き記された聖文、特にモルモン書は、わたしたちが神を信じ、「神の独り子キリストの贖罪を通じて神と和解」できるように導いてくれます(モルモン書ヤコブ4:11)。

数か月前、友人とともに、教会員ではない知り合いに標準聖典を1組プレゼントする機会がありました。その人の人生、またわたしたちの人生も変わるようなことが起こるだろうという確信をもって、それぞれの表紙に彼の名前を入れました。聖なる記録を贈ると、彼が聖文の持つ深い意味と、わたしたちの心からの気持ちに深く感じ入っているのが分かりました。何も言わず、数分の間、1冊ずつ手に取って、表紙をなで、ページをめくりながら、一つ一つの書物をじっくりと眺めていました。

絶好の機会だと思ったわたしたちは、その人にモルモン書のタイトルページを開いてもらい、この本がイエス・キリストについてのもう一つの証であると伝えました。すると彼は、伝道の精神を持つ会員ならぜひ耳にしたい質問をしてくれました。「どうして聖書以外に、イエス・キリストについてのもう一つの証が必要なのですか。」即答を避け、わたしたちはなぜその質問が大切だと思うかを尋ねました。返ってきた答えには、彼のしてくれた質問以上の靈感が感じられました。聖書とその教えには様々な解釈があるようなので、その教えを分かりやすく説明し、聖書をよりよく理解させてくれるものが必要だからではないかという答えでした。おかげで、聖書とモルモン書の両方についての思いと証を伝える機会が訪れました。



ブラジル、ソロカーバ・バルセロナステーク、リオ・アシーマワードの母と娘が聖文を研究する。

まず、わたしたちは聖書、特に新約聖書の教義と教えを大切に、信じていると伝えました。地上で福音を教え、人々を導いたときに救い主が語られた多くの言葉

を読むことで力を受け、救い主を知る助けとなることを話しました。またこの言葉は、わたしたちがもっとキリストのようになれると教えていることを伝えました。次に、

モルモン書は聖書と並び、神がすべての子供たちを愛しておられ、わたしたちがみもとに帰って再び神とともに住むための方法を用意されたことについてのもう一つの証であると確信をもって伝えました。それから1時間ほど、モルモン書の歴史や神聖な起源など、様々な点について簡単に説明しました。わたしたちが彼に伝えたことの幾つかを紹介します。

### 約束を伴う書物

最初に、モルモン書には約束が伴うことを説明しました。その歴史自体も魅力的ですが、モルモン書は聖文としての意味を持っており、聖霊の導きの下に受け入れ、読むべき書物です。この教えを研究し、深く考える人は皆、モロナイ書の最後の章（モロナイ10：3-4参照）とモルモン書の序文にある約束を受けます。「わたしたちはあらゆる地に住むすべての人に、『モルモン書』を読み、この書物に含まれている教えを心の中で深く考え、そして、この書物が真実かどうか、キリストの名によって永遠の父なる神に問うようにお勧めする。この手順を踏んで、信仰をもって問う人々は、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であるという証を、聖霊の力によって得るであろう。」それから少しの間、祈りについて、また聖霊がどのようにわたしたちの心に語りかけ、モルモン書が真実であると確認して下さるかについて教えました。

### 目的を持った書物

次に、モルモン書には目的があると伝えました。タイトルページにあるように、モルモン書は「戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記され」、「イエスがキリストであり、永遠の神で」あられることをわたしたち一人一人に確信させるために、「神の賜物<sup>たまもの</sup>と力によりもたらされ」ました。モルモン書の著者の一人であるニーファイはこの書物の目的について、自身の言葉でこう書いています。「わたしが一心に志すのは、人々がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のもとに来て救われるように、説き勧めることである。」(1ニーファイ6：4)

## 偉大な幸福の計画を教える書物

加えて、モルモン書は「偉大な幸福の計画」を教える書物であることを説明しました(アルマ42:8。42:5, 13, 31;2ニーファイ9章も参照)。モルモン書は人生の目的、わたしたちがどこから来たか、そして死ぬとどうなるかを、深遠ながらも分かりやすい言葉で教えています。イエス・キリストと贖<sup>あがな</sup>いの犠牲を信じる信仰、悔い改め、水に沈めるバプテスマの大切さ、聖霊の賜物と力について知ることができます。モルモン書の教義を研究し、よく味わうことにより、「永遠の命」を得るよう「最後まで堪え忍ぶ」望みを持って、「完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛」するようになります(2ニーファイ31:20)。

## イエスがキリストであられることを証する書物

わたしたちは、最も大切なこと、つまりモルモン書はイエスがキリストであり、世の救い主であられると証する書物であることを確信をもって伝えました。モルモン書に登場する偉大な預言者たちはイエス・キリストが地球の創造主(モーサヤ3:8参照)、人類の贖い主(ヒラマン5:9-12参照)、御父の独り子(1ニーファイ11:18-21;モルモン書ヤコブ4:11参照)であられることを厳粛に証しました。モルモン書のこれらの預言者はアブラハムやモーセと同じように主を知っており、主の永遠の福音を受け、教えました。預言者の言葉を読み、研究するときに、救い主の比類ない愛、主の完全な生涯と模範、大いなる贖いの犠牲の祝福についてより深く理解できるのです。

## 預言者としてのジョセフ・スミスの使命が真実であることを証明する書物

続けて、モルモン書はジョセフ・スミスがイエス・キリストの教会をこの末日の世に回復するために主から選ばれたことを証明する、目に見える証拠であると証しました。モルモン書の序文<sup>みたま</sup>にはこう記されています。「聖なる御霊を通じて神から〔モルモン書の神聖さについての〕証を得る人々は、その同じ力によって、イエス・キ



リストが世の救い主であられ、ジョセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であることを、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が、……地上に再び設立された主の王国であることを知るであろう。」

サミュエル・スミスが数冊のモルモン書の初版を手に、福音を宣べ伝えるべく旅立って以来、モルモン書は世界中に住む数多くの人々に祝福をもたらしてきました。家族や友人に福音のメッセージを伝えるために、わたしたちがイエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書を引き続き活用できるよう祈ります。そうすれば、先ほどの大切な友人のように、多くの人々が救い主の生涯と使命、そして偉大な救いの計画について強い関心を持ち、

もっと知りたいと言うようになるでしょう。

モルモン書が真実の書物であることを厳粛に証します。この書物はわたしの人生に大きな変化をもたらしました。神は生きておられます。イエスはキリストであります。主の福音は地上に回復されました。トーマス・S・モンソン大管長はこの時代における主の預言者であり、生ける神の代弁者です。モルモン書を毎日読み、深く考え、祈ることにより、わたしは御霊を感じます。この御霊は、これらの事柄についての理解と証を強め、それが真実であることを再確認してくれます。わたし自身のこの証をイエス・キリストの御名<sup>みな</sup>によっていたします。アーメン。

# 神の娘たち

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

人生において、母親の役割ほどきわめて重要で永遠に続くものはほかにありません。



**兄** 弟姉妹、最近妻のバーバラが背中を手術し、物を持ち上げたり、体をひねったり曲げたりすることができなくなりました。その結果、わたしはかつてないほど、物を持ち上げたり、身体をひねったり曲げたりするようになりました。今では、女性、特に母親が毎日家事をしてくれることに、より感謝するようになっていきます。

既婚者や未婚者、夫に先立たれた人、離婚した人、子供がいる人やいない人など、女性は家庭において様々な状況にあります。皆神に愛されています。神は義になかった娘たちが永遠にわたる最高の祝福を受けられるよう、計画を立てておられます。

今日、わたしはおもに母親について、特に若い母親について話します。

若い父親だったころ、わたしは母親が大変な役割を担っていることを知りました。

顧問とビショップとして奉仕した10年間に、7人の子供のうち6人が生まれました。日曜日の夕方、わたしが家へ帰るころには、妻のバーバラはたいへい疲れ果てていました。聖餐会で後ろの席に幼い子供たちと一緒に座るのがどのようなことか、わたしに説明しようとしていました。やがて解任の日がやって来ました。10年間壇上に座っていたわたしは、今度は後ろで家族と一緒に座ることになったのです。

ある日の聖餐会で、ワードの母親の中から組織したグループがコーラスを発表しました。わたしは後ろの席に座って、独りで6人の子供の面倒を見ることになりました。こんなに忙しい思いをしたのは生まれて初めてでした。両手に指人形をはめて奮闘しましたが、うまくいきません。コーンフレークが手からこぼれ落ちて、気恥ずかしい思いをしました。ぬり絵の本も子供の注意を引くにはさほど役立ちませんでした。

悪戦苦闘の末、集会が終わると、わたしは顔を上げてバーバラの方を見ました。彼女はわたしを見てほほえんでいました。わたしは妻や母親である皆さんがどれほどよくやっているか、そして忠実であるかがよく分かり、感謝の念を深めました。

1世代が過ぎ、祖父になったわたしは、娘たちが子育てのために犠牲を払う姿を見てきました。そして、さらに1世代を経て、今は孫娘たちがこの忙しく大変な世の中で子供を導くという重い責任を果たしている姿を感じながら見守っています。

3世代にわたる母親たちの姿を見てその苦勞に共感し、また自分の愛する母親のこ

とを考えると、人生において、母親の役割ほどきわめて重要で永遠に続くものはほかにないということがはっきりと分かります。

善い母親になるための完璧な方法は一つとは限りません。状況はそれぞれで、どの母親にも異なる問題があります。技能、能力も異なり、もちろん子供もそれぞれに異なっています。選択も、母親によって、また家族によって様々であり独特です。多くの母親は、少なくとも子供の人格が最も大きく形成される時期には、「専業の母親」になることができます。しかし、望んでもそうできない母親もたくさんいます。正社員またはパートタイムで働かなければならないかもしれません。家で働く人もいます。しばらく仕事に専念してから家庭に入る人もいるでしょう。重要なことは、母親が子供を深く愛しており、神と夫への献身を保ちつつも、ほかの何よりも子供を優先しているということです。

人生で限られた時期にしかできないこれらの事柄に専念することの大切さを学んできた無数の母親にわたしは感嘆しています。子供が18年から19年にわたって親とともに暮らすとしたら、その期間は親の人生の4分の1にすぎません。そのうち、子供の人格が最も大きく形成される幼年期は、通常人が生きる長さの10分の1以下です。親と一緒にいる短い間、子育てに真剣に取り組み、主の助けを受けて、子供が巣立つ前に親として教えられるすべてのことを教えようと努めることは非常に大切です。この永遠に重要な務めは、対等のパートナーである母親と父親に課せられています。今日、多くの父親が以前より子供の人生にかかわっていることに感謝しています。しかし、子供の幸せには、母親による養育への深いかわりと母性本能が常に重要な鍵を握っているとわたしは信じています。家族の宣言には次のようになります。「母親には、子供を養育するという主要な責任があります。」(「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49)

わたしたちは、母親の務めに全力で専念し、子供のことを優先させるのが難しいときもあることを覚えておく必要があります。

す。わたし自身の4世代にわたる家族での経験と、教会で幼い子供を持つ様々な母親との話し合いを通して、家で子育てに専念する決意をしている母親の気持ちが多少は分かるようになりました。大きな喜びと深い満足感に満たされるときもありますが、力不足や退屈さを感じたり、欲求不満になったりするときもあります。自分の選びがほとんど、あるいはまったく感謝されないと感じているかもしれません。時には、夫ですら自分の抱える重責を少しも理解していないように思えるときがあります。

教会は若い子供を持つ母親の皆さんに多大な尊敬と感謝を寄せています。皆さんが幸せで満ち足りた家族生活を送り、皆さんの努力が認められ、助けが得られるよう望んでいます。認められ、助けを得ることは皆さんにとって必要であり、皆さんにはそれを受ける資格があります。そこで、今日は4つの質問と簡単な答えを紹介し、あまりにも単純な答えに思えるかもしれませんが、そうした事柄に心を向けるなら、母親としての生活は大いに報いあるものになるでしょう。

最初の質問——若い母親として、負担を減らし、家族生活をもっと楽しむためにあなたができることは何ですか。

まず、母親の喜びは一瞬一瞬にあることを知ってください。つらくて不満を感じるときもありますが、困難の中でも、喜びと満足に満たされる瞬間があります。

アンナ・クインドレンは、自身の著作の中で、つかの間の瞬間を慌しく通り過ぎてはいけな<sup>い</sup>と言っています。「[親としての]わたしの最大の間違<sup>い</sup>は、ほとんどの親が犯す間違<sup>い</sup>と同じでした。……その時々瞬間を大切にしなかったのです。写真でしか振り返れない今となって、それは特によく分かります。[3人の子供が写った]写真があります。……ある夏の日、ブランコの陰の芝生にキルトを敷き、そこに座っている6歳と4歳と1歳の子供たちです。そのときに何を食べて何を話したか、子供たちの声の様子や、その日の夜の寝顔を思い出せたらどんなにすばらしいでしょう。夕食を食べさせ、お風呂に入れ、本を読み、寝かせるために、あれほど子



ウェールズのマーサー・ティドフィルに住む家族が大会に出席するためステーキセンターに到着する。

供たちをせかさなくてもよかったのに。一つのことを終えることばかりに気を取られずに、そのこと自体をもう少し大切にすればよかったと後悔しています。」(Loud and Clear(2004年), 10-11)

第2に、自分と子供の予定を詰め込みすぎないようにしてください。現代はできることが多すぎます。社交行事、けいこ事、運動、読書クラブ、スクラップブック作り、

教会の責任、音楽、スポーツ、インターネット、好きなテレビ番組など、気をつけていないと、わたしたちの予定は分刻みで埋まってしまう。ある母親は、子供たちのカレンダーには、音楽のレッスン、スカウト活動、ダンス、リトルリーグ、デイキャンプ、サッカー、美術など毎週29の予定が入っており、自分のことをタクシーの運転手のように感じたそうです。ついに、その母親は

家族会議を招集して言いました。「どれかをやめましょう。これじゃ自分のための時間も、お互いのための時間もないわ。」家族関係を深め、親としての真の責任を果たすための、何の予定もない時間が必要です。耳を傾け、笑い、一緒に遊ぶ時間を取ってください。

第3に姉妹の皆さん、余計な予定を減らしたうえで、さらに自分の時間を見つけてください。才能を伸ばし、関心事を探索する時間を取るのです。学んだり、<sup>おこな</sup>行ってみたりしたいことの中から、生活を豊かにしてくれるものを一つか二つ選び、そのための時間を作ってください。空の井戸から水はくめません。自分を豊かにするために多少の時間を割かなければ、ほかの人や、子供にさえも、与えられるものがどんどん少なくなってしまう。もっと効率よく、たくさんの方ができるようになるという間違った考えによる違法薬物やアルコールの使用を避けてください。また、テレビのメロドラマを見たり、気の向くままにインターネットのページを眺めたりといった、思考を鈍らせることで時間を無駄にしないようにしてください。信仰をもって主に心を向けてください。そうすれば、何をどのようにするべきかが分かるでしょう。

第4に、祈り、福音を研究して教えてください。子供について、母親としての自分の役割について心から祈ってください。親は自分だけのすばらしい祈りをささげることができます。全人類を創造された永遠の親に祈っているからです。次のような心からの祈りには大きな力があります。「わたしたちはお父様の子供を託されています。御心にかな<sup>みこころ</sup>った育て方ができるよう助けてください。」

2番目の質問——子供の母親である妻を助けるために、夫はさらに何ができますか。

第1に、妻の日々の努力をさらに認め、もっと感謝してください。妻のすることに気づき、頻繁に感謝してください。夫婦だけで過ごす夕べを計画してください。

第2に、子供一人一人の必要について、また親としてできることについて、妻と話し合う時間を定期的に持ってください。



第3に、時々、妻のために「気晴らしの日」を設けてください。家事を引き受け、毎日の仕事から休ませてあげてください。母親業を少しの間でも交代すると、妻の日々の苦労に対する感謝の気持ちを大いに高めることができます。物を持ち上げたり、身体をひねったり曲げたりする機会が増えることでしょう。

第4に、仕事から戻り、家族の中で積極的に自分の役割を果たしてください。子供の話に耳を傾け、一緒に遊び、子供を教えることよりも、仕事や友人、スポーツを優先してはなりません。

3番目の質問——幼い子供も含めて、子供には何ができるでしょうか。子供の皆さん、よく聞いてください。皆さんのお母さんを助けるためにできる簡単なことがありますよ。

遊んだ後、おもちゃを片付けましょう。もう少し大きくなったら、布団を敷く、お皿を洗うなど、言われなくても家事を手伝いましょう。

おいしい食事の後は、もっと「ごちそうさま。ありがとう」を言いましょ。寝る前にお話を読んでもらったり、服を洗濯してもらったりしたら「ありがとう」と言いましょ。

何よりも、もっとお母さんを抱き締めて、「お母さん大好き」と言いましょ。

最後の質問——教会は何ができますか。

母親や家族のために教会ができることはたくさんありますが、この話の目的に合わせ、ビショップリックとワード評議会の皆さんに次の提案をします。若い母親とその家族をよく見守り、彼らの抱える時間的、物質的な負担を特に考慮してください。子育てという時期にある彼らの状況をよく知り、何かを依頼するときは賢明な判断の下に行ってください。アルマから息子ヒラマンへの助言は今日も<sup>こんにち</sup>当てはまります。「見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」(アルマ37:6)

愛する姉妹の皆さん、結婚しているか否かにかかわらず、皆さんすべてが主と教会の指導者の目に大きな価値のある存在であることを決して疑わないでください。皆さんを愛し、尊敬しています。皆さんが家族を守り、教会が発展して霊的な活力を維持するための影響を及ぼしていることに感謝しています。「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものである」ということを思い出してください(「家族——世界の宣言」)。聖文および預言者と使徒の教えは、家族全員が将来永遠に一緒にいるための備えを、今一緒にする助けになります。教会の女性たちが引き続き神から祝福を受け、神の娘としての神聖な役割を果たすことに喜びと幸福を見いだせるよう祈ります。

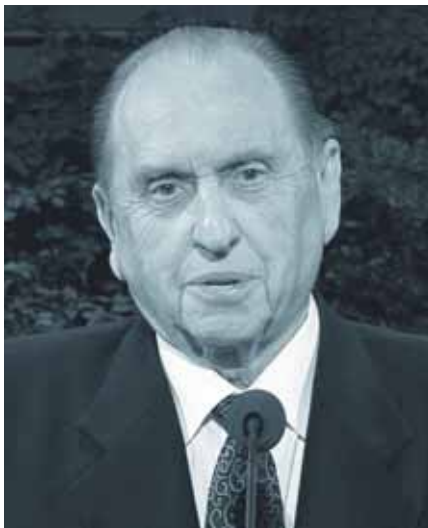
最後に、モンソン大管長が預言者として召されているという証<sup>あかし</sup>も付け加えます。初めて会ったとき、大管長は22歳、わたしは21歳でした。もう58年になりますが、わたしはモンソン大管長が預言者、大管長として教会を管理するよう、この日まで主の手により備えられる様子を見てきました。モンソン大管長が教会の大管長として特別な召しを受けているというわたしの証を、この総大会で述べられたすべての証に付け加えます。また、イエスがキリストであり、この教会が主の教会であるという多くの人々の証に自分の証を加えます。イエス・キリストの御名により、アーメン。



# 豊かな祝福

トーマス・S・モンソン大管長

わたしたちの証は強められました。イエス・キリストの福音の原則に従って生活することを、だれもがさらに決意できたことでしょう。



長年大会に出席してきましたが、この部会ほど豊かに祝福を受けたと感じた部会はなかったように思います。多くの話者から次々と話を聞きましたが、皆が非常に重要な事柄に触れました。スモーガスボード〔訳注——スウェーデン発祥のいわゆるバイキング料理〕のように信仰、愛、勧告という様々なごちそうを堪能しました。これらを生活の中で実践しましょう。

バラード兄弟、わたしの愛する妻が何年前に入院したとき、次のようなメモを子供たちに残して行きました。「子供たちへ。お父さんに電子レンジを触らせないこと。」続けてこう書いてありました。「ガスコンロも、食器洗い機も、乾燥機も触らせないこと。」これ以上は恥ずかしくて口にすることはできません。

ワークトドルフ兄弟から、次のように言われました。「今朝、大管長は母方の受け

継ぎについて聴衆に話されましたが、父方の受け継ぎについてもお聞かせいただけますか。」そこでわたしは、父方の受け継ぎについて少し話して、結びの言葉とします。

わたしの父の父はスウェーデン出身で、祖母はイングランド出身です。二人はアメリカへ向かう船上で出会いました。祖父は祖母が結婚できる年齢になるのを待ってからプロポーズし、二人はソルトレーク神殿で結婚しました。祖父は日記にこう書いています。「今日は人生最良の日だ。妻とわたしは聖なる神殿で、この世から永遠にわたって結婚した。」

3日後の1898年4月23日に祖父はこう書いています。「最終目的地のスカンジナビアに向けて、リオグランデ・ウエスタン発着所で汽車に乗った。伝道するよう召された地に向けて。」祖父は、結婚して3日目の花嫁を残してスウェーデンに向かったのです。

鉛筆で書かれた祖父の日記は、おじから引き継いだものです。おじはどういうわけか、自分の父である祖父の日記をわたしに託してくれました。その日記の中で最も頻出するのは次のような言葉です。「足がびしょぬれだ。」しかし、日記の中で最も美しい記述は次のように書いたものです。「今日、わたしたちはヤンソン家を訪れ、ヤンソン姉妹に会った。ヤンソン姉妹はごちそうを用意してくださった。とてもおいしかった。」続けてこうあります。「子供たちが皆で歌い、ハーモニカを吹き、踊りを披露してくれた。それからヤンソン姉妹は什分の一を納めた。主に5クロー

ナを納め、同僚のイブソン長老とわたしにも1クローナずつ下さった。」そして子供たちの名前を記していました。

その日記を読んだとき、その家族の中に妻の父の名前を見つけました。恐らく歌を披露したであろう子の一人が成長し、後にもうけた一人娘が、わたしの妻です。

妻のフランシスを初めて見たとき、結婚するならこの人だと思いました。やがて、主がわたしたちを引き合わせてくださり、わたしは彼女をデートに誘いました。フランシスを迎えに自宅に行くと、父親に紹介してくれました。彼女の父親はこう言いました。「『モンソン』、スウェーデン系の名前だね。」

わたしは「はい」と答えました。

すると「やっぱり」という答えが返ってきました。

そしてフランシスの父親は別の部屋から、シルクハットをかぶってモルモン書を持った二人の宣教師の写真を持って来ました。

「このモンソンとは親戚かね。エライアス・モンソンだ」とフランシスの父親は言いました。

わたしはこう答えました。「はい。大おじです。大おじもスウェーデンで伝道しました。」

フランシスの父親は涙もろい人で、涙を流しながらこう言いました。「彼と同僚が、わたしの母、父、わたしときょうだいたちに福音を伝えてくれた宣教師だ。」フランシスの父親はわたしの頬にキスをしました。すると母親も泣きだし、反対側の頬にキスをしてくれました。わたしが期待を込めてフランシスの方を見ると、彼女は「コートを取って来るわ」と言っていなくなってしまいました。

数年前、愛するフランシスは病に倒れ、入院しました。妻は18日間、昏睡状態にありました。わたしは妻の傍らで看病しましたが、妻はまったく身動きしませんでした。子供たちは涙を流し、孫たちも涙を流しました。わたしも泣きました。妻はまったく動かなかったのです。

そしてある日、妻は目を覚ましました。わたしはこれまでにないほど急いで病院へ行き、キスをし、抱き締め、「戻って来た



大会の部会の終了後、連れ立って会場を離れるトーマス・S・モンソン大管長と妻のフランシス姉妹。

ね、愛しているよ」と言いました。すると妻はこう言いました。「わたしも愛しているわ、トム、でも大変なことが一つあるの。」ずっと昏睡状態にあったのに、何を言っているのだらうと思っていると、妻はこう言いました。「第4四半期の所得税を郵送していなかったの。」

わたしは言いました。「フランシス、キスをして『愛しているわ』と最初に言ってくれていなかったら、君を置いて帰っていたかもしれないよ。」

兄弟の皆さん、高潔さと敬意をもって奥さんに接しましょう。彼女たちは永遠ほんの伴

りよ  
侶だからです。姉妹の皆さん、夫を敬ってください。兄弟たちは皆さんの親切な言葉を必要としています。皆さんの心温まる笑顔や、心からの愛を伝える優しい言葉を必要としています。

わたし自身の家族のことは、これくらいにしておきましょう。兄弟姉妹の皆さん、素晴らしい大会でした。わたしたちは賢明な靈感あふれるメッセージを通して鼓舞されました。わたしたちの証は強められました。イエス・キリストの福音の原則に従って生活することを、だれもがさらに決意できたことでしょう。

わたしたちは素晴らしい話を通して祝福されただけではなく、美しい音楽によっても高められました。音楽の才能を分かち合ってくれる人々を通して、わたしたちは教会の中で豊かに祝福されています。どの聖歌隊やコーラスも、この2日間を通して素晴らしい歌声を聴かせてくれました。

出席してくれた皆さんや、視聴してくれた皆さんすべてに心からの愛を伝えます。愛するヒンクレー大管長が亡くなってから2か月の間、わたしは皆さんの祈りを感じ、皆さんから支持され、祝福されてきました。皆さんの賛意の表明に改めて感謝します。

この末日に福音が回復されたことへ感謝と、福音の回復がわたしの生涯にもたらした事柄への感謝を十分に表すことはできません。わたしたちは皆、救い主に倣い、主の福音の原則に聞き従うことによって影響を受け、形作られてきました。

親の皆さん、子供に愛を示してください。皆さんは子供を愛しているでしょうが、子供が親の愛をはっきりと認識できるようにしてください。彼らは貴い存在です。そのことを子供が分かるようにしてください。子供の必要に日々こたえるときや、親として避けられない苦難に遭うときに、天の御父に助けを求めてください。自分自身の知恵だけでは、子供を育てることはできません。

世の罪に対して立ち上がり、能力の限りを尽くして戒めに従っている、素晴らしい若い兄弟姉妹を称賛します。

神殿に参入することのできる皆さんには、しばしば神殿に参入するよう勧めます。そうすることは、結婚生活と家族を強めるうえで役立つでしょう。

互いに親切であり、必要によく気づき、助け合うようにしましょう。

愛する兄弟姉妹、皆さんを愛しています。また、皆さんのために祈っています。どうか皆さんもわたしのために祈ってください。そして一緒に、天の御父がわたしたち一人一人に用意しておられる祝福を刈り取りましょう。これはわたしの祈りであり、心からの願いです。この言葉にわたしの証を付け加えます。この業は真実です。イエス・キリストの御名みなにより、アーメン。

# 証人になる

中央若い女性会長  
スーザン・W・タナー

**皆さんは、今の家庭で信仰、愛、平和、証の霊をはぐくむことで神の証人になることができます。**



この説教台に立ちながら、世界中の若い女性の顔を思い浮かべています。皆さんのことが大好きです！そして特に皆さんと一緒に「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、……神の証人になることを」約束できることをうれしく思っています。どうしたらそのような証人になれるのでしょうか。この話の中で、御霊がわたしたちを導き、神の証人になる方法について一人一人に証してくださるよう祈っています。

我が家の子供たちは、イエス・キリストの証人になると聖霊がその証を確認してくださることを伝道中に学びました。娘の一人にはジェーレーというすばらしい求道者がいました。若い女性で、教わった戒めを一つ一つ、どんなに難しくても守りました。学生で経済的に苦しかったのですが、自分の一について学ぶと納めるようになりました。日曜にも勤務のあるアル

バイトをしていましたが、聖餐会に出席するため、シフトを変えてもらえるよう勇気をもって雇い主に願い出しました。

とても熱心なジェーレーでしたが、まだモルモン書に強い証を持てずにいました。娘と同僚は、ジェーレーにはモルモン書が真実であると確信させてくださる御霊の証が必要であると分かっていました。そこで聖霊について教える準備をしました。しかし、準備していると、何かが違うと感じました。この気持ちについて祈ると、テーマを変えて、代わりにイエス・キリストについて教えるべきだという気持ちになりました。

ジェーレーに会う日が来て、娘と同僚はイエス・キリストについて教え始めました。涙がジェーレーの頬を伝い始めました。彼女は何度も尋ねました。「この気持ちは何ですか。」二人はそれが御霊であると彼女に証しました。まさに願っていたことが起きたのです。そのとき娘は、聖霊の偉大な役割の一つがキリストを証されることだと思い出しました。イエス御自身もこう述べておられます。「助け主、すなわち聖霊が、……わたしについてあかしをするであろう。」<sup>1</sup> 娘は、自分がイエス・キリストの証人になると、聖霊がそれを確認してくださるのだと実感しました。わたしたちもまた、「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し」そして「[わたしたちの]罪の赦し」<sup>2</sup> を求めるためにキリストに頼ることで、証人になることができます。<sup>3</sup>

モルモン書の義にかなった王ベニヤミンは、キリストのことを話し、キリストのこ

とを説教するために、民を神殿に集めました。主の慈しみ、力、知恵、忍耐、そして何よりも贖いについて民に教えました。ベニヤミン王が証人となったので、御霊はジェーレーに証したように、王の民にもイエス・キリストが救い主であられると証しました。ベニヤミン王は民に、キリストへの信仰において確固たる者となるようにという訓戒を与えました。民は皆叫びました。

「わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。……主の御霊のおかげで、……わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。……そしてわたしたちは、……すべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わします。」<sup>4</sup>

ベニヤミン王の民は、わたしたち一人一人がそうしたように、神の戒めを守るという聖約を交わしました。

皆さんはその聖約を守ることで、友達の中で証人になるのです。この間、息子夫婦や娘夫婦が、友達からの圧力を受けても正しい価値観に従って行動した経験を思い出しながら話してくれました。彼らは日曜日のチャリーディング大会に出場せず、雇い主に安息日には働けないと伝えました。また、まだ11歳のときに友達の家でポルノ映画を見ないと断り、クラスメートとポルノ雑誌を見ることを拒みしました。その二人はその後しばらく仲間外れにされました。職場で乱暴で下品なひどい言葉を一緒に使って使うことを拒みしました。友達が鍵のかかった親の棚からお酒を持ち出したときに、自分は飲まないと断りました。クラスで一人だけの末日聖徒だったとき、英語の発表をしたのに最後はモルモン書に関して質問攻めに遭ったこともあります。結婚した彼らは今、世間の批判に遭っても、引き続き子供を産み、育てています。

孤独を感じることもあったでしょう。しかし証人となることで、聖霊がともにいて支えてくださっていると感じました。



また、神の戒めに従順であったために祝福を受け、その祝福によって助けを得てきました。主はこう約束されています。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」<sup>5</sup>

わたしの子供たちは、確固として戒めを守ることで神を証したので、確かに神の御手に支えられました。わたしは子供たちの模範によって祝福され、強められてきました。

皆さんが家庭で証人となれば、家族を強められるでしょう。若い女性のテーマにある「家庭と家族を強め」<sup>6</sup> という言葉は、将来妻になり母になったときの責任にのみ当てはまると思いがちですが、まさに今の、娘として、姉または妹としての責任にも当てはまるのです。

母も若いころ、家庭と家族を強める手助けをしました。教会に熱心に集っていなかった家族の長女だった母は、信仰という賜物に恵まれていました。母は独りで初等協会やミューチャルに行きました。

さらに、両親が神殿に入れるようになる前に、母は神殿結婚をする条件を満たしていました。母は義の模範、そして確固とした証人となり、その模範によって両親や弟、妹を強めました。若い女性の皆さんも神の証人になることができます。皆さんの今の家庭で信仰、愛、平和、証の霊をはぐくむことで証人になるのです。それは将来自分自身の家庭を築くときにも同じようにする準備になります。今のわたしがいるのも、母が「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをし[た]」<sup>7</sup> 義にかなった若い女性だったおかげなのです。

わたしたちはまた、イエス・キリストのことを喜ぶときにキリストの証人となります。イエスについてさらに学んだベニヤミン王の民はこう言いました。「王が語ってくださったこと」によって「この偉大な知識が与えられ、……その結果、わたしたちはこのように、非常に大きな喜びを得ています。」<sup>8</sup> わたしたちは救い主のことを喜ぶと、救い主を覚え、救い主から受ける偉大な祝福を思い起こします。感謝を示し、喜びを表すときに証人となるのです。この集会の開会で若い女性の皆さんが歌った

とおりです。「知らずや、恵み上より汝れにそそぎしを」<sup>9</sup>

わたしは最近、二人の勇気ある若い女性について知りました。二人は戒めを守り、福音の喜びを表し、神の証人となりました。これは宣教師訓練センターで訓練を受けていたシニア宣教師の姉妹から聞いた話です。

その宣教師はこう話してくれました。何年も前、彼女は家で昼のドラマを見ながら、たばこを吸い、アイロンをかけていました。するとドアをノックする人がいます。開けてみると、白いワイシャツにネクタイ姿の二人の男性が立っていて、一人が彼女のビショップであると自己紹介しました。ビショップは、祈っていると彼女に若い女性を教えるよう依頼するべきだという靈感を受けたと言いました。彼女は10歳でバプテスマを受けたものの、活発に教会に通ったことは一度もないと言いました。ビショップは気に留める様子もなく、テキストを見せ、水曜日の夜にミューチャルがどこで行われているかを説明しました。彼女は強い調子で言いました。「わたしに16歳の子供たちを教えられるわけがあり

ません。教会に通っていないですし、それにたばこを吸うんですよ。」するとビショップは言いました。「これからは違いますよ。たばこも水曜日までまだ時間があります。」そして帰って行きました。

彼女はこう言いました。「怒りが込み上げ、どなり散らしたのを覚えています、テキストを読みたいという気持ちに勝てませんでした。実はとても興味がありました。最初から最後まで読み通し、それから教えるレッスンの内容を全部暗記しました。

水曜日になるまで行くつもりはなかったのですが、気がつくやうに教会に向けて車を走らせていました。ひどくおびえていました。こんなにも怖いと思ったことは一度もありません。わたしは貧民街で育ち、警察に拘留<sup>こうりゅう</sup>されていたこともありますし、父を泥酔者留置所に引き取りに行ったこともあります。それが突然、ローレルの新しいアドバイザーとしてミューチャルで紹介されたのです。二人のローレルの前に座ったわたしは、一言一句、手引きに書いてあるとおりにレッスンを伝えました。『ここで次の質問をする』という指示のところまで口に出してしまいました。レッスンが終わるとすぐに教会を出て、帰り道はずっと泣いていました。

数日後、またドアをノックする人がいます。『よかった。ビショップがテキストを取りに来たわ』と思いました。ドアを開けると、かわいらしい二人のローレルの女の子が立っていました。一人は花を、もう一人はクッキーを持っていました。彼女たちは、日曜日に教会と一緒に行くように誘ってくれました。わたしは教会に行きました。この女の子たちが好きになりました。彼女たちはまず、教会について、ワードについて、そしてクラスについて教えてくれました。裁縫も、聖文の読み方も、ほほえみ方も教えてくれました。

わたしたちは一緒に、クラスに来ていない女の子たちを教えるようになりました。車の中やボウリング場、玄関先など、会える所ならどこでもかまわず教えました。半年もたたないうちに14人がクラスに出席するようになり、1年がたつころには名簿



に載っている16人の女の子全員が活発に集うようになりました。わたしたちはともに笑い、ともに泣きました。祈り、福音を学び、奉仕し合うようになりました。』<sup>10</sup>

この勇気ある二人の若い女性は、真理、正義、慈しみ、そして福音の喜びに対する証人となったのです。

中央若い女性会長に召され、任命を受けたとき、わたしはイエス・キリストへの自分の信仰が奉仕を通して強められるという祝福を受けました。顧問の姉妹たちや中央管理会の姉妹たち、ほかの補助組織の会長会の皆さん、すばらしい前任者である、これまでの中央若い女性会長など、わたしは勇気ある女性たちに囲まれています。彼女たちは模範的な生活や自分を忘れた奉仕によってイエス・キリストの証人となっています。

この女性たち、わたしの家族、そして世界中の確固として揺るぎない若い女性と指導者に支えられ、わたしは自分が「このような多くの証人に雲のように囲まれている」ように感じます。この気持ちは、「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ」[「わたしの」参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬ[けるよう]]助けてくれます。<sup>11</sup>

任命のときに受けた、イエス・キリストへの信仰が増すという約束は、いつでも、どこにいても主の証人になることで実現しました。わたしは主のことを話し、主のことを説教し、主のことを喜んできました。

自分の言葉では不十分だと感じたとき、主の御霊がわたしの言葉が確かであると証してくださいました。恐れを抱いたり、力のなさを感じたりするとき、主の全能の御手に強められ、支えられてきました。わたしたちが証人となると、主がわたしたち一人一人を祝福してくださいと知っています。主は「必ず[わたしたちを]見捨て[られません。]」<sup>12</sup>

キリストへの確固とした信仰をもって、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても主の証人になって前進できるよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

#### 注

1. モーサヤ18:9
2. ヨハネ14:26, 15:26
3. 2ニーファイ25:26
4. モーサヤ5:2, 5
5. イザヤ41:10
6. 「若い女性のテーマ」『成長するわたし』, 6
7. モーサヤ5:15
8. モーサヤ5:4
9. 「造り主の主を」『賛美歌』37番
10. この経験談を載せた別の記事については、ジョアン・アトキンソン「私はふさわしくありません」『聖徒の道』1989年1月号, 19-20を参照
11. ヘブル12:1-2
12. 「主のみ言葉は」『賛美歌』46番

# いつでも、どのようなことについても、どのような所においても

中央若い女性会長会第一顧問  
イレイン・S・ダルトン

**証人となり、戒めに従い、「キリストを確固として信じ」ながら前進するとき、皆さんが独りになることは決してありません。**



**皆**さんの前に立って、救い主とその比類ない生涯について証でき、光栄です。主は地上に来て、天で作られた計画に従って生活する方法を示されました。その計画どおりに生活するなら、わたしたちは幸福になれるのです。救い主の模範は天の御父のみもとに帰る道を示しています。主ほど「確固として揺らぐこと[のない]」(モーサヤ5:15) 御方はかつていませんでした。主の思いはそれることなく御父の御心を行うことだけに向けられていました。主は神聖な使命に忠実であられました。確かに、主はいつでも、どのようなことについても、どの

ような所においても忠実であられた御方と  
言うことができます(モーサヤ18:9参照)。

皆さんは、前世で提示されたすばらしい計画の中にいます。皆さんは、計画を受け入れたときから、今の時代に地上に来ることを心待ちにしていました。皆さんが今ここにいるのは偶然ではないのです。前世における皆さんの「非常に深い信仰と善い行い」は(アルマ13:3)、現世にあって忠実で従順であるなら、今地上で達成することの土台となります。皆さんは神のかけがえのない娘です。なすべき偉大な業があります。神聖な使命を果たし、幸福の計画に添って生きるために、皆さんも「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」確固としていなければなりませんし、揺らいではなりません(モーサヤ18:9)。

数年前、1枚の写真をもらいました。二つの小屋が3番目のいちばん小さい小屋に寄りかかっている写真です。「最後のよりどころとなる者は、強くなければならない」という説明文が付いています。皆さんも強くなければなりません。忠実で義にかなった皆さんを人は頼りにし、皆さんから力を得ようとするのです。

ヒラマンはなぜこれが可能かを説明しています。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い

主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。……堅固な基であるその岩の上に……人が……基を築くならば、倒れることなどあり得ない……。」(ヒラマン5:12)

信仰の土台は、イエス・キリストを中心として確固としたものでなければなりません。このような信仰を持つとは、主を頼り、信頼し、自分ではすべてを理解できなくても主は理解しておられることを知ることです。また、自分が神の娘であり、神は皆さんを個別に御存じで、祈りをお聞きになり、皆さんが地上での使命を成し遂げられるよう助けてくださることを知ることです。

わたしがよく知っている青年が大きな大学で学生の自治会長に選ばれました。大学は、イリノイ州シカゴで開催されるリーダーシップセミナーに彼を送りました。指導的立場にある全米の学生が集まり、訓練を受けるのです。学生たちはまず、会場となった大学のキャンパスで互いに知り合うため、屋外のゲームに参加しました。昨今の若者が抱える問題が提示され、それについて考えを問われるゲームでした。出された問題ごとに、「大いに賛成」「ある程度賛成」「強く反対」「どちらかと言えば反対」というパネルの付いた、草むらの木に走って行くよう言われました。

ゲームの終わりに、次のような問題が指導者から提示されました。「婚前交渉を認めますか。」この青年は迷わず「強く反対」の木へ走りました。驚いたことに、そこに行ったのは彼一人でした。ほかの全員が彼を指差して「ジェス、おまえっておかしなやつだな、本気じゃないよな」と笑いながら言っています。彼はそのときに何をすべきがよく分かっていたと言います。そして、「おかしくないよ。ほくは本気さ」と大声で断言しました。皆はあっけに取られて言葉をなくし、ジェスを独り木のわきに残してその場を離れて行きました。ジェスは場違いな、変な所にいるような気がしました。でも、彼は変ではありません。正しかったのです。しかも独りではありませんでした。その週、何人もの学生が彼をこっそり訪ねて来て、自分もジェスが知

っていることを何年も前にきちんと知っておきたかったと言ったのです。ジェスは後にこう言っています。「わたしはただ大学を代表していただけでなく、家族、教会、それに救い主を代表していると分かっていたので、あのようにするのは簡単なことでした。」

イエス・キリストが救い主、贖い主であるという証のおかげで、ジェスは強められ、すぐに正しい反応をすることができました。皆さんも、毎日祈り、聖文から答えを探し、戒めに従うことで、同じ確信を得ることができます。真剣に証を得ようとするとき、聖霊が与えてくださる知識の助けによって、困難を乗り越え、疑問への答えを見だし、標準に従って生きることができます。そして、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても確固として揺らぐことなくいようと容易に決意できるのです。

確固として揺らぐことがないとは、従順を意味します。地上にいる理由の一つは、皆さんが選択の自由を働かせて「主……が命じられるすべてのことを……なすかどうか」を見ることです(アブラハム3:24-25)。毎週聖餐せいさんを取ることによって聖約を新たにすると、皆さんはいつも救い主を覚え、戒めを守ると聖約たまものします。

肉体というすばらしい賜物があるからこそ、選択の自由を使うことができ、信仰と従順を実践できるのです。皆さんは、サタンの攻撃のほとんどが肉体に向けられていると気づいたことはありませんか。ポルノグラフィ、憤みのなさ、入れ墨、不道德、薬物乱用、依存症のすべてがこの大切な賜物を奪い取ろうとしています。サタンにはこの賜物は与えられませんでした。戒めと標準に従順であれば、確固として揺らぐことなく選択の自由と肉体というすばらしい賜物を守ることができます。

確固として揺らぐことがないとは、「キリストを確固として信じ」ながら前進し続けるという意味でもあります(2ニーファイ31:20)。わたしは何年前かにボストンマラソンに参加しました。よく練習し、準備は万全でした。20マイル(約32キロ)地点にいちばん急で距離の長い、地元で「心



臓破りの丘」と呼ばれる坂道がありました。そこにたどり着いた時点でわたしはくたくたでした。坂道は長く、初心者わたしは、経験あるランナーなら絶対にしないことをしてしまいました。否定的な考え方をし始めたのです。これにより、ペースが落ちてしまいました。肯定的なことを考えようと思い、ゴールを思い浮かべました。でもそのとき急に、自分が大都会にいることに気づきました。沿道には何千人もの人もかかわらず、ゴールしてから夫とどこで会うか何も決めていなかったのです。独りでどうしたらよいか分からず、泣き出して

しまいました。そのときわたしが着ていたのは、胸にブロック体の文字で「Utah(ユタ)」と書かれた大きな赤いTシャツでした。泣いているわたしを見て観衆は、「頑張れ、ユタ」「泣くな、ユタ」「もうすぐゴールだ、ユタ」と叫びました。でも、ゴールはまだ先だと分かっていたし、わたしは夫の居場所も分からない迷子の状態でした。ここで走るのをやめ、棄権したとしても、それでも迷子であることに変わりありませんでした。

心臓破りの丘を走っていて、沿道に人が列を作っているにもかかわらず、孤独

だと感じた、あのときのわたしのような状況に陥ったことが皆さんにはあるでしょうか。わたしはそう感じていました。そこで、皆さんだったらするであろうことをわたしもしました。マラソンコースを走りながら祈り始めたのです。「わたしは孤独に丘を走っています。自信をなくし、恐くて、どうしたらよいか分かりません」と御父に話しました。確固とした心をもって完走するために、助けと力を求めました。走り続けていると、次の言葉が思い浮かびました。

恐るな、われは汝が神  
常に汝と共にあり  
助け与え、強くして  
わが正しき力をもて 汝れを支え、  
励まさん  
（「主のみ言葉は」『賛美歌』45番）

祈りに対する優しい答えに、わたしは力を得てゴールすることができました。またわたしの心配は取り越し苦勞だったようで、わたしがゴールしたちょうどその場所に夫がいてくれたことで、「すべては善し」となりました。

その日、わたしはマラソン以上の経験をし、大切な教訓を得ました。まず、「ユタ」と書かれた大きな赤いシャツは決して着ないこと。第2に、準備万端だと思っても、途中には坂道があること。また、沿道の声援は絶対に必要だと知りました。その日、わたしたちは決して独りではないことをもう一度学びました。わたしたちが祈れば、天の御父はそばにいてくださり、聖霊もそのささやく声がわたしたちに届く距離にいてくださいます。

証人となり、戒めに従い、「キリストを確固として信じ」ながら前進するとき、皆さんが独りになることは決してないことを証します。皆さんはすべてを可能にする救い主の贖いの力に頼ることができます。この堅固な基の上に建てることで、主のようになり、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、確固として揺らぐことなくいられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# ビデオ プレゼンテーション

**今** 回の中央若い女性集会では、主の導きを求め、受けることを学んでいる若い女性と、彼女たちの指導者のコメント、さらにトーマス・S・モンソン大管長の勧告が上映されました。

## クレートン姉妹

去年の夏、ワードの若い女性たちは、水着について教会はどんな公式見解を持っているのかしきりに知りたがりました。わたしたちはよく直接答えを与えがちですが、指導者としてもっと知恵を用いて、彼女たちに神に直接尋ねるように勧めました。彼女たちは自分で祈って答えを得られるのだから、その経験をさせて、個人の啓示を受けるとはどういう感じで、どのように起こるのか理解させよう、と考えたのです。そうすれば、将来の生活の中で、同じプロセスを繰り返すことができるからです。

## 一人目の若い女性

最初は、「家に帰ってよく考えて来るというただの宿題だ」と思いました。

## 二人目の若い女性

この経験から、天のお父様にもっと近づくことができました。

## 一人目の若い女性

この経験は将来娘ができたときにも助けになると思います。

## 三人目の若い女性

真剣に求め始めたら、すぐに答えを得ることができました。

## クレートン姉妹

教義的な観点から見たら、もう聖文を探すよりほかにはないでしょう。

## 三人目の若い女性

聖文から答えを見つけようとしたんですけど、なかなか見つかりませんでした。

## 一人目の若い女性

でも、深く考えるうちに、もっと学びたい、もっと探したいという気持ちになりました。

## 三人目の若い女性

慎みについての聖句をたくさん見つけました。「賢い妻」は慎み深いとか。最初は意味がよく分からなかったんです。それで祈りました。具体的な答えが得られると思っていましたが、そうではありませんでした。答えを得てから気づいたのは、祈りは御霊をもち、そして答えは最初から聖文にあったということです。慎みとは態度の問題だったんです。

## 二人目の若い女性

答えは得たんですが、具体的な答えではありませんでした。いつも自分で努力して学ぶ必要があるからです。





### 三人目の若い女性

「これは着てもいいけど、これはだめ」  
って回答が返って来ると思っていました。でも、結局は自分の選択なので、そんな答えは欲しくありませんでした。厳密なルールは与えられませんでした。でも今はそういう答えだったことを感謝しています。この答えの方が世界中の女の子に当てはまると思うからです。

### 一人目の若い女性

天のお父様にもっと近づけたような気がします。わたしの心は大きく広がりました。みんなが答えを得るために、いろいろと経験したことを思うと、胸がいっぱいになります。みんなをとっても愛する気持ちがわいてきたんです。

### クレイトン姉妹

みんなでこのプロセスを経験し、思いを分かち合い、靈感を受け、御霊の影響を感じるにつれて、わたしたちは変わりました。わたしたちの関心事に、天のお父様も関心を持ってくださることを学びました。神がわたしたちを愛し、わたしたち

が何を尋ねても耳を傾け、こたえてくださることを学んだのです。

### 三人目の若い女性

この経験を通じて、答えを得ることは一生に一度のことではなくて、いつでもこのプロセスに従うことができるのだと知りました。そして答えを得るには、いつも祈り、聖文を読み、御霊を持ち続けなければならないんです。

### 一人目の若い女性

必要なときはいつでも祈ることができ、祈れば、神は何があっても、わたしのためにいてくださいます。神はいつもわたしのそばにいて、どんな状況の中でも、助けをくださいます。

### 二人目の若い女性

悲しいときや、助けが必要なときにはいつでも、神に求めることができます。

### 一人目の若い女性

自分が何者で、何を支持しているのかわかっています。また、きちんとした服装を

すると、どんな気持ちにするのかも知っています。慎み深い服装をしたときには、天のお父様と御霊に近づけることを知っています。

### 三人目の若い女性

日記を読んで以前のことを振り返ってみると、ほとんど毎日、主が祈りの答えや質問の答えを与えてくださっていたことに気づいて、驚いてしまいます。

### トーマス・S・モンソン大管長

聖文、預言者の教え、親からの教え、ひざまずいて神の助けを求めるときに与えられる靈感の中に、わたしたちは真理を見いだすことができます。

若い人々が見いだせる人生の疑問への最良の答えは、時に、彼らがひざまずいて天の御父に呼び求めるときに見つかります。

わたしは証あかしします。主が心こころにかけ、祈りにこたえてくださることを覚えていれば、彼らは直面するすべてのチャレンジに対処することができるでしょう。◆

# あかし 証という錨

中央若い女性会長会第二顧問  
メアリー・N・クック

祈り、研究、戒めへの従順というパターンに従って皆さんの信仰を強めてください。



アジアに住んでいたころ、美しいすいれんに覆われた池をたくさん見ました。すいれんの花は、濁った池に穏やかな美しさを添え、甘い香りを漂わせていました。すいれんの花は水面に浮かんでいましたが、長くて頑丈な茎が錨の役目を果たしているのです。どの葉もそれぞれの場所にとどまっています。茎が伸び続けるおかげで、大雨が降って池の水位が上がっても、花の安定を保っていました。

わたしの愛する若い姉妹の皆さん、皆さんはあの美しい花のようです。皆さんのはつらつとした姿、清らかさ、美しさのおかげで、わたしたちの生活も、皆さんの家族の生活もより良いものになっています。皆さんが生活するこの世界はチャレンジに満ち、誘惑や試練で濁っていますが、それでも皆さんはイエス・キリストについての証を錨とすることができます。主イエ

ス・キリストを信じる信仰は皆さんの証を強め、はぐくみ、皆さんは世の悪よりも高く伸びて行き、義にかなった場所にとどまることができるでしょう。

錨とは、「不確実な状況にあつて安定や確信の源となるもの」<sup>1</sup>と定義されています。皆さんの証は錨となつて、不確実な世の中にあつて主の戒めを守るに当たり「確固として、揺らぐことなく」<sup>2</sup>立つ確信を与えてくれるでしょう。

現在、皆さんの証はすいれんの花のようにはぐくみ、薬物や不道徳、ポルノグラフィ、慎みのなさで濁ったこの世のチャレンジや誘惑に直面したときでさえも、証を強く保ってくれるでしょう。

「信仰は神からの賜物ですが、強い信仰を持続するためには信仰を養い育てていかなければなりません。……信仰の賜物はイエス・キリストの御名により天の御父に祈ることによって養い育てることができます。……戒めを守ることによって信仰を強めることができます。……聖文と末日の預言者の言葉を研究することによって信仰をはぐくむこともできます。」<sup>3</sup>

わたしは慎み深い服装について疑問を抱いていた若い女性たちを知っています。その疑問に対する答えを見つけるために、彼女たちはまさにこのパターンに従いました。天の御父に祈り、聖文と末日の預言者の言葉を研究し、慎み深さの標準に従って生活しました。そして疑問に対する答えを受けると、彼女たちの信仰は増し、証が強められました。このパターンに従うように、皆さん一人一人にお勧めします。

第1に、天の御父に祈ります。疑問に対する答えが見つかるように助けを祈り求めます。

わたしたちの預言者、トーマス・S・モンソン大管長は大管長として最初の記者会見でこのように述べました。

「若い人々が見いだせる人生の疑問への最良の答えは、時に、彼らがひざまずいて天の御父に呼び求めるときに〔得られ〕ます。

主が心にかけて、祈りにこたえてくださることを覚えていれば、彼らは直面するすべてのチャレンジに対処することができるでしょう。」<sup>4</sup> 祈りは皆さんの信仰を強め、皆さんの証の錨になるでしょう。

祈ることに加えて、信仰について聖文から研究しましょう。アルマ書第32章27節は皆さんが信仰を増すプロセスを学び始めるには絶好の箇所です。「しかし見よ、もしあなたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」

皆さんは自分の信仰を増すためにアルマの言葉を進んで試したいと思いませんか。ごくわずかな信仰でも働かせることができますか。信じようとする望みを持っていますか。

皆さんが聖文から学ぶときに、主が御自身の御霊で皆さんを祝福して下さること、そして今夜話してくれた若い女性たちのように、皆さんの理解力に光が注がれることを知っています。聖文は皆さんの信仰を増し、皆さんの証の錨となるでしょう。

末日の預言者の言葉を研究することからも皆さんの信仰は増します。「生ける預言者は常に信頼することができます。預言者の教えは主の御心を反映してい[て]」<sup>5</sup>、皆さんの証の錨となるでしょう。

末日の預言者の一人、スペンサー・W・キンボール大管長は「確固として揺るぎなく」あるための道しるべを立てるよう青少年に勧めました。こう述べています。「教会の若人は自分たちの進む道を示す

道しるべを立てるべきである。道しるべには2種類あって、一つは『わたしがすること』、もう一つは『わたしがしないこと』である。……ごく早い時期から、若人は計画に従って生活すべきである。……そのように進路を設定し、目標が決まっていれば、多くの誘惑に逆らい、初めてのたばこに『いいえ』と言うのも、初めての酒に『いいえ』と言うのも、……ついには不道德な行為に陥ってしまいそうなことに『いいえ』と言うのも容易なことである。』<sup>6</sup>

わたしたちにはこれらの道しるべを立てるためのすばらしい道具があります。『若人の強さのために』です。この冊子には末日の預言者の言葉があります。キンボール大管長が述べた「道しるべ」、すなわち「わたしがすること」と「わたしがしないこと」がこの冊子に述べられています。

預言者の言葉を読むだけでは十分ではありません。先ほどのパターンの最後のステップに従って「これらの標準に従い聖文にある真理を守って生活[し]」<sup>7</sup> なければなりません。ここが困難なところですが、自分がすることとしないことを前もって考え、それに従って生活すれば、皆さんにはきっとできます。

信仰は行動の源です。『若人の強さのために』の預言者の言葉を研究し、行動した若い女性についてお話ししましょう。彼女たちはよく考え、自分がすることとしないことを決め、その決意に従って生活しました。

『若人の強さのために』の中の指針にはこのようなものがあります。「あなたは、自分の体がどれほど尊いか知っていることを、服装と外見を通して主に示すことができます。あなたは自分がイエス・キリストの弟子であることを示せるのです。」<sup>8</sup>

この言葉を研究したとき、一人の若い女性は、自分が持っている服の中には慎み深さの点で完全とは言えないものがあることに気づきました。祈りと聖文研究を通して、彼女は自分がイエス・キリストの弟子であることを思い起こし、主の代表者として変わる必要があると感じました。彼女は誘惑になる服を持ちたくないと思い、クローゼットやたんすを全部調べて慎み



に欠ける服をすべて処分しました。彼女はこう言いました。「着るべきでないと自分で分かる服はどんな服でも店で試着しない方が賢明です。わざわざ誘惑される必要はないんです。」この固い決意によって彼女は自分の体を敬うことを主に示し、慎み深さに関する道しるべを深く打ち込んだのです。

同じクラスにいたもう一人の若い女性は、自分の服の選び方が妹にも影響していることに気づきました。『若人の強さのために』にはこうあります。「あなたの服装や身だしなみはあなたについてのメッセージを人々に伝え、自分や周囲の人々の行いに影響を与えます。」<sup>9</sup> 彼女は妹の良い模範となる責任があることに気づき、服装を変えることにしました。そして、慎み深さという道しるべをいっそう深く打ち込み、妹の服の選び方に良い影響を与えたのです。

「娯楽とメディア」に関する標準では、わたしたちにこう教えています。「自分を高

める娯楽やメディアだけを選んでください。ふさわしい娯楽は良い思いや義になかった選択をする助けになり……ます。」<sup>10</sup> わたしが知っている若い女性とその妹は、あるCDを聴いていたときに、その歌詞が人を高めるものでも、良い思いをもたらすものでもないことに気づきました。二人は顔を見合わせ、その種の音楽を聴くべきでないと御霊を通して実感しました。姉の方が金づちを出して来て、二人でCDを粉々にしました。二人は以前に音楽に関する道しるべを立てていました。二人は自分たちが聴く音楽と聴かない音楽をはっきりと知っていました。そして聖霊の促しに従うことによって、あらかじめ決めていたことに従うことができました。このささいな行いによって二人は強められ、もっと困難な状況の中でも従う自信を得ることができました。

別の若い女性も自分の生活の道しるべを決めました。その一つは、どのような状況に置かれても安息日を聖く保つこととし



た。家族とともにバプテスマを受けて教会員になって1年が過ぎたとき、彼女のワードは分割されました。彼女の家族は新しく組織されたワードに行くことになり、新しいワードに出席する若い女性は彼女一人でした。両親はこの変更を拒んで教会に行かなくなりましたが、彼女は「安息日を守る」ことについて『若人の強さのために』に書かれている指針に従いたいと思い、たとえそれが独りぼっちですべての集会に出ることを意味したとしても、できるかぎりいつも新しいワードに行くことと決意しました。

日曜日は聖文を読み、『成長するわたし』に取り組みました。「確固として揺らぐことなく」安息日を守るという彼女の決意は

母親と妹の心を動かし、彼女たちは再び教会に出席するようになりました。彼女の母親は、福音に従う娘の確固とした模範により、また娘の正しい行いを見ることにより、下の娘とともに再び活発に教会に集うようになったと証しています。

「自分に信仰があるかどうかは自分の行動、生き方を通して表します。」<sup>11</sup> これらの若い女性の生き方は彼女たちの信仰を表しています。そして、彼女たちの信仰と模範的な生活が結果として良い業となったことに注目してください。姉が妹を祝福し、娘が母親を教会に連れ戻したのです。

皆さんの中には、自分は濁った池の上に乗ることはできない、自分が置かれている状況は大変すぎる、試練が苦しすぎ

る、誘惑が大きすぎると感じている人もいるかもしれません。でも、アルマの約束を思い出してください。「神に頼る者はだれであろうと、試練や災難や苦難の中であって支えられ、また終わりの日に高く上げられる……。」<sup>12</sup> すいれんの茎は逆境の中で生長することを忘れないでください。茎がすいれんを持ち上げるように、皆さんの信仰は皆さんを支え、引き上げてくれます。

わたしの愛する若い姉妹の皆さん、イエス・キリストについての証が皆さんの錨です。祈り、研究、戒めへの従順というパターンに従って皆さんの信仰を強めてください。自分がすることとしないことを今決断し、その決定に従って行動することにより、道しるべを打ち込んでください。

わたしは証します。主は皆さん一人一人を愛しておられ、「確固として揺らぐことなく」あるために努力する皆さんを祝福してくださいます。イエス・キリストの福音は真実です。イエス・キリストについての知識と証は皆さんの堅固な錨となります。そして皆さんが真理と義を支持するときに、皆さんは自分の場所にとどまることができるようになるでしょう。これらのことをイエス・キリストの御名によってへりくだり証します。アーメン。

#### 注

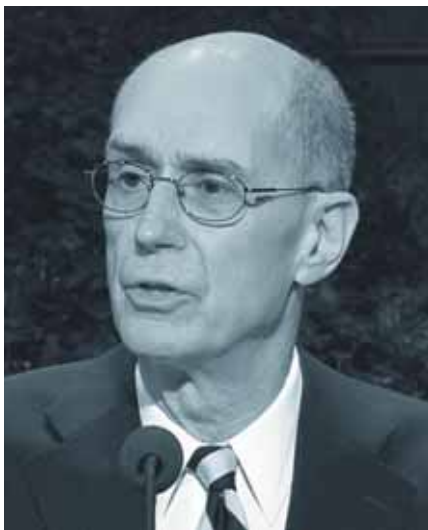
1. Apple Computer Inc. Dictionary, バージョン1.0.1, “anchor”の項
2. モーサヤ5:15
3. 『真理を守る——福音の参考資料』112
4. “16th President Fields Questions from Media,” *Church News*, 2008年2月9日付, 15
5. 『真理を守る』190
6. スペンサー・W・キンボール『<sup>22</sup>救済の奇跡』235–236
7. 『若人の強さのために』2
8. 『若人の強さのために』14
9. 『若人の強さのために』14–15
10. 『若人の強さのために』17
11. 『真理を守る』111
12. アルマ36:3

# 光の中を歩む

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

**皆さんは光の中を歩み続けるか、<sup>くらやみ</sup>暗闇へと離れて行くかを、毎日、そして刻々と選んでいるのです。**



**わ** たしたち一人一人にとって人生は旅です。わたしたちを愛しておられる天の御父がこの旅を計画してくださいました。経験や特質は人それぞれですが、この旅はこの世に生まれてくる前、同じ場所で始まったのです。

わたしたちは皆、霊の父であるエロヒムから教えを受けました。御父を愛し、御父のようになりたいと望み、永遠に御父とともにいたいと願ったのです。御父はその喜びを得るには何を必要があるかを分かりやすく教えてくださいました。わたしたちは肉体を得て、そのために起こるあらゆる試練を受けなくてはなりません。肉体を持つわたしたちは病気になり、やがては死を迎えます。また、肉体を満足させたいという強い欲求を持つようになります。

天の御父は、霊界を旅立ったわたしたちが御父とともに永遠に生き、御父と同じ

生活ができるようになるために必要なことを説明してくださいました。わたしたちは霊界で御父と暮らした記憶のないまま、人生という旅を進めることになります。御父のみもとに帰るための唯一の方法は、肉体の死と、戒めを破ることで生じる罪の影響に打ち勝つことです。御父は、死の縄目を断ってくださいる救い主が来られなければ、自分の力だけで死の影響にも罪の影響にも勝つことはできないと言われました。そして、わたしたちは必ず罪を犯してしまうので、罪から洗い清められる方法を備えてくださいました。

神が預言者を通して明らかにされた聖文には、霊界で旅の計画が示されたときに起きた反逆について書かれています。反逆者たちは救い主を受け入れて頼ることをせず、御父のみもとに再び戻れなくなるかもしれないような危険な旅は望みませんでした。皆さんは反逆者との戦いの中で、勇敢で、忠実で、正しい人々の中にいました。皆さんは救い主を受け入れ、御父のみもとに戻って喜びを得るために計画された旅に出ることにしたのです。

霊界での戦いで正しいことを選んだ人々の中でも、特にすばらしいのが皆さんです。皆さんはイエス・キリストの福音が地上にある時代に生まれ、旅をする資格を得たのです。この地上の何十億という御父の子供たちの中で、イエス・キリストの福音と、主の真実の教会を見いだすという特権を得ました。しかし、それ以上にすばらしいのは、皆さんが光の中で人生の旅を歩もうと決意し、今晚こうして耳を傾けていることです。

御父のすべての子供は、キリストの光という無料の贈り物を受けて生まれてきました。皆さんはその光を感じたことがあります。それは、何が正しくて、何が間違っているのか、何が真理で何が過ちなかが分かる感覚のことです。この光は人生の旅の最初から備わっています。バプテスマと聖霊を受けたということは、キリストの光の中を歩むと決意したことの証明なのです。

教会の会員に確認されたとき、皆さんには聖霊を伴<sup>はんりゆう</sup>侶とする権利が与えられました。聖霊は、真理を知り、主イエス・キリストに従い、主を愛し、この世を終えた後で神のもとに戻る道を見つけるための光を力強く与えてくださるのです。

しかし、前世で反逆を指揮した霊は今も計画に反対し、皆さんが惨めになり、天の家に戻る道を決して見つけないようにと望んでいます。魂の敵は皆さんのことを、そして皆さんのすばらしさを知っています。光の中を歩ませないようにすることで皆さんを捕まえ、皆さんがほかの旅人を助けないようにすることができると知っているのです。また、皆さんが優れた存在であり、この世の旅路の途中で何百という御父の子供に教え、影響を与えられること、またその後の何世代にもわたる何千という人々にも影響を及ぼせることを知っています。旅をする皆さんを迷わせ、光から離れさせれば、敵は多くの人を傷つけ、惨めにさせることができるのです。

今皆さんがこの話を聞いているということは、皆さんが重要な存在であり、神からの光の中を歩む選択をしていることを神が御存じであるということの証明です。そのような選択は、常にはっきり見極められるとは限りません。皆さんは光の中を歩み続けるか、暗闇へと離れて行くかを、毎日、そして刻々と選んでいるのです。最も重要な選択は、皆さんの欲求や望みと深い関係があります。

皆さんが欲しいと思うものはいろいろあるでしょう。例えば、人はある程度、周りから認められたいと願います。だれでも友達は必要です。自分に価値があると思わせてくれるものを求めます。このよう



な望みに従ってわたしたちは選びます。選択の中には、導きを与える神の光から皆さんを遠ざけるものも、道を見つけるのに必要な光をさらに強くしてくれるものもあります。

若いころのわたしは、こうした望みと選びがどれほど大切か気づいていませんでした。わたしはスポーツのチームに選ばれたり、学校で優秀な成績を収めたり、尊敬できる親友を見つかったりしたいと願っていました。あまり意識していませんでした。

だが、こうした願いに従って選ぶことは、光から離れるか、もしくは光に近づくかを選ぶということだったのです。

そうした選びによって成し遂げたことや友人のおかげで、わたしは光を感じました。当時はよく理解していませんでしたが、わたしを光から徐々に引き離す選択もありました。友達が欲しい、認められたいという思いから選んだことは、道を照らす光にわたしを近づけるか、光から遠ざけるかのどちらかでした。選ぶということは大

切で、その影響は長く続くのです。

ずっと昔、天の御父は預言者を通して、どの選びが最も重要で、なぜその選びが大切なのか、そしてどのように選べるかを教えてくださいました。

モロナイが引用する父モルモンが、いちばん分かりやすいと思います。皆さんくらのときにこの聖句をもっと理解していればよかったです。今晚、主のこの言葉が皆さんの胸に届くよう願います。

「しかし見よ、神から出るものはいつも善を行うように誘い、促す。したがって、善を行い、神を愛し、神に仕えるように誘い、促すものはすべて、神の靈感を受けているのである。

さて、……あなたがたは悪いものを神から出たと思わないように、あるいは善いもので神から出ているものを、悪魔から出たと思わないように気をつけなさい。

見よ、わたしの同胞よ、善悪をわきまえることができるように、物事を判断することはあなたがたに任されている。そして、その判断の方法は明らかであり、善悪の違いは昼が闇夜と違うように、完全に理解してわきまえることができる。」<sup>1</sup>

聖文はこの光がどこから来るのか、そしてその力について教えてください。

「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧められるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない」<sup>2</sup>

当時よりも今の方が、この助言をどう活



用すべきだったかが分かります。わたしには、善を行うように影響を与えてくれた選手やコーチのいるチームがありました。そうでないチームもありました。また、イエス・キリスト教会の会員ではありませんでしたが、模範を通して、善を行い、救い主を思い起こすよう影響を与えてくれた友人もいました。

認めてほしい、親しくなりたいと思った学校の友人や教師のおかげで、わたしは善を行う望みを持ち、救い主への思いを強くすることができました。幸いにも、自分の道を見つけたのです。しかし選ぶことの大切さと、選び方の両方が分かっていたら、もっと上手に道を見つけれられたことでしょう。

モルモンはそのことを知っていました。モルモン書にあるモルモンやそのほかの預言者の言葉をより注意深く読んでいたら、わたしはもっと祝福を受け、もっと守られていたことでしょう。モルモンはこう言いました。

「あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知っているので、誤って裁かないように注意しなさい。あなたがたが裁くその裁きで、あなたがたも裁かれるからである。

そこで、……善悪をわきまえることができるように、キリストの光の中で熱心に求

め〔なければならない。〕もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。

さて、……どのようになればあなたがたは、善いものをことごとく手にできるであろうか。」<sup>3</sup>

善いものをことごとく手にするには信仰が必要です。皆さんが愛ある神の娘であるという信仰が増すよう心から祈っています。皆さんは、人生という旅でこの地点まで到達した勇敢な人々であると証します。皆さんは義の敵から標的にされていますが、同時に天の御父と主イエス・キリストに保護され、見守られているのです。御二方は皆さんを御存じです。皆さんがどのような力や人々に取り囲まれているかを皆御存じです。皆さんの将来に何が待ち受けているかを御存じです。だからこそ御二方は、皆さんが何を選び、どの願いを満たそうとし、どの環境に身を置くかを選べば、最も光の中にとどまりやすくなるかを御存じなのです。皆さんがキリストの御霊により、また聖霊によって、どのような困難が来ても自信をもって歩んで行けることを証します。つらい試練にも遭遇するでしょう。それは皆さんがとても価値のある存在だからです。決してがっかりしたり、恐れたりする必要はありません。困難を

切り抜ける道は皆さんのために常に備えられています。信仰を働かせることでその道を見いだすことでしょう。

信仰をもって祈らなくてはなりません。信仰をもって神の御言葉について深く考えなければなりません。信仰をもってこれらのことを行い、キリストの御霊と聖霊がとどまるような場所を選ばなくてはなりません。

これからの数日間で、皆さんがキリストの御霊と聖霊の輝きを日常生活で感じることができると約束します。光の中を歩めば、その瞬間に温かさや幸せを感じるでしょう。その気持ちは、皆さんが連れて行くほかの何百、いえ恐らく何千もの人々とともに、再び天の家に迎え入れられるときに完全なものとなります。彼らは、皆さんの模範に従って光の中を歩むのです。

この教会はイエス・キリストの真の教会です。生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長がいます。皆さんが光に照らされた道を歩めるよう、真の僕と天使の両方が助けてくれます。このことをイエス・キリストの神聖な御名により証します。アーメン。

注

1. モロナイフ：13-15
2. モロナイフ：16-17
3. モロナイフ：18-20

## 大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談をいくつか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。  
数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語	教義または原則
ロナルド・A・ラズバンド長老	チチカカ湖の忠実な会員を訪れる, 11	模範, 信仰
ジョセフ・B・ワースリン長老	7歳のときに、障がいを持つ年上の子のために立ち上がる, 17	思いやり
ウィリアム・R・ワーカー長老	祖父母の家に飾られていた大管長会の写真, 37	会長会
クエンティン・L・クック長老	手車隊の救助に向かったクック長老の曾祖父, 47	勇気, 献身
	トーマス・S・モンソンの教会における指導経験, 47	教会での奉仕, 教え, 導き, 仕える
H・デビッド・パートンビショップ	教会人道支援活動の報告, 51	人道支援活動, 奉仕
ジョン・M・マドセン長老	ステーキ神権会に初めて出席した12歳のゴードン・B・ヒンクレー, 55	ジョセフ・スミス, 証
ディーター・F・ウークトドルフ管長	山に墜落した飛行機, 57	従順, 悔い改め
トーマス・S・モンソン大管長	トーマス・S・モンソンのまねをする少年, 65	模範
	癩 <small>がん</small> に侵された信仰深い宣教師, 65	模範, 信仰
ディーター・F・ウークトドルフ管長	ドイツで寝たきりの会員を訪れるトーマス・S・モンソン, 68	哀れみ, 教え, 導き, 仕える
	ハリエット・ウークトドルフと家族の改宗, 68	改宗
シェルドン・F・チャイルド長老	子牛を売ったお金から <small>じゅうぶん</small> の一分を納めるシェルドン・F・チャイルド少年, 79	什分の一
	什分の一を納めた家族の前に落ちてきたパンノキの実, 79	信仰, 什分の一
	西アフリカの母親の什分の一に対する証, 79	什分の一
トーマス・S・モンソン大管長	開拓者だった先祖が直面した困難, 87	献身, 信仰
デビッド・A・ベドナー長老	癒されるよう祈った母親と病気の息子, 94	信仰, 祈り
	死に直面する娘を抱きしめることができるよう祈った両親, 94	慰め, 祈り
W・クレーグ・ズウィック長老	友達をなくさないよう標準を下げた方がよいか尋ねた青年, 97	義, 標準
ロバート・R・ストイアー長老	ブラジル・レシフェに住む少年の証, 99	選択の自由, 証
ランス・B・ウィックマン長老	ベトナムで部下とともにいさせてほしいと懇願した負傷兵, 103	決意, 現世
スーザン・W・タナー	イエス・キリストの証を得た求道者, 113	伝道活動, 証
	仲間からの圧力の中で福音の標準を守る青少年, 113	高潔さ, 従順
	若い女性を教えるよう依頼された, 教会にあまり活発でない女性, 113	模範, 再活発化
イレイン・S・ダルトン	純潔の大切さを主張した若い男性, 116	勇気, 証
	ボストンマラソンで走るダルトン姉妹, 116	祈り
メアリー・N・クック	慎み深さを学ぶ若い女性, 120	模範, 標準
	心を高揚させない歌詞の音楽が入ったCDを粉々にした姉と妹, 120	標準
	若い女性の模範を通して教会に活発に集えるようになった家族, 120	模範, 安息日



## わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最近の総大会で語られた、一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーキ会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

### 説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料を使

ってレッスンを準備したくなることもあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- それらの意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に適用する。■

月	第4日曜日のレッスン教材
2008年5月—10月	『リアホナ』2008年5月号掲載の説教*
2008年11月— 2009年4月	『リアホナ』2008年11月号掲載の説教*

\*これらの説教は、<http://www.lds.org> にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注—日本語版の文字データを開覧するには、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」[ライブラリー]「総大会説教」の順にクリックしてください。)



アルゼンチン、ベルビジェ地方部の若い女性たち。

## アロン神権者および若い女性用リソースガイド

以下は『アロン神権3』および『若い女性3』のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。本ガイドに掲載された『神への務め』および『成長するわたし』の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマスのための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、<http://www.lds.org> にアクセスし、“Language”(言語)をクリックした後、言語を選択してください。次に『リアホナ』をクリックし、2008年5月号を選択してください。(訳注—日本語の場合は、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」[ライブラリー]の順に選択してください。あとは上と同じように『リアホナ』をクリックし、2008年5月号を選択してください。)リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、<http://www.lds.org> を開き、“Gospel Library”(福音図書館)をクリックしてください。開いた画面の右の欄にリソースガイドへのリンクがあります。

### 『若い女性3』用リソースガイド

#### 第26課——悔い改め

ラッセル・M・ネルソン「悔い改めと改心」『リアホナ』2007年5月号、102。レッスンの導入として悔い改めの定義を用います。レッスンの「悔い改めはわたしたちの生活に平和と幸福をもたらす」の項の補足として説教の中の「悔い改めの実」の項を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の4

#### 第27課——自分自身を救す

アンソニー・D・パーキンズ「大きな驚くべき愛」『リアホナ』2006年11月号、76。レッスンの「自分自身を救すことは、悔い改めの重要な一部分である」の項を補足するため、説教にある、不必要な罪悪感や自分自身を救すことに関する適切な項を選ぶことを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の4

#### 第28課——奉獻と犠牲

イレイン・S・ダルトン「顔に表れてくる」『リアホナ』2006年5月号、109。宣教師訓練センターでの話の代わりに、メアリー・ゴープルの物語を用いることを検討します。物語を読んだ後で、試練を経験したにもかかわらず、大草原を横断するためにメアリーが払った犠牲が彼女の人生にどのような祝福をもたらしたか尋ねます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の3

#### 第29課——改心

M・ラッセル・バラード「純粋な証」『リアホナ』2004年11月号、40。ほんとうの証についてのバラード長老の説明を用いてレッスンを締めくくります。自分の生活を振り返って、ほんとうの証を得るために何を変える必要があるかを考えるよう若い女性に勧めます。

デビッド・A・ベドナー「あなたがたは再び生まれなければならない」『リアホナ』2007年5月号、19。レッスンの始めの「話し合い」の代わりに、キュウリがビケルスになる過程についてのベドナー長老の説明を用いることを検討します。心から救い主に従いたいと望むなら、どのように心を変える必要があるか話し合います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の4

#### 第30課——聖文の学習

ジュリー・B・ベック「わたしは聖文に喜びを感じる」『リアホナ』2004年5月号、107。レッスンの補足としてベック姉妹の説教を用います。エイシー長老の「引用」の代わりにベック姉妹の説教から引用します。

『成長するわたし』「徳質の体験——

『選択と責任』の1

### 第31課——教会での奉仕

ボイド・K・バック「教会の弱い者や純朴な者」『リアホナ』2007年11月号、6。レッスンの「わたしたちは今、教会で奉仕する備えをしなければならぬ」の項の補足として、バック会長の話の最初の部分を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の1

### 第32課——地域社会での奉仕

スティーブン・E・スノー長老「奉仕」『リアホナ』2007年11月号、102。レッスンを通じて、この説教を補足として用います。レッスンの「若い女性が地域社会での奉仕を行うことは大切である」の項の補足として、説教の中にある地域社会での奉仕に関する箇所を用います。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『善い行い』」の黒丸5

### 第33課——だれもが神の子で永遠の存在である

スーザン・W・タナー「天の御父の娘」『リアホナ』2007年5月号、106。レッスンを通じて、この説教の一部を補足として用います。例えば、「愛され大切にされていることを人に感じさせる」の項にある「物語」の代わりとして、タナー姉妹がチリの若い女性について述べている箇所を用います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の1

### 第34課——不正直を避ける

リチャード・C・エッジリー「3本のタオルと25セントの新聞」『リアホナ』2006年11月号、72。レッスンの最初の「事例研究」の代わりとして、正直であることによって得られる祝福について話し合うことを検討します。アイスクリームコーンについての「物語」の代わりとして、説教にある25セントの新聞の話を用います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の2

### 第35課——デートに関する決断

イレイン・S・ダルトン「顔に表れてくる」『リアホナ』2006年5月号、109。西アフリカ、南アメリカ、エンサインピークにおけるダルトン姉妹の経験を紹介し、義にかんじた決断をすることの大切さを伝えます。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『選択と責任』」の黒丸2

### 第36課——結婚の標準

ラッセル・M・ネルソン「結婚のきずなをはぐくむ」『リアホナ』2006年5月号、36。レッスンの内容を深めるために、説教の中の「夫婦のきずなを強める」の項にある3つの提案を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の2

### 第37課——標準としての神の言葉

ジェフリー・R・ホランド「唯一のまことの神と、その神がつかわされたイエス・キリスト」『リアホナ』2007年11月号、40。レッスンを通じて、この説教を取り入れることを検討します。

『若人の強さのために』「信仰をもって前進する」40

### 第38課——健康についての良い習慣

ディーター・F・ワークトルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号、42。レッスンの導入として、洗濯物を配達したときのワークトルフ管長の経験を用いる。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸3

### 第39課——自分の価値に気づく

ジョセフ・B・ワースリン「豊かな人生」『リアホナ』2006年5月号、99。レッスンの「わたしたちは皆、偉大な者となる可能性を持っている」の項を教える際、ワースリン長老が紹介したスノーマンの物語を話します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の6

### 第40課——自分を愛し、人を愛する

アンソニー・D・パーキンズ「大きな驚くべき愛」『リアホナ』2006年11月号、76。レッスンの「聖句を使った話し合い」を行う際に、パーキンズ長老の説教にある3つの落とし穴を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の6

### 第41課——信頼される人になる

ジョセフ・B・ワースリン「人生で学んだ教訓」『リアホナ』2007年5月号、45。レッスンにあるシンディーの「物語」の代わりとして、ワースリン長老のフットボールチームでの経験を用います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の4

### 第42課——変化に備える

ディーター・F・ワークトルフ「喜んでよい理由はないだろうか」『リアホナ』2007年11月号、18。第二次世界大戦のときのワークトルフ家族の話を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸2

### 第43課——人との交わり

マイケル・J・テー「小さなことから」『リアホナ』2007年11月号、35。レッスンの「積極的に人に近づく」の項の補足として、この説教を用いることを検討する。補足として使う場合は、わたしたちの賜物を善のために使う必要性を強調する。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『誠実』」の黒丸3

### 第44課——時間に追われる生活をしていない

キース・K・ヒルビッグ「内なる人を生かす御霊を消してはいけない」『リアホナ』2007年11月号、37。レッスンの「知恵と秩序をもってすべてのことを行う」の項について話し合うときに、説教にある4つの質問を用います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の2

### 第45課——職業を選ぶ

ジェームズ・E・ファウスト「孫へのメッセージ」『リアホナ』2007年5月号、54。レッスンの中の「話し合い」(どの話し合いでもよい)の補足として、職業を選ぶことに関するファウスト管長の助言を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の5

### 第46課——金銭管理

トーマス・S・モンソン「変化の時代にあつて変わらぬ真理」『リアホナ』2005年5月号、19。レッスンの中の「負債」の部分で、モンソン大管長の言葉を付け加えます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の7

### 第47課——末日の預言者のメッセージ

トーマス・S・モンソン「模範になりなさい」『リアホナ』2005年5月号、112。レッスンの最初にモンソン大管長の勧告を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の4

## 『アロン神権3』用リソースガイド

### 第26課——純潔の祝福

トーマス・S・モンソン「真理を守り」『リアホナ』2006年5月号、18。モンソン大管長の説教の最初の2段落を用いて、レッスンの「純潔に戦

いを挑むサタン」の項を補足することを検討します。リー大管長の言葉の代わりに、不道徳やポルノグラフィのマカフエケとしてモンソン大管長が挙げた例を用います。

『神への務め——執事・教師・祭司』「家族の活動」の2

『若人の強さのために』「性的な清さ」26

### 第27課——神の宮である肉体

ヘンリー・B・アイリング「神は忠実な神権者を助けてくださる」『リアホナ』2007年11月号、55。この説教の内容を用いて、レッスンの「不従順が肉体にもたらす結果」の項を補足します。

『若人の強さのために』「身体の健康」36

### 第28課——誘惑に耐える

トーマス・S・モンソン「変化の時代にあつて変わらぬ真理」『リアホナ』2005年5月号、19。自己満足の危険性や、周囲の危険に対して立ち上がる必要性についてのモンソン大管長の警告を、レッスンの初めに紹介することを検討します。

『神への務め——執事・教師・祭司』「家族の活動」の2

### 第29課——安息日を守る

ロバート・C・オークス「主の方には」『リアホナ』2005年5月号、48。「心身の活力を新たにする日」の項の内容を深めるためにこの説教を用います。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』「安息日を聖く過ごす」74

### 第30課——アロン神権者は女性を敬う

ジェームズ・E・ファウスト「孫へのメッセージ」『リアホナ』2007年5月号、54。レッスンの「アロン神権者は若い女性を敬う」の項の内容を深めるためにこの説教を用いることを検討します。また、「男女の違いは神から与えられた」の項を補足するために「家族——世界への宣言」(『リアホナ』2004年10月号、49)を用いることを検討します。

『神への務め——執事』「社会の一員としての社交的な面での成長」の7;『神への務め——教師』「社会の一員としての社交的な面での成長」の10および「霊的な面での成長」の5;『神への務め——祭司』「社会の一員としての社交的な面での成長」の1

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』「永遠の結婚」85

### 第31課——永遠の伴侶を選ぶ

ダリン・H・オークス「離婚」『リア

ホナ』2007年5月号, 70。レッスンの「正しい相手を見つける」の項の話し合いをより有意義にするためにこの説教を用います。

『神への務め——祭司』「社会の一員としての社会的な面での成長」の2, 4, 5

### 第32課——神殿のエンダウメントに備える

ロバート・D・ヘイルズ「アロン神権へ——決意の10年間に備える」『リアホナ』2007年5月号, 48。レッスンの「神殿推薦状を受けるには」の項を補足するためにこの説教を用います。

『神への務め——執事・教師』「定員会活動」の6; 『神への務め——祭司』「家族の活動」の10。

『若人の強さのために』「服装と外見」14

### 第33課——日の栄えの結婚——永遠への備え

ジェフリー・R・ホランド「天使の言葉」『リアホナ』2007年5月号, 16。レッスンの「神殿結婚を日の栄えの結婚にする」の項を補足するためにこの説教を用います。

『神への務め——祭司』「社会の一員としての社会的な面での成長」の2, 4, 5

『若人の強さのために』「デート」24

### 第34課——従順

リチャード・G・スコット「<sup>あがな</sup>贖いは、平安と幸福を確固としたものとする」『リアホナ』2006年11月号, 40。レッスンの「従順は主に対する真の愛を表す」の項を補足するためにロッククライングについてのスコット長老の物語を用いることを検討します。

### 第35課——主イエス・キリストを信じる信仰

クエンティン・L・クック「恐れではなく、信仰によって生きる」『リアホナ』2007年11月号, 70。クック長老が紹介した、ハロルド・B・リー長老の4つの重要なポイントを用いてレッスンをまとめます。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の3; 『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の4; 『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の10

### 第36課——祝福師の祝福

ゴードン・B・ヒンクレイ「神の王国を求めなさい」『リアホナ』2006年5月号, 81。ヒンクレイ大管長が自分自



オーストラリア、シドニーの若い男性と指導者たち。

身の祝福師の祝福について引用した言葉でレッスンを始めます。

『神への務め——祭司』「家族の活動」の3

### 第37課——御霊の実と賜物

ジェームズ・E・ファウスト「目に宿る光」『リアホナ』2005年11月号, 20。レッスンの「御霊の賜物を通して人に仕える」の項で、説教の中の看護学生の物語を用いることを検討します。

### 第38課——キリストの純粋な愛

ジョセフ・B・ワースリン「いちばん大切な戒め」『リアホナ』2007年11月号, 28。レッスンの「聖句と黒板を使った話し合い」の代わりに、説教の中の14歳の少年とジョセフ・スミスの話を用いることを検討します。

『神への務め——執事』「家族の活動」の7; 『神への務め——教師・祭司』「定員会活動」の7

### 第39課——キリストの言葉を味わう

M・ラッセル・バラード「聖書という奇跡」『リアホナ』2007年5月号, 80。レッスンの導入として聖書についてバラード長老が述べた言葉を用います。

『神への務め——執事・教師・祭司』「家族の活動」の1

### 第40課——伝道活動の実践

ゴードン・B・ヒンクレイ「全世界に対するわたしたちの証」『リアホナ』2006年11月号, 4。導入の一部として、ヒンクレイ大管長が宣言した「わたしたちが世界に伝えている証は、……」の部分を用います。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の10と11; 『神への務め——教師』「定員会活動」の5; 『神への務め——祭司』「定員会活動」の3

### 第41課——さらに救い主のごとく

デビッド・A・ベドナー「手が清く、心のいさぎよい者」『リアホナ』2007年11月号, 80。レッスンの「黒板を使った話し合い」の代わりに、罪や罪

を犯したい気持ちに打ち勝つことに関するベドナー長老の教えを用いることを検討します。

### 第42課——謙遜で素直になる

L・トム・ベリー「バーを上げる」『リアホナ』2007年11月号, 46。ベリー長老の息子が高飛びをしたときの経験を用いてレッスンを補足します。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』「謙遜」120-121

### 第43課——思いと言葉

ジョン・B・ディクソン「主と約束する」『リアホナ』2007年5月号, 14。レッスンの「事例研究」の事例を紹介する前に、ディクソン長老が提案した、人生に祝福をもたらすほかの決意を紹介することを検討します。

『若人の強さのために』「言葉遣い」22

### 第44課——奉仕

ボイド・K・パッカー「教会の弱い者や純朴な者」『リアホナ』2007年11月号, 6。パッカー会長の息子の物語をレッスンのまとめとして付け加えます。

『神への務め——執事』「定員会活動」の5; 『神への務め——教師・祭司』「定員会活動」の7

『若人の強さのために』「人々への奉仕」38

### 第45課——人と分かち合うことにより証を強める

ディーター・F・ワークトルフ「個人の証が持つ力」『リアホナ』2006年11月号, 37。レッスンの中のクロフト長老の物語の代わりに、説教の「証は何の役に立つのでしょうか?」の項を用いて、ワークトルフ管長が挙げた証に関する5つの<sup>めいりょう</sup>明確で簡潔な真理について話し合うことを検討します。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の5; 『神への務め——

教師・祭司』「定員会活動」の2

### 第46課——効果的なホームティーチング

トーマス・S・モンソン「最善を尽くして義務を果たす」『リアホナ』2005年11月号, 56。説教のホームティーチングについての箇所を用いてレッスンを始めることを検討します。

### 第47課——正直

リチャード・C・エッジリー「3本のタオルと25セントの新聞紙」『リアホナ』2006年11月号, 72。レッスンの「物語と話し合い」にあるミケルセン長老の話の代わりに、エッジリービショップの話を用いることを検討します。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の1

### 第48課——将来に備えて教育を受ける

ゴードン・B・ヒンクレイ「立ち上がれ、神に仕える男たちよ」『リアホナ』2006年11月号, 59。教育に関するヒンクレイ大管長の助言でレッスンを始めます。

『神への務め——執事』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の1, 2, 12; 『神への務め——教師』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の2と3; 『神への務め——祭司』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の1と8

### 第49課——すばらしい受け継ぎ

H・デビッド・バートン「もしこの古い壁が口を利けるとしたら」『リアホナ』2007年5月号, 32。説教に挙げられている、開拓者時代以降の重要な出来事を紹介して、レッスンの最後の部分を補足することを検討します。

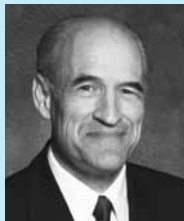
『神への務め——執事』「家族の活動」の4; 『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の6; 『神への務め——祭司』「家族の活動」の9

# 中央補助組織会長会

## 日曜学校



第一顧問  
ダニエル・K・ジャッド



会長  
A・ロジャー・メリル



第二顧問  
ウィリアム・D・オスワルド

## 扶助協会



第一顧問  
シルビア・H・オールレッド



会長  
ジュリー・B・ベック



第二顧問  
バーバラ・トンプソン

## 若い男性



第一顧問  
ディーン・R・バージェス



会長  
チャールズ・W・ダルクウィスト2世



第二顧問  
マイケル・A・ナイダー

## 若い女性



第一顧問  
メアリー・N・クック



会長  
イレイン・S・ダルトン



第二顧問  
アン・M・ティフ

## 初等協会



第一顧問  
マーガレット・S・リファース



会長  
シェリル・C・ラント



第二顧問  
ピッキー・F・松森

# チャーチ・ニュース

## 何百万もの聖徒たち、聖会で新しい教会指導者を支持する

2008年4月5日、世界中の教会員が集会所や家庭において、衛星放送やテレビ、ラジオ、インターネットを通じて聖会に集い、末日聖徒イエス・キリスト教会の新しい大管長と大管長会を支持した。

2008年1月27日のゴードン・B・シンクレイ大管長の死去に伴い、2月4日、トーマス・S・モンソン大管長と、大管長会の顧問としてヘンリー・B・アイリング管長とディーター・F・ウークトルフ管長が召されたことが発表された。しかし、2008年4月5、6の両日に開かれた第178回年次総大会が、教会全体として新しい指導者を支持する最初の機会となった。

ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターで開かれた聖会では、十二使徒定員会会員も支持された。D・トッド・クリストファーソン長老が同定員会の新しい会員として支持された。会員たちはまた、教会のその

他の中央幹部や補助組織の指導者を支持した。

さらに、クリストファーソン長老の召しに伴う七十人会長会の空席を埋めるために、七十人第一定員会のL・ホイットニー・クレイトン長老が召された。

15人が新たに七十人第一、第二定員会の会員として召され、新しい中央若い女性会長会とともに支持を受けた(詳細については略歴を参照)。七十人第二定員会のクレイグ・C・クリステンセン長老とウィリアム・R・ワーカー長老の二人が七十人第一定員会の会員として支持された。それに加えて、新たに38人の地域七十人がそれぞれの教会地域で奉仕するように召された(総大会中に召された人、解任された人の一覧は、4-7ページを参照)。

モンソン大管長は、カンファレンスセンターで開かれた聖会で支持を受けた最初の大管長である。教会の歴史家であり記録者でもある七十人のマー





リン・K・ジェンセン長老によれば、預言者ジョセフ・スミスとその大管長会は、1836年3月27日に、カートランド神殿で開かれた聖会で支持を受けた。ブリガム・ヤングとその大管長会は、1847年12月27日に、アイオワ州のカウンシルブラフスのケインズビルタバナクルで初めて支持を受けた。1880年10月10日に支持を受けたジョン・テラー大管長から、モンソン大管長以前のすべての大管長は、ソルトレークタバナクルで開かれた聖会で支持を受けた。

「教会初期の会員は、タバナクルに出席する以外、聖会に参

加する方法はありませんでした」とジェンセン長老は語る。「しかし、最近では世界中の会衆が衛星放送を通じて出席し、ステーキ会長が支持の挙手を見守ります。1945年以来、どこにあっても、家庭で大会の模様を視聴する会員たちは、新しい大管長を支持するように求められてきました。」

旧約聖書では、<sup>すぎこし</sup>過越の祭(出エジプト23:14-17;申命16:8, 16参照)や、<sup>かりいお</sup>取り入れの祭とも呼ばれる<sup>かりいお</sup>仮庵の祭(レビ23:33-36;ネヘミヤ8:18参照)などの際に、主がイスラエルの民に聖会を開くように命じられた

ことが最も初期の記述である。

「教会員にとって、教会の役員を支持するということは、投票のような受動的な行為ではありません」とジェンセン長老は語る。「聖会で支持することは、新しい教会の大管長のために信仰と祈りと支持を絶えず、喜んでささげることを意味します。」

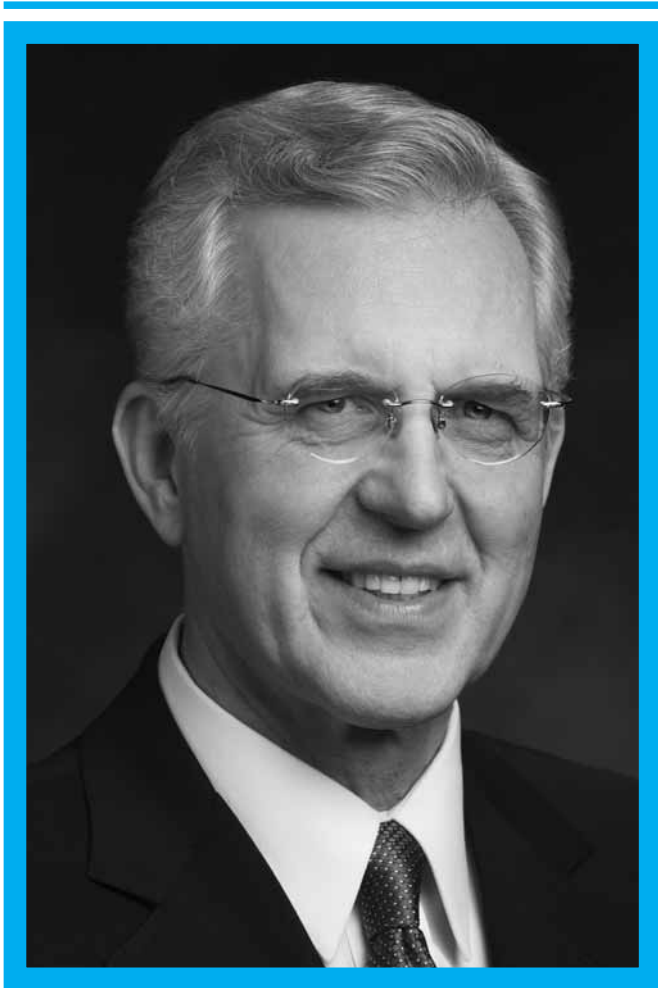
ジェンセン長老は、会員が教会の指導者を支持するように求められるのは、聖会だけではないことを指摘している。支持の挙手は、総大会やステーキ大会、ワード大会や支部大会においても行われる。

「会員が教会の指導者を定期的に支持することで、この聖会で交わした決意を新たにする機会を得るでしょう」とジェンセン長老は語る。

10万人以上がカンファレンスセンターの部会に出席したほか、テレビ、ラジオ、衛星放送やインターネットを通して、何百万という人々はその模様を視聴した。

4月の総大会の各部会は、これまでの総大会を超える92の言語に通訳され、放送された。

大会の様子は、<http://www.lds.org>で、文書や音声、映像で視聴できる。◆



## D・トッド・クリストファーソン長老

十二使徒定員会会員

「どんな人からも学べる  
ことがあります。」新たに十二使徒定員  
会会員として召され、支持を受  
けたデビッド・トッド・クリスト  
ファーソン長老はそう言います。  
「教会の内外を問わず、わたし  
は出会ったすべての人から、自  
分を改善するのに役立つ何か  
を得てきました。」

相手のすばらしい点から学  
ぶことは、クリストファーソン長老  
がこれまでの人生ですずと行っ  
てきたことでした。長老が最初  
に学んだのは両親からでした。

1945年1月24日、ポール・ピッ  
カーリー・クリストファーソン、ジ  
ーン・スウェンソン・クリストフ  
ァーソン夫妻のもとに生まれたクリ  
ストファーソン長老は、アメリカ  
合衆国ユタ州のプレザントグ  
ローブとリンドンで育ちました。長  
老の言葉によれば、長老と4人  
の弟は「のどか」で「健全な」子  
供時代を満喫しました。

「わたしたちは、非常に安定  
した幸福な家庭生活を過ごし  
ました。」長老は当時を回想し  
て語ります。「父と母は、福音  
の原則に従って生活する方法

を示してくれました。」

高校の初めに、クリストフ  
ァーソン長老は家族とともに、ア  
メリカ合衆国のニュージャージ  
ー州サマセットに移ります。そ  
こでは、新しい場所に住み、  
新しい人々と出会い、新しい機  
会を見つけました。

「わたしは各地から来た、あ  
らゆる宗派の人々との友情や  
関係を深めました。」クリストフ  
ァーソン長老はそう語ります。  
「その交流はとてもし有意義な  
ものでした。」

高校を卒業したクリストフ  
ァーソン長老は1年間ブリガム・ヤ  
ング大学に通った後、アルゼンチ  
ンで専任宣教師として奉仕しま  
した。そこでは「二人の傑出し  
た伝道部長」から学んだ、と  
クリストファーソン長老は言いま  
す。最初の数か月はロナルド・  
V・ストーン会長、そして残りの  
伝道期間は、リチャード・G・ス  
コット会長(現在十二使徒定員会  
会員であるスコット長老)です。

クリストファーソン長老は、当  
時のスコット長老について次の  
ように語ります。「スコット長老  
は自分に厳しい人だったので、  
わたしたちもそのようになろう  
と努めました。長老は常に、よ  
り高い可能性を求め、さらに成  
長し、さらに多くのことを行い、  
成し遂げようとしていました。  
そのおかげでわたしたちも、自

分たち自身や、<sup>みわざ</sup>御業、そして自  
分たちが成し遂げられる事柄  
を、より高い観点から見ると  
なったのです。」

アルゼンチンから帰国した  
クリストファーソン長老は再び  
ブリガム・ヤング大学に戻り、  
英語を学びながら、学生自治  
会や学内競技会でも活躍しま  
した。また、キャサリン(キャシ  
ー)・テルマ・ジェイコブと出  
会い、二人は3年次の1968年5  
月28日、ソルトレーク神殿で結  
婚しました。現在、5人の子供と  
8人の孫がいます。

クリストファーソン長老は、  
1969年に学士号を取得して  
BYUを卒業し、その後、法学  
位取得のためにデューク大学  
に進学しました。1972年に同  
大学を卒業し、ジョン・J・シリ  
カ判事の法務書記としてウォ  
ーターゲート事件の審理に携  
わりました。

「卒業して初めての仕事と  
しては、胸躍る仕事でした。」ク  
リストファーソン長老はそう  
語ります。「法律の仕事全般に  
ついて、最良と最悪の事態を目  
にしました。しかしその経験  
を通して、法に携わる者として  
どんな良い業ができるかを見  
ることができ、自信と大志を抱  
くことができました。」

クリストファーソン長老は、最  
初は法律事務所、後に銀行





や企業の顧問弁護士として、おもに合衆国東部で働きました。その中で最も喜びに感じたのは、「様々な職業の、様々な信仰を持つ善良な人々との交わりでした。多くの人々がほんとうに人を助けたいと望み、それを実行できるように献身していることを知りました。」

1993年、クリストファーソン長老は七十人第一定員会会員として奉仕するように召されます。長老はその奉仕の期間を「自分が形成された」時期だったと語ります。責任を受けて、短期間、北アメリカ南西地域とメキシコ南地域で働きました。

クリストファーソン長老は、メキシコのあるステーキが再組織される際、一人の兄弟と面接したときのすばらしい経験を忘れません。「わたしたちが面接した人々の中に、大変謙虚で、小柄な兄弟がいました。すばらしい時間を過ごし、わたしは彼を抱き締めました。彼は部屋から出て行くと、ステーキ会長に『中央幹部がわたしを抱きしめてくれました』と何度も繰り返し言ったのです。わたしはその経験から、人の小さな行いに感謝すべきであることを学びました。また、人々が自分は神の息子や娘として価値ある存在だと感じられるように、いつも人々のため

にできることがあるということも学びました。

すべての出会い、すべての交わりの中で、何かすばらしいことを学ぶことができます。」クリストファーソン長老はそう付け加えます。「わたしたちも人に同じ影響を与えられたらと思います。」

1998年、クリストファーソン長老は七十人定員会会長会の一員として召され、十二使徒定員会会員として召されるまでその責任を果たしました。トーマス・S・モンソン大管長から新しい召しを受けたとき、初めは「不可能に思えた」と言います。

「深く思い巡らすと、この責任に圧倒される思いがします。しかし、七十人定員会で、また十二使徒定員会会員とともに働いてきた15年間で、すばらしい教師を頂いてきました。それに加えて、主が常にわたしを支えてくださったという確信があります。どのような危機にあっても、どのような変化のときにも、どのような必要にあっても、常に祈りを通して主に求めることができました。主を信頼してきて、落胆したことは一度もありません。確かに、主の約束は今も有効です。この責任においても、主はわたしが必要とする助けを与えてくださることを知っています。」◆

## L・ホイットニー・クレートン長老

七十人会長会



リンドン・ホイットニー・クレートン長老は、愛にあふれる家庭で育ったことに加え、人生を大きく変えた出来事が二つあると語っています。一つはペルーで宣教師として働いたこと、もう一つは、妻のキャシー・アン・キップ姉妹とソルトレーク神殿で1973年8月3日に結婚したことです。二人には7人の子供がいます。

「子供たちは、お父さん、お母さんと家で一緒にいるときは、自然と家族ファイヤサイドになることが多いね、とからかいます。」こうクレートン長老は語ります。「それはなかなか言い得て妙です。」クレートン家族はひざを交えて様々な話題について話すのが大好きです。一緒に歌うのも好きです。

クレートン長老は、1950年2月24日、合衆国のユタ州ソルトレーク・シティーで、L・ホイットニー・クレートン・ジュニア、エリザベス・タッチストーン・クレートン夫妻のもとに生まれました。

カリフォルニア州ホイットニアで育ち、ユタ大学で財政学の学士号、カリフォルニア州パシフィック大学で法律学の学士号を取得しました。

1970年に、長老はペルーのアンデス伝道部で働く召しを受けました。まさしくこの期間に聖文学習を愛することを学びました。「わたしの人生で大きな喜びの一つは、毎日、時間を割いて静かに聖文を学習することです。」こう長老は語ります。「そうするとき、深い慰めと平安、そして導きが得られます。」

クレートン長老はこれまで支部会長、ビショップ、伝道部会長の顧問、地域七十人として働いてきました。カリフォルニア州サンタ・アナのスペイン語ワードでビショップとして働く機会がありましたが、それは「とてつもなく大きな祝福でした」と長老は語ります。「その経験を通して、戒めに従えば人は幸福になるということを理解する能力が高まりました。」

七十人第一定員会会員としてどこを旅していても同じ真理を見いだしました。「世界のどこに住んでいようとも、戒めを守る人を主は祝福してくださいませ」と長老は語ります。「主は、御自分に信頼を置く人の生活を、様々な形で豊かにしてくださるのです。」◆

## マルコス・A・アイトカイトイス長老

七十八



マルコス・アントニー・アイトカイトイス長老の長男は、8歳のときに、学校の宿題で家族の絵を描きました。その当時アイトカイトイス長老は、ブラジルのサンパウロにある会社の代表取締役として多忙な毎日を送っていました。「ものすごく働き、世界中のあちこちへ出張していました」と長老は回想します。

息子の絵にアイトカイトイス長老が描かれていないのはだれの目にも明らかでした。「お父さんはどこにいるんだい」と教師は尋ねました。「お仕事だよ」という答えが返ってきました。

アイトカイトイス長老にとって、目の覚めるような経験でした。「仕事を変え、改めるべきは改めました」と長老は語ります。家族を優先する努力をもう一度やり直すことにしたのです。

アイトカイトイス長老は、1959年8月30日、ブラジルのポルトアレグレで、アントニー・アイトカイトイス、マリア・デイトリッヒ・アイトカイトイス夫妻のもとに生まれました。父親は1940年にバプテスマを受け、家族で

最初の教会員となりました。アイトカイトイス長老の妻ルイサ・エングラート・アイトカイトイス姉妹も家族で最初の教会員でした。アイトカイトイス長老とアイトカイトイス姉妹は、姉妹がバプテスマを受けて1か月足らずの1986年1月13日に結婚し、翌年にユタ州プロボ神殿で結び固めを受けました。二人には5人の子供がいます。

アイトカイトイス長老は、1979年から1981年までブラジル・サンパウロ南伝道部で働きましたが、伝道に出ることで自分の人生は変わったと語っています。伝道に出たおかげで、救い主への愛は深まり、家族と天の御父に仕える備えができました。長老はこう語っています。「また、妻を教え、バプテスマを施す勇気が得られました。」

伝道に続いて、長老は機械工学の学士号と経営学修士号(MBA)をプリガム・ヤング大学で取得しました。在学中、大学のサッカーチームで活躍しました。卒業後は、最初は合衆国で、次にブラジルで多国籍企業の管理職に就きましたが、最終的には起業しました。

アイトカイトイス長老は、七十人第一定員会で働く召しを受ける前に、ブラジル・ブラジリア伝道部の伝道部会長、地域七十人、ステーキ会長、地域福祉委員、そして高等評議員を歴任しました。◆

## ジェラルド・コセー長老

七十八



ジェラルド・コセー長老は愛に満ちた人です。「フランスのパリでステーキ会長の召しにあったとき、世界中のあらゆる国々からやって来た大勢の人と知り合いました。」こう長老は語ります。「彼らに仕えるうちに、福音の中にあつて、わたしたちはだれもが心を一つにし、証を一つにしている、ということが分かりました。」

七十人第一定員会で働く召しを受けたとき、コセー長老はヨーロッパ西地域の地域七十人として働いていました。それまではビショップリックの顧問、大祭司グループリーダー、ステーキ会長会の顧問を歴任してきました。

コセー長老は、1963年5月20日、フランスのボルドーでジャン・コセー、マリー・ブランシェ・ボネ・コセー夫妻のもとに生まれ、19歳のときにパリに引越しました。そこで北大西洋条約機構(NATO)関連機関で1年間軍務に就きました。パリで同じワードだったときに、バレー・バビン姉妹と交際を始

めました。二人とも忠実な末日聖徒の家庭に育った、幼なじみでした。二人は1986年8月5日、スイスのベルン神殿で結び固めを受けました。現在、5人の子供がいます。

コセー長老は、食品業界での経験が長く、パリの経営学大学院ESSECで修士号を取得しました。この召しを受けたとき、長老は、ケータリングやスーパーのチェーン店向けに食品を卸す会社の管理部長と取締役を兼務していました。

コセー長老は、7歳でピアノを習い始めたときから音楽に対する愛をはぐくみました。現在、コセー家は歌や楽器の美しい調べにあふれ、家族全員がピアノやバイオリン、チェロを弾きます。

「イエスが使徒を選ばれたとき、そのうちの何人かは漁師でした。そして、すぐに網を捨て、イエスに従いました」とコセー長老は言います。「今日の教会も、同じような形で機能しています。自分の召しは主の預言者トーマス・S・モンソン大管長を通じて、主から与えられたものだと感じます。わたしも救い主に従います。」◆



## ローレンス・E・コーブリッジ長老

七十八人



**ロ**ーレンス・エドワード・コーブリッジ長老は、自分は主を信頼していると言います。

「キリストはわたしたちにとって唯一の希望、すべての希望であり、主から命じられたすべてのことを行うための唯一の道を示してください」と長老は語ります。「わたしたちはキリストが自分たちの成功を助けてくださるという完全な確信を持つことができます。」

コーブリッジ長老は、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長、そしてチリ・サンティアゴ北伝道部の会長(2002-2005年)を含む何十年にも及ぶ教会での奉仕を通じてこの証を得ました。

コーブリッジ長老は、1949年8月6日、イワン・コーブリッジ、アグネス・ハウ・コーブリッジ夫妻のもとに生まれ、合衆国のユタ州プロボで育ちました。1968年から1970年までアルゼンチン北伝道部で専任宣教師として働きました。

長老は、ブリガム・ヤング大学で経営学学士号と法学博士号を取得しました。卒業後、弁護士として働き始め、七十人第一

定員会で働く召しを受けたときには、ソルトレーク・シティーの法律事務所の大株主および首席弁護士を務めていました。

長老は、1974年12月21日にユタ州プロボ神殿でジャクリン・シャモ姉妹と結婚しました。少年時代は夏になるとアイダホ州とユタ州にある牧場で働いて過ごしました。そこで自然を愛するようになりました。ロッククライミング、リバーラフティング〔訳注—ゴムボートでの川下り〕、スキー、スノーボードといった様々な活動を通して、この自然への愛を妻や5人の息子と分かち合っています。

「人生でほんとうに大切な数少ない事柄として、知識、人格、そして人間関係、特に家族との人間関係を挙げることができます」と長老は語ります。もう一つ大切なことは、「キリストをいつも覚えていることです。」

コーブリッジ長老はさらに続けます。「毎週、<sup>せいさん</sup>聖餐にあずかるとき、わたしたちはまさにそのことを実行するという聖約を交わします。時には主の標準に達しないこともあります。しかし、何を考えるにしても主を仰ぎ見るようにと主は言っておられます。ですから、家族を支えるために働くにしろ、母親や主婦として務めを果たすにしろ、あるいは、病院のベッドに横たわり、残されたあと半年の生涯を送っているにしろ、主を覚え、主であればなさるであろうことを行うというのは、わたしたちにとって何よりも大切な務めなのです。」◆

## エドアルド・ガバレット長老

七十人



**七**十人第一定員会で働く召しについてよく考えた結果、エドアルド・ガバレット長老はこう証しています。「さして重要でもないと思われる出来事が、パズルのように組み合わせられて、後々のために人を備えることがあります。」

ガバレット長老は、1956年5月11日、ウルグアイのミナスで、フアン・ガバレット、エルサ・インサウルデ・ガバレット夫妻のもとに生まれました。1975年から1977年までパラグアイとウルグアイで宣教師として働き、帰還後、1978年10月20日にノーマ・ベアトリス・ゴルゴロソ姉妹と結婚しました。後に、ブラジルのサンパウロ神殿で結び固めを受けました。

ガバレット長老は、エスクエラ・スベリオル・デ・アドミニストラシオン・エンブレサスで経営学を学び、1986年に卒業しました。2000年にはブラジルのINPG(インスティテュート・ナショナル・デ・ポスグラドゥアサオ)でマーケティングを専攻して経営学修士号(MBA)を取得しました。

「振り返ってみると、人生に主の御手があったことが分かりま

す。よりよく仕えることができるように、一つの場所から別の場所へ、一つの召しから別の召しへと動かされていったのです」とガバレット長老は語ります。

パラグアイでビショップとして働いていたころ、製薬会社に入社しました。後にボリビアに引っ越し、新しい支社を開設することになりました。そこで新しいステーキのステーキ会長として働く召しを受け、その後、地区代表となりました。そして再び転勤となってペルーに引っ越し、別の新しい支社を開設することになりましたが、そのときには地域幹部として働く召しを受けました。さらに転勤で引っ越ししました。今度はブラジルでした。そこで地域七十人として働きました。後に、伝道部長として働くことになりました。

「召しの目的は地位を得るということではありません」とガバレット長老は語ります。「召しを通して、キリストにさらに近づくことができます。召しは目的を果たすための手段であって、目的ではないのです。召しを受けた人は、靈感を求め、祈ることを学び、自分自身よりもむしろ周囲の人に心を向けなければなりません。」

召しを受けたとき、長老はペルーのリマにある製薬会社の代表取締役でした。ガバレット夫妻には子供が3人います。

「キリストを生活の中心とするとき、ほかのすべてのことは然るべき場所に収まるものです」とガバレット長老は語ります。「すべてはキリストが管理しておられるのです。」◆

## カルロス・A・ゴドイ長老

七十八



「**家**族は親友となることが出来ます。」最近、七十人第一委員会に召されたカルロス・アウグスト・ゴドイ長老はこう語ります。「ほかの友人とは別れることもあるでしょう。しかし、家族はいつまでもつながっているのです。」

ゴドイ長老の話には実感がこもっています。教育の機会、職業上の地位、さらには教会の責任のために、ゴドイ長老と妻のモニカ・ソアレス・ブランダオ姉妹、そして4人の子供たちは、ブラジルのポルトアレグレ、ブラジルのサンパウロ、ユタ州プロボ、ブラジルのベレムを含む様々な国で生活してきました。

数々の責任のため国の内外を問わず至る所に行く前から、ゴドイ長老は家族との密接な関係に感謝していました。長老は、妹に同伴して教会の活動に参加したときに初めてイエス・キリストの福音を知りました。その経験がきっかけとなって、宣教師と話すようになり、1か月後にバ

プテスマを受けたのです。

ゴドイ長老は1961年2月4日、ブラジルのポルトアレグレで、モアシル・ゴドイ、イボンヌ・ポエルシュ・ゴドイ夫妻のもとに生まれました。1977年に教会に加わり、後に、サンパウロで専任宣教師として働きました。教会に加わって間もなく行われた夏のユースカンファレンスでモニカ姉妹と出会い、1984年にブラジルのサンパウロ神殿で結婚しました。

ゴドイ長老はポンティフィシア・ユニベルシダード・カトリカで経済学と政治学の学士号、ブリガム・ヤング大学で組織行動学の修士号を取得しました。様々な企業の管理職を務める中で経験を積み、後に、自身の会社を設立しました。

ゴドイ長老はこれまでにビショップ、高等評議員、伝道部会長、地域七十人として奉仕してきました。これらの奉仕の機会を通じて、「成長」の過程についてより多くのことを学んできたように、これからは新しい召しを通じてさらに学べることを楽しみにしている、と述べています。

「自分の至らなさを感じています」と長老は語ります。「しかし、主がこの業を導いておられ、わたしたちのだれもがさらに主に似た者となれるよう助けてくださることを知っています。」◆

## ジェームズ・J・ハムラ長老

七十八



「**こ**の召しを受ける資格が何かわたしにあるとしたら、それは伝道に出る備え<sup>あかし</sup>をして18歳のときに得た証です」とジェームズ・ジョセフ・ハムラ長老は語ります。「ほんとうに驚くべき経験をし、主と主の教会の神聖さについて強い証を得ました。」

1957年11月20日、カリフォルニア州ロングビーチで、ジョセフ・ハムラ、ジョイス・ハムラ夫妻のもとに生まれたハムラ長老は、最初の示現に関する記録を読んだときのことをよく覚えています。少年ジョセフが正しいことを知りたいと願い、そのために何をしたらかということについて読みました。そして、自分も主に祈り求める必要があると感じました。「そこでわたしはベッドの傍らにひざまずき、天に向かって熱心に祈りました。その祈りに対して、わたしは、それまでもそれ以降も経験したことがないほどに明確で間違えようのない答えを受けました。立ち上がったと

きには、この教会が真実だということを知っていました。」

ドイツのミュンヘン伝道部で専任宣教師として働いた後、ハムラ長老は政治学と哲学の学位を取得し、ブリガム・ヤング大学を卒業しました。その後、同じブリガム・ヤング大学で政治哲学の修士号と法学の博士号を取得しました。七十人第一委員会で働く召しを受けたときには、アリゾナ州メサで弁護士として働いていました。

ハムラ長老は、アリゾナで妻のジョイス・アンダーソン姉妹と出会いました。二人は1984年4月27日にアリゾナ州メサ神殿で結婚し、現在、6人の子供がいます。いちばん下の息子二人は双子で、ハムラ長老がワシントンD.C.南伝道部の伝道部会長として働いていたときに生まれました。

ハムラ長老はビショップ、ステーキ会長、そして地域七十人としても働きました。「教会におけるわたしのすべての経験は、伝道に出る備えをしていた18歳の青年のころにした、たった一つの経験に磨きをかけてくれました」とハムラ長老は語ります。「そのときの経験は、その後の人生の基盤となりました。」◆

## アラン・F・パッカー長老

七十八人



**ア**ラン・フォレスト・パッカー長老は、10歳か12歳の少年のころ、祈りの答えを得ているといつも感じていたわけではなかったことを覚えています。ある日のこと、父親であり現在は十二使徒定員会会長であるボイド・K・パッカー長老と一緒に働いているときに、少年アランは気になっていることについて話しました。

父親は息子にたとえを用いて教えました。パイロットは空を飛ぶ度にパラシュートを使うわけではないけれども、いつでも使えるように着用しているものだ。パッカー会長は息子に、これからも祈り続け、忍耐し、必要なときには答えが必ず与えられるという信仰を持つように励ましました。

「その指導のおかげで、自分の証あかしをはぐくむ初期の時代を乗り切ることができました」と最近七十人第一定員会に召されたパッカー長老は語ります。

パッカー長老は、1948年7月

7日、合衆国のユタ州ブリガム・シティーで、ボイド・ケネス・パッカー、ドナ・スミス・パッカー夫妻のもとに生まれました。長老と妻のテリー・ベネット・パッカー姉妹は、二人ともユタ生まれですが、出会ったのはマサチューセッツ州ボストンの高校に通っているときでした。パッカー長老はアンデス伝道部とコロンビア・ベネズエラ伝道部で伝道しました。その後、長老とテリーは1970年6月1日、ソルトレーク神殿で結婚しました。二人には8人の子供と17人の孫がいます。

パッカー長老はブリガム・ヤング大学で電子工学の学士号を取得しました。実業界で活躍し、幾つかの会社の管理職を歴任してきました。

パッカー長老は、ビショップ、スカウト隊長、ステーキ会長会の顧問、スペイン・マラガ伝道部の会長、また若い男性中央管理会会員など、教会で様々な召しを受けて働いてきました。

「この業が真実であることを知っています」とパッカー長老は語ります。「救い主はわたしたちのあがな主です。ドアを開き、御父のみもとに戻るチャンスを与えてくださいました。主の業の一端を担うことができ、光栄です。」◆

## ケビン・W・ピアソン長老

七十人



**ケ**ビン・ウェイン・ピアソン長老は、もしわたしたちが信仰の原則をほんとうに理解するならば、主はわたしたちの生活に奇跡をもたらすことができると信じています。

「わたしは、もし十分に賢ければ、十分に強ければ、十分に迅速に行動すれば、または十分に勤勉ならば、どんな状況でも何とかコントロールできるはずだという考えのまま、ある時期まで育ちました」と長老は語ります。「しかし実際は、人生で起こるすべての状況をコントロールできるわけではありません。わたしたちはただ主を信頼し、主に信仰を持つことを学びさえすればよいのです。そうすればすべての物事はよい方向に進みます。そうするときに、主はあなたの力を強めてくださいます。」

伝道部会長のときに、ピアソン長老は宣教師に5つの障壁について度々教えました。信仰が絶えず強められていないと、その5つの障壁が信仰

を打ち負かしたり弱めたりする可能性があるのです。長老はこう語ります。「信仰が実際に力を持つためには、疑い、不注意、不従順、失望、怠惰という障壁を取り払わなければならないのです。」

ピアソン長老は、1957年4月10日、合衆国のユタ州ソルトレーク・シティーで、ウェイン・F・ピアソン、ベルダ・ラブラム・ピアソン夫妻のもとに生まれました。後にユタ大学で財政学の学士号、ハーバード大学で経営学の修士号(MBA)を取得しました。伝道部会長として召される前は、医療情報会社の最高経営責任者として働いていました。

七十人第一定員会で働く召しを受けたときに、ピアソン長老は、ワシントン州タコマ伝道部の会長として働いていました。以前に受けた教会の召しはどれも、現在の召しに備えるうえで大きな役割を果たしてきました。フィンランドで専任宣教師として奉仕し、その後、ワード若い男性会長、長老定員会会長、高等評議員、そしてビショップとして働いてきました。ジュン・ランゲラン姉妹と1980年6月24日にソルトレーク神殿で結婚し、現在、6人の子供がいます。◆

## ラファエル・E・ピノ長老

七十人



ラファエル・エドワルド・ピノ長老にとって、イエスがキリストであるという強い証と深い確信の元をたどれば、二つの重要な出来事に行き着きます。一つは、17歳のときに初めてモルモン書を読んだことなのです。

「たった数節でもいいので読むようにと宣教師に勧められました」と長老は語ります。「しかし数節どころか、読むのをやめられませんでした。どこに行くにもモルモン書を持ち歩きました。読む度に、いつも喜びと平安に満たされました。モロナイ書第10章に記されているとおり、モルモン書の真実性を証明するために神が定められた方法はわたしにも有効でした。わたしは聖霊の力によってモルモン書が真実であるという証を得たのです。

ピノ長老にとって2番目の重要な経験は、ベネズエラのマラカイボ伝道部で専任宣教師として働いたことです。ピノ長老は七十人第一定員会の

会員として支持を受ける前に、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長、伝道部会長、そして地域七十人など数多くの召しを果たしてきました。しかし、長老は宣教師としての奉仕がどれほど自分にとって大切だったかを強調します。「どの召しも、わたしたちを将来の召しに備えさせてくれます。」こう長老は語ります。「しかし、わたしにとって非常に大切な事柄は、元をたどれば伝道地に結びつきます。わたしは今でも専任宣教師として働いた経験から祝福を受けています。」

ピノ長老は、1955年10月27日、ベネズエラのバレンシアで、アルツロ・ピノ、ジョセフィーナ・ギメネス・デ・ピノ夫妻のもとに生まれました。ベネズエラのカラカスで経営管理の資格を取得しました。ピノ長老は、1980年以來、教会職員として様々な分野で働いてきました。長老と妻のパトリシア・モニカ・ピラ・ダスラー姉妹は1981年3月31日、ワシントンD.C.神殿で結び固めを受けました。二人には3人の子供がいます。◆

## ゲーリー・E・スティーブソン長老

七十人



「ひざが震えるような経験でした」と語りながらも、ゲーリー・エバン・スティーブソン長老は七十人第一定員会で奉仕するよう召されたことに感謝しています。

「この召しを受けて最初に自分には力が足りないという気持ちを強く感じましたが、それと同時に責任感にも満たされました。」スティーブソン長老はそう語ります。「主は召された人がふさわしくなるようにしてくださいるとよく聞きますが、わたしの場合、特にそうしていただかなければなりません。」

スティーブソン長老は1955年8月6日、合衆国のユタ州オグデンでエバン・スティーブソン、ジーン・スティーブソン夫妻のもとに生まれました。ユタ州立大学でビジネス経営学の学位を取得し、在学中に妻となるリサ・ジーン・ヒグリー姉妹と出会いました。スティーブソン夫妻は1979年4月20日、アイダホ州アイダホフォールズ神殿で結婚し、4人の息子がいます。

スティーブソン長老と姉妹は、協力して生活の中に奉仕の

習慣を確立し、真の幸福は人々への奉仕の中に見いだされると確信しています。「人に奉仕をしているとき、主に奉仕しているのです」とスティーブソン長老は語ります。「この教えはわたしたちの生活に浸透し、ほかの人にも自分たちにも喜びをもたらしてくれています。」

スティーブソン夫妻は最近まで、合衆国のユタ州プロビデンスのワードで、一緒に日曜学校教師として奉仕していました。スティーブソン長老はまた、日本名古屋伝道部の会長として、さらに青年時代には西日本で宣教師として、またビショップとして、またステーキ会長会の顧問として奉仕してきました。

福音を中心とした家庭で育ったスティーブソン長老は、幼いころに勤勉の大切さを教えてくれた努力家の両親を尊敬しています。大学を卒業後すぐに健康・フィットネス器具の会社の起業を助けました。現在その会社の会長を務めるスティーブソン長老は、勤勉に努力することは生活のあらゆる面で必要な原則であると信じています。

「職業においても、教会の召しにおいても、勤勉は大切な原則です。それはまた、伝道活動において大いに求められる特質です。」スティーブソン長老はそう語ります。「わたしたちは傑出した能力に恵まれていないかもしれませんが、それでも、偉大なことを成し遂げるために勤勉に努めることはだれにでもできます。」◆

## ジョセ・A・ティシエラ長老

七十人



七十人第一定員会のジョセ・アウグスト・ティシエラ長老は、ポルトガルが1975年の終わりに末日聖徒の宣教師の入国を許可したことによって福音に改宗したうちの一人です。1976年、ティシエラ長老の両親であるフェルナンド・ティシエラ、ベニルデ・ティシエラ夫妻と家族に回復された福音が紹介され、1977年に家族全員がバプテスマを受けました。

改宗する前、ティシエラ長老は別の教会に定期的に出席し、礼拝を手伝い、若い信者に期待されるすべてのことを実践していました。しかし、教義に疑問を抱いていました。

宣教師からモルモン書を読んで祈るよう勧められ、長老は言われたとおりにしました。「それがモルモン書とジョセフ・スミスに関する証の始まりでした。」ティシエラ長老はそう言います。

ティシエラ長老は1961年2月24日、ポルトガル・ピラリアルで生まれ、古い大学のある街コインブラで育ち、その地で

16歳のときに末日聖徒になりました。改宗者は皆同じですが、ティシエラ長老も結果を恐れずに、改宗したことを友人に説明することにしました。幸い、友人たちはすぐに長老の新しい標準を受け入れてくれました。「わたしが一緒にいるときは、できないことがあることを彼らは理解してくれたのです。」ティシエラ長老はそう振り返ります。

ポルトガル・リスボン伝道部で奉仕した後、ティシエラ長老はポルトガル空軍に入隊し、NATO(北大西洋条約機構)の国際部隊の一員としてオエイラスに駐在しました。駐在中に教会のポルトガルにおける広報ディレクターとして召されました。ある訓練集会でリスボンステーキの広報コーディネーター、フィロメナ・ロベス・テレス・グリロ姉妹と出会いました。彼女もオエイラスに住んでいました。二人は1984年6月5日、スイス・ベルン神殿で結婚しました。ティシエラ夫妻には二人の息子と一人の娘がいます。

ティシエラ長老は会計学とビジネス経営学の学位を取得しており、最近まで教会の国際監査役としてドイツ・フランクフルトに駐在していました。地方部会長、ステーキ会長、地域七十人、ブラジル・サンパウロ南伝道部会長を歴任しています。◆

## F・マイケル・ワトソン長老

七十人



日常的に使徒や預言者とともに働いた38年間は、七十人第一定員会のフランク・マイケル・ワトソン長老の証をはぐくんできました。

ワトソン長老は、1970年から1972年まで初めは十二使徒定員会の秘書補佐、そして秘書を務めました。1972年から大管長会の秘書補佐、1986年4月以降は大管長会秘書として奉仕してきました。

「日々の個人的なかかわりを通して、長年目にしてきた事柄により、わたしの証は強められました。」ワトソン長老はそう語ります。「神がおられ、イエスがキリストであられ、主が召された人はだれでも、その時代のための主の預言者であることに関して、一点の曇りもなく確信しています。」

ワトソン長老は1943年3月9日、合衆国のユタ州スプリングシティーでフランク・C・ワトソン、ジェニール・バクスター・ワトソン夫妻のもとに生まれました。1962年

から1964年までイギリス北東伝道部で専任宣教師として奉仕しました。1966年から1969年まで軍務に従事し、1年を南ベトナム共和国で過ごしました。ユタ州立大学で学士号を取得しています。

1965年9月3日にソルトレーク神殿でジョリーン・マン姉妹と結婚し、12人の子供がいます。長老定員会会長、ステーキ伝道部会長、ビショップ、ステーキ会長、ユタ州バウンティフル神殿の結び固め執行者として奉仕してきました。

「長年の間ずっと中央幹部とともに仕事をしてきましたが、その一員になった今、へりくだる思いでいっぱいです。」ワトソン長老はそう語ります。中央幹部とともに長年働いてきたワトソン長老は、預言者や使徒について、また末日聖徒イエス・キリスト教会の使命について、人々の証を強める役割を担うことは特権だと感じています。◆

## ヨルゲ・F・ゼバロス長老

七十八



**ヨ**ルゲ・フェルナンド・ゼバロス長老は1955年7月19日、チリ・オバイエで生まれました。12年後の1967年、最初の末日聖徒の宣教師が長老の住む街を訪れました。

4人の北アメリカ人が街を歩く姿や、地元の新聞に載った好意的なインタビューに、ゼバロス長老は好奇心をかき立てられました。宣教師が地元のバスケットボールリーグに参加し始めると、バスケットボールが大好きだったヨルゲは宣教師が出場する試合を興味深く見守りました。あるとき、宣教師チームの選手名簿を見ようと競技役員テーブルの裏側に入り込むことができました。驚いたことに、全員「エルダー」という名前でした〔訳注——「エルダー」は英語で「長老」の意〕。

あるとき、クラスメートが家族と一緒に宣教師の教会に入ったと言ったので、ヨルゲは自分も行ってもいいかと尋ねました。ヨルゲが毎週集会に出席し始めてから7か月が過ぎたある日、宣教師はヨルゲがレ

ッスンもバプテスマも受けていないことに気づきました。両親であるアルベルト・ゼバロス、イネス・ゼバロス夫妻の許可を得てこの問題はすぐに解決しました。

バルパライソのサンタマリア大学に在学中、ヨルゲはカルメン・グロリア・バレンズエラ姉妹と出会いました。「初めて会ったときに、わたしが結婚するのは彼女だと分かりました。」ゼバロス長老は思い出します。「とても不思議なことでした。もう伝道の召しを受けていましたし、彼女はまだ会員ではなかったのです。」それから数週間うちにカルメンは宣教師から福音を学び、ヨルゲがチリ・コンセプション伝道部に赴任する前に、ヨルゲからバプテスマを受けました。

ヨルゲとカルメンはヨルゲの伝道中も文通し、帰還後の求婚期間を経て、1982年6月26日、ブラジル・サンパウロ神殿で結婚しました。夫妻には5人の子供がいます。

ゼバロス長老はサンタマリア大学で土木工学の学位を、ブリガム・ヤング大学でビジネス経営学の修士号を取得しました。2005年にチリ・コンセプション伝道部会長の召しを受ける以前はチリの採掘会社の業務執行役員を務めていました。七十人第一定員会会員に新たに召されたゼバロス長老は、これまでビショップ、ステーク会長、地区代表、地域七十人として奉仕してきました。◆

## タッド・R・カリストター長老

七十八



**主**が遣わされる所へはどこへでも行く決心をしているタッド・R・カリストター長老は、主に仕えることから多くの祝福がもたらされると証しています。

「自分は力不足だと実感するときでさえ、主は助けてくださいます。」カリストター長老はそう言います。「どの召しもその人よりも大きなもので、主は助けの手を差し伸べてくださいます。主の導きは静かで、もの柔らかですが、主は決してわたしたちを一人にされることはありません。」

カリストター長老は1945年12月17日、合衆国のカリフォルニア州グレンデールでリード・カリストター、ノリンヌ・カリストター夫妻のもとに生まれました。東部大西洋諸州伝道部の専任宣教師、ビショップ、ステーク会長、地区代表、地域七十人を歴任し、カナダ・トロント東伝道部会長を務めていたときに七十人第二定員会会員に召されました。

家族との時間を何よりも楽しみとしているカリストター長老に

とって、伝道部会長としての奉仕は言葉に尽くせないほど特別な経験となりました。

「伝道部会長は宣教師たちを、まるで自分の息子や娘であるかのように愛するようになります。」カリストター長老はそう言います。「宣教師たちはいつも期待以上の働きをし、無限の潜在能力があるかのようです。」

カリストター長老はブリガム・ヤング大学で会計学の学士号、カリフォルニア大学ロサンゼルス校で法学の学位、ニューヨーク大学で税法の修士号を取得した後、カリフォルニア州ロサンゼルスで34年間、家族経営の法律事務所法律業に携わってきました。

仕事と私生活の両面で学んだ原則を実践してきたカリストター長老はこう語っています。「法律業を営んできたおかげで、問題の核心を分析すること、すぐに結論を下さないこと、決断を下す前にすべての事実を知る必要があることをよく学ぶことができました。個人の啓示を求めるときも同じです。啓示を得るために必要な努力をして、わたしたちが自分の分を果たすように主は期待しておられるのです。」

カリストター長老とキャスリン・ルイズ・サボリティ姉妹はブリガム・ヤング大学に在学中に知り合い、1968年12月20日にカリフォルニア州ロサンゼルス神殿で結婚しました。夫妻には6人の子供がいます。◆

## ケント・D・ワトソン長老

七十人



ケント・ディー・ワトソン長老は、半生を振り返ると、自分は常に信者でありいつも証があると感じてきました。しかし、長老にとりわけ重要な影響を与えた一つの出来事があります。

「青年のときに伝道に出る決意をしたことは、あらゆる面でわたしの人生に影響を及ぼしてきました。」最近七十人第二定員会会員として召されたワトソン長老はそう述べています。

長老は南部極東伝道部への召しを受け、台湾で奉仕しました。「伝道のおかげで平凡な学生から優等生に変わりました。」長老はさらにこう言います。「伝道のおかげで妻と出会いました。伝道中に同僚だった人から彼女を紹介されたのです。伝道のおかげで中国語を学びました。伝道のおかげで楽しめる職業を見つけることができました。伝道のおかげでわたしたち家族は幾つかの都市に住む機会を得ました。」

ワトソン長老はブリガム・

ヤング大学で学士および修士号を取得し、公認会計士として働き、後に国際会計事務所の理事長および最高経営責任者を務めました。

ワトソン長老は妻とともにかつての伝道地に戻り、台湾台中伝道部の会長、および台湾高雄伝道部の暫定会長として奉仕する機会も得ました。非常に多くの若い宣教師とともに働くことを通して、教会の若人の強さに厚い信頼を寄せるようになりました。

ワトソン長老はビショップおよびステーキ会長の顧問をはじめ、教会の中で多数の召しを果たしてきました。

ワトソン長老は1943年5月8日、合衆国のユタ州シダーシティーでロレンズ・ディー・ワトソン、ジョイス・ワトソン夫妻のもとに生まれました。1967年8月23日、ソルトレーク神殿でコニー・リングマン姉妹と結婚し、5人の子供がいます。◆

## イレイン・S・ダルトン

中央若い女性会長



少女時代、イレイン・シュワルツ・ダルトン姉妹はダンスを踊ることが大好きでした。しかし6人の子供を持つ若い母親にとってダンスは非現実的であったため、毎日楽しめる運動としてランニングを始めました。初めは10歩走っては10歩歩くことを繰り返して1マイル(約1.6キロ)進むことを目指していました。そのようなささやかな出発から、今では18回のマラソン経験を持つに至りました。

「走っている時間は心が静まり、生活について考えることができます。」ダルトン姉妹はそう語ります。読んだばかりの聖句について考える1時間となるのです。

ダルトン姉妹は1946年11月1日、合衆国のユタ州オグデンでメルビン・レオ・シュワルツ、エマ・マーティン・シュワルツ夫妻のもとに生まれました。1968年9月13日、ソルトレーク神殿でスティーブ・ユージン・ダルトン兄弟と結婚しました。ブリガム・ヤング大学で英語の学士号を取得しました。中央若い女

性管理会、中央若い女性会長の第一顧問および第二顧問として奉仕しました。そのほか、ステーキ若い女性会長、ローレルアドバイザー、扶助協会ヤングシングルアダルトアドバイザー、扶助協会教師として奉仕してきました。

新しい中央若い女性会長としてダルトン姉妹はこのように述べています。「わたしから教会の若い女性に伝える基本的なメッセージは、彼女たちが玄関を出る度にいつも両親から聞いている言葉です。それは、『自分が何者であるかを覚えていなさい』です。」

ダルトン姉妹は若い女性が天の御父の娘であり、御父から愛されていることを理解できるように助けたいと望んでいます。「これは毎週、若い女性のテーマの中で彼女たちが口にする言葉ですが、非常に多くの若い女性の心にまだ浸透していません。」ダルトン姉妹はそう言います。「若い女性は自分が神の娘であることを理解しさえすれば、あらゆるものとどうかわかっていけるかが自然に明らかになります。」

ダルトン姉妹は若い女性を清くあるように励ましています。「彼女たちがこの時代のために取っておかれた一つの理由は、神殿の業を行うためです。」ダルトン姉妹はそう言います。「だからサタンが荒れ狂い、若い女性にふさわしさを保たせまいとしているのです。清くありましょう。清い生活には力があります。」◆

## メアリー・N・クック

中央若い女性会長会第一顧問



**世**界中の若い女性とともに若い女性のテーマを暗唱するとき、中央若い女性会長会第一顧問のメアリー・ニールセン・クック姉妹は、自分が神の娘であると知っていることに感謝の念を抱きます。

「2007年11月に父が亡くなりました。主がこの試しの時期に喜んでわたしを支えてくださるだろうとわたしは信じています。」クック姉妹はそう語ります。「教会では若い女性に、わたしたちは皆神の娘であると教えています。この神聖な経験を通して、御父がわたしを御存じで、わたしを一人の娘として愛してくださっていることを確信しました。」

1951年6月8日、ケネス・ニールセン、ファーン・スワン・ニールセン夫妻のもとに生まれたクック姉妹は合衆国のユタ州ミッドベールで育ちました。不安な年ごろを生きる若い女性たちに、クック姉妹は自らの経験を一つの例として紹介しています。

「わたしは37歳になるまで

結婚しませんでしたので、女性が直面する多くの心配や不安をよく知っています。」クック姉妹はそう言います。「不安の中で前進するためには信仰と勇気が必要です。」

クック姉妹は1988年7月16日、ソルトレーク神殿でリチャード・E・クック兄弟と結婚し、4人の子供の継母、17人の孫の継祖母です。

「よい教育を受けたことが、人生の中で大いに助けになりました。」そう語るクック姉妹は、ブリガム・ヤング大学で言語病理学や聴覚学の学士号および修士号、さらには教育スペシャリストの学位を取得しています。「教育を受けることにより、母親として、また教会で奉仕するために、よく備えられました。」

クック姉妹は最良の友である夫とともにモンゴルで専任宣教師として奉仕しました。この召しを受ける前は中央若い女性会長会の第二顧問として、また、中央若い女性管理会の一員として奉仕してきました。

個人に焦点を当てることはクック姉妹の信条です。「わたしたちは一人一人の若い女性にキリストの証人として立ってほしいのです。」クック姉妹はそう言います。「口先だけで言っているのではありません。一人一人の若い女性に義にかかった神の娘になりたいという望みと自信を与える必要があるのです。」◆

## アン・M・ディブ

中央若い女性会長会第二顧問



**中**央若い女性会長会の第二顧問になるために最もよく備えてくれた経験は何であるかと尋ねられて、アン・モンソン・ディブは朗らかに笑いながら答えました。

「母親であること！そして、娘であることです！」ディブ姉妹はすぐにこう付け加えました。「それと、救い主の教えを生活に当てはめてきたことです。」

1954年6月30日、合衆国のユタ州ソルトレーク・シティーでトーマス・S・モンソン、フランシス・J・モンソン夫妻のもとに生まれたディブ姉妹は、「天の御父はわたしが必要としていることを御存じです」が、「わたしたちは主と主の時刻表を信頼しなければなりません」ということを、多くのすばらしい経験を通して学びました。

ディブ姉妹は、姉妹の好きな箴言第3章5節から7節の聖句を若い女性が実行してくれるようにと期待しています。「心をつくして主に信頼せよ、

自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

ディブ姉妹はブリガム・ヤング大学に在学中に将来の夫となるロジャー・ディブ兄弟と出会い、1974年3月5日、ソルトレーク神殿で結婚しました。二人には4人の子供がいます。ディブ姉妹は家庭を築くことに全エネルギーを注ぎました。しかし子供が少し大きくなり、ふさわしい時期であると感じたときから毎年少しずつ大学の授業を受講し、最終的に初等教育の学位を取得して卒業しました。

ディブ姉妹は教会の各補助組織において様々な召しを果たしてきました。中央若い女性会長会に召される前は中央若い女性管理会で奉仕していました。

ディブ姉妹は、真理はすべての人の心に響くと信じています。また、指導者の教えを通してだれもが御霊を感じる事ができると信じています。「わたしは若い女性のときに、『自分の証を得ようと努力している間、預言者の証に頼ることができる』ということを学びました。」ディブ姉妹はそう言います。「心を開いて御霊によって教えられたいと望む人はすべて、そのようにすることができます。」◆



## 大会を視聴して

**総** 大会の翌日の月曜日、霊的なメッセージを毎日メールで配信するLDS Gemsの受信契約者に、聖会や総大会のその他の部会を視聴した感想や経験を寄せてほしいと呼びかけました。以下のメールは、教会機関誌に寄せられた1,200以上にも上るメールの一部です。

土曜日の朝、総大会が始まる直前に、我が家はいつもの土曜日の雑事に追われていました。すると急にテレビから総大会の開会を告げるモルモンタバナクル合唱団の映像と音楽が流れ始めました。二人の幼い息子と呼び寄せ、開会の祈りの中間「一時停止モード」になるよう言いました。そして、ワークドルフ管長が説教壇に上がって聖会が始まると、家の雰囲気ががらりと変わりました。わたしたち4人はテレビの前にひざまずき、家中が御霊で満たされました。普段着のまま、朝から遊んで散らかったままの部屋で、この神聖な会に参加するのは恥ずかしい気がしましたが、順番に立ち上がって支持の挙手をしたとき、わたしの心は喜びで満たされました。最後に、幼い息子たちも含めて家族全員で右手を挙げて支持を表したとき、神殿で受けるような神聖な気持ちになりました。わたしたちはともに立って、御霊を通して得た確信が正しいことを目の当たりにしたのです。

しばらくすると、子供たちの騒ぎ声はまた大きくなり、話者の話を聞くのにテレビのボリュームを上げなければなりませんでしたが、あのとき感じた一瞬の平安は、わたしたちの家庭と心にずっと残りました。

クリスティーナ・N, アメリカ合衆国, ユタ州

この大会で感じたことを言葉で十分に表すことはできません。非常に強い御霊を感じました。家で大会を見ながら、自分が御霊に包まれているのを感じることができました。最近、わたしはあまり教会に活発



に集っていませんでしたが、モンソン大管長が群れに戻って来るよう呼びかけているのを見て、わたしに直接語りかけているのを感じました。すべての説教が心に喜びを与えてくれました。天の御父が話者を通して語りかけておられるとほんとうに感じることができました。自分が完全でないのは知っていますが、養いを受け新たに歩み始められるように、教会に戻らなければならぬと心から感じました。今回聞いただけでは大会を十分理解できなと感じたので、インターネットでもう一度聞きました。来週は、自分のワードに出席しようと思っています。

ジーン・U

大会のメッセージ、特に生ける預言者であるモンソン大管長の言葉を聞くのはすばらしい経験でした。現在わたしは、地球の反対側にある、まだ福音を宣べ伝えることができない地域に住んでいますが、技術の進歩によって大会に参加し、御霊を感じ、高められることができました。勧告と証を聞いて、すべての兄弟姉妹に福音の豊かな祝福を受けてほしいという思いをさらに強くしました。それが早く実現するようにと祈っています。

ジャンリル・F

大会で最も力強い印象を受けたのは、ワークドルフ管長が話した南極で起きた飛行機事故についての話でした。それほ

どささいな事柄が取り返しのつかない事態を引き起こし、後世まで続く結果を招くことを知り、深く考えさせられました。また、細くて狭い道からどれだけそれているとしても、自分が過ぎていたことを認め、永遠の愛に満ちた天の御父に赦しを求めめる必要があることも学びました。わたしたちが自分の過ちを受け入れ、そこから学び、霊的な成長を得るとき、天の御父はわたしたちの幸福を深く心にかけて、わたしたちを愛してくださいませ。

オリオン・H, アメリカ合衆国, コロラド州

学校で仲のいい友達から週末は何をしたかと聞かれたので、総大会のことや話のテーマを話すと、それがきっかけで、わたしの信じていることやモルモン書について質問されました。わたしは信仰箇条を使ってわたしたちの教会とほかのキリスト教会の基本的な違いについて話すことができ、モルモン書が何であるか、聖書とどのような関係にあるか、はっきりと説明することができました。

このような機会があったことにほんとうに感謝しています。彼女の質問に答えるとき、御霊の導きがあったことを知っています。そして、もし総大会がなかったら、ふさわしい御霊を受けて、すぐに答えることはできなかったでしょう。

エリー・W, イングランド

わたしは1972年に改宗しましたが、20年



以上教会に集いませんでした。約10年前に教会に戻り、改宗者である夫と神殿で結び固めを受けました。わたしはヒンクレー大管長を愛していました。そして、彼に代わる預言者はいないと感じていました。モンソン大管長の支持の挙手が求められたとき、彼にはその責任を果たすことはできないと考え、わたしは怒りと、多少の苦々しさを感じました。何とかたくなだったことでしょう。モンソン大管長が話し始めたとき、わたしは彼の目を見詰め、一つ一つの動きを見ていました。大管長の目の輝きは、わたしが愛したヒンクレー大管長のそれとまったく同じでした。わたしの新しい預言者、聖見者、啓示者であるモンソン大管長に聖なる御霊が宿っていることを知り、喜びでいっぱいになりました。

**メアリー・ルー・R, アメリカ合衆国,  
ニューメキシコ州**

わたしは大会の間、自分の人生を変えようという御霊の促しを受けました。生まれてからずっと教会に「活発」ではありましたが、この大会ほど御霊の促しを受けたことはありませんでした。すべてのメッセージが自分に向けて語られたように感じています。わたしは家族や友人に対して、傷つけるようなことを言ったりしたりしたことがあれば赦しを求め、また、わたしを傷つけた人々を赦そうと思います。人からし

てほしいと思う方法で人々に接し、できるだけ救い主の模範に従っていきたいです。  
**デルバート・C, アメリカ合衆国**

わたしの家族は、家庭の夕べの責任を交代で行っています。総大会の翌日の月曜日は夫の番でした。日曜午後の部会で、ズウィック長老が標準を保つことについて教えてくれました。夫は長老の話から、自分たちの標準を保つ必要があることを強調しました。わたしはウェブサイトからMP3ファイルをダウンロードして、家族全員で座ってもう一度長老の話に耳を傾けました。それをきっかけに、友達を選ぶことや、良い選びをすること、人生の計画を立てることなどについて、14歳の息子と話し合えるようになりました。

**グウェン・D, アメリカ合衆国, ワシントン州**



聖会の間、わたしは家でこの会に参加し、新しい預言者モンソン大管長を支持するために立って挙手できることを特権に感じ、謙虚さと感謝でいっぱいでした。12歳になったばかりの息子がアロン神権者とともに立ち、娘が若い女性とともに立つことができ、涙があふれました。すばらしい御霊が、トーマス・S・モンソンこそ今日主が主の教会の長として立つように望んでおられる人であるという非常に強い確信を心に与えてくれました。大管長が受けている神聖な召しについて、わたしは何の疑いもありません。

**マリディー・H, アメリカ合衆国,  
ニューメキシコ州**



独身者として、バラード長老の話から、将来妻となる女性をより良く愛し、より良く仕え、彼女の重荷を少しでも軽くするために自らを備える方法を学び、わたしの思いと心は感化されました。今の生活で、妻となる人と出会い、神殿で結婚し、彼女にとって誉れとなるような家族を育てることほど重要なことはありません。心と勢力と意思と力を尽くして彼女を愛することのできる日を心から楽しみにしています。

**マイク・S, アメリカ合衆国, フロリダ州**

総大会の写真の閲覧を含め、大会についてさらにお知りになりたい場合は、<http://www.liahona.lds.org> と <http://www.ensign.lds.org> にアクセスしてください。LDS Gemsを受信するには、[www.lds.org/gems](http://www.lds.org/gems) でお申し込みください。



### 十二使徒定員会

(前列左から)ボイド・K・パッカー会長, L・トム・ペリー長老, ラッセル・M・ネルソン長老, ダリン・H・オークス長老, M・ラッセル・バラード長老, ジョセフ・B・ワースリン長老。  
(後列左から)リチャード・G・スコット長老, ロバート・D・ヘイルズ長老, ジェフリー・R・ホランド長老, デビッド・A・ペドナー長老,  
クエンティン・L・クック長老, D・トッド・クリストファerson長老。



「愛する兄弟姉妹、皆さんが家庭において、職場において、互いに仕え合い、  
また主に仕えるときに、〔わたしたちの贖い主<sup>あがな</sup>〕の祝福があるよう祈っています。  
ともに主の業を推し進めようではありませんか。」

第178回年次総大会でトーマス・S・モンソン大管長はそう述べました。

「わたしは自分の命と力、差し出すことのできるすべてをもって、主に仕え、  
主の御心と靈感に従って教会の諸事を導くことを約束します。」